THE TAIWAN JIHO

臺灣時報

二月號

東亞經濟調查局
MAR 5 1927
SOUTH MANCHURIA RAILWAY CO. LIMITED

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣時報發行所

臺灣時報發行の趣旨

政事、時事、農事、工事、商事、學術技藝、統計等の報道評論特に臺灣に於ける統治狀態及び諸般の情況竝に南支南洋に關する事項を周知せしむる爲め臺灣時報を發行す。（發行規定第一條）

臺灣時報發行所役員

評議員長　後藤文夫

評議員（以下イロハ順）

石坂荘作　今井周三郎　井村大吉　伊藤兼吉　岩本多助　西川利藤太　醫學博士 堀内次雄　富田松彦　富地近思　陳鴻鳴　陳中和　林熊徵　林獻堂　林烈堂　林鶴壽　李延禧　大竹勝一郎　農學博士 大島金太郎　大越大藏

大賀基作　太田晋一　渡邊金造　川崎軍治　簡朗山　片山三郎　吉岡荒造　楊吉臣　醫學博士 高木友枝　高橋親吉　田村武七　田村藤四郎　田賀奈良吉　高山仰　瀧田傳吉　武田英一　津田毅一　津久井誠一郎　鼓包美

妻木栗造　永田隼之輔　宇賀四郎　草鹿砥祐吉　醫學博士 倉岡彦助　久米孝藏　松岡富雄　牧山清砂　松本晃吉　藤野幹　古木章光　小松吉久　吳昌才　辜顯榮　古賀三千人　黃欣　吳汝祥　黃春帆　後藤和佐二　枝德二　鄭神寶　赤石定藏　赤司初太郎　後宮信太郎　荒卷鐵之助

相原祐彌　近江時五郎　坂本素魯哉　佐々木紀綱　楢瀬軍之佐　皿谷廣次　蔡蓮舫　齋藤透　佐藤得太郎　木村久太郎　木村泰治　許廷光　喜多孝治　木下信　三好德三郎　三浦碌郎　生野團六　白勢黎吉　徐杰夫　遠藤所六　平山寅次郎　森廣藏　本山文平　鈴木重臣　諏訪禮次郎

編纂委員

猪股松之助　今川淵　生駒高常　服部武彥

原口竹次郎　大澤清高　大竹勇　和田一次

常務員

和田博　鎌田正威　橫光吉規　田端幸三郎　中瀬拙夫　中田榮次郎　中田秀造　内田隆

深川繁治　古山榮三郎　青木敬一　淺野安吉　佐藤續　水越幸一　城岡垣人

編輯係　秦滿　鷹取田一郎　泉芳德　葉山石雲　栗山新造

眞倉民治　安藤泰夫　鈴木重男　伊藤憐之助

昭和二年二月十三日印刷（每月一回
昭和二年二月十五日發行（十五日發行）

（定價一部郵稅共金三十五錢）
（廣告料　一頁金二十圓）

臺灣總督府內
發行所　臺灣時報發行所
振替貯金口座臺灣二〇七〇番
電話總督府內第八八九番

臺北市東門町一五八番地
編輯兼發行人　伊藤憐之助

臺北市本町二丁目十九番地
印刷者　中村誠道

臺北市榮町一丁目二十七二十八番地
印刷所　松浦屋印刷部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

株式會社臺灣銀行（臺北）

支店出張所

臺灣

基隆　新竹　臺中　嘉義　臺南

高雄　宜蘭　淡水　桃園　南投

屏東　臺東　花蓮港　澎湖島

支店出張所

支那　其他

上海　漢口　福州　廈門

汕頭　香港　廣東　新嘉坡

スラバヤ　スマラン　バタビヤ　孟買

カルカツタ　倫敦　紐育

內地

神戸　大阪　横濱　東京

臺灣時報 昭和二年二月號目次

勅語

時言

昭和の御代に賛襄せよ……上山總督談……一

日本及日本人が生くべき方針……志賀重昂……三

我が食糧政策の沿革……入江魁……一五

時報

上山總督歸任　總督府勅語捧讀式　後藤長官上京　學校軍事教練査閲　基隆要塞炭田
保留　凌海丸の魚族調査　米國航路船本島寄港　總督府豫算前途樂觀　中部油田鑛區
出願　準備教育廢止　上山總督上京　御大喪參列官民代表……二五

寄書

革命政治と三民主義……井手季和太……二七

臺灣殖産銀行設立の急務……田中載吉……三六

講演

臺灣林業所感……右田半四郎……四〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

71432

說苑

廈門と汕頭……石川欽一郎……五八

新高山を中心として……青木繁……六五

番茶と梅干……案山子閑人……七七

調査研究

佛領印度支那法制調査……板倉貞男……八〇

臺灣動植物探究略史(一)……堀川安市……九〇

島情

臺灣貿易統計……總督府稅關……一〇三

臺灣金融統計……財務局主計課……一一一

文苑　漢詩　俳句……一一九

臺灣日誌　人事消息　任命……一二三

支那及南洋情報……總督官房調査課……一—七一

支那　比律賓　佛領印度支那　暹羅　英領馬來　蘭領東印度

支那及南洋其他海外重要記事索引……總督官房調査課……一—一六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三井物産株式會社

臺北
臺南
支店

出張所、出張員

夏門　福州
基隆　高雄
臺中

勅語

朕皇祖皇宗ノ威靈ニ頼リ萬世一系ノ皇位ヲ繼承シ帝國統治ノ大權ヲ總攬シ以テ踐祚ノ式ヲ行ヘリ舊章ニ率由シ先德ヲ聿修シ祖宗ノ遺緒ヲ墜ス無カランコトヲ庶幾フ

惟フニ皇祖考叡聖文武ノ資ヲ以テ天業ヲ恢弘シ內文教ヲ敷キ外武功ヲ耀カシ千載不磨ノ憲章ヲ頒チ萬邦無比ノ國體ヲ鞏クセリ皇考夙ニ心ヲ養正ニ宅キ迺チ志ヲ繼明ニ尙クス不幸中道ニシテ聖體ノ不豫ナル朕儲貳ヲ以テ大政ヲ攝ス遽ニ登遐ニ遭ヒテ哀痛極リ罔シ但皇位ハ一日モ之ヲ曠クスヘカラス萬機ハ一日モ之ヲ廢スヘカラス哀ヲ銜ミ痛ヲ懷キ以テ大統ヲ嗣ケリ朕ノ寡薄ナル唯兢業トシテ負荷ノ重キニ任ヘサランコトヲ之レ懼ル

輓近世態漸ク以テ推移シ思想ハ動モスレハ趣舍相異ナルアリ經濟ハ時ニ利害同シカラサルアリ此レ宜ク眼ヲ國家ノ大局ニ著ケ擧國

一體共存共榮ヲ之レ圖リ國本ヲ不拔ニ培ヒ民族ヲ無疆ニ蕃クシ以テ維新ノ宏謨ヲ顯揚センコトヲ懋ムヘシ

今ヤ世局ハ正ニ會通ノ運ニ際シ人文ハ恰モ更張ノ期ニ膺ル則チ我國ノ國是ハ日ニ進ムニ在リ日ニ新ニスルニ在リ而シテ博ク中外ノ史ニ徵シ審ニ得失ノ迹ニ鑒ミ進ムヤ其ノ序ニ循ヒ新ニスルヤ其ノ中ヲ執ル是レ深ク心ヲ用フヘキ所ナリ

夫レ浮華ヲ斥ケ質實ヲ尙ヒ模擬ヲ戒メ創造ヲ勗メ日進以テ會通ノ運ニ乘シ日新以テ更張ノ期ヲ啓キ人心惟レ同シク民風惟レ和シ汎ク一親同仁ノ化ヲ宣ヘ永ク四海同胞ノ誼ヲ敦クセンコト是レ朕カ軫念最モ切ナル所ニシテ丕顯ナル皇祖考ノ遺訓ヲ明徵ニシ丕承ナル皇考ノ遺志ヲ繼述スル所以ノモノ實ニ此ニ存ス有司其レ克ク朕カ意ヲ體シ皇祖考曁ヒ皇考ニ效セシ所ヲ以テ朕カ躬ヲ匡弼シ朕カ事ヲ奬順シ億兆臣民ト倶ニ天壤無窮ノ寶祚ヲ扶翼セヨ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣時報

二月號

昭和の御代に贊襄せよ

上山總督談

先帝陛下天隱まして諒闇の雲深く垂れ、天地萬象悉く悲愁の色深き裡にも、新しき昭和の御代を迎へて感慨轉た無量なるものがある。申すも畏きことながら、先帝陛下には明治大帝の遺業を紹述し給ひて、外面的にも内面的にも愈々大帝國の基礎を鞏固ならしめ給ひ、殊に明治文化の創始的輪廓を集約的に充實して、八千萬赤子の福利厚生の道を彌が上にも擴充し給ふたのである。御稜威神の如く崇く、御仁德海より深き先帝陛下の遽かに御登遐あらせられたことは、洵に臣子として痛慟措くところを知らざる次第であつた。

然るに叡聖文武なる今上天皇陛下には、祖宗肇國の大憲に循はせられ、直に萬世一系の寶祚を繼がせ給ひ

て、嚴肅なる改元の詔書を下し給ひ、無窮の皇統炳として日輪の如く、哀悼に沈める萬民の賴るところを示し給ふたことは洵に恐懼に堪へぬ次第であつて、深き悲哀の裡にも無限の感激を以て、國礎搖ぎなき古今無比の國家に安穩なる世を享くる帝國臣民の幸福を痛感した。此の有難き國柄の下に生れた我々は、此際決して徒らに悲痛哀傷に沈んでのみ居るべきでない、御諒闇中と雖も國家の運營は一日も休止することは出來ない、深き謹愼の內にも固き覺悟を爲し、新しき昭和の御代の隆運に贊襄することそ、眞に帝國臣民の本分であると信ずる。

不肖曩に大命を拜して任に臺灣に莅むに當り、不德短才萬一にも此の重任に副はざらんことを恐れ、一身の成敗利鈍を捨てゝ專心職責を盡さんことを自ら誓つたのであるが、茲に愈々益々此の覺悟を固くした。

方今幾多の政治上社會上或は經濟上等の問題は、各種各樣の形を以て絕へず現はれ來りつゝあるが、人心の激するところ時に意外の國難を惹起することもあらう、併し乍ら困難なる問題も總て私利私情を挾まざる奉仕の一念によつて必ず解決し得るものと信ずる。

我臺灣はその發達の道程に於て、尙未だ少年期を脫せざるものである。その發達向上の前途に於て既に靑年期に達した內地に比し、一面興味の甚大なるものあると共に、他面また多くの困難に遭遇すべきは素より覺悟の上でなければならぬ。幾多の困難はあらう、併しその困難は、お互の奉仕の一念を以て突破しなければならぬ。小さな私の爲めに需むることを許さぬ、必ずや全體として觀察した國利民福の爲めに勇往邁進しなければならぬ。悲しみ深き諒闇の裡に既に昭和の御代は開けた、我々は茲に嚴肅なる決心を固めて、新しき御代の隆運に贊襄の誠悃を盡さねばならぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本及日本人が活くべき方針

志賀重昂

一、日本人は如何にして將來食つて行くや

日本人といふ日本人に回答を得たきは『日本人は如何にして將來食つて行くや』である。(一)土地は極めて少く(二)人口は多くしてしかも增加し(三)農作すべき面積は少く、さらばとて(四)工業原料の極めて少い國土にありては如何にして食つて行かれるか。

人口千ニ付土地(領地共)

亞爾然丁	一八方里〇〇
伯剌西爾	一六方里〇〇
白耳義	九方里四〇
佛蘭西	七方里三五
米國	五方里一〇
英吉利	五方里〇〇
伊太利	三方里六五
和蘭	二方里三二
日本	半方里

世界の七十國中、面積・地勢・地形及び人口密度の日本に類似せる三國を擧げて比較せんか。面積の同一なるはパラグアイである、しかしパラグアイは全くの山なし國で、しかも一方里の人口密度は三十三人である、

かくのごとき地勢なれば面積は狹小でも衣食に懸念はない。又日本のごとく地形の細長くしてしかも山ダラケに、ために可耕地の極少なるはチリーにおいてもこれを見る。しかるにチリーには硝石の無盡藏がある、チリー政府の毎年の歲入の約半分はこの硝石の輸出稅のみで上る、山ダラケの耕地の少い國なれども住民は食べてゆける。また地形の島國で、しかして人口の稠密なる點はイギリスも同じである。しかしイギリスは鐵と石炭とを多く產するのみならずその領地は本國に一百四十倍するのみか、その內には黃金と金剛石との產額において各々世界第一と稱へらるゝ南阿弗利加がある、米・茶・棉の產額において各々世界第一と稱へらるゝ印度がある、ゴム及び錫の產額において各々世界第一と稱へらるゝ馬來半島がある、羊毛の產額に於て世界第一と稱へらるゝ濠洲がある、木材の產額及び豐漁場として各々世界第一と稱へらるゝカナダがある、卽ち衣・食・住の各資料の豐富なること、工業原料の豐富なること、到底日本と日を同じくして論ずべきものでない。

日本は人の可住地卽ち可耕地は僅に國土の一九パーセントで、しかも鐵も石炭も石油も揃ひに揃ひて乏しく、衣料たる棉も羊毛もゴムもなく、主食物の米すら毎年大に不足なるのみかは、最も主たる副食物の味噌もまた豆腐も滿洲の豆で、原料の中で水ばかりが日本の產物とありては、一場の笑ひ話などではすみませぬぞ。箸も妻楊子も米國より來り、下駄は支那桐で、さても甲州水晶細工の水晶は一切ブラジルより輸入し、甲府市附近にて彫刻し『甲州水晶』となつて坊間に賣買せらるゝのである、衣服の原料は固より、食料とては主食物より第一副食物まで、工業といへば機械工業より手工までの原料を一切外國より仰がねばならぬ、何をつゝもうぞこれが本當の日本なのである、私が日本人といふ日本人に向ひ『日本人は如何にして將來食つて行くや』と問ふのは決して偶然ではない、否大々的に必要であるのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二、琉球(沖繩縣)ご兒島半島は日本の縮圖

(甲)　琉球(沖繩縣)

沖繩縣即ち琉球は群島よりなり面積は小さく、人口は多く、穀物を輸入すること一箇年一百五十萬圓、さらばとて工業の原料とては何もなく、全く行詰つて人々が食へなくなりつゝある。日本も群島國で、面積は小さく、人口は多く、穀物を輸入すること一箇年三億幾千萬圓、さらばとて工業の原料とては何にもない、即ち琉球の事實の規模を大きくしたるまでゝある……かういふことの規模を大きくしたのは全く情ないが……即ち沖繩縣は日本國の縮圖であるのである、沖繩縣の人口密度は一方里四千人で、日本內地の人口密度も五十年後には恰も四千人となる、日本及び日本人が恰も沖繩縣の如くに食へなくなることは時の問題である。されば今日より百年の計、否半百年後の計を成し、以て『日本及び日本人の活きて行くべき方法』を著々と實行すべきものである。

過般私が琉球に行つた時、私の意見を各般の方々より問はれましたゆゑ、私は人口調節の方法、氣化法、早作りの野菜、養蠶などのことを聊か述べてこれ等諸君子の參考の萬一に供したが、しかし根本策は限りある陸地にあらずして限りなき海洋を開拓するにありとて、鰹釣の餌に關することまでをも述べ、然して沖繩縣の水產の大なる將來はこれを以て解決せらるべしと、これまた參考の萬一に供して置いた。

琉球を治療する方法は以上のごとくである、しかして琉球は日本の縮圖とあれば、日本を治療するの方法は即ちこれと同一ならざるべからず日本百年の計、否半百年の計とは即ち這般の治療法である。

琉球即ち沖繩縣は模範を吾々一般日本人に明かに示して吳れた、しかしこれは消極的の模範である。積極

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

的の模範、即ち沖縄縣と同一の境遇にありてしかも治療その方法を得、全癒の途にあるものを示さずんば徒らに人々をして悲観せしむるに過ぎぬ、私は五十年間一貫せる自己の主義として消極的のことが大嫌ひで、随て實行方法を説かずして説法ばかりすることが大嫌ひである……話が横道に入る樣であるが、このゆゑに今の日本の師範學校系教育法に反對するのである……すでに日本が消極的の模範を沖縄縣に得たりとすれば、進んで積極的の模範を得ずんば已むべからず、しかしてこれを兒島半島(岡山縣)に得たのである。

(乙) 兒島半島(岡山縣兒島郡)

岡山縣兒島地方は元島であつたが、母陸との間に土が沖積して半島となつたもので、面積は小さく山も多く、しかして人口の密度は一方里五千人、即ち沖縄縣よりも遙に多い。元來かくの如く土地の少い所では如何にして土地を大きくすべきや、レクラメーションによるべきである、人間が自然を侵略するのである、即ち(一)海水の埋立(新田の増殖)(二)海面を陸地の如くに耕作すること(水產物の養殖)等である、しかして(一)の實例は遠くこれをヨーロッパのオランダなどに求めずとも兒島半島が最も適例で、二百年前の藩政時代に初まり、明治年間に至るまで盛んにこれを實行した。(二)もまた實例をヨーロッパ諸國などに求むるを要せず、兒島郡にては蟶灰貝の養殖を頻に行ひ、多年支那に輸出しつゝある。つぎにかくの如き土地柄にては、手工よりして工業に入らざるべからず、かの山東省(苦力の本場)より滿洲にかけ百萬の支那男女苦力の腿に捲くゲートル即ち腿帶子は兒島郡が初めて製造し、爾來輸出しつゝあるその他、小工業には歴史的傳來の手織機業より花筵・麥稈・經木眞田疊表・綿絲織物・製紙等、大工業には各種の金屬製煉・製銅・鹽化工業・セメント・肥料・紡績等は原料を日本内地各地・米國・蘭領印度等より輸入して行つた。即ち兒島半島は(一)は水に對

するレクラメーションと(二)は工業との二者によつてその稠密なる人口を按配しつゝあるのである。

かくて岡山縣兒島郡は一個の半島で、面積は小さく、山も多く、人口の密度も沖繩縣より遙に多きにかゝはらず、治療その方法を得つゝあるより、沖繩縣の如く行詰らず、人々にも可なりの餘裕を生じ、それかあらぬか多年の間小學校敎員たらんとする希望者とてなく、これがために希望者を他地方より募集して敎員を養成したるより、郡内各學校の敎員とては他郡他縣の出身者なりとのことであるこの一點のみにても沖繩縣と正反對の現象である。

日本は好個の兩縮圖を自國内に得た、一は沖繩縣、二は岡山縣兒島郡、即ち一によりて日本の前途の眞に憂ふべきを悟り得たるとゝもに、二によりて今より半百年の計を成せば、前途の光明燦然たるべきを知り得たることである。

三、日本人生存の根本問題

日本における乳兒の死亡率は一千人に對し一百七十で、さなきだに世界第一なるに、東京市の或る區にては四百餘、即ち生産兒の殆ど半分といふ驚くべき數に上る、これをイギリス・オランダなど一千人に一百以下の死亡率に對しては比較するまでもない。專門家はいふ、これは衞生設備の不完全、育兒法の不良より由來すると、然しながら、母の乳即ち赤ン坊に對する最良の飲料にて育てることは日本は世界稀有で、子守の唄多種多數なることも世界稀有で、特に子供を愛する一點に至つては我等よりも優れりと歐米人は許し合へるのみならず、近年に至り衞生設備は益々進歩し、育兒法も愈々改良の途に向へるにかゝはらず、乳兒の死亡率は一も減せず、寧ろ增加の傾向あるは、別に大々なる原因なかるべからず。大々原因とは何ぞや、吾々

日本人はその衣食住、殊に食料の不十分不完全なるがゆゑに、先天的に脾弱くなりをり、露骨にいへば健全なる精液……兒を作る元……を作るべき燐を最も多く缺き、次ぎに強靭なる骨を作るべき加里を缺き、次ぎに精良なる肉を作るべき蛋白質に缺けをれるをもつて、日本の赤ン坊なる者は憐れしいひなとなつてこの世に生れ落つるのである。初めよりしてしいひなり、苗の秀でずして枯るゝものゝ多きは自然である子を愛する一點は如何に世界第一でも、乳兒の死亡率の世界第一で、國民の死亡率も世界第一なるは偶然でない、凡そ日本將來の國運のためにこれ程配慮すべき問題とてはあらじと確信する、日本の國礎が恰も白蟻に食はれつつあると同じであるからである、これにも我れ關せず焉と、唯だ忠だの孝だのと教ふるは、私としては全く別世界の觀をなすものである。

完全なる食料を多量に供給することが眞の意味の國礎を强固にする方法である。さらばとてこれを成就せんとするに當たり、さなきだに人口に對する陸の少きことは世界第一に居る國土にあつて、しかもこの少き陸が山ダラケで、可耕地の少きことをもつて世に知られたるかのギリシャよりも更に少き國柄にありて、陸に頼りて完全なる食料を多量に得んとするは木によつて魚を求むるが如きである何ぞ況んや陸なるものにはいはゆる『耕作の限度』あるにおいてをや。

日本は牛肉・豚肉・鷄肉の三者共に高價なること世界第一で、殊に羊肉の如きは濠洲、ニウージーランドまた南米諸國にては恰も日本にていわしを目するが如きものなるに、私の如きは日本內地にてその生肉を食べたことはこの六十五年間に三回、即ち二十餘年目に一回に過ぎぬ。かくのごとく牧畜業の日本に發達せざるは、種々の原因あれども歸するところは陸の少きに座するのである。かくのごとき國柄において陸より完全なる食料を多量に得んとするなどゝは噓である。

おほよそこの地球なるもの丶上において、陸に餘裕がなくなればこれに生息する人なるものは餘裕を立體的には空氣に求め、平面的には水に求むる外には仕方がないのである。これなるがゆゑに人口が極密で土地が極少極貴なるところ、例へばニューヨークなりシカゴなりにては十階二十階より四十階五十階に至る摩天樓が林立するのである。しかしこれは『住』のみである、空氣に賴つて『衣食』することは出來ぬ、されば空氣の占領は食料問題には沒交渉である。日本のごとき國柄において完全なる食料を多量に得んとする方法は、まづ第一にレクラメーシヨン、卽ち水を陸と同一にする外にはないのである。

四、さらば如何にすべき

(甲) 海洋の開拓

わが日本は島國として卽ち海國として、吾々の祖先は太初より水產に賴り魚介を食用して熱を發し物力を發し得たるのみならず、特に　天武天皇の御代に獸肉を食用することを禁止せられてよりまさに一千二百五十年、われ〳〵日本人は魚介の肉に賴つて熱を發し物力を發し得、賴つて以てその間に元寇十萬の師を擊退し、日淸・北淸(義和團匪の膺懲)日露・日獨の四對外戰役に成功したのである。これ等の四戰役に日本の侮るべからざることを歐米列强に明示したるにかゝはらず、日本が軍事上に外交上に、後兒を見透かされ、やゝもすればすなはち侮られ居るは何ぞや。日本は食料に缺乏してをる、平たくいへば兵糧がない、一時は强くとも長年月の籠城が出來ぬ、遂に恐るゝに足らぬといふ見地から出づるのである。

しかし私より見れば、日本が太平洋上に如何な逆運に瀕したりとても、日本海の制海權さへ確保しあれば、北滿洲(吉長鐵道線が日本海々岸まで延長せらるべきものとして)の小麥・大豆・高粱・粟のみにても優に日本

國民の籠城を支持するに足るべしと思ふ、何となれば北滿洲は小麥においても、大豆においても、高粱においても粟においても、實に世界的の產額あるべきがゆゑである。況んや小麥といひ大豆といひ、高粱といひ粟といひ、米よりは榮養分多く、米のみをたのみて籠城すれば、籠城者卽ち國民は水腫病に罹るべき公算多きも、小麥なり大豆なり高粱なり粟なりを食べをれば、水腫病に罹る公算は殊の外に少かるべくもしそれ籠城者に壞血的の病氣に罹る患ありとすれば、北朝鮮より沿海州及びわが樺太へかけての海上には鱈、にしんの如く榮養分に富み、脂肪に富む魚の無盡藏(誇大にあらず)あるのみか、壞血的傾向を未然に豫防するに昆布の無盡藏あり、更に鱈の卵億萬をひり著けたる昆布のあるを以て、北滿洲と日本海とに日本の勢力の破壞せられざる以上は、日本は幾年にても籠城し得らるべしと確信する。

古流の軍人には、われは困苦缺乏に耐ふるも、かれは困苦缺乏に耐へ得ぬ、これわれ強くかれ弱きゆゑんで、われ遂にかれに勝つべしなどゝいへるが、これはかれも物資に缺乏しわれも物資に缺乏し、彼我同一均等の場合における優劣强弱の議論で、なる程われは風の突入る破れ障子の內、雨漏る賤が伏屋に起居するより、かれもわれも同一の境遇にあらしめば、われは固よりかれよりも困苦缺乏に耐へ得ることとなるべきも、もしそれ彼は物資に豐富なるに、われは困苦缺乏の忍耐力にてこれに當たらんとするも、ソハ當分の內にて、三年五年と籠城を持續され得べきものにあらず、この間の消息を十二分に觀破せるがゆゑに、かれはわが腕力の强きことは百も承知して居ながら、軍事上に外交上にわれを見くびり居る所因である。されば籠城の第一の强ミは食料の多大特に榮養分の多大にある、般鑑遠からず明治三十七八年の戰役に露國旅順要塞司令官ステッセル將軍が開城を決したるも、軍醫長バラショッフ氏がかくの如く日々多數の壞血病者を出しては到底籠城し得ずと切言したのが有力なる動機であつた、今さらこれを顧みるも思ひ半に過ぐるものがある。さは

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

いへ日本は水と満蒙とに頼れば長年月の籠城に耐へ得るのみかは、もつて長へに活きて行かれる。

以上の如き國家非常の秋においてのみならず、常時における國民の保健上、即ち日本國民をして世界第一の死亡率より免れしめ、少くとも日本の赤ン坊をして憐れしひなとなつてこの世に生れ落つることなからしめんとするには、國民全體が水産より完全なる食料を多量に攝るより外にないのである。穀物を一箇年に三億幾千萬圓輸入するのも國民の保健上やむを得ざることながら、穀物よりも榮養多き食料を多量に攝り得る樣になれば、穀物殊に白米の如き榮養分の最も少きものを攝る必要をも減じ得るのみならず、國民の身體はかへつて向上すべきである、これ〱を眞の意味の自給自足なりと私はいふ……御馳走をたべて、體をよくして、それで外國よりの輸入を防ぐといふ一擧三得のうまい法なれば……されば國家の食料問題の解決法として、水に頼ることに更に層一層の注意と努力とを用ふべきものである。

陸には「耕作の限度」がある、しかし水の耕作には限度がない、即ち養殖の方法により文字通りに無盡藏となし得べき公算がある。先づ淺海利用法にてはかの賴山陽が「牡蠣之田獨、我藝」と誇りたる安藝（廣島縣）の牡蠣養殖……三百年前より行はる……兒島半島及び有明灣（福岡縣・佐賀縣）の灰貝・蟶・東京灣の蛤・蜊・淺草海苔・三河灣の鰻・鯔より、淺海より進んでは米國がシアッドの移植、ロブスター（伊勢鰕の一種）の養殖、ノルウエーが鱈の人工孵化に成功したるなど、人類が將來水面を陸面の如くに見倣し一定の種子により一定の收穫を博する豫算法を悟り得たる兆候といふべきである。

要するに陸に限りある日本の如き國柄にては、限りなく水に財源を求むることを方針となすべく、況んや日本の如く北極より來る寒流（鱈・にしん・鮭・輸出蟹）赤道附近より來る暖流（鰹・しび）間流（鯛・いわし・うに・ところてん）の三海流ともに沿岸及び近海を洗ふといふ世界絶特の國にあつては、財源は全く水にあるのであ

る、しかしてこれ等の財源を開發するには、まづレクラメーション即ち淺海利用(干潟をも)を初め、低温貯藏法の改良、近海魚の繁殖及び保護、遠洋漁業の奬勵、遠洋、新漁場の發見等、種々の方法があり、しかして這般の方法を實行すれば、國民は少くとも毎年々外國より輸入する米だけの榮養分は攝り得べく即ち日本の食料問題は半ば以上解決せらるゝのである。

しかしながら私のいふ「海洋の開拓」とは、水產業などいふ比較的小なることのみではない、新しき航路及び交通路の研究及び發展貿易の新たなる販路の發見など申すまでもなく、海水の利用(工業上・防腐上・肥料等に)、潮汐の利用(電氣發動、その他に)、特に海底利源の開發……人類五千年の歷史において最も研究の足らざるしかも學問上必定大なる利源は海の底にあるべきをもつて……をいふので、かくてもつて日本國民の衣食住の三界を擴充するにある、これこれを國家經綸の道となす。以上(甲)海洋開拓の外に國民をして

(乙) 數學理化學に傾注

せしめ、以て工業本位の國策に頼るべきである。

大自然は自分の子を困らしてばかりをらぬ、否眞に愛してをるのである、ゆゑに一寸考へては困らしてばかりゐる樣であるが、實は「可愛子に旅させる」で、その子をして自分に自分の天分を覺らしむる樣にさし向け、いはゆる自覺を待つて居るのである、しかしてその子の天分が貴くまた大きいほど、痛くまた深刻に困らせる樣に見ゆるのである、實は眞の愛がこれなのである。日本は島國で、小ッポケで、おまけに山ダラケで、それで人がウジャ〳〵澤山に住んでをつて、さらばとて工業の原料は皆無なるかなと思へば……事實その通りである……大自然はよくもこれまでに我々日本國民を困らせたなど怨めしく感ずるならん。しかしこ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れなるがゆゑに四周に海洋ありて、水に賴つて無盡の財源を開發すべく、また山ダラケで水蒸氣が多く搗て加へて地勢上落差が急激なるがゆゑに無盡の電力を發動し得、よつてもつて大小の工業を興起し發展せしむべく、しかして人口稠密なるがゆゑに工業國として無盡の勞働源がある、加ふるに世界未開利源の隨一と呼ばれたる支那・滿洲・シベリアは近く我對岸にあるより原料は容易にこれを取得すべく、しかも製品の販路としてはまた對岸及び近隣には世界人口の無慮三分の二をもてるアジア諸國のあるをもつて、日本にして自己の天分を徹底的に悟れば、この地球の上において大自然に惠まれたること日本の樣な國柄とてはないことが知られるのである。要するに(甲)海洋の開拓(乙)接壤する大陸を生產地、日本內地を加工地、對岸のアジアを市場とする三角法、即ち系統的方法、この(甲)(乙)二者に賴れば日本人は活きて行かれるのみならず、日本の前途は實に洋々春の海の如きものがある、しかして如上の(甲)(乙)兩者を成就するには、何にはさて置き國民の精神をして洋々春の海の如くにならしむるにある。しかしながら私がいかに海洋の開拓を呼號しても、また識者が如何に太平洋時代は來れりと絕叫しても、日本人ほど海を怖しがる國民とてはない。海山咫尺、呼べば答へんとする四國に渡るのでさへも能ふだけ海を避けんものと行けるだけの汽車を擇び、汽車を下り、ヤーレヤーレといふ風で玆に船に上り、さて船に上れば、心地よげな(事實は)風が吹く、船は馬のダク(馬のダクは騎馬の最も愉快なるもの)の樣に走る、浪は麗しき雪の花を飜へす、潮吹は輕く我が面を拂ふ、すると當人は打驚きてシケ(荒天)だと叫る、船長とても御客樣の折角申し玉へる御言葉に聊か調子を合すまでに、ハイ一寸昨今に珍しいシケでありますと、件の海國男兒(!)のノートを見ると『狂瀾怒濤舷門ニ衝リ雪花ヲ飜ヘシ、船長モ亦タ曰ク近年見ルベカラザルノ大暴風ナリト』と書くのである、これでいはゆる太平洋時代に勇往せざるべからざる國民とは情けない、海洋開拓も何にもあつたものでない『海國男兒』といふ文字にして靈あらば、泣くにあらず、臍が茶を沸すであらうと思ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

山登りの氣風は大に作興し來つてもヨツトの競漕は一向にはゞまぬ。戀愛小說は雨後の筍のごとくに現れても、船中の戀愛、海上のローマンスを描いた小說又は美文は西洋には實に多いが、日本には極めて少い（ないともいへる）のには絕えて驚くものである。要するに日本人は『四面環海の國』に生れ、『四面環海の國』に人となりながら、いまだ大自然が賦與したる折角の天分を自覺するに至らずたゞこれ陸に執著する國民であつた、『海外發展』どころか、一たび國外に遊んでは、大學敎授より學生まで船暈僅に醒めて神經衰弱に陷り、喪家の犬の樣な風でワシントンなりパリなりをノサリ〳〵と步いて行く態を見ては坐ろに心細さの極みである。

果してしからば（甲）海洋の開拓を期成するには國民をして海に親ましむること、平たくいへば水を陸と同じ樣に見做し、海といふものは水の通りに靜かで安全であるといふ氣分、を吹込むことが何によりも先づ第一に肝腎である。

次ぎに（乙）工業立國を期成するには、主として原料を我對岸なる支那・滿洲・シベリアに獲ざるべからざるをもつて、日本は常に思ひを中華民國およびソヴイエトロシアとの諒解に致さゞるべからず。もしそれ米國がこれに向ひ反對はた妨害すべき態度に出づるあれば萬事窮すなるをもつて、日本は常に思ひを米國との諒解に致さゞるべからず、日本としては對支また對アジア問題が全くの死活問題である、米國の排日問題などはこれと比較だにならぬ小問題である、私が常に日本は支那問題のために米國の排日問題などは犧牲にすべし、今の時排日問題をもつて米國をイラ立てなどするは、大局を見るの明なき徒であると、呼號するのは實にこゝにあるのである。要するに日本は太平洋の此岸たる支那・滿洲・シベリアと善く諒解しをり、また彼岸なる米國と善く諒解しをり、太平洋の海上風靜かに、理解・融和・協調の場所として、こゝに初めて（甲）海洋の開拓（乙）工業立國も大成し得、日本人の賴つて以て活くべき道が開通せらるゝのである。

（大阪每日新聞新年號附錄論文轉載）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

我が食糧政策の沿革

農林書記官　入江魁

一

我國は豐葦原の瑞穂の國と唱へられる程有史後の主要食物は穀物殊に米である。從つて米は我が國民生命の源泉をなし又實に國民經濟の中樞をば成す。それがためにその豐凶とかその價格の高低は各方面に影響する。然し昔は交通機關が發達せなんだために米の問題は一局部一地方に限定され、豐凶就中凶作の場合には、多く問題を惹起したが、現在では單に數量の問題のみならず價格の問題にも及んで居る。米作の豐凶は一に天然の順、不順に係ること勿論であるが、現在における農業技術の進歩は天然を征服して大いに之を緩和し又運輸交通機關の發達は一地方の凶作を他地方の豐作によつて相補塡し、昔の如く大凶作によつて饑餓に陷り塗炭の苦しみを受くることは無い。從つて現在では米問題といへば單にその數量その價格といふ問題のみならず、この數量の價格に及ぼす問題が最も重要な點となつてゐる。

米價は常に騰落し、一般物價に比し、その變動は著しい。米價と雖も勿論物價であるから需要供給の經濟上の一般原則に從ひ、一般物價と同じく變動する。而してその需給を左右する主なるものは第一作柄の豐凶、第二人口の増加、第三通貨、第四代用物使用の多寡、第五輸入米、第六生産者の賣惜み、投賣、第七投機市

場における買占等種々なる原因があるが最も鋭敏に影響するものは米の量、即ち作柄の豐凶である。

二

從つて一朝凶作に遭ひ、その量が我が國民の内地米消費量に比して不足を告げれば單に不作といふ原因だけで忽ち急騰し、その停止する所を知らない。彼の大正七年の米暴動の如き世人の記憶に新な所である。然らば不作の場合に無理に高價な米を喰はなくともよいやうな譯だが、例へば米の代用品として比較的安價な麥とか外米を以て間に合はせて差支へないやうなものであるが事實は大いにさうでないのである。吾人は米飯に對しては他國人に比して一種微妙な味覺と嗜好とを持ち、容易に米を捨て麥に移り、外米に走ることは出來ないのである。さればといつて米が高いから三杯の飯を一杯に減らすことは尙更不可能である。尤も酒精・糊・菓子等の原料としての米の消費は米價の昂騰につれて減少するだらうが、七千萬國民の米食としての消費に比しては九牛の一毛で問題にならない。從つて需要は供給に比して常に大となり益々米價は奔騰する。又この間に賣惜みとか買占めとかその他思惑が働き、この騰貴の趨勢を助長する。これに反し、一朝大豊作で、內地米の全消費量より多い時は前の場合と反對に暴落を告げる。即ち米が安いと言つても一定量より多く食することは出來ない。又他の商品の如く外國に輸出することも假令販路があつても引き合ふことは稀である。年を持越せば變質減損して市場では古米として取扱はれ新米に比して價格は著しく低下し、次年度における過剩米として存在してそのもの丶價格が低落するのみならず次年度產の新米の價格にまで影響する。かくの如く米價騰落の主なる原動力は、その年の豐凶に因るといふても過言ではない。英國のグレゴリーキング氏は小麥の收穫と價格との關係について法則を案出してゐる。即ちその法則に從へば收量が一割減ずれ

ば價格は三割騰貴し反對に一割増收すれば二割下落するといふてゐる。この法則は今日の經濟狀態にあつては直ちにこれを肯定することは出來ないが一面の眞理を含むものである。

三

上述の如く米の豐凶がその價格變動の最大原因であることは勿論であるが、その他複雜なる現今の經濟組織では種々なる事情が直接間接に相錯綜し、因となり果となる。茲に米價變動の重要なる原因として閑却することの出來ないのは、金融の繁閑である。統計の示す所によれば金融の繁忙期は一年を通じて十一月下旬から翌年二月即ち舊大節季までゞ所謂米の出廻期である。この出廻期に金融が緊縮すれば假令不作の場合でも米價の暴騰を防止するに反し、然らざる場合は昂騰を助長することになる。即ち金融梗塞の際は、産地の地元では資金不足のため賣買取引の圓滑を缺き自然地元相場の下落を伴ひ、從つてこの産地國から延びて都市正米市場惹いては定期市場に影響する。米穀資金の最も繁忙を呈するのは前述の通り出廻期であつて、この際手持米を賣放つ必要に迫られる者は多く中小農階級で資金の必要に急を要するため、不利益なることを知りつゝも行ふもので、地方によつては一時米の洪水を來し不正な商人によりて安價に買占めらるゝことも少くない。故に金融の繁閑が米價に及ぼす影響は極めて重大なものといはねばならぬ。

米は我が國民の主要食糧であるからその價格の變動の常ないことは國民生活の安定を脅威するものといへやう。理想としては誠に困難のことであるが常に一定の價格を保たしむることが必要であるが、少くともその變動を少くせしむることが最も肝要である。それがためには需給の圓滑を期する外はない。

以下米の生産、消費竝にこれに對して政府當局が如何なる政策を執りつゝあるかを端述して見たいと思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

四

米の栽培面積は如何なる消長を來してゐるかについて左に表を掲げて説明する。

大正三年	三、〇三三、三六八町三反歩
大正四年	三、〇五六、五六四町四
大正五年	三、〇七一、一六五町〇
大正六年	三、〇八三、四四七町〇
大正七年	三、〇九二、七九三町〇
大正八年	三、一〇四、六三四町二
大正九年	三、一二六、五三五町四
大正十年	三、一三四、八九四町九
大正十一年	三、一四〇、七六六町九
大正十二年	三、一四七、五六一町四
大正十三年	三、一四二、五一四町四
大正十四年	三、一五七、七六五町八

栽培面積は右表に示す如く、現在では十二年前の大正十三年に比し僅かに十二萬町歩餘の増加に過ぎない。限定せられてゐる領土であるから本邦内地においては年々人口の増加に伴つてこれ以上に耕作地の擴張を行ふことは到底不可能である然らばこの栽培面積より如何なる生産があるかといふに之を左表に見やう。

大正三年	五七、〇〇七、五一〇石
大正四年	五五、九二四、〇七九石
大正五年	五八、四五二、三八六石
大正六年	五四、五六七、九二七石

大正七年	五四、七〇〇、一六一石
大正八年	六〇、八一八、六八八石
大正九年	六三、二〇八、五四〇石
大正十年	五五、一八〇、四六八石
大正十一年	六〇、六九三、八五一石
大正十二年	五五、四四四、〇八九石
大正十三年	五七、一七〇、四一三石
大正十四年	五九、七〇二、五四二石

備考　米の年度は毎年十一月に始まり翌年十月に終るのである。

斯くの如く米の生産額は大體五千五百萬石乃至六千萬石見當であるが、勿論天候の關係や施肥の多寡が大いに關係を持つことは爭はれない。然し現在では從來の如くに全然凶作といふやうなことはない。卽ち耕地整理とか灌漑といふ農業技術が非常に進歩したので、この人爲的作用で大自然に打ち勝ち往時の如く飢饉といふやうなことは皆無となつてゐる。

五

出産死亡の差增に依る人口の自然增加は、明治三十三年以後は毎年五十萬人以上であつたが、日露戰役當時は壹年間四十五萬內外に減少を來した。然るに同戰役後再び增加して四十三年迄は毎年六十萬人臺となり、大正に入り毎年七十萬以上の增加に登つたが、大正五六年には流行性感冒の爲め俄に半減して三十萬人以下となつた。然るに八年よりは、挽回の形勢となり、九、十、十一年と遞增して十二年には七十萬人以上に出で、人口に對比すれば千人に付一二、一六にして前年に比して〇、三二の上昇を示した。十四年に至つては

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

益増加傾向を辿り、其の増加率は實に千人に對して一三を算するに至つた。

如斯人口は年々増加傾向を呈し、自然消費は増大なるに拘らず、米の生産は之に伴はぬから、之に對する食糧を如何にすべきかと云ふ問題は、本邦としては大いに考究すべき重大問題と信ずる。次に米の價格は如何なる消長を辿つて居るかと云ふに、米價と雖他の物價と同じく商品であるから、需給關係に支配せられ、經濟界の景氣、不景氣に左右せられる事は當然である。試に大正三年以來の數字を示して見よう。

内地主要市場平均相場

大正三年	一五、四六（円・銭）
大正四年	一二、四七
大正五年	一三、二六
大正六年	一九、三五
大正七年	三一、八二
大正八年	四五、四九
大正九年	四三、四六
大正十年	三〇、三五
大正十一年	三四、四五
大正十二年	三一、六四
大正十三年	三四、七九

備考　生産、消費の場合と同じく此の年度は本年十一月より翌年十月に至る一箇年である。内地玄米一石當りの相場を採用。

右の表によれば、大正三四年頃は一石十四、五圓位であつたのが、大正七年に至つて急騰して三十一圓臺となつた。之は凶作に原因すると同時に經濟等が著しく膨脹した結果である。夫れ以來、米價は愈々暴騰して一石四十五圓と云ふ高値を大正八年には出すに至つたのである。之は全く歐洲戰亂に依る影響と凶作に起

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

因したものである。其後豊作と歐洲戰亂の終末に依つて下落の歩調となり、三十四、五圓臺となり今日に至つて居るのである。

六

食糧政策は如何にすべきかと云ふことは歐米各國に於ても歐洲大戰後主要な問題である。殊に本邦の如く限られた領土で人口は益々增加し、之に伴ふて耕地の增加は望むことが出來ない現狀では、米の問題は經濟問題としてのみならず社會問題として大に考究すべき重大問題である。

從つて前述した如く我が國では建國以來、二千五百有餘年「米」を常食として居る關係上、時の爲政者は之が解決には相當腐心して居る。

今之に對して古來より如何なる方法、如何なる政策を時の爲政者が取つたかを研究する事も大に必要であり又興味ある問題である。左に簡單に其の一端を揭げる。

古來より米及雜穀の耕作は盛に行はれ、其の產額も多量であつた。租税としても此の穀物を主とし絹布類が其の次であつたのである。又我國は地理上大平洋の一孤島である關係上交通機關が發達せなんだ當時にあつては外國より食物を輸入する事は殆んど絶無と云つて良いのである。又天候の關係上米穀の成熟及收穫時、即初秋の候即ち二百十日前後に於ては必ず暴風雨の襲來する事多く、一朝大暴風雨に見舞はれると其の年は必ず減收を來し一大飢饉を現出する事は史蹟に明瞭である。是等の慘害を防禦する爲には各時代の爲政者は最も苦心したのである。此の救濟策として現時の如く外國と交通のなかつた往時では、唯一の方法として豐年の際に於ける剩餘米を貯藏して凶年の不足に備ふる外はなかつたのである。此の爲めに古來より倉庫の建

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

策が行はれ、歴史に現れた最初のものとしては垂仁天皇の二十七年に屯倉（みくら）を所々に造り、各所に散在せる領地の穀物を貯藏して凶年の場合に之を開き民を救助し、賜ひしと云ふ事である。其の後淳仁天皇三年五月九日天皇諸國に常平倉を置かれ、又清和天皇九年凶作の爲め穀價昂騰して飢饉に苦しむ事甚しき爲め常平倉を東西の京に置き、穀價を低減して官米を賣りさばいたことがある。平安朝時代には穀倉院を造られて之が下に大米庫を建築した事もある。其後戰國時代となつて諸將皆其の兵糧を貯藏せん爲めに、其領地又は城内に穀倉を建築した。徳川時代に至り、租稅俸給凡て米穀を以て標準とした事は世人の今尙記憶に新な所である。是が爲幕府は江戸に倉庫を建築した。淺草及本所の倉屋敷の如き、小菅の籾倉の如きは其の主なるものである。又諸侯も皆其の本國に穀倉を建て年貢米を貯藏し、又武士迄も其の住宅に穀倉を建築するに至つた。農家は勿論の事であつた。當時穀物を金錢に換へる爲めに商業の中心たる現在の大阪には諸侯の貯穀倉が軒を竝ぶに至つた。

七

如斯德川幕府時代に於ては倉庫を建設して豐作の場合に貯藏して凶作に備へると同時に價格の騰落に對しては極端なる政策を行つたのである。

米價騰貴の場合の引下策としては官米の拂下、買持米の賣拂、圍米の所分、及廻米令を發し市場の在米減少を防止する手段としては、買占、圍持及他國積を禁止し、酒造高を制限し其他飯米節約令を發する等あらゆる手段を講じたのである。

之と反對に米價暴落の場合に於ける引上策としては政府自ら買上を斷行し、一般に對しては、買持を奬勵

し市場に於ける在來の増加を防止する爲、地方産地に於て囲米せしめ、市場へ廻送することを制限したのである。其他各般に於ても夫々種々の政策を施行したのである。

明治時代に於ては徳川幕府時代とは「米」の意義に重大な變遷を來し、即前述の如く徳川時代に於ては米は單に國民の生活資料として重要なるのみならず、幕府及諸藩の租税の收納も之に依りて爲し、武士の俸祿も又米を以て支給する狀態であつたゝめ、米は食物のみならず、財政上に於ても極めて重大であつたが、明治時代に至りては、初めの十年間を除く外「米」は直接財政上に關係を持たぬ事となり、單に主要糧品として重大な意義を有するに至つた。

明治の四十五年間を通じて政府が直接間接に行つた政策は頗る多樣であつたが、大別して二種となす事が出來る。即其の一は政府自ら需給の衡に當り、其の二は即ち之に屬せざる施設を總稱するものであつて、要するに二者共に米價調節策と云ふ可きである。

八

明治年間の米價調節は主として米價昂騰を目的とした關係上米穀の海外輸出は盛に實行されたが、其の輸入が實行された事實は甚だ稀有で、明治二十二年以前には、唯僅かに明治二年に於て所謂南京米二萬七千袋の輸入の存したのみである。明治二十三年には前年の非常な不作をうけ、米價は俄に昂騰し、久しきに亘り米價の低きに慣れた當時の事とて、朝野の狼狽甚しく、政府は備荒儲蓄法の中央儲蓄金を利用して自ら外國米三十有三萬石を輸入し之を以て米價昂騰の勢を挫き、却て一層低落せしめたるが如きは從前の米價調節策と全く其趣を異にし、頗る興味ある事實と云ふ可く、明治年間に於ける最も成功せる施設の一であつた。

其他行はれた調節策としては、米麥輸出の解禁又は禁止は素より米穀廻漕の禁止、買占の禁止、酒造高の制限等の外、或は代米納及預り米制度を設け或は地租納期の繰下げ若くは繰上げを行ひ、或は米取引所に于

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

渉を試みて米穀の定期取引を停止せしめ、若くは外國米、特殊米代用を强要したるが如き之等の各種の施設が常に並び行はれたのである。

大正年間に至つては米價の騰貴著しく、大正二年迄は一石二十圓を越へたが翌三年より五年に至りて十一圓以下となつた。然るに六年乃至八年は暴騰の極に達し、其間遂に所謂米騷動を惹起した。九年に入り後半期より漸く低落に向つて歲末には暴落の狀態にあつた。次で大正十年の端境期に至り作柄不良を稱へられ漸次昂騰して稍々平靜に歸したのである。

如斯米價の變動を調節する爲め政府の行つた施設の主なるものは外米管理、關稅政策、外國米、臺灣米及朝鮮米の取引所受渡米代用、暴利取締、內地米の買入及田租納期繰下げ等である。

九

尙政府に於ては大正九年以來の米價暴落の爲、農民の困窮其極に達し、此の儘默止することが出來なくなつたので、上下を擧げて之等悲境に沈倫せる農民を救濟する爲、米價の挽回を圖るべしとの聲喧囂を極めたので、一方米穀に對して何等かの恒久策を講ずるの急務なるを認めて國民食糧充實の根本方策に付て臨時財政經濟調査會を設置して之に諮問し、之が答申に基きて大正十年四月四日法律第三十六號を以て、現行の米穀法が制立され、大正十年五月七日農商務省內に食糧局が設置され（現在にては農林省農務局にて行ふ）國民の重要食糧たる米に關する施設を行つて居る。

米穀法制定以來、大體に於て米價の變動は少く一石三十五六圓臺より四十一、二圓臺の間を上下することとなり安定することを得たのである。然れども本邦の如く人口は年々急激なる增加を來たし耕地の擴張は之に伴はず從つて生產の增加は現在以上に望むことが出來ない現狀にあつては朝鮮、臺灣等に於ける植民地に於ける耕地の擴張に依り玆二三十年は供給を仰ぐことが出來るとしても、遠き將來に於ては大いに考慮しなければならない重要なる問題と信ずるものである。實に本邦に於ける食糧問題は識者の一考を煩はすべき問題と云ふべきである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

時報

上山總督歸任

先帝陛下御不例にわたらせられ天機奉伺の爲め上京中であつた上山總督は竹屋・一戸兩秘書官を隨へ、一月七日午後二時基隆入港の扶桑丸で歸任された。

總督府勅語捧讀式

總督府の勅語奉讀式は一月八日午前九時府内會議室に擧行され、上山總督始め府內高等官以下全員參集、御眞影奉拜の後、上山總督は御踐祚式の際賜りたる勅語を捧讀し、朝見式竝に拜謁式に參內した所感を述べ一場の訓示を與へられた。

後藤總務長官上京

後藤總務長官は政府委員として第五十二議會出席の爲め、一月十一日午後基隆發の扶桑丸で上京された。

學校軍事敎練査閲

本島に於ける第一回の學校軍事敎練査閲は、一月十五日臺北第一中學を最初に二月十二日まで全島中等學校以上の各學校に於て行はるゝことゝなつたが、該學校軍事敎練査閲官は、辰己守備隊司令官、濱島第一聯隊長、篠原第二聯隊長であると。

基隆要塞炭田保留

總督府は十月十四日附告示を以て基隆要塞地帶內の炭田を臺灣總督府の保留炭田と決定發表した。

右は要塞地帶內第一區に散在する炭田であつて、既に先年來支障地または保留地として取扱はれたもので、總督府に於て將來採炭する場合に於ても督府自身の直接需要の一部を補給する程度に止まり、一般炭系界に何等影響を及ぼすものでないと。

凌海丸の魚族調査

總督府水產試驗船凌海丸は、今回魚族の繁殖棲息の狀態を調査するため一月三十一日基隆を出帆し、三箇月の豫定を以て本島と最も密切なる關係を有する比律賓、ボルネオ、セレベス等の廣汎なる地域にわたり、所謂黑潮に乘じて廻游する鰹其他の魚族の調査を爲すと。

米國航路就航船本島寄港

日本郵船の米國航路就航船コレヤ・サイベリアの兩船は、今後定期に基隆に寄航することゝなつた。さうして第一船コレヤ丸は二月七日入港八日出港、寄航地は上海・神戸・横濱・ホノルル・桑港・ロザンゼルスで、長崎には隨時寄航し、第二船サイベリア丸は三月七日入港同八日出港、その航路は香港を基點とするものである。この米國航路船の本島寄港によつて我臺灣は國際航路に入り、國際旅客に本島を紹介し得ると共に、內臺滿鮮南支への旅客に一層の便宜を與ふることが出來ると。

總督府豫算前途樂觀

一路解散へと驀進した第五十二議會に於ける朝野三黨の對戰は、議會停會直後に於ける三黨首の會見申合によつて形勢を一變し、明年度豫算も大なる修正なくして議會を通過すべく傳へらるゝ、從つて從貫鐵道復線工事其他の重要施設を計上した臺灣總督府明年度豫算の前途も大に樂觀さるゝに至つたと。

中部油田鑛區出願

本島に於ける油田の有望、海軍省油田調査費の計上等、我臺灣油田の前途は頗る多望であるが、今回更に久原鑛業は本島中部に一千萬坪以上の廣濶なる油田鑛區を出願した。同會社に於ては豫てより本島油田の有望なるに着眼し屢々技師を派して之を調査せしめたが、目下出願鑛區について種々專門的調査を爲さしめつゝあると。

上級學校入學準備敎育廢止

總督府に於ては曩に小公學校兒童の上級學校入學準備敎育を廢止するの方針を採り各地方廳を通じて之を學校當事者に通達したが、更に二月上旬全島敎育課長會議を開き、次いで中等學校長會議を召招して之に關する打合を爲す筈である。

上山總督上京

御大葬參列のため上山總督は竹屋秘書官を從へ、二月一日基隆出港の蓬萊丸で上京された。

大喪儀參列本島官民代表者

大喪儀參列本島官民代表者は左記諸氏で、二月一日基隆出帆の蓬萊丸若くばそれ以前の便船で上京された。（順序不同）

相原高等法院長、生野交通局總長、武田臺北商業學校長、志保田臺北師範學校長、吉岡臺北州知事、三浦臺中州知事、喜多臺南州知事、齋藤臺東廳長、永山專賣局參事、內田新竹州內務部長、角田高雄州警務部長、濱武第一中學校長、加藤太平公學校長、（以上官廳側）
臺北州小宮元之助氏、顏國年氏　新竹州藏田壽吉氏、簡朗山氏　臺中州坂本素魯哉氏、李崇禮氏　臺南州枝德二氏、黃欣氏　高雄州古賀三千人氏、藍高川氏　（以上民間側）
大澤清高氏　（新聞通信社側）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

革命政治と三民主義

井手季和太

本稿は在外研究員として支那歴遊中なる井手季和太氏が廣東に赴く途中汕頭に立寄り同地最近の状況を調査し大正十五年十二月二十四日附を以て報告せるものである。

當地は昨十四年十一月廣東國民軍治下に歸して以來、現在は廣東國民黨委員政府の下に、市統部に於て諸般の行政を執行し、潮梅區域（潮州府下及嘉應州に該當する各縣）を管轄する官衙を設置し、地方行政廳として市政廳・公安局・交渉署財政部所屬の諸分局あり。

革命政府は三民主義の政綱を確立し、對內的には反革命派驅逐・軍閥打破・資本家打倒を目的とし、對外的には帝國主義撲滅・不平等條約廢棄・又は基督教排斥等を高唱し宣傳に努めつゝあり。其宣傳の方法は、國民黨部員小學校を中心とし三民精神の講演をなし、雜誌新聞等に依るの外、門牌の掲示傳票の頒布は頗る廣汎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に亘り、當地書店に陳列せるものは一部小說類を除くの外、悉く革命思想三民主義の播揚に出でざるはなく、其顯著なるものを擧ぐれば「共產主義與共產黨」、「國民革命與中國共產黨」、「中國民族運動與勞働階級」、「反對基督敎運動」、「五世兇手三供狀」等の小册子及「革命青年」、「中國青年」、「人民週報」、「嚮導」、「洪水」、「少年先鋒」、「青年平民讀本」、「國民週刊」、「現代評論」、「軍人週刊」、「中國農民」等の雜誌あり。宣傳「ビラ」は路傍障壁電柱等に限なく貼布しある外、埠頭より東方日本領事館方面に通ずる新大道路の電信柱には、木製青地の木札に青天白日の紋章を附したる三民主義に該當したる文句を白字に書したるを各適當の場所に揭示せり（例へば稅關側には收回關稅自主權を揭ぐるが如し）。是等木札の文句を參考の爲めに擧ぐれば、「收回租界」、「收回領事裁判權」、「勿忘五世慘案」、「改良勞働之生活狀況」、「平均地權節制資本」、「改良農村組織農民生活」、「打倒帝國主義的工具……軍閥・買辨・土豪・劣紳」、「擁護總理聯俄政策」、「打倒壓迫民族」、「全世界之被壓迫階級聯合起來」、「全世界之弱少民族聯合起來」、「基督敎帝國主義之工具」、「促成國民會議」等の如し。學校官衙等の門口中庭には孫文の遺訓たる「革命未成功、同志仍須努力」の文句を揭げ居れり。

其他三民化の流傳として軍人等には孫文服・三民を表示せる「ネクタイ」あり、民族・民生及民權と名付けたる汽船（海軍所屬の）あり、三民女學校又は三民洋服店等あるに至れり。

一、革命政府の財政策

廣東政府は北伐の軍費新施設費を支辨する爲に諸般の苛斂誅求をなし、殊に各種の營業稅・雜種稅・消費稅又は條約上問題となるべき關稅を加徵しつゝあり。就中其顯著なるものを擧ぐれば下の如し。

イ、賭博稅　現在賭博は廣東省の外に國民政府支配の下に在る厦門附近に迄及び、都市より田舍に及び軒

を並べて開場し、汕頭市内のみにても大小百軒以上に達し、多くは「銀牌」の看板を掲げ多額の賭金をなす。中流以上の階級の集る處は大厦高樓にして市街の中心に在り、小額の賭金をなす勞働者、下層階級の集る處は横路に多し。是等に對する課税方法は請負に付し掛け高の一割を收め、當市一箇年に八十萬元以上なりと云ふ。又麻雀其他料理店等に於てする者に對しては一回勝負に付一元と定む。因に是等收入をば防務經費と稱し賭場に掛けある燈灯に之を附記しあり。

ロ、阿片税　廣東省に於ては前政府時代に於ても從來圍姓捐として徴收し相當收入あり、陳烱明時代に一時賭博と共に禁絶したりしが、革命政府は漸禁又は戒煙主義を美示して之を特許するに至り、本月は專賣局を設け財政部潮梅禁煙支處及戒煙樂膏專賣局の門表を掲げて事務を開始せり。

同局は煙膏及藥料を各縣(當地管轄十二縣)に對し吸食者には戒煙保證書を下付し吸食所(戒煙處と名付け)に於て吸食せしめ、又は各自旅館・料理店又は自宅に於て吸食を許可し、之が所定の請負額を收得するに在り。其收入額今尚未定なれども當市のみにて吸食所は二百四十軒に達すと云ふ。同局新設に及び特許制に依り阿片の價格は騰貴し一兩に付(十匁)十元なりと云ふ。又從前の煙館たる吸食所數は之を整理しランプ數に從つて三等級に分つ計畫なりと稱す。

八、關　税

(a)海關税附加税　輸出入貨物全部に對して關税の半額たる二分を加課す。關税の名目を避けて生産税及消費税の形式を採り、其税局も「汕頭口(港)征收出産運銷物品内地税局」と銘記し、同局は埠頭大阪商船會社出張所の裡に在り、徴收に際しては便宜海關の發給する納税告知書(Duty memo)を能く利用しつつあり。同告知書は三通作成しあり、一通は商人自身の所持する所とし、一通は海關に提出するも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のに係る、他の一通をば同局に呈示せしむるものとす。輸出入貨物は海關に申告するときには海關に支那人あり、又海關監督は支那人たる關係官吏なるを以て商人は連脫を圖ることを得ず。

本税は由來各國との條約に違背するものなれども、實質上獨立したる廣東政府の權宜處置たると、納税者は加税額を他に轉嫁しつゝあり、著しき苦痛を感ぜざるとに依り容易に實施せられつゝあり。之に關しては我政府よりも暫定的に已むを得ざる處置として領事に訓令して非公式に承認を與へたる所となす。本税の收入額は海關税の約半額、即ち一年八・九十萬兩（百二・三十萬弗）に達すべきなり。

(b)內地關税　最近に於ても外國人の取扱に係る內地厘金等を免除し得らるべき通過税證（三聯票又は子口票付）付の貨物に對しても、條約に違背して途中貨物を差押へ抑留し課税すること已まず、殊に最近の特例としては當地より奧地に輸入する貨物中、潮汕鐵道に依るものは潮州驛（當地より二十五哩）に厘金局と並列して常關分局（卡）に於ても入城税として課税しつゝあるは注意すべき事項の一たり。

二、石油税　廣東政府は昨年末石油の輸入專賣を實行し、米國の「スタンダード」石油會社及英國の「アジア」石油會社の輸入したる石油を封鎖し、露國油及び他の米油を輸入せんと計畫したれど、露國側より當初の契約通りに到來せざりしが爲めに全然失敗に了り、本年六月頃前記兩會社と商定し買受人たる支那人に對し課税することに改めたり。當初一箱に付九元としたれど後六元とし又半減し更に三元と改めたりと云ふ。

因に露國との契約は英米石油の代りに露國より之を供給し、全利益を廣東政府に與へんとしたりと云ひ、又は純利益に限りたりとの評あり。

ホ、酒精税　本税は昨年劇樂類に關する課税目に入れ一箱五十仙と定めたるを、今年五月より一箱十元（一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

當に付二十元）の高率を酒精取締税として課したる爲に入津なかりしなり。最近一箱三元に低下したり。但し來年に至らば又增率して六元となすべき計畫なりと云ふ。本税收入は一箇月に約一萬元に達す。

其他遊興税又は鐵道交通税の如き一割を徵税しつゝあり、又南洋華僑民の送金に對しても課税したるが爲めに近來は送金を見ず、出稼地に於て貯藏し又は香港に送金し歸還の際に持ち來ると云ふ（華僑民の送金は從來當地錢莊に依り一箇年廣東省當地方奥地一帶よりのもの約二百萬人にして年額五千萬元に上ると稱す）。

二、勞働者の跋扈

國民黨政府は資本家打倒、帝國主義打破を骨子とする關係上、北京方面に於て主として學生を利用し、上海地方に於て學生並に勞働者を利用するに對して、當地方は主として勞働者を利用しつゝあり。自ら勞働者の横暴甚しく、昨年廣東軍の到來と共に勞働組合たる工會の勃興甚しく、下層民は殆んど各階級を通じて工會を組織せざるものなく現在其數百に達すると云ふ。常時彼等の運動あり、時々罷工し主として賃錢の方外なる値上を要求す。當地最近の例に見るに、刺繡女工の如きも賃銀三倍の値上を要求したる上に、宿舍料として各人十元を條件とせりと云ひ、曩に當地より澄海に至る輕便線の臺車苦力は罷工し五・六割の配當さへも要求したりと稱す（同線は臺灣人經營に係るもの）。

當地方の苦力は、由來廣東人種に屬し剽悍にして不良性を帶び暴擧を事とし、約二週間前外馬路（新道路）の通行を開始したる六臺の乘合自動車は數百人の人力車夫に襲擊破碎せられたるの暴動事件あり、交通巡査は傍觀し當局又之れが處分を講せず、一部自動車は公安局に避難中のものに係ると云ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

如上課税誅求に加ふるに罷工の都度能率に順應せざる勞銀の値上を實行し、施いて物價は當地最近三・四割騰貴し革命前に比し賭博及阿片吸食は一層盛行し、各階級を通じ思想益々惡化し健實なる中流階級は今日頗る困難なる情態にあり。一方生產工業の發達を見ざるのみならず、却つて之が振興を阻害しつゝあり。斯る情形を繼續せば燎原の勢を以て其勢力範圍を擴張しつゝある革命政府も、孫文の所謂革命未だ成功せざるに自繩自縛に陷り、內部より大崩潰を見ることあるべきが如し。

三、排外運動

昨年の上海五世事件後、當地も排外政策を採りし國民黨政府治下に在る關係上、七月一日より十月初旬迄約百日間は排日英運動熾盛にして、家庭使用人の退出は固より人力車夫舢舨夫等もなく食料品の杜絕等頗る艱苦を嘗め、當地日本人家族婦女子は領事館及學校職員の外には悉く歸國したるが如く（在住人口內地人百六・七十人、臺灣人三百七・八十人）なりしが、幸に排日は昨年十月五日完全に解決したるが爲に、英國品の杜絕に反して日本品の賣行は盛となれり。其後排日の氣勢與らず、一方排英は繼續し先般英國に對するボイコット、ストライキ、亦英國が孫傳芳に對する軍事借款應募の計畫中止の件に依り解決したりと唱ふるも、最近北伐軍優勢となりたる結果、再び英國に對し排貨を開始せんとし下準備として、既に當地英貨の調查を了せりと噂せらるゝに至れり。

昨年より現在に亘る排英運動の爲に經濟上英國側の蒙りし損失多大なるものあり、今日英國製綿布類は著しく減少し、之に反し日本品は其數量を激增し在庫品の六・七割を占むるに至れりと云ふ。

尙又本年罷工團は、南洋出稼苦力運搬の英國船に對し每隻二千元の徵收を開始し運賃高率となりたる爲に、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

當地よりの南洋出稼人は本年厦門を經由したる分既に五萬人を超すと云ふ（本年厦門よりの分は前記の外に十三萬人に達したりと云ふを以て例年と異り汕頭を遙に超過することゝなるべし）。

排外の氣勢は獨り經濟上のみならず反基督教運動となり、又教育權回收計畫となり、就中英國系の每日曜日約三百人の禮拜者ありし長老教會は排英運動勃發以來中華基督教會に看板を改め、又英國系の華英中學は生徒三百名餘を有し既に二十年來の經營に屬すれども、今夏已むなく南强中學と改名し、英人校長に代ゆるに同校出身の陳少豪を以てし、尙其後廣東政府の教育方針もあり同校は今や支那人經營の實を示すに至れり。其他米國系の角石中學も問題を生じ、米人校長を同じく支那人に替へ解決し、宗教科目をば一般に隨意科に入るゝことゝしたり。又佛國天主教系の若瑟中學の如きは、排外氣勢の盛なるに及び生徒數亦平時百人以下に下るを以て廢校したり。

四、各國商勢力の消長

汕頭の貿易は、福州厦門等より遙かに盛大にして一箇年七・八千萬兩に達し、對外貿易は香港との取引盛大なるを以て、英國の商勢力は列國に冠たり。排英運動前の一九二四年には總額三千九百六十餘萬兩中二千八百二十餘萬兩に達し、約七十二％以上を占むるに反し、日本は僅かに四％に過ぎず。昨一九二五年は排英の結果英國側は稍減退したるも尙七十一％を占め、日本は稍增加し五％に過ぎず。是れ前記は海關統計に基き英國側は香港及新嘉坡の貿易殆んど大部を占め、日本側は主として臺灣との直接貿易に係るを以て其の差著しきものとす。而して香港貿易中には、日本其他諸國より香港に輸入し、其七・八割は香港の對支輸出として支那諸港に輸入するものあり、又日本品中には上海其他に輸入し支那船に依り運搬するもの少からず。從つて當

地に入津したる在荷日本品相當額に達す。一方航業上に於ける日英の勢力を見るに、日本船中日清汽船會社其他の船舶にして支那貨物を運搬するものあるを以て、前記對照に比して稍趣を異にするものあり、一九二四年汕頭に出入したる英國船は二千六百七十一隻三百六十一萬噸にして、日本船七百三隻八十三萬七千餘噸、即ち英國の七〇%に對して日本は一六%。翌一九二五年には排英の結果英國船は著しく減退し千四百六十三隻百九十八萬餘噸に對し、日本船五百九十六隻七十四萬三千餘噸、即ち英の五三%に對し日本の二〇%となす。

斯く英國側の減退率甚しきが故に、日本側の比率上りたれども、實數に於ては排日貨の影響ありて前年に比して同じく減退し、反之支那船は激增し一九二四年の百七十一隻三十四萬一千餘噸に對し、一九二五年は四百九隻四十二萬五千餘噸となり、其比率は前年の三%に對し一一%半に上りたるは注目すべき現象の一なりと謂ふべし。

本年の貿易情態は未だ統計の能く徵すべきものなしと雖も、不斷の排英に依り香港に對する船舶の出入著しく減退したるものあり、前述の如く英貨としての在貨少く、日本貨の入津多かりしを以て其間著しき消長を現出したりと看做し得べし。但し商勢力としては單に直接貿易のみを以て之を打算すべからず、(一)他船に依り運搬せられたる日本品・(二)日本船に依り運搬せられたる支那品、(三)在支日本商人の取扱ひたる內外貨物の數量等を考慮に入れて比較を試みざれば正鵠を得難しと雖も、當地日本商社としては臺灣銀行支店大阪商船出張所を除く外、特記すべきものなく、三井の如き一名の出張員を置くに過ぎず。港灣利用の設備に於ても英國側大古洋行は倉庫百六棟(約六千坪)、怡和洋行は四十七棟(約二千七百坪)を有するに對し、日本側にありては絕無なるの實情より近き將來に於て英國の勢力に接近すること能はざるを惜む。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

當地方に於て日本人の勢力を擴張し能はざる原因を尋ぬるに、(一)英國に比して著しく市場開拓の沿革新しく、香港を中繼とし深く根抵を扶植し來りたる英國側の地盤を奪取すること至難なること、(二)當地支那人は南洋方面に對し多年密接なる取引關係あり、邦人が外部より容易に染手し得ざること、(三)阪神地方の邦商が上海以北の市場開拓に意を注ぎ、南支に對しては最近迄著しく販路の擴張を閑却し來りたること、自ら廣東航路の如き臺灣の高雄・廣東線の外は數年前より僅かに日清汽船會社及山下汽船會社が著手したるに過ぎざるの事情に存す。

臺灣殖產銀行設立の急務

臺北高等商業學校教授　田中載吉

近年內地の農村に於て最も重大なる問題は小作問題である、今や全國津々浦々まで普及し我國現下の社會問題として最も重要にして、其解決は最も困難な立場にある。旣に收穫遞減率の最頂に達して居る內地の農地では、此上如何に肥料と手間を掛けても其利潤の率は增加しないのみならず、勞銀の騰貴と生產費の增加のため收支相償はないことになつたのである。

此行き詰つた現情を如何に轉廻す可きかと云ふことになると、其方法としては今日の多收穫法を變へて農業を企業的經營法に改むるより外に途はないのである。卽ち機械の利用によりて勞力を節約し能率の增進を計り、一人當耕地面積を增加して其收益の增加を計らねばならぬ。最近新潟・岡山・愛知等の比較的廣き耕地を有する地方の自覺せる農民は次第に大農主義に向ひ耕地の擴張、農具の改良、動力機械の利用に目醒めつゝあるは此大勢に順應するものである。

翻つて臺灣の農村を見るに自然の溫室とも云ふ可き地位にあつて太陽の光熱と慈雨に浴すること多く、勞銀低廉にして生活程度の低きため收穫遞減率に達するには前途尙相當の餘地ある如く思はるゝけれども、一方には普通敎育の普及と生活程度は年々向上し勞銀も次第に騰貴するは明白なる事實である、殊に最近對岸

に於ける支那民族の覺醒は、南方政府の勢力増進につれ非常の勢を以て進み、勞働者の生活向上と勞銀の騰貴は特に注目す可き現象と云はねばならぬ。支那の勞銀騰貴は自然本島にも影響するに至り、近き將來に於て本島にも小作問題の困難に逢ふことを覺悟せねばならぬ。

兩三年來本島中南部地方の農民には動力機械の利用により耕地面積を増加し收益増進に著目する者漸次増加しつゝあるは、本島農民有識者中に覺醒の氣運に向へることを立證するものである。當局者は此氣運を善導して益々動力機械の利用と大農組織の普及に努む可きである。然るに地方官吏中には頑迷固陋にして機械や動力の利用に無理解のため、反つて農民の動力機械の使用に對し妨害をなし農民を苦しめる者も往々あるとのことである。內地や朝鮮に於ては官廳より多額の補助金を與へて動力機械の普及に努めつゝあるに比べると、臺灣の農業施設が朝鮮に比し遙かに後れて居るのみならず、當局者の農業經營に對する無理解に驚くのである。農業の企業經營、即ち農業の機械化によつて大農經營をなすに當り先づ起る問題は如何にして**農業金融機關の整備**をなして農民に低利長期の資金を融通す可きかと云ふことである。內地に於ては農工銀行・日本勸業銀行等相俟つて農業金融機關として活動しつゝある。朝鮮に於ては東洋拓殖會社の外、朝鮮殖産銀行があつて專ら農業金融機關として長期低利の資金を供給しつゝあるのみならず、各地に地方金融組合を作りて殖産銀行の後援の下に地方農民に零細なる低利資金を供給しつゝあるのである。

臺灣は領臺既に三十年、此間總ての方面に著るしい改善進歩を見たことは萬人の賞賛する所である。中にも産業の方面に於ける發達は驚く許りで、農産・鑛産・水産等産額は年々非常の勢を以て増進しつゝある。殊に農業が本島産業の主宗として現在に於ても將來に於ても最も重要の地位にあることは云ふ迄もない。天然

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の恩惠に浴すること篤き本島農業は、當局の保護比較的薄きに拘らず今日の隆盛を見るに至り、尙將來益々發展の見込はあるけれ共、農業經營として私人經濟の收支計算より見れば到底何時迄も現狀で滿足することは出來ないことは前述べた通りである。今日農民有識者間に覺醒の氣運芽ざしつゝある際、彼等のため金融機關の整備をなして農業の企業化を容易ならしむることは今日の急務と云はねばならぬ。

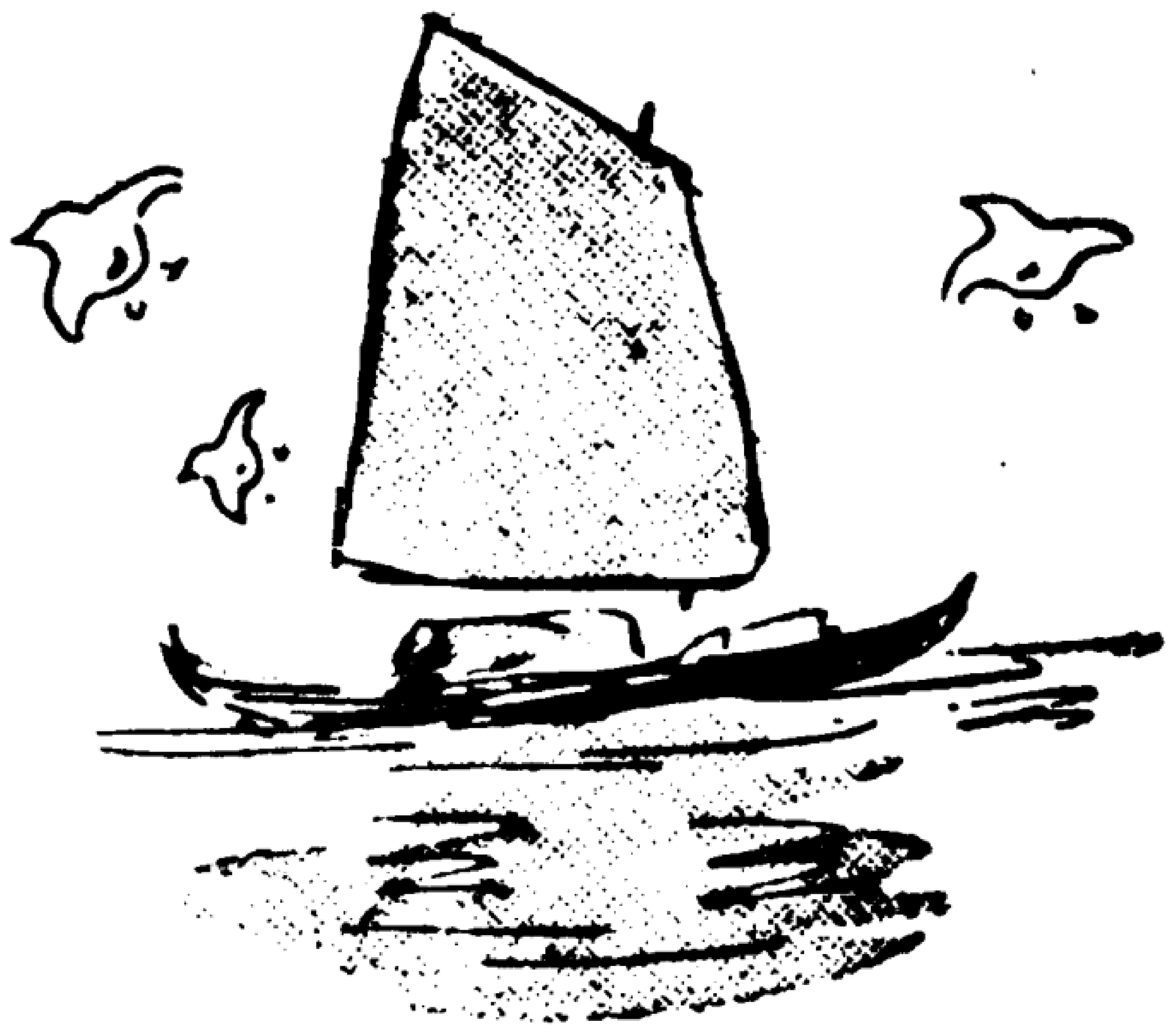
大正十二年日本勸業銀行支店が臺北に設置せられたけれ共、其營業振りを見るに地方農民の金融機關としては何等の働きをなして居ないのみならず、債券の募集により地方の零細なる資金を吸集して東京本店に集中する結果、反つて本島農民の資金を涸渇しつゝある有樣である。然し之れを以て同行の營業振りに對する攻擊の材料とするは同行に對して酷である。何れの銀行を問はず支店により吸集したる資金は本店に集中して、大資本の威力により巨利を得んとするは、今日の資本主義經濟時代に於て營業上最も容易にして且つ有利なる方法であるから、勸業銀行に對してのみ資金の本店集中を攻むる譯には行かないと思ふ。

本島農業金融機關として充分なる機能を發揮する。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。には朝鮮に殖產銀行ある如く、本島には本島に本店を有する本島特有の殖產銀行が必要である。殖產銀行は農民に低利長期の資金を融通するのであるから、普通の營利會社では其經營は困難である。政府の保護と監督の下に半官半民の會社となし、割增金附の債券發行の特權を與へ、夫れによりて得たる資金は全島に普及せる產業組合を通じて、地方農民に長期低利の年賦償還の方法により利用せしむることゝすれば、產業組合の獎勵ともなり一擧兩得の良法と信ずる。

近年本島北部に於ては蓬萊米の普及により米作の耕地擴張及改良を企つる者多く、南部に於ては鳳梨栽培の有望なるあり、其他中南部を通じて甘蔗・芭蕉等の栽培地として開墾す可き未用地約壹萬五千甲は低利資金

を得て始めて有利に經營し得るのである。然るに今日にては唯一箇所の日本勸業銀行臺北支店あるのみにて、他に不動產に對し長期低利の融通をなす機關はないのである。然も勸業銀行の營業振りが官僚式であるため、地方農民としては之れを利用することが出來ない。各地に普及せる信用組合は其金利が非常に高步であるから、農地開墾の如き長期薄利の事業には利用出來ない情態である。其他林業・水產業・養豚業・蕃地開墾等の方面に於て爲す可き事業は澤山あるけれ共、此等の事業經營は低利長期の資金でなければ其經營が困難である。

臺灣の農業改良其他產業の開發につき目下の最大急務は不動產擔保の長期低利の資金融通機關たる殖產銀行の設立であることを高唱する次第である。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣林業所感

林學博士　右田半四郎

只今御紹介を頂きました東京帝國大學の右田でございます。此度臺灣の林業上の視察を致します爲めに渡臺致しまして、客年來總督府林業方面の方々の多大の御後援を辱ふしましてお蔭で不足の日數內にも拘らず大體豫定內の視察を致しましたことは深く感謝致します。南部森林視察に就きましては特に大石技師が御同行下されまして、何くれとなく御懇篤なる御指導を下されまして得る所が多かつたのであります。厚くお禮を申上げます。道中大石技師からして此度こちらに渡臺致しましたに就きましては何か一席のお話を致せと云ふ話であります。私は一體教職に多年從事致してをりまして色々と講義は致してをりましても、演說と云ふやうなことは本來嫌でありまして迚ても出來ないことであるからと言つて再三お斷りをしたのであります

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

けれども、お許しがないので已むを得ずお引受を致したやうな次第であります。それで只今も何か御紹介の言葉に色々と當世の難しい問題に就てのお話もありましたけれども、私は茲に今回皆樣の御厚意に對して私が此視察中に感じました所の一端を述べて、さうして皆樣の御參考に供し私の責を塞ぎたいと考へるのであります。

私は臺灣に參ることは今回が四度目であります。第一回は明治三十四年、未だ領臺後間もない時であります。それから第二回は大正四年と思ひます。それから第三回は大正七年頃であります。今回は八年振りに第四回目の渡臺を致しましたやうな譯であります。何分短時日のことでありまして何等深く立ち入つて視察することもないのでありまするが、大體に於て此八年間に於ける本島の發展振の著しいことに驚きましたやうな次第でありまして、私は農業と言ひ或はその他林業の方面に於きましても著しく進歩が見えるのであります。これは臺灣に於て多年此林業の爲めにお盡し下さつてをる所の皆樣の御努力に他ならぬと深く喜ぶ譯であります。

私の感想を述べるに就きましては一通何う云ふ順序で視たかと云ふことを申上げる必要があると存じます。私は客臘二十七日基隆に著きましてその日に臺北に一泊致し、それから直ちに嘉義に參りまして阿里山に登り、それから私の方の演習林に入つたのであります。詰り阿里山に參りましたのは寧ろ演習林の奥に入いる途を此に採つたと云ふのが主でありまして、阿里山を視察すると云ふ意味はホンの序でながらに過ないのでありました。阿里山から演習林の最奥部たる所の新高山麓東埔の温泉に入いりまして、それから陳有蘭溪を下りまして濁水溪畔の龜子頭と云ふ所に出て、次に溪頭と云ふ我々の今日最も力を盡してをる所の作業所方面を視察致して竹山の方に出ました。尚大石技師の御案内に依りまして臺南方面及び高雄州の旗山營林

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

所出張所の部内に於けるチーク林を視察致し、再び臺北に引返しまして昨日は角板山の途中にある樟の既成造林を視察したやうな次第であります。それで臺灣の林業を視察致しましたと申しましてもその實自分の演習林の視察が大部分を占めて居るのでありまして、演習林中に次ぎましてはチーク林、阿里山の林業及び樟林位のものであります。それだけのものに就きまして私の感想の一端を茲に申上げることにしたいと思ひます。

先づ阿里山に登りまして最も私の感じましたのは阿里山の山貌、山の姿が全く變り果てゝ居ると云ふことであります。七八年前阿里山に登りました時には未だ沼の平附近には幾抱へもある所の雄大な檜が樹つてをりました、さうしてその當時仕事は對高岳の方面に於きましては少しばかり進んで居つた位のことでありまして、その跡は内地の杉檜などがポツ〳〵と植え付けられて居つたのを見たのであります。所が今回參りますともう沼の平から見渡す限り昔の俤と云ふものはないのであります。塔山方面や其の他の箇所に、案外濶葉樹やら檜やらが茂つて居るのが僅かに昔の俤を偲ばせる位の有樣であります。此立派な、世界に恐らく類を多く見出すことの出來ないやうな、林業の林は蔭を潛め、さうしてその跡は未だ僅に之から後繼ぎの森林を仕付けて行かうと云ふ狀態にあることを見て寂寥を感じたのであります。同時に私の前回視察の當時見ました杉、檜の林が火災の爲めに殆ど燒きかれてしまつて、その一部分が今日殘つて居るのであります。そこであの燒かれた所の造林地の地域に入いると云ふと杉や檜が黑々と茂つて居つた昔日のことを切に感じたやうな次第であります。で阿里山に就きまして差當り感じたのはそれだけでありまするが、私は自分一箇として此阿里山に就て尙此阿里山の變り果てたことに就きまして言ふべからざることの感じを抱いたのであります。それは何であるかと云ふと、私が日頃主張して居ります（併しながら餘り未だ雜誌などに就きましては

公表したこともございませぬ）事柄でございまするが、その主張を先づ自分で有力なものだと信じ得たのは此阿里山の視察、前回の阿里山の森林視察に依つて得たのであります。それは何う云ふことであるかと云ふと、一口に申せば少しく言葉は不適切であるかは知りませぬが、林相の流轉と云ふことであります。

森林の姿と云ふものは絶えず流れ變ずるものである。決して固定するものではない。斯う云ふことであります、之は何んでもないやうな事柄でありまするが、その意味は少しく説明を要することであります。御承知の通り森林學上で陰樹陽樹と云ふものを分つて居ります。皆さんに對して陰樹陽樹の講釋を致しまするのは無用でありまするが、要するに陽樹と云ふものはその樹が段々成長する爲めには多くの日光を要するもの、即ち日蔭の、樹の蔭には堪へ得ないもの。陰樹は之に反して他の樹の蔭でも成長し得る種類であります。それで之までの學説に依りますれば、陽樹と云ふものは漂浪の樹種である、あちらこちらに彷徨する樹種でありまして、一箇所に固定して繁ることの出來ない樹種であります。之に反して陰樹の方は固定的の樹種である。それは何故であるかと云ふと、此陽樹の方は日蔭に堪へないのでありますからして子が親の下に育つことが出來ない、即ち天然の儘の森林があつて人間がそれを斧で切るのでもないし、火災に罹るのでもない、風が何等それに害を加へるのでもない場所ではその親の根元にその子は育つことが出來ない。結局陽樹と云ふものは一代にして亡び、さうして何か土地が崩潰した所があるとか、人が濫伐した土地があつたら成長して行くものである。陰樹の方は之に反して或る土地を一度占領したならば之は例へ陽樹が茂つて居る所であらうとも陽樹の下に矢張り子を繁殖することが出來るのである。斯様にして一度その土地を占領したならば、その樹の下に自分の子を育てゝ行くことが出來る、斯様にして子々孫々一定の土地を占領して陽樹などが他から來てそれを侵さうとしても迚ても力が及ばぬと云ふやうな鞏固な林相を形作るものであります。そこで森

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

林帶と云ふものを研究する時に、その天然の植物帶の根本は常に陰樹に基礎を置くのが今日までの常であります。そこで私は元からして何うも之は鳥渡變なやうな氣がする、と云ふのを考へましたのは陰樹が陽樹の下に子を育てると云ふことは出來る、又生育することが出來ると云ふことは之は結構である、けれども陽樹が自分の下に子を育てることが出來ぬのに陰樹が何うして獨りその子をちやんと育てることが出來るか、陰樹の子から言へば陰樹の親と云ふものは詰り日蔭を貴ぶことが強いのであるからそれは丁度陽樹の子が親に於ける關係でなければならぬ。然るに陽樹の方は子を以て跡を繼ぐことが出來ないので陰樹が跡を繼ぐのは變なことであると云ふやうな感じを有つて居つたのであります、又屢々各地の森林を見た中に立派に陰樹の中に陽樹があちらこちらに混ざつて居るのを見受けるのであります。で陽樹は陰樹の下に樹つことが出來ぬと云ふ理窟の上から、此林相を説明する人はさう云ふ森林は曾て非常な濫伐に遭つたとか若くは火災の害を蒙つたのでありまして最初其處に陽樹が茂つたのであつてその林冠が破れてさうして其處に陰樹が生えて來たのである、斯う云ふ説明をして來たのであります。成る程さう云ふ場合も確かにあらうと思ひまするが、何うも人が入いれないとか何等災害のあつたとも思へない所に陽樹の種類が繁茂して居ることをよく見受けるのであります。之は何うも何か理窟がなければならぬと云ふことを考へて居つたのであります。所が第二回渡臺の當時の大正四年頃であります、私はその年の夏に樺太に參りましたそれから偶然に又その暮にこちらの方に參るやうな順序になつたのであります。詰り極北の天然林と極南の天然林との二つを視察する機會を得たのであります。で樺太に於て非常に面白く感じたことは御承知の通り樺太の森林と云ふものはエゾ松とトド松との二つの樹種から成立つて居ります、その他に陽樹の種類がありますが矢張り主なるものはエゾ松トド松である。共に陰樹であります、さうして此エゾ松トド松と云ふ陰樹が混淆してさうして鬱蒼たる森

林を形作つて居りまするが、その間に樹木の種類と云ふものが大分量に於て違があります。即ち或る所はエゾ松が茂つて居る所もあり或る所はトド松の方が茂つて居る所があつたが、概して現在、殊に東京帝國大學の演習林の區域內に就きましてはトド松が先づ材積に於きましては主なる部分を占めて居るのであります。所がその上に茂つて居る所の年取つた樹を見ると云ふと、之は又エゾ松が非常に多い。結局森林の狀態を言ひまするとエゾ松の林の下にトド松が樹つて居ると云ふやうな如き觀を呈して居るのであります。小さな樹になると殊にトド松の方が多いのであつて、陰樹は常に自分の子をその下に殘して行く、土地を讓つて行く、と云ふやうなことは從來の原則に鳥渡當嵌らぬやうに思ふのであります。之は何か鳥渡樹木の種類が移り代るのではないかと云ふやうな感じを抱いたのであります。

所が先程申上げました如くに、臺灣に參りまして丁度阿里山の森林を視察致しました、その時分には未だ大正四年でありますから、ホンの仕事を仕かけて居つたか居らぬかと云ふ時でありまして、沼の平附近は一面未だ古來の林相を保つて居つたのであります。偉大なる紅檜の林相は、その當時初めて阿里山で見たのでありまするが、平素矢張りあの大きな紅檜と云ふものは普通の森林のやうに、一つの立派なる林相を形作つて居ると思つて居りました。所が來て見た所が大きな違ひありまして、大きな紅檜は點々として樹つておりさうしてその下にそれよりも遙るかに小さい而しながら普通の林木よりも又ずつと大きい所の檜・紅檜などの類が生へて居るのであります。詰り森林は二段の林相をなして居つた、詰り點々と樹つて居つた所の大きな紅檜の下に檜が主として大理想の林木を形作つて居る、之は寧ろ相當の所謂林相を形作つて居つたやうな次第であります。此針葉樹のない所でも、卽ち檜の樹つて居らない所であれば、それは現在では多少見ることが出來るのでありまするけれども、樫類、椎類を初めとして雜多の濶葉樹が大きな紅檜の下に樹つてをつて、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私はその時々考へて見ました大きな紅檜が點々と樹つて居るのは何う云ふ爲めであるか、何故にあれがもう少し密集して居らぬのであるか、或は之は火災の害に罹つたとか何とかして結局樹種の弱い者が倒れて強いものが點々殘つたのであるか、火災に罹つた森林は往々にしてさう云ふやうな林相を見るのであるがさう云うやうなものであることを考へて見ました。けれども全然災害のないものであればあの大きな紅檜と云ふものが點々殘つておると云ふことは疑問である。さうではないであらう之は詰り樺太で見ました所の現象と似寄つたものではないか、即ち元は紅檜の林が一面に樹つて居つて立派な林相を形作つて居つたのが、段々樹があゝ云ふ風に大きくなるに從ひまして一本枯れ二本枯れしまして樹と樹の間が隙いた、所がその樹の間に紅檜の子がよく育たないので却つて他の樹種たる檜がそれを占領して來たのではないか、さう考へますと何だか樺太の林相とよく似通つた點があり、又その間に一條の眞理が出來るのであるかのやうに考へられたのであります。

さう云ふ考へをふと得たのでありまするが、尙それと同じ頃のことであります、內地の吉野の林業地方に於て一つの樹種を同じ土地に森林の形に於て育てゝ行くと云ふと段々と代を重ねるに從つて育ちが惡くなる。例へば濶葉樹天然林を伐り開いた所に杉を植えるに、第一代は非常に太り、その杉の樹を百年前後經つて伐つた跡に杉を仕立ると何うも杉の成長が第一代程のやうに行かない。吉野では最早三代位代を重ねてそれが適確のやうに說をしてをりまするが、三代位になると益々衰へる。そこで吉野の林業家に尋ねますると云ふと、成る程材積に於て太ることに就ては代を重ねるに從つて段々惡くなるけれども、年輪が付いて居るが故に値打は良いものが出來る、それであるから大體に於て引合はぬことはないのだと云ふ說明を聞いたのであります。けれどもその後になりまして、例へば造林上樹種の選定をする時に、杉の根株のこんな大きなも

のが盛んに樹つておる之は確かに杉の適地に違ないと思つて杉を植えて全く失敗したと云ふやうなこともあると云ふことを聞いた譯であります。同じやうな現象がその隣の紀州の尾鷲にもあります。之は杉の林業の盛んな所でありますがその土地に於て林業は元はよかつたけれども段々とよくなくなる、と云ふやうなことを唱へられて居ります。東京附近の埼玉縣下の西川の林業でも之は杉檜の有名な所でありますが、杉類の二代三代と育てた跡は天然の雜木林よりも値段が却つて倍以上も安いと云ふことであります。

此現象は詰り一つの樹種を永久に或る土地に森林の狀態に於て育てゝ行けば後にはその樹種がその土地に適しないやうになる、所謂農業で云ふ所の嫌や地の狀態になると云ふことが考へられるのであります。詰り嫌や地になると云ふことは、結局は樺太の森林の變化及び阿里山の紅檜と檜の關係を說明するのではないか、要するに紅檜と云ふものが千年・二千年長い間同じ狀態に於て成育して居る、そこで年を取つたものが太り、衰へてくるものが出來てその土地は最早紅檜などの嫌や地になる狀態で却つて檜がその跡に生えて代替りをなしたのではないか、斯う云ふ風に考へられる。爾來私は山林旅行をします時には、成るべく此樹種の天然林を見たいと云ふことを心掛けて居ります、さうして林相と云ふもの丶狀態を見ますと、何うも林相と云ふものは固定しないものである、始終代つて居るやうに考へるのである。幾ら良種であつても親と子とが完全に育つと云ふことは出來ぬ。詰り之は何年間か一つの樹種が土地を占領しまして嫌や地になると、又之は樹木の種類に依りましても違ひませう、氣候の狀態に依りましても違ひませうし、或は土地の狀態に依りても違ひまして、一律に言ふことは出來ませぬが兎に角永い間に於ては嫌や地になると云ふことは疑はれないことであると思ふのであります。さうして見ると、昔は輪作は林業家に必要なし、即ち輪作などは林業家に必要なしと云ふことは一方人工林の側からすれば容れられますが、兎に角輪作は林業家に必要なしと云はれた

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ことは餘程考究を要する事と存じます。私は矢張り長い間の目から見ますれば樹種と云ふものが段々と移り變つて行くと云ふことは天然の法則である。從つて我々の學術でやるが如き永久に一つの樹種を同じ土地の上に育てゝ行くと云ふことは之は望むことの出來ないことであると云ふ信念を日頃から堅くして居るのであります。私は此事柄を產地の上からは常に念頭に置いて見ることにして居るのであります。

尙此問題は申上げますれば色々のことが關聯しまするが、今日は凡ての視察したことに就ての感想を申上げる筈でありまして、只今の問題は感想の話としては少し學術的になりすぎましたからそれで打切としまして、阿里山ではその外に斫伐の狀況などを見て、兎に角伐木事業と云ふものは非常に進步して居るが一面、造林事業と云ふものが之と併行せぬと云ふやうなことを感じた次第であります。

それから阿里山の續きの對高岳と云ふ所がございます。そこには私の方の造林地が二百町步餘り程あります。元は矢張り紅檜や檜が樹つて居つた所でありますが、阿里山作業所の方で伐つて頂いた所であります。その跡には造林を致しております。造林をした樹種は何であるかと云ふと內地の杉檜で、その他には紅檜の天然生の稚樹を育てゝいつて林相を形作つて行かう、と云ふやうな箇所が一二入つて居ります。何れにしましても成長が非常に良いと云ふことを感じました。此對高岳の造林地は海拔約七千五百尺ばかりの所であります、その位の所でありますし私も東京に居りまして其處に內地の杉を造林すると云ふ上申が參りました時に、その計畫を非常に危んで居つたのでありますが、此度視察して見まするると意外の好成績であります。先づ內地に見る普通の杉檜に較べましては倍位の成長をして居ると申しても過言ではないと思ふのであります。唯その中檜の方は野鼠の害に罹りまして二割三割方枯死して居るやうに見受けましたのでありまして、之は將來造林上苦心すべき問題で、何う云ふ風にして之を驅除して行くかと云ふことは私等の方でも鳥渡見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

當が立ち兼ねたのであります。同樹の害は北海道の演習林などでも經驗して居るのでありまして、之は色々野鼠驅除の方法も之まで考究して居りまするが、何うも成績の確實であると云ふやうな方法は未だ見出し得ないのであります。まあ根氣よく補植をして行くより他によい方法はないかと考へます。何う云ふ譯で杉や檜を好んで害するのであるかと云ふことはよく判らぬ、造林の掛りの人の話では杉の方は特に臭ひの高いものであるから好むと云ふことでありますが、普通なれば檜の補植には檜を用ゆると云ふのが順序でありますが、さう云ふ害を受けた土地でありますから成るべく土地固有のものを以て、即ち臭いなどの餘りない從つて野鼠に對しては當り前の樹で何も好んで嚙つて見る必要のない、そして苗木の得易い點からして紅檜を植えて先づ後の經過を見るつもりにして來たのであります。唯茲で對高岳の造林地のお話をするのは、七千五百尺以上の所に於て內地の杉よりも倍以上の成績を示して居ると云ふことを御承知を願ひたいのであります。

それから演習林の行政區劃內に於きまして濁水溪畔の三百尺位の所と、それから千八百尺位の所と四千尺位の所と三箇所の造林地を視察したのであります。一番低い方面は主として臺灣赤松・流球赤松それから廣葉杉の一種等を造林して居ります。中間の所に行きまして樟チーク類さう云ふやうな種類を主として植えて居りまして、その他には極く小面積に色々の樹種を混植致して居るやうな次第であります。それから一番高い四千尺內外に行きまして例の內地杉・檜それから廣葉杉であるとか紅檜であるとかその他色々のものを小面積植付けて居るのでありまするが、之等の樹種は樟を除きましてその外の樹種は何れも非常によい成績を示して居るのであります。矢張り此臺灣赤松であるとか琉球赤松であると云ふやうなものは一年中に七八尺伸びて居ると云ふやうな所もある、杉の林に行きまして精密に測定した結果ではありませぬが、私共の目分量で見た結果に依れば、最上の成長は勿論もつと多いのでありまするが、既に植付け後十年內外を經たもの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で內地に於ける同樹種の造林地の稍上等の土地の倍或はそれ以上成長して居るやうに感じたのであります。先づ對高岳では殆んど倍位の成長をした所もありますが、それは主として高さに就て見たのでありますが、唯今述べた箇所では高さはまあそれ程ではありませぬけれども、直徑及び材積關係に就きまして見ますると云ふと倍は確かに太つて居る。斯う云ふやうな狀態であります。此太ると云ふことは果して林業上喜こぶべきことであるか何うかと云ふことは一つの疑問であります。何故であるかと云えば餘り成長が早や過ぎると云ふと自然材が柔かになる。例へばそれを柱であるとか梁に使ふにした所が何うも弱いと云ふやうな懸念もございますので、そこで之はずつと前、大正四年頃、杉の四年生のものがありましたのを東京の方に取寄せまして木材の强弱試驗などをやつて見ました所が、內地で四倍位の年を驗た、卽ち十五年生の、杉と同じ位の直徑を有つて居り併も比重と云ひ强さと云ひ內地產の杉と何等逕庭がないと云ふやうな非常な好成績が得られたのであります。けれどもそれが果して年を重ねてもその通に維持して行くべきものであるか又木材の耐久力と云ふものは何う云ふものであるか、さう云ふ點は試驗することが出來ないのでありまして、未だ未調査の儘今日に及んで居る次第であります。さう云ふやうな譯で太ると云ふこと、又その太り方が特別な太り方をしても材の利用上に於てはさう悲觀すべきものではないであらうと云ふやうな位の信念はありまするが、未だ充分に確めると云ふ段には至つて居りませぬ。もう一つ太ると云ふことに就て考慮せらるゝことは斯う云ふ風に非常な太り方を現在はして居るが、此成長と云ふものは何時までも續き得るものであるか何うか、肝心な我々が利用するに適すると云ふやうな大きさに、近づくに從つて成長が止まつてしまつて、遂に我々の目的を達することが出來ないではないかと云ふ懸念があるのであります、之は多くの人が頻りに放つ質問であります。御承知の通り一つの樹種をその本來の鄉土卽ち最も天然に適する土地から一層温かい地方に移し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ますと云ふと、成長は早くなるけれども一方は蟲害その他の故障が起り、それを除くことには餘程の骨折りを要する、でさう云ふやうな譯で太ると云ふことゝ、それから又成長が止まる、要するに長續きしない、長い間には段々と成長が衰へて行つて遂にその鄕土即ち適地に於ける成長の如くになることを得ないと云ふのが之は造林上一般に認められて居る說のやうであります。さうして見ると云ふと、今日非常に太ると我々が喜んで居りますが、果してそれが今我々の需要に適するやうな太さにまで太つて來るか何うかと云ふことが未だ疑問として殘されて居る點であります。蟲害の方面に於ては之まで之と云ふ病蟲害に罹つたことはありませぬ。從來の太り方は先づ十年內外で最大のもので一尺平均五寸、特別の一等地の千葉縣の試驗地に於て約三十年生位の成長量に相當するのであります。さう云ふ森林の狀況を見ますると云ふと何うも頭は非常に尖つて梢かよく伸て居ります、樹の勢を見ましても迚ても成長が衰へて居るかの如くに見えないのでありまして、之から益々成長を續けてゆくかのやうに考へます。併し一體杉と云ふものゝ年齡は非常に高齡に達し得るのでありまして、普通內地に於きましては三百年前後の杉は可なり立派な林相を形作つて居るのでありますが又山の樹木によく見るのでありますが、林相を形作つて居らぬもので恰も阿里山の如く方々に點々として居るものは阿里山の檜の如く千年二千年の年齡を驗してをるのがあります。さう云ふ風に杉は非常に大きくなる樹でありますからよしんば先で段々成長が衰へて行つたとして、或は直徑三尺か四尺のものを臺灣の演習林に於て育てますることは困難であると致しましても、私共の必要と致します平均一尺五寸位の大きさのものは今後確かに得られるのであらうと、之は唯何んとなしに信ずるのであります。斯樣な譯でその他の樹種、例へば廣葉杉などの成長も誠に宜しい。唯不思議に檜は餘り成長が宜しくありませぬ、成長は宜しくありませぬけれども之を內地に於ける檜の成長に較べまするると云ふと未だ矢張り臺灣の方が良いやうに考へ

られます。勿論檜も高い所に行きますとずつと良い成績を示して居ります。

斯様な譯で特に杉が太つて居ると云ふことは强ち喜ぶことではないけれども然しそれかと言つて悲觀すべき理由は餘り見出さないのであります。さうして一般造林費のことを考へて見まするど造林費は內地に於て要する杉の造林費用の半分でこちらは濟んで居ります。さう考へて見ますと造林費は半分である成長は二倍まであると云ふのでありますから先づその開きと云ふものは一に對する四位のものになつて來ます、恐らく經濟上から言つても、內地の杉造林に較べて遙るかに優れて居るではないかと考へるのであります。先程も申上げました通り現在直徑一尺を旣に突破して居る所の大きさのものがある位であります、二十年若くは二十五年致したならば平均一尺五寸位なるには困難なことではないと思ふ、さうすれば利用して行くことが出來ることゝなる。

由來非常に此林業と云ふものは長年月を要する事業でありまして、內地でも誰しも之から造林を始めやうと云ふことに一番苦痛を感ずるのは時期の長いと云ふことでありますから、二十五年位で利用が出來ると云ふことになると此林業の一つの弱點を免るゝことが出來ると言つても可い位でありまして、少くも之は非常に注意して研究する價値があると考へるのであります。殊に先づ臺灣に就きまして考へて見まするど云ふと、縱貫鐵道に沿ふて見まする限りに於て、松なども多少はありまするけれども先づ想思樹一點ばりと言つても可い位であります。さう云ふ風に極く造林種類と云ふものは單純であります、それから稍々內地の方に行きましても先づ針葉樹を植える區域と云ふものは先づ餘りないやうに考へられまするが、先づ先程申上げましたが如く四千尺內外の所から七千五百尺內外の所までは、先づざつと垂直的に申しまして三千五百尺の間に於て、杉檜と云ふものならば他の方面でも同様に成長するものであるとしたならば之は臺灣の林業の上から

言つても非常に面白いことで大事な問題である。本島の木材供給の需求と云ふものは木材界に用材の供給と云ふものは何うしても此力に依つて徹底しなければならぬと思ふ譯であるから、演習林の今日までやつて居ります所の試驗上の成績と云ふものは、臺灣森林全體の經營の上に於て何程か參考になる點があらうと考へる次第であります。

それからチークのことに就きまして之は先程申上げました旗山の營林所出張所管内に於けるチーク林に就て鳥渡申上げまするが、此臺灣に於ける所のチークの栽培に就きましては、色々の問題がそれには存して居るかのやうにチョイ〳〵と承つた譯であります。所が私が今度參りまして視察致しました結果に依れば此旗山出張所の管内のチークの林は先づ大體に於て申し分のない所の成長を示して居るのでありまして、非常に面白いものであると云ふことを感じたのであります。今日に於きましても、もう既に一尺近いやうな大きさのものが出來て居るやうな譯でありまするが、兎に角成長の狀況などを見まして些も衰へて居ると云ふやうなことは見えませぬ。此林地の選定に就きましては當局に於ても非常に御苦心になつた模様でありまして、氣候の狀態その他に於て最も適當であると云ふ意味に於てあの地が選定されたと云ふことでありまするが、確かにその選定は當を得て居るものと考へるのであります。勿論大面積のことであります、何でも千三百町步、位の大面積が殆ど一齊にチークの造林をされて居るのでありますが、それが爲めに所々不成績の箇所があるのであります。けれども之は何處に行つても同じことでありまして、例へば內地に於きましても、何百町步、何千町步と云ふ造林を一齊に擧げ得たと云ふことの實例はないのであります。さう云ふ廣い面積でありますれば、自然發育の關係が不充分であるとか何とか云ふことが出來るのでありませうが、多少の不成績があつても一向、心配することはないのであります。

Digitized by Google	Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

られます。勿論檜も高い所に行きますとずつと良い成績を示して居ります。

斯様な譯で特に杉が太つて居ると云ふことは强ち喜ぶことではないけれども然しそれかと言つて悲觀すべき理由は餘り見出さないのであります。さうして一般造林費のことを考へて見まするど造林費は内地に於て要する杉の造林費用の半分でこちらは濟んで居ります。さう考へて見ますと造林費は半分である成長は二倍までであると云ふのでありますから先づその開きと云ふものは一に對する四位のものになつて來ます、恐らく經濟上から言つても、内地の杉造林に較べて遙るかに優れて居るではないかと考へるのであります。先程も申上げました通り現在直徑一尺を既に突破して居る所の大きさのものがある位であります、二十年若くは二十五年致したならば平均一尺五寸位なるには困難なことではないと思ふ、さうすれば利用して行くことが出來ることゝなる。

由來非常に此林業と云ふものは長年月を要する事業でありまして、内地でも誰しも之から造林を始めやうと云ふことに一番苦痛を感ずるのは時期の長いと云ふことでありますから、二十五年位で利用が出來ると云ふことになると此林業の一つの弱點を免るゝことが出來ると言つても可い位でありまして、少くも之は非常に注意して研究する價値があると考へるのであります。殊に先づ臺灣に就きまして考へて見まするど云ふと、縱貫鐵道に沿ふて見まする限りに於て、松なども多少はありまするけれども先づ想思樹一點ばりと言つても可い位であります。さう云ふ風に極く造林種類と云ふものは單純であります、それから稍々内地の方に行きましても先づ針葉樹を植える區域と云ふものは先づ餘りないやうに考へられまするが、先づ先程申上げましたが如く四千尺内外の所から七千五百尺内外の所までは、先づざつと垂直的に申しまして三千五百尺の間に於て、杉檜と云ふものならば他の方面でも同様に成長するものであるとしたならば之は臺灣の林業の上から

言つても非常に面白いことで大事な問題である。本島の木材供給の將來と云ふものは木材殊に用材の供給と云ふものは何うしても此力に依つて徹底しなければならぬと思ふ譯であるから、演習林の今日までやつて居ります所の試驗上の成績と云ふものは、臺灣森林全體の經營の上に於て何程か參考になる點があらうと考へる次第であります。

それからチークのことに就きまして之は先程申上げました旗山の營林所出張所管內に於けるチーク林に就て鳥渡申上げまするが、此臺灣に於ける所のチークの栽培に就きましては、色々の問題がそれには存して居るかのやうにチョイ／＼と承つた譯であります。所が私が今度參りまして視察致しました結果に依れば此旗山出張所の管內のチークの林は先づ大體に於て申し分のない所の成長を示して居るのでありまして、非常に面白いものであると云ふことを感じたのであります。今日に於きましても、もう既に一尺近いやうな大きさのものが出來て居るやうな譯でありまするが、兎に角成長の狀況などを見まして些も衰へて居ると云ふやうなことは見えませぬ。此林地の選定に就きましては當局に於ても非常に御苦心になつた模樣でありまして、氣候の狀態その他に於て最も適當であると云ふ意味に於てあの地が選定されたと云ふことでありまするが、確かにその選定は當を得て居るものと考へるのであります。勿論大面積のことであります、何でも千三百町歩、位の大面積が殆ど一齊にチークの造林をされて居るのでありますが、それが爲めに所々不成績の箇所があるのであります。けれども之は何處に行つても同じことでありまして、例へば內地に於きましても、何百町歩、何千町歩と云ふ造林を一齊に擧げ得たと云ふことの實例はないのであります。さう云ふ廣い面積でありますれば、自然發育の關係が不充分であるとか何とか云ふことが出來るのでありませうが、多少の不成績があつても一向、心配することはないのであります。

大體の模樣から言へばチークと云ふものは非常に有望な造林樹であると云ふことを考へるのであります。殊にチークは御承知の通り軍艦用材として或は建築用材として殆ど之に優る或は適する樹種はないのであります。それでありますから軍事上から言ひましても亦臺灣の將來の建築用材としても最も大事な樹種であります。出來るだけ此樹種は臺灣に於て增殖を圖ると云ふことが必要ではあるまいかと考へるのであります。勿論氣候その他に於て非常に注文の多い樹種である、それであるから廣く全般に亘つて之を造林して行くと云ふことは出來ないことでありますが、その適地を選んでたゞ大面積の一齊造林と云ふやうなものを避けて造林して行きましたならば、將來非常に價値ある所の森林を得ることゝ思ふのであります。

一體チークと云ふもの、一番上等材の原產地と云ふものはビルマ國でありまして、その他シャム等にも良く生育しておるものであります。人工造林として有名なのは、印度の方面では中央州あたりに可なり大面積のものがあると云ふことを聞いて居ります。ジャワその他スマトラと云ふやうな方面にも可なり造林されて居るらしいのであります。南洋方面の事は私存じませぬが、印度の中央州あたりに於きましては伐期が約八十年位にせられてをると記憶して居ります。チークの伐期と云ふものはさう嚴しく周圍の關係を調べてやると云ふことでなしに、凡そ大きさを標準として決めると云ふことであります。地上六呎の高さに於て周圍六呎以上のものを一級木と致しましてそれがまあ伐期とされて居ります。それであるから先づ人工に依つて增殖したチークと云ふものは先づ八十年位でそれ位に達すると云ふ見込で、印度政府は其の前に伐る事を禁じて居ると云ふことであります。臺灣に於てチークの成長を見まするど云ふと今日に於ては、旗山の出張所に於ては大正七年に植付を始めてから先づ八九年でありまして、既に尺に近いものがある位であります。それを以て考へて行けば矢張り印度の人工林に決して劣らぬやうな成績を示して居るものではないかと考へてを

るのであります。演習林でもチークは先程申上げました通り多少やつてをります、何うも適地が充分にないので思ふやうに之を廣めることが出來ませぬが、成績は可なり宜しいのでありまして、之は十年島渡越して居りますが矢張り一尺以上に達して居ります。梢の狀況などを見ましても却々成長が止まると云ふやうなことは少しも見られない、將來益々有望であるかの如く考へるのであります。

御承知の通りチークの甚だ困難なのは風の爲めに害され易いことでその適地を設けるのが困難であります。從つてその方法としては他の條件が良いとか風當り等に避けてをると見たならば現在の森林地を伐り除いてその間にチークを植えることが良いと考へるのでありますが、之は直ちに經濟的に林業をやると云ふ人にお奬めするのではありませぬが、先づさう云ふ風に試驗的に廣めるやうにしたならば未だ〳〵チークの適地は餘程廣くはないかと考へて居ります。本來ビルマはチークを何う云ふ風に仕立て居るかと云ふと、殆ど無價値同樣な雜木の中に少くとも一割二割多くて四割五割、先づ二割三割あれば非常にチークが多い方であります。それでありますから先程申上げました通り二尺以上のものを伐採木として伐期が二倍と假りにしまして、さうしてそれを或る計算の下に後繼の絕えないやうに造林を圖つて伐り出して居るのでありますけれども、何分にも無價値な樹木が一面に樹つてをる所でありますから大きな立派なチークを伐り出しても、その下にチークの子があれば宜しいのでありますが矢張り惡い樹種が茂つて來るのでその下のチークを仕立てることに非常に苦心するのであります。惡い樹で以て埋められて居りますから段々とチーク林の品質が劣惡になると云ふことは之は印度やビルマのチーク林經營上の一番困難な點であります。之が爲めに印度政府は非常に苦心して施業案の編成よりは餘程前のことでありますが態々獨逸人を招聘しましてさうして經營の基礎を樹てゝ貰ひました、さうしてそれが根本になつて研究に研究を重ねて印度獨特の本數法と云ふものを初

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

めまして、今では餘程進歩して居るやうであります。けれどもそれが完全に行はれるや否やと云ふことに行きますと云ふと未だ疑問が澤山あると思ひますが、チークの占領して居る所を伐り除いてさうしてその後にチークを育てゝ行くには何うして行くか、と云ふに大體無價値の樹を燒きながらに金を掛けて伐り除いてさうして若いチークを育てゝ行く、燒いて斯樣な雜木林の中に段々と小さいチークを育てゝ來るのでありまして、その成育も無論早いものではありませぬ、明確に今記憶してをりませぬが、私の大體の記憶に依りますと例の直徑二尺の大木に達する爲めに百二十年經つと思ふのであります。それだからチークの成育が鳥渡惡いと言つても大いした心配する必要はない。我々は絕えず造林の方法と云ふものは研究に研究を重ねて、何處までも世界特有の樹種と云ふものを我が領土内に於て成育して行くと云ふことを努めると云ふことは、我が林業家の責任ではないかと思ふのであります。

樟樹の事柄に就きましても、實は視察の一部でありますから所感を申述べたいと思ふのでありますが、之には未だ私は疑問を殘してをるのであります。大體に於て鳥渡申しまするが、此樟樹に就きましては內地樟とそれから本島產の樟との何れにすべきかと云ふことが林業上の一問題になつてをるかのやうに承ります。私の如きが、殊に造林と云ふものに直接に經驗する機會を有ちませぬ、ものが鳥渡覗いてそれに何うの斯うのと云ふやうな意見を樹てることは間違である。私としては控へべき事柄でありますが。唯此問題は非常に重要な問題でありますから、唯一つ希望を述べて置きまするのは、內地樟はその成績が期待された如く良くない、視察した結果に依つて此樟樹の造林と云ふものは失禮か知れませぬがさう成功したとは申上げられないのであります。之は演習林に於ても先程申上げましたが矢張り同じ失敗を見てをるのでありますが、併し一部分には矢張り相當の成績を見てをります。それは卽ち想思樹などゝの混淆林仕立の所にさう云ふ所があ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るのでありまして、詰り樟樹の造林成績が思はしくないと云ふ一つの原因は先程チーク林に就きまして申上げましたが如くに、非常に大面積を纒めて仕付けられたと云ふことが先づその主なるものではないかと考へられるのであります。それでありますから此樟樹の適する所に少しづゝ小面積でもあつちこつちへ植付けて置きましたならば、今日のやうなことは萬あるまいと考へるのであります。その他矢張りチークに就て述べました如く他の樹種と混淆して植えると云ふことも亦一策であります。それから最後の手段としてはこちらの樟など、或る程の混淆をする一本置きの混淆は如何でありますか疑問でありますが、多少の混淆をして行くと云ふことは結構なことではあるまいかと思ふのであります。兎に角此の樟は我國特有とも言つて可いのでありますから、今後何うあつても造林をしなければならぬので唯それを何う云ふ風にするかと云ふことに就きましては色々の疑問がありますが、矢張り半ば試驗的の仕事を進めて行くより致し方がないのでありま す。

何事でも初めから百發百中に物が行くべきものではない。大砲を打つのでも先づ三發目に於て初めて的中を期すると云ふやうなことで、初めは先づ五つ六つは捨彈を打つと云ふ位のものであります。造林事業も從來何等經驗のない箇所に於て計畫を樹てゝ行くのであるから、多少の犧牲を卽ち捨石的の仕事をして行くと云ふことは、已むを得ぬと云ふことよりも寧ろ當然のことである。實行したことが十が十まで成績を擧げなければならぬと云ふことは斯う云ふ事業の性質上望み得ないことでありますからして、それは當然のことゝして之から益々研究を續けられて同時に最も見込の安全なる箇所から漸定的になされたならば必ず成功を見ることであらうと信ずる次第であります。大變纒りのないことを申上げまして御清聽を煩はしたことを感謝致します。（文責在記者）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

廈門と汕頭

石川欽一郎

通貨

外國へ旅行して毎も直ぐに自分に氣が付くものは通貨の問題である。一歩外國の地へ足をかけた以上はその國の通貨を持たなければ什うすることも出來ない。それで平常は爲替相場が高からうが安からうが何等の痛痒を感じなかつた自分が、銀行で今日の相場は何分のいくらであるから換算すれば恁うなると説明されてその國の通貨を渡される時、相場の高下と云ふものも馬鹿に出來ぬと考へる。なぜならば恰度今は金よりも銀が安いので日本の金九十錢ほどで支那の一元が貰へる。これを前年福州へ行つた時、日本の金一圓二十何錢かで支那の金一元が貰へたのに對しては却々の相違である。それで想ひ出すのは倫敦のパトニー橋の通で電車を待つて居た時、側に一人の電車の監督の如うな人が居たから、私はこの電車はハンマスミスの停車場の方へ行くかと尋ねたら、その人は、停車場の前までは行かぬが直ぐ近くまでは行く、併し此處から乘れば二區で四ペンス取られるが、あの柱の處の停留場まで行けば一區で二ペンスで濟む、恁う云ふことは克く心得て置か無ければならないとさも眞面目に注意し乍ら次の停留場まで私を連れて行つた、そのうちに電車が來たが車掌はその人に敬禮をしたので成程監督さんだなと解かつたが、僅二ペンスでも、恁う云ふことは克く心

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

得て置かなければならぬと言はれたその聲がまだ私の耳に鳴つて居る。況んや今度は支那で一圓に付いて差引三十何錢の喰違ひになるのはそれこそ非常に注意を要する問題であると感じたことも主に彼の監督さんの教訓の賜物の如うである。

通貨と云ふものはその國の文化の程度を示すもので紙幣の穢ない國ほど什うも格が下がるやうに思はれる。例へば歐洲のうちで伊太利の紙幣の穢ないのは誰もよく知つて居るが、伊太利では銀行で兩替をして貰ふ時いつにも新らしいサツを呉れた例が無い。その古るく穢ないこと丶言つたら、指でツマンで風に當てれば直ぐに吹き切られさうに古るいものであるが、そこへ行くと英吉利のサツは何時何處で貰つても切り目がパリ〳〵して居る。やはり國の格に依るものと思はれるが、臺灣でも此ごろは餘り伊太利式のサツが無いやうになつて、時々は新らしいのも手に這入る。それだけこの土地の格が上がつたもので文化の向上に比例するものかと考へられるが、支那のサツと來ては什うも不思議なものである。先年北京の方へ行つた時には日本の正金銀行のサツが一番大ビラに通用したが支那の交通銀行だの何とか銀行だの丶本式に印刷してあるサツも通用した。併し廈門や汕頭では、福州でもさうであつたが、唐紙にいろ〳〵の判が押さつて文字が書き入れてある何處かの受取書のやうなものが紙幣として通用する。これは大丈夫なものだと銀行で保證して渡されるからサツだと思つて懷中に仕舞ひ込むが、知らずに居れば鼻紙にも兼ねない代物である。紙幣がこれだとすれば自然その國の格も解かるやうな氣がする。

併しこのサツを持たぬとすれば重い銀貨を下げて步るか無ければならない。その一圓一個が日本の五十錢銀貨五枚位の重さがあるに至つては、既う金などは扼介だから早く皆使つてしまひたくなる。況んや銅貨は、十錢が、この銅貨十七枚ばかりにあたるので、車夫に二十錢もやらうとするには、銅貨三十

四枚を要する。一圓の銅貨でも用意しやうものなら苦力でも備ひたくなる始末だ。

それでまた、厦門で使へる金、汕頭で使へる金、その市外の田舍で使へる金、皆それ〴〵に違ふやうである。いやはや扼介なものは支那の通貨で、それを思ふと支那旅行の興味の半分は消滅する。

山紫水明

風景の佳い土地は大概文字通りに山紫水明であるが、そのうちにも、南支那の風景は品質から言つても先づ第一流である。そして殊に福州厦門の山趣水容が氣に入つた。福州は閩江に倚つた一種の峽であるが厦門は海に散る島の集團である。水は青く澄み花崗岩の山には木が無いからサバ〳〵した感じを與へる。汕頭の方は前に角石と稱ぶ大きなこれも花崗石の島を擁して眺めは如何にも文人畫式だが、汕頭の街そのものは韓江の河口に溜まつた白茶色の砂地の三角洲の上に出來たものであるから風景としては厦門に劣る。併し土地全體に非常に明るい感じが漂ふ。と云ふのは家は大概白壁で日光に明るく、地面は砂地で明るく、空は元より明るく、水は厦門ほど澄んでは居らぬが空を涵してやはり明るいからである。たゞ汕頭は厦門の如うに山にも家にも餘り色の變化が添はぬから觀たところは地味である。先づ厦門を京都の色とすれば汕頭は東京の色である。

それに人氣までもその通りで厦門は京都人らしく汕頭は江戸ッ兒らしい。汕頭の街を歩るく感じは恰度日本橋の魚川岸にでも居るやうであるが、厦門の街は京の新京極あたりの人込みを想はせる。但し新京極が美しい程度に準じてその割合に厦門の街は穢ないのが相違である。併し私は繪の方から言へば天下に穢ないものは無いと考へる。成程狹い厦門の街では足元の御用心が第一で、人を避けるよりも先づ足の下を避ける用意が必要であるが、それもその實物を考へるから穢ないと思ふ。單にその色を見てその實物を忘れる時、これほど美しい路面は廣い世界にも多くは無からうとさへ考へられるのである。厦

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

門の道路も吉野の櫻も、色に於ては比しく天の與ふる光線の綾でその美しさには優劣が無い。又た實際に恁う考へなければ畫は描けない。形は理性に依つて悟られるが色は幻であるから只だ感興によつて味ふのみである。物の形には綺麗も穢ないも無い、また物の色は總べて光の戯れで現はれるものとすれば何處にも興は溢れる。それが卽ち繪になるのである。厦門の街は洵に色の美しい街である。

汕頭の街には色は無いが、併し色が無ければ無いだけに物に落付きが見へて滋味が添ふ。そしてやはり畫には描ける。殊に汕頭は、物の色に落付きが見へる程度に反比例して人の心には落付が見へ無い。忙しいと云ふよりも騒がしい街である。この騒がしさが落付いた色に一種の活氣を添へて平地に波瀾を見せる慨がある。此處は景色こそ山紫に水明らかとは少し申しにくゐが人の心こそ千紫萬紅に彩られて居ることが解かる。人間が氣が早い。たゞに人間ばかりでなく汕頭の空までもさうである。雲の間から少し日光は漏れて居るが什うもハッキリしない天氣だなと考へるまでもなく既うポツリ／＼と落ちて來る。愈々降りさうだから引返へさうかと思ふうちに既う自身の影は薄日の地上に現はれる。滯在中遂う／＼傘を擴げずに濟んだ。

人の氣の荒さんだ土地では人を相手にしては不愉快であるが自然を相手にすることは少しも障りが無い。そしてそれが軈がて人をも障はりが無く相手にされるやうになる。汕頭で寫生して居る間に、最初は私を怪しんで視た行人も、やがては朋友になつた氣持で前に立つ人を一々除けて來れる。渡る世界に鬼は無し。恁う考へながら目を轉ずれば環境は一變して汕頭もやはり山紫水明に見へるのも訝かしい。

潮汕鐵道

潮汕鐵道は元と三五公司阿久澤氏に依つて建設されたが今は潮汕鐵路公司の經營であると談された。そんなことは什うでも可いが私は今この汽車に乘つて潮州へ一時間半を運ばれ、韓山の麓の韓文公の祠

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を訪はんとするのである。一日たゞ三回のみの發車であるから、この午前七時半の一番汽車にも乘客は非常に多い。併しその七時半が來ても泰然として動きさうにもしない。果して何時に出るかは誰も識る者は無からう。時計を見る勇氣も無く待つて居るうちに八時を大分過ぎたかと思ふ頃、不斗氣が付いたやうに動き出した。動き出してからは途中の四五箇處の停車場にも餘り道草を喰はず一意潮州に向かつた。それもその筈で、途中で行き合ふ汽車もないから待ち合はせる要もない、只だ進みさへすれば可いのである。

潮州へ降りて車を先づ海嚴寺へ急がせた。眞言宗の古刹で古色蒼然愛すべきものがあつた。これも亦た厦門の街の格で私は實物に飛び込ます、只だその形とその色とのみを見たのである。それで私は、日本人が伊太利あたりの古い寺を訪ねて、十字架の上の耶蘇の像の前に立つた時の感じと、支那へ來て本尊の金佛の前へ立つた時の感じと、どちらが剃りが合ふかと言へばそれは無論支那の寺の方であると考へるが、これは一に習慣からであらう。支那の眞言宗の寺の山門を跨いだ時も、日本で眞言宗の寺の門を跨いだ時も氣持は同じである。私は今潮州に來て居るが此寺の前で車を降りると共に支那に居ることは忘れた。度々來たことのあるやうなお寺だなと懷しみを持ち乍ら本堂へ歩を進めた。內は今朝の勤行の最中で、そのお經の聲も鐘の音も、聽くとも無しに工合よく私の耳に納まる。今何處に居るのだか自分にも解からなくなるまでにその場所と私とが融合する。難有いと云へば難有いに違い無いが、その實自分が恁う云ふ環境には馴れて居るためである。羅馬の聖彼得寺の本堂では什うも羅馬が私に忘れられない。巴里のノートルダームではやはり巴里の氣分である。併しこの潮州の海嚴寺では支那の氣分では無い、と云つて日本の氣分でも無い。唯だ自分の氣分である。これがすべての信心の第一歩では無からうかと思つた。

再び車を驅つて今取壞はし中の北門まで乘りつけ

た。此外は改正前の狭い道で車は愚ろか、一人立の歩行さへ一と通のことでは無い。門を出て數歩。有名な湘子橋を渡る。韓江に架けた古い石橋、と云ふよりも大石を積み上げて十幾箇の橋脚を造つてある。橋脚の上には人家が在る。橋脚と橋脚との間には太い長い一枚石を二三本竝べて渡してある。中央は舟橋を渡るやうに拵しらへてある。兩岸の交通は凡べて此一條の石橋へ集まるからその混雜は名狀すべくも無いが、その雜蹈に引換へて川は流水緩るく歸帆悠々として太古の俤を見せて居る。

橋を渡つて一二丁、左へ坂路を登つた處、右手に石門を入れば正面の石段の上に目指す韓文公の祠が現はれる。近來修築成つて新らし過ぎる裝は背景の筆架山や周圍の荒廢した自然に對して折合はぬ感はあるが、それも此處四五年の辛棒でやがて古色も付かう。堂宇は思つたよりも小さく、色も澁く、所謂廟の姿は無くて全く祠である。それにしても基隆の顔氏の庭園内に建つ氏の家廟ほどにも見榮へせぬのは案外と言ふの外は無い。尤も正直な處は、韓文公と言つても今は日本に知られ敬せられて居る程に支那では知られず敬せられぬわけでは無からうか。豫言者は古郷に於て尊まれず。本文通りであるかも知れぬ。

社前よりする所謂韓山の展望は方さに一幅の名畫である。漂茫たる韓江を隔てゝ、對岸に峙へる金山書院の小丘は折からの曇日に淡く烟り、それに續く一帶の潮州城の彼方に消々と横はる湖山の影は薄寒む乍がら春らしい霞の裝ひを見せる。倦かぬ眺めを割愛して再び歩を進め、今眺めた金山と湖山との頂上を一々極はめて客觀と共に主觀の滿足を充分にし、歸路は午後四時四十五分の終列車をあてに停車場へ來たが、その刻限になつてもまだ烟さへ見へぬ。人を馬鹿にした汽車だと怒る人もあらうが、併しそれは支那に於てのみ味ふことの出來る得難い氣分をまだ直感することの出來ぬ人と私は敢て言ふ。方々を旅行すればその處々でいろ／＼の感想も受けられるが、私は思ふに、日本で旅をして嫌やなことは、おれはお前よりも威らいぞと言つたやうな顔をして

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

コッチヲ見下だすやうな人に温泉場などで殊に多く出逢ふことである。西洋では人々がナチユラルであるから恁んな不快は無いが、その代はり朝起きるから夜寢るまでに時と云ふものが付き纏つて自分のからだが自分の自由にならず、甚だ窮屈極はまることである。愈々外國を距れる時、一と足を船へかけて甫めて緩つたりとした氣分を味ふことの出來るのは同感の人も多いと思ふが、支那ではこの時と云ふものが少しも人生の邪魔をして居ない。從つて日も永く夜も永く、氣も安らかである。これは支那の旅をして適切に感じる處であるが、今この潮州の鐵道も亦たこの氣分を少しも裏切つて居ないのが寧ろ愉快である。時と云ふものに責められる人は須らく支那へ旅行をすれば壽命も延びやう。やがて四時四十五分が五時半頃になつてはじめて潮州を後にした。

潮州では廣東省立師範學校を訪ねた時、私は學校の依賴で生徒に美術の講演を試みた。講堂に集まつた全校の生徒約四百、その中には十餘人の女生徒も見かけた。支那の恁んな田舍に男女共學は思ひ切つた新らしい行き方と感心する次第であるが、支那の事は自炊で焚いたゴ飯と同樣、煮へ過ぎた處となま煮の處とがあるのが面白い。それとは違ふであらうが、今排外運動の最中に政府の學校が外國人の私に講演を賴むなども可なり思ひ切つた遣り方ではあるが、學問には國境なし、それにこの學校は從來親日的で先頃内地からの中學校長連三十餘名が訪問した時にも歡迎して呉れたと云ふことを聞けば一層の懷しみを增す。それで私は同行の汕頭東瀛學校の敎師鄭氏の通譯で凡べてヾ一時間程談したが、皆靜粛に聽いていた。私は支那の美術の效果とそれが近代に於て西洋美術に及ぼした影響とに就て述べて藝術の生命に說き及ぼし、自然に絕へず接觸するので無ければ藝術には生命が無い。現代の藝術は技の巧拙よりも作家の態度の良否に依つてその價値が決まる。潮州一帶の美しい自然に感じる青年は心も自から高くならう、そして只だ巧まいと云ふのでなく、本當に良い藝術を生む素質が此學校の薰陶に依つて養はれるであらうと云ふやうなことを談した。

Digitized by Google	Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新高山を中心として（二）

青木繁

二、嘉義より阿里山へ

七月二十五日の朝五時半頃だ。夜來の大雨がけろりと晴天になつてゐた。今村氏に見送られて阿里山行の汽車にのる。客は相當あつて、平地と同じ服裝で乘つてゐる。夏休みなので男女學生もゐる。云ふまでもなく阿里山は高度七千五百尺の高地だ。嘉義から鐵路四十哩餘りである。

臺灣に來て林業に關係すること十年にもなるのに、恥しい話であるが、機會を與えられなかつたので、私にとつては阿里山は初めてゝある。それだけ今日漸くその林業見學の多年の望が達せらるゝのを思ふと、何とも云ひ現はし得ぬ愉快を感ずる。殊に阿里山に行けば會ひたいと思つてゐる營林所阿里山派出所主任をして居らるゝ荒氏にも會へるので、その愉快は更に一層の親みを含むものである。勿論それだけでもない。憧れの新高、見ざす新高、この旅行での最終の最大の目的地である新高山にそれだけ近づくのだ。そうも思ふと私のよろこびに滿たされてゐる胸の震動の高まるのを私は感ずる。

嘉義（北門停車場）を發して約十哩の地點竹崎から奧地は所謂蕃地なので、警察官が列車内にやつて來て一々入蕃許可證を檢閲する。序だから記するが云ふまでもなく阿里山は蕃地に屬するので、入山しやうと思ふ者は前日の內に入蕃許可を受けなくてはならぬ。勿論阿里山に限つた事ではなくて、全島の蕃地に入るには一々官の許可を要する規定である。

竹崎驛は高度四百尺餘で、驛附近には、「びるまね」・「いんどごむのき」・「ぎんねむ」・夾竹桃・龍眼・緬樫・相思樹・木瓜・芭蕉などの熱帶樹木が見られた。生垣はれんぎやうだつた樣に記憶する。「火之用心」に關する營林所の大きな制札が人目をひく。此所からは汽關車が列車の後に附くので、阿里山までの徐行も煤煙に苦しむことがないのは、旅行者にとつての何よりの福音である。次第に勾配が――ぐん／＼急になる。

次の驛の木屐寮は高度千尺內外だが、附近は依然熱帶濶葉樹林で、竹や「ちーく」を多く見る。沿線に植栽されてある「だるべるぎ」や「しつそ」の生長は良好だ。八時半頃である。いよ／＼有名な獨立山にかかつて螺線狀に汽車が登るのである。今通つた鐵路がすぐ目の下に見えたり、すぐ前に停車した樟腦寮驛が脚下に現はれたりして、景色はなか／＼變化に富み、展望宏濶で、嘉義平野は雙眸の內だ。やがて梨園寮――嘉義から二十哩の地點、高度三千尺だ――の附近からは最急勾配二十分の一、最小半徑二鎖と云ふのだ。

車窓の右方は、やはり山芭蕉や「へご」を混へた暖帶濶葉樹の密林帶であつて、所々に孟宗竹のよく生育してゐるのを見る。勿論天然生であらう。涯には秋海棠が幽艶の氣分を湛よはしてゐる。左方は遙に廣莫の草地帶が連り、所々に番人の開墾地を見るが勿論景色は雄大である。

交力坪附近にも竹が多い。孟宗竹と桂竹が主だつた樣に記憶する。沿線の崖の上の人家附近に櫻と思はれるのが數本よく生育してゐたが、花時は見事であらう。

水社寮を過ぐると奮起湖に著く。高度四千六百尺、嘉義から三十哩に近い地點、阿里山線中重要な驛となつてゐて旅館もあつた。櫻が多く植えられてあつた。此の附近からは急に霧がかけて來て、もう展望はきかなくなるし、大分涼しくなつて來た。此の附近は勿論昔は檜が有つた筈だが、今は跡地には廣葉

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

杉、檜などが植栽されてあつた。哆囉焉には樹苗圃が車窓に見られ、十字路附近の伐採跡地に植栽された廣葉杉は特に成績良好に見受けられたのが頼母しく思はれた。所々の山道を蕃人の群が歩いてゐた。もう此の附近は高度は五千尺以上である。平遮那あたりからは、塔山の岩石の絶壁の屹立しているのを車窓の左前方に見る。

　實を云ふと平地の旅に大分疲れてゐたので、此の邊からは夢現のように過ぎたので、書くべき記憶に確かさを缺いてゐる。只平遮那あたりからは雨がひどく降つて來て、その雨の烟る中に、直徑二尺、三尺と云ふ大樹の檜が林立してゐて、高く樹冠にぶら下つた「さるのをがせ」は仙人の頤鬚の樣で、地面には小笹が一面に密生してゐたり、溪流には石が多く、水が刄の樣に流れてゐたりしたのを夢の樣に記憶してゐる。勿論汽車の窓からすの雨にぬれてゐたのが、原生林の雄大さを一層雄大にし、幽邃の景觀を更に幽邃にし、絶對の靜寂に活動を與ゆる。

とにかく雨に烟ぶる檜の原生林の間を汽車が走るのと、何囘かのスイッチバックに鐵路の急勾配を想像したのは確なところだ。その筈である。二萬平沼ノ平間は最急勾配十六分の一、最小半徑二鎖と云ふのである。

　新高登山者の宿舍を兼ねた阿里山夏季學校の敷地は、此の二萬平と沼ノ平との中間の或地點に建てられる豫定だが、適切なる施設である。その學校建築豫定地の名としては、間の平よりも中ノ平の方が適當かもしれぬ。

　神木——阿里山中の最老大木とされてゐるのが檜（扁柏）ではなくて紅檜だ。周圍六十四尺、直徑二十一尺、枝下四十五尺、樹齡推定三千年、材積一千二百六十石と云ふ。由來阿里山は老大木の檜と紅檜とを主林木とするものであつて、直徑二・三尺を普通としてゐるが、六・七尺以上のものもある。

　明治神宮其他の大鳥居及長大材を必要とする建築は概ね此の森林の供給によることは既に周知のこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

である——の前で、眠りかけてゐた私はふいに呼び起こされて目を醒ますと、荒氏のお孃さんが私の側に立たれてゐる。促さるゝまゝに汽車を降りる。雨はひどく降る。その雨の坂道をお孃さんに案内されて荒氏の官舍に到る。たしか午後の三時過ぎであつた。倶樂部からも迎えの者が來たが、荒氏の言はれるまゝに同氏宅に厄介になることゝした。夕方ではあるし、雨は加はるし寒さは寒い。漸つと浴槽に暖つて、ドテラ姿で炭火のガン／＼起つてゐる火鉢に椅る。久數振りの挨拶をすませるともうお馳走が出る。阿里山の名物大根の身につく樣な味噌汁の風味は到底臺灣の平地では味はれ得ぬ。實は山海のお馳走が、テーブルに一杯併べられたのであるが、私は何よりも此の阿里山での味噌汁の味を忘れ得ぬであらう。同じ味噌汁でも平地では不味だが高地では此の味だ。高地は寒いからだ。內地での冬の味噌汁が何よりのお馳走であるのも此の理であらう。つまり低氣溫の時と場とが味噌汁をうまくするので、味噌汁そのものゝ味に變りのあるのではなからう。眞の林業は溫帶の針葉樹相手であるが、その地帶はつまり味噌汁のうまく吸ひ得る氣候帶だ。此の帶に主として活動してゐる林業家は、此の味噌汁をうまく吸ひ得らるゝの幸福を感謝せなければならぬ。

話は他所に外れたが、平地の臺灣の酷暑はどこへやら、火鉢を圍んで夜の更くるのも忘れて面白く談し合ふ。文字通りの眞裸體で寢た昨夜に比して阿里山の夜は厚布團二枚と夜著に包まれても寒い位なのにつく／＼と高度の變化に伴ふ氣候の變化を思はされる。

云ふまでもなく沼ノ平は、現時に於ける——勿論將來もだが——阿里森林事業の策源地で、營林所阿里山派出所がある。從て言葉は誇大に失するが、阿里山に於ける政治の宗敎の、敎育の、文化の中心點である。卽ち沼ノ平は阿里山村の別名——阿里山を代表する名である。數年以前迄は、此附近も勿論大原始林であつた筈であるが、今ではその阿里山神社、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

阿里山寺の境内林に相當する原生林が昔の面影を物語つてゐる外、附近は一帶草地の如き伐採跡地である。これ事業の歩捗上當然のことであるが、一面よくも、七千五百尺の高地にかくも立派な林業村が出來たものである。私は種々な思ひに頭がさえて、寐ても中々眠むれなかつた。

沼ノ平より匪籠へ

七月二十六日、晴天である。沼ノ平から五哩餘の地點に在る匪籠に、伐木・造材・運材の實際作業見學に行く。前にも記する通り、阿里山と云つても、今では此の匪籠までの沿線の原生林は凡て伐盡されてしまつて、匪籠からの奥地が實際の作業地である。で阿里山の實際の作業狀況を見學しやうと思へば是非こゝまで來なくては阿里山を見たとは云はれぬ次第である。序だから記するが、嘉義から沼ノ平までは、現時に於ては、普通の營業線になつてゐて、此所からの奥地が專ら運材專用線である。だから奥地に行くには之に便乘させて貰ふ外は歩行かなければならぬ。

朝八時頃、汽車が沼ノ平を發して間もない地點だ、乘合の誰かゞ「新高が見える」と唐突に云ふ。丁度進行すると反對の方向高くに。なるほど新高が見える。私はその時の新高の山姿を今でも判つきりと記憶してゐる。そして何もかも打ち忘れて、頭が新高のことで一杯になつてしまつた。やがて塔山停車場である。車上は隨分寒く冷たい。バロメーターの氣温は華氏五十三度。伐木跡地の造林や殘存の檜林などの模樣を車上から眺めながら、眠月驛を過ぎ沼ノ平から六哩内外の地點で汽車は停つた。

勿論汽車は途中トンネルを幾度も出たり入つたり、急カーブを通つたり、多くの橋梁を通過したり、ひやつとする樣な崖上を走つたりするので、車上からの、檜林を主役としての四圍の眺望景觀は雄大で、變化極まりない。山はどつしりして動かないが、檜林にかゝつた遠近の白雲のはげしい往來や形の變化活動に景觀は一段の美しさを增す。私は曾つて鄕里

の茅屋に投宿された鶴見總持寺の長谷川天頴禪師の物せられた「青山之不動白雲自去來」の掛物を憶ひ出して、現實の景觀と思ひ合せ、なるほどゝその眞意を考へさせられずにはゐられなかつた。

汽車を降りると樵夫の案内で足場の惡い道のない所や倒れた檜の大樹の上を歩いたりして伐木地に行く。勿論此の附近は一帶の檜の密林である。町(甲)當り千數百石もあるのであらう。今私はその原生林の一地點、既に伐り倒された檜の大株の切口の上に立つてゐる。見上ぐる二抱三抱の檜の大樹が千年の土の上にどつしりと立つてゐる。原生林らしい木の香、土の香が漂ふてゐる。その大樹の根元には名も知れぬ灌木や草や苔の類が所を得顔に生育してゐる。大樹はこの原生林の上層を占め、此等灌木苔類は下層の空間と土地を占めてゐる。大樹は思ひのまゝに太陽の光と熱と空氣とを領するによりて益々その生長を續け得、灌木や苔類は檜の樹陰に地を占めて始めて生育と繁殖とが期待されてゐるのだ。やはり森林も、上中下各階級の樹草社會から成り立つ。吾等人類社會から見ては只此の森林中の大樹の上層階級群である檜のみが利用され、價値を認められ、有難く思はれるのである。けれ共名もなき下層階級群である灌木苔類の存在が此の檜の生育上如何に貢献したかをも吟味しなければならぬ。即ち此等は檜の樹陰に於て年々生長し時が來れば枯死して天然の肥料となり、生育してゐるものは降水を保貯する作用によつて林地に濕氣を保持せしめ、かくて檜の生長、繁殖に役立つてゐるのだ。こゝに吾等は檜の存在と共に此等無名の灌木苔類の存立上の價値を充分に認め之等にも感謝を拂はなければならない。檜が一將なら此等は萬卒である。兩者相倚り相扶けて始めて完きを得る。實に森林に於ける所謂主林木の利用上の價値を、無暗に有難がる吾等は、同時に無名の地位もなき灌木苔類の貴き犧牲に感謝し、彼等の存立を認めなければならぬ。名ある人、地位高き人と雖も無暗に有難がつてはいけない。同時に名もなく、地位

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もなき人をば馬鹿にしてかゝつては猶ほいけない。各々特有の使命を存し、相集まりて所謂社會を成す。

話が少し他所に外れたが、今私は大樹の檜の伐り株の上に立つて種々な思ひにふけつてゐる。と、突然、樵夫の檜の倒れる方向を知らせる叫び聲が全林に木靈して後、沈默がしばらくつゞいた。私はその木靈を、倒される檜の最期の悲鳴と思へる。その木靈を、私は檜の精の最期の叫びと思へる。今檜がその生命を絶たれ大地に倒れんとするのだ。と、やがて天を磨する様な一本の檜の梢が、バリ〳〵と音を始める。續いてボキーン、ドシーンと急速度を以て、大音響と共にわけもなく大地に倒れる。同じ様な大木三本が、同じ様に大地に倒れる凄まじい音を聞き、光景を見て、私はその時の心持ちを云ひ現はすべき言葉を知らない。私はその時、倒れた木からは數十間も距つて立つてゐたのであるがその倒れた時の大地の震と音響とは、今も私の肉體に感じが殘つて居り、耳にも殘つてゐる。バリ〳〵、ボキ〳〵、ドシーンのその時の大樹の生命の最期の音響を何と私は悲しく聞いた事であらう。哀れさを感じたことであらう。今思ふてもその時の狀況が目の前にちらついて同じ程度の悲しさ、哀れさを感ずる。話は飛ぶ。

私は數年前までは、よく銃獵をやつたものだが、で、獵物が樹の枝に止つてゐるのを見つけると、引きつけらるゝ様に近づいて、擊つまではよいが、落ちてゐる獲物を見ては、何とも云ひ得ぬ哀れさと淋しさとを感ずる。私はその檜の大樹の倒れ行くすさまじい光景と、大地に横えてゐる姿を見ると、恰も銃聲と共に、小鳥の落ちる有様と地面に血を吐いて死んでゐる姿を見る時の哀れさ淋しさと同じ感情に打たれる。いやそんな感情とも異ふ。あの老大木が、バリ〳〵、ボキ〳〵、ドシーンと大音響をして倒れる時の形容としては、私の知つてゐる言葉の中では、壯絕、悲絕と云ふのが相應しい様にも思はれる。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ところで此の様にして倒された檜の大材は、阿里山の誇りとされてゐる大仕掛けの集材裝置によつて集材される。勿論集材されるまでには、樹梢は伐り棄てられ、玉切り、胴割りされる。みな樵夫の仕事である。

沿線の或地點である。線路の直ぐ側に竪型の蒸汽機關が大音と煙りをあげてゐる。其の又側には、直徑三、四尺、高さ十間位もあらうか、檜の天然木をポストに利用して、此のポストには數個の大きな滑車とロープとがぶら下つてゐる。そのロープは遙か下方にひかれてある。機關手の操作一つで、下線の運材車によつて集積された大材が、此の集材裝置、ロープに縛されて、わけもなく上線の運材車上に移置せらるゝ。直徑三、四尺、長さ三、四間もある大材が、空中にぶらさがつた光景、又易々として思ひのまゝにその大材の動くのを見ると、實際、科學力の偉大さを怖ろしく思ふ。かくて所定の量が、幾臺かの運材車に積み込まれると、一兩日の內に嘉義の製材工場に運ばれるのだ。殆ど每日こんな風な作業が過去數年間に阿里山の原生林を片の端から伐り盡しつゝあるのである。

此の伐られた一本の檜の大樹は、概ね數百年間の過去の天然力の作品であるが、樵夫の鋸と斧とに先づわけもなく生命を絶たれて、更にわけもなく都市に運ばれ、製材され、人類に役立つのだ。

ところで此の伐つた代りに植え付けらるゝものは僅に一尺內外の苗である。勿論天然下種によるものもある筈。此の苗が成長して再び伐らるゝまでは少くとも數十年、數百年を經なくてはならぬが、それにしても人類が伐つた代償としては只僅かに此の苗木の植栽と若干の手入の外は何物もなさない。やつぱり殆ど全部天然力の作用によつて伐らるゝまで太るのだ。吾等は大に伐る代りに、次代の、數代後の、吾等の子孫の爲めに、最高度の愛と熱とを以て植林をして置かなければならない。亡國的、その日暮の國家ならば兎に角として、生命永遠なるべき日本の、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

吾等の子孫の爲めに、伐る代りに植えて置くことを忘れてはいけない。

　伐採は破壞であり、植林は建設である。前者が極めて容易の仕事であり、後者が至難の事業であるのは誰も充分に承知をしてゐる。伐採、運材の科學に比すると造林技術は殆ど昔と異らないのが林業界の事實だ。吾等は植林事業の至難なるを悲觀せずに、又失敗したからとて嘲笑さるゝのを意に介せずに、造林の科學を研究し、進歩せる技術を以て、後繼造林の大事業を完成せねばならない。

　此の夜は匪籠に泊る。高度七千尺の地。倶樂部式の合宿所の一室には火鉢に炭火が盛に熾きてゐた。夕方霧雨も降つて來て、寒さはかなりひどい、正に內地の冬である。而も七千尺下界の平地では、半裸體の生活、氷なくては暮されぬ暑熱ではないか。窓の外の崖に、石竹が美しく咲いてゐた。家の前の崖を利用して便所が出來てゐるが、便壺の代りに、清い水が筧に流れてゐた。深山の魚類には珍味であらう。夜は爐端に林業上の話や、狩獵や、生蕃の話など盡きない。ランプの下に碁も始まつてゐた。山の人々の話は親みそのものである。氣分もゆつたりしてゐる。家の外に出ると、小さい溪流の音が盡きない。快晴の夜空に星が輝いてゐた。而かも澎湖島の燈臺の、時々、遙に、明滅するのが見える。

　この附近一帶は最近伐木の開始によつて開かれたところ、今はこの附近での根據地である。十數軒のバラックがおちこちに建てられてゐる。平地ではとても見られぬ誠に粗末な家だが、あまり病氣はないと云ふことだ。どの家にも大抵は赤ん坊の着物が干竿にかゝつてゐたが、子供がよく出來、よく育つだらう。

　匪籠と云ふ名は、昔討伐にせめたてられた土匪が、此所に籠つたに由來してゐるそうだ。附近の名所として千人洞があるが、行けなかつた。尙附近には立派な推茸が野生する。香りは隨分高い。又路も立派なものが天生してゐるし、野菜の栽培もよくゆく樣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

だ。で、將來栽培力を加へると確に立派な阿里山名物となるだらう。

翌二十七日も晴天で好都合。爪先き上り、俱樂部からの樵夫道を、彼れ是れ三十分ほどかゝつて、高度約七千六百尺の鐵路に出る。眠月まで徒歩して。途中には隧道や橋梁があつて面白い線路道だ。眠月驛に近い道端に見上ぐる達磨形の大岩が、雲突く樣に直立してゐる。つばめらしい小鳥が、丁度達磨の兩眼に相當する小穴を出入してゐた。その岩の根元に

五濁不淨の塵の世捨てゝ
　雲に顏出す達磨岩

と書いた突面坊氏の俚謠の立札が古びて立つてゐた。ところは千古の原始林、高度七千尺、樹海、雲海の大自然を脚下に、嚴然として立つてゐる此の達磨岩の姿こそ、福岡東公園の松原に、遙に玄海灘を臨んで立つ巨人日蓮が、大聲國難來を警告し、題目を唱へ、立正安國を高唱する姿の樣に、方今世を擧げて人心荒頽、思想惡化、義も情も薄らぎたる日本人を、敢えて睥睨し、罵倒し、諷刺し、毅然として古の日本人に歸らしめんと、叱呼として叫んでゐる、熱烈火の如き姿である。愛國者の風格である。

眠月驛は高度七千六百尺。沼ノ平から約五哩の地點、眺望宏濶、雄偉、月明の夜の靜寂と風光とを想像せずには居られぬ。あの樹海、雲海の形、色、活動。眠月の名は如何にも此の附近の自然に相應しい名に相違ない。若しそれ雪の夜にもせよ、夏秋の空澄める夜にもせよ、その大自然の美しさに、恍として月も眠るであらう。或は又、靜寂そのものゝ美の大森林が、まして澄みきつた大空に、和かい月の光を浴びてゐる美しさに至つては、空行く雲も步みをとゞめるであらう、況や山に働く人々は、恍として、ながめながらに眠るのも知らないだらう。何れにしても眠月の名はやさしく、特に此の附近の名として相應しい。

此の驛からは、丁度運材車に便乘の便があつたの

で、運材車に積まれた幅六尺內外の胴割の大材の上に、他の十數人と共に乘せて貰つて、元來た鐵路を、途中の原始的景觀や伐木跡の狀況やらを眺めながら、彼の有名な一葉蘭の石崖にぶら下つてゐるのをも所々に見て、沼ノ平に歸著したのは正午前であつた。

午後は沼ノ平の見物と出掛ける。先づ阿里山神社に參拜する。千古の老大樹の檜のみから成る原始林を境內林として嚴然と鎭座まします。その森嚴さは勿論その境內林によるところが多い。此の原始林が、伐採から保存せられてゐることは、將來學術研究上利するところ大なるべきだが、それよりかも、山上の都、沼ノ平に、千古の記念物としての價値に在る。此の上は、之が絕對の保護を加へて、千古の原始林として、後世に、完全に遺したいものである。お隣の阿里山寺も、新しい立派な建物である。鐘樓の附近に色とりどりのコスモスが咲いてゐたのは、さびしい景觀であつた。住職は留守と見えて、庫裡の戶は閉されてゐた。兎に角、此の高度七千五百尺の山上の都にも、かゝる設備をも必要とするのかと思ふと、沼ノ平の阿里山に於ける策源地としての地位や、こゝを中心として活動してゐる人の群の相當大きいのを想像するに充分だらう。小學校は校庭も相當廣く、丁度社神の正面に當つて設けられ、而も吉野櫻が、校庭から沼ノ平一面にかけて植つてゐるので、なんとなく內地氣分のするのは嬉しい、花時の天然美の極致を想像するに餘りあるが、數十年、數百年後のことを思ふて、著々こんな施設を怠つて居らぬ督府營林所の施設に敬意と感謝を致さねばならない。花の吉野山、嵐山に於けるよりも、それが高度七千五百尺の千古の針葉樹林を背景としてゐるだげ、その春風駘蕩たる風情は一入であらう。從つて花の名所としての阿里山の名の著しくなるのも、あまり遠い未來のことではない。

そのほか、慰安的、敎養的等の諸施設に就ても一々書かねばならぬが、あまり長きに失するので略す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。まして、阿里山の林業上の考察に就ては、本紙大正十五年十一月號に、その一端を記して置いたので、重複をさける。

尚阿里山に關聯して特に記したいのは、例の、身を殺して以て、所謂阿里山番人馘首の惡習を矯正した彼の吳鳳の物語りであるが、彼が仁人としての、義人としての崇高偉大なる人格は阿里山の名と共に永劫に傳はることであらう。ことの次第については、臺灣公學校國語讀本(卷八)にも出てゐる位で、誰知らぬ者もなからう。只吾等は彼の崇高なる犧牲の大精神を、個人主義的時代思潮の現時に於て、特に修養上の資に供しなければならない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

番茶と梅干

案山子閑人

硝子戸越しに朝の庭をボンヤリ眺めながら、梅干を茶うけに一杯の熱ひ番茶の香りに親みつゝ、考へるともなく考へる。

○

此の近年頽の生へ上りが急速な勢で其の面積を擴張して行くことは何となく淋しく考へさせられる、番茶と梅干の如きも甚だ爺臭ひ情景であるが蓋し已むを得ない、昭和も二年となつて馬齢正に四十を算ふ、人生四十にして惑はずと稱せられて居るが顧みて甚だ心細ひ、年を食ふに伴つて益々惑ふことが多いやうだ。

○

白ひ霧が音もなく流れ散つてほの／＼と明け行く朝靜かに港に這入つて來る汚れた汽船の中には血に飢へた猛獸の心にも似たやうな荒さみ切つた水夫や火夫が乘つて居る、彼等は夫れ／＼の役目を果すと上陸地を慕つて動かぬ疊の上に長々と足をふみ延ばし熱爛の一杯にほつとする、其の心情には同情せざるを得ぬ。

○

高雄が彼等の手に依つて動く汽船の出入に依つて主として其の繁榮が保たれて居る港灣都市であるとせば、彼等海上勞務者の爲に相當の設備を爲し清新なる娛樂、慰安の方法を講ずることが、必要ではあるまいか、吾人は此等の施設の有無適否を審かにしないが、切に市民竝市當局の考慮を望むで止まぬ。

○

極南の地高雄は南部唯一の良港を控へて居り海に陸に無限の寶庫をにぎつて居るのみならず熱と光に惠まれて居る點に於ては帝國領土の中其の右に出づるものがない筈である、細かひ數字は煩はしいが、大づかみに見て活氣がある、高雄は全島一に物價が昂ひことは市民生活上苦痛でなければならぬが、常に活氣を失はないことも亦全島一であらう、物價の高ひ所に即ち活氣がある、老人や失業者や社會の落伍者は生きて行けない所である、正眞正味活動の出來る者のみが生きて行ける天地である、從て活氣のあるのは當然である、之は結構なことだと謂へないことはない。

○

大正九年の制度改正は實に本島統治史上未曾有の大改革で田總督在任中に於ける一大仕事でなければならぬ、而して住民の實生活上に投げた影響又は其の效果と謂ふが如き問題は今直ちに斯く〳〵と斷ずることは早計であるが要するに進むべき途に進みつつあると言ふことは出來る、何人も今日の現狀に滿足せず尙改革すべき多くを有することを認むる上に異存はなからう。

○

本島地方團體の將來の頭痛の種は恐らく敎育費の負擔であらうと思ふ、本島人兒童の就學步合僅かに三十%に過ぎざる今日市街庄の敎育費は大體に於て旣に總豫算の四割を占めて居るのであるから今後兒童實數の增加と就學步合の向上に伴ふ敎育費膨脹の財源を何に求むるかは今に於て大に考慮しなければならぬ問題である。

○

市街庄立の學校經營の實際を見るに隨分切りつめた所もあるが大體に於て校舍其の他設備の贅澤に過ぐるものあるは事實である、理想としては一街庄一校主義の如き寔に結構であるが地方の實狀よりして必ずしもそうも行かぬ、或る地方の校長會議では公學校の學年を四學年程度にすべしと言ふ意見もあつたやうだが大に參考にすべき事柄だらうと思ふ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○

教育費の次に大きなものは役所費又は役場費の如き人件費である、凡そ人件費が多くて實際の事業費の少ないことは決して好ましい事ではない、而しそれは制度の仕組上にも罪があつて色々と上の方から調査調査と矢鱈に仕事を押し付けられ團體本然の仕事の上に手が延びない、餘り實際の役にも立たないやうな報告や調査をやめれば下級團體は大に助かるのみならず、人手が少くて現在以上の仕事がやつて行けるだらうと思ふ。

○

方今の世相は決してのんびりとした氣持で、番茶と梅干で濟して居ることを許さない、呑氣な植民地氣分で其の日を糊塗して居る時機でない、十年二十年或は五十年のさき後を洞察してそれ〴〵の計畫を樹て、一定不變の方針で進まなければならない、內地流行の社會事業なぞに心を奪はれて居る時期ではない、本島の實際に卽して產業に教育に交通に土木に大に力を傾倒し地方の實力を培養することに努めなければならぬ、地方の民度、地方の實狀を離れた理想論形式論の如きは此の際何程の價値もないものと思ふ。

○

世は擧げて諒闇の悲愁に閉ざされて居る際、浮華輕佻は素より斥けねばならぬが、徒らに萎微退嬰を是れ事とするが如きは採るべきでない、況んや殊更に謹愼を裝ひ賢しとするに至つては寧ろ厭な氣がする、吾人は常に正確なる判斷を愆まらざることに心掛くれば以て間違ひを少く爲し得るであらう。

○

爽やかな夏の高雄は晴れ〴〵として人の心を引くが昨今の陰慘な砂塵を伴つた季節風の吹き付ける天候には心も碎かれるやうである、折角の日曜も終日硝子戸の中から垣根の夾竹桃が風に虐げられるを氣づかつてをるばかりである、南國の生命はやくが如き盛夏に在る、熱と光の最も旺盛な眞夏に眞の活動がある、此の意義ある更生の時期を劃して更にさらに一段の努力精進を爲したいとをもふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

佛領印度支那法制調査（十）

臺灣總督府囑託　板倉貞男

(一) 地方統治機關（續き）

三、交趾支那土人地方行政機關

交趾支那は純然たる佛國の植民地で土人地方行政機關は他の保護國に於けるとその態樣を異にするが故に特に項を別にして説明する。

一、府縣行政　交趾支那府縣行政機關としての土人官吏に督府使・知府・知縣がある。是等の官吏はいづれも各行政部局の長官ではあるが事實上に於て佛人地方行政長と郡村官憲との仲介機關で更に適切に言へば佛人

地方行政長の權限の一部を代理する補佐官であつてその權限を略記すれば次ぎの如くである。

郡村官憲と協力して管内の保安に任じ非常事變その他の怠慢事項を地方行政長に指摘報告す。

受命事件に對し檢事局の直接補佐官たる職務を執る、犯罪事件に際しては犯行地の村役員と協力して直ちに逮捕に著手す。

稅關稅務吏員の職務執行を扶助す。

村役員會議の任務遂行を監理し且つ改選の場合に於ける議員の身分及任命の條件形式を審査す。

郡長助役及村役員の職務懈怠を地方行政長に摘發す。

徵稅事務及國庫納入監督、町村金庫及會計簿檢査。町村豫算の監督及檢査。

町村造營物・寺院・郡村學校・町村道路及橋梁の維持監督及必要と認むる新營工事に就き地方行政長への具申。

町村名簿の査閱及戶籍簿の監督竝に戶籍吏の不正行爲に對する檢事局への摘發。

賦役工事（運河浚渫開鑿及道路修築）の監督及郡村官憲より申請する新營工事に對する地方行政長への具申。

住民間の當用事件にして佛人官吏又は地方行政長の干涉を要せざる場合の調停事務及小係爭事件にして郡長の調停不可能なる場合の解決竝に宗教祭典又は家族的禮式の施行認可に關する件。

自ら解決の權限なき重大事件に對する上級官憲への具申。

上級官憲の委任又は代理權に依る行政査問及裁判所の命に依る司法取調事務。

村役員會の科したる罰金及刑罰の一覽表を毎月各村別に提出せしめ之れを査閱す。

二、郡村行政　交趾支那地方行政の郡長及助役は安南、東京に於ける Chanh-tong 及 Pho-tong と身分を異にし純然たる官吏で毎月一定の俸給を支給せらる。郡長及助長は一定の資格を有する住民の選擧したる候補者中より地方行政長の推薦に依り副總督之れを任命す。

町村行政は地主又は富豪中より選擧したる役員會之れを管掌す。役員會は鄉哥（議長）（Huong-ca）鄉主（副議長）（Huong-chu）鄉師（Huong-su）鄉長（Huong-truong）（以上他の議員の任務を監督し町村有財產の管理及豫算の實施に任ず）鄉正（Huong-chanh）（鄉正は實務役員の補佐及監督に任じ住民間の小係爭事件を調停す）鄉敎（Huong-giao）（鄉敎は敎育關係事項小役員會の指揮に任ず）鄉管（Huong-quan）（鄉管は町村の行政及司法警察の長官とす）守簿（Thu-bo）（守簿は町村名簿及記錄・村動產及物品の保管に任ず）を以て編成し以上の外實務役員として鄉紳（Huong-than）社長（Xa-truong）又は村長（Thon-truong）及鄉豪（Huong-hao）を附屬せしむ。鄉紳以下は階級低きも特別の地位を占め公安の維持・保健・行政官廳・及村役員會議の決定事項の實施保證・書類證明の實務を管掌す。鄉紳は他に比して地位最も高く社長又は村長は專ら租稅の徵收と町村及行政官廳間の交涉事務に當り鄉豪は主として道路關係事項を擔當し町村の受付事務に任ず。

以上の外大役員會の議員にあらざるも戶籍簿保管に任ずる正錄簿（Chanh-luc-bo）なる役員がある。

町村豫算は役員會に於て之れを決議し地方行政長の認可を得るを要す。豫算の仕拂命令は村役員會の議長及副議長之れに任じ豫算會計事務は前記三名の實務役員の管掌とす。

（二）　都市行政機關

現在印度支那に於て自治制を實施する都市は西貢・河內・海防・ショロン・プノン、ペン及トウランヌの六で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ある。以上六都市中プノンペン市を除くの外は總て佛國領土内に位置し西貢・河內・海防の三は一級都市として大統領令に依り、爾餘の三は二級都市として總督令に依り夫々特別市制を實施してゐる。以下順次一級及二級都市に於ける行政組織の一般を說明する。

一、一級都市(西貢・河內・海防)行政組織

A 市長及助役の身分

市長及助役(助役の定員は各市二名)は市會と同一任期(四箇年)を以て市會に於て之れを選擧す。市長及助役を選任したるときは直ちに州行政長官に報告し二十四時間以內に之れを公告すべし。但し河內及海防は例外とし選擧は助役のみに之れを適用し市長は州行政長官の推薦に依り總督令を以て行政官を補任する規定である(任期三箇年)官選市長は市豫算會計の職務俸と總督の定むる交際費とを支給せらる。選擧に依る市長及助役は俸給を支給せられざるも市會は市の財源より交際費として一定の手當支出を決議することが出來る。

州行政長官は命令を以て選擧に依る市長及助役に對し三箇月を超へざる期間停職を命ずることが出來る。免職する場合は總督令を以てし免職の日附より一年間再選の權利を喪失す。但市會が總改選を爲したるときはこの限りでない。市長及助役を停職又免職したる場合は直ちに植民大臣に報告する必要がある。

選擧に依る市長又は助役が何等かの理由に依り任務を中止し又はその選擧が取消されたる場合は十五日以內に市會を召集し後任者決定の手續を執る。

B 市長及助役の權限

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

印度支那各都市の市長は本國の市長と同一の權限を享有す。卽ち市長は管內に於て上級行政官廳を代表しその監督と權限下に於て行動する一面に於て市法人を代表し市會の監督と上級行政官廳の單純なる監理の下に行動す。

行政代表者として市長は法律及規則の公示及實施竝に公安維持に關する諸手續の施行に任ずる以外法律及規則の定むる特殊任務就中都市に於ける交通路保安の責に任ず。市法人の代表者としての市長は市有財產の保管及經理・市歲入の管理・市造營物及市會計の監理・豫算編成・支拂命令・市事業の監督・市道路行政・市財產の貸借及購買契約・市事業の請負入札(千ピアストル以上の入札に就ては州行政長官の認許を必要とし又大工事の特許に關しては總督の許可を必要とす)其他一般に市會の決議事項の實施に任ずる以外市豫算の主任支拂命令官たる職務を執る。

市長は又施法權の長として市の警察保安に任じ且つ本件に關し所屬長官の命令を施行す。

市長は市行政の唯一の受託者であるが法令の定むる所に依りその監督と責任の下に一名乃至數名の助役に戶籍・查證・證明及警察に關する事務を委任す(助役缺員又は事故ある場合は市會議員に委任す)從つて助役は市長の委任權に依り市の行政に關與する場合の外は單なる市長の補佐員たるに過ぎずとす。

○市會

一、組織　西貢及海防市會は佛人又は歸化佛人議員十二名と安南人議員四名を以て編成し、河內市會は佛人又は歸化佛人議員八名と安南人議員四名を以て編成す。

佛人市會議員の選擧は普通選擧法に依る。選擧人名簿登錄に要する資格は名簿締切期日に於て年齡滿二十一歲に達し法律上無能力者にあらずして左記條件の一に該當する場合に限らる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一、選擧人名簿締切期日現在に於て六箇月以上市内に居住したる者。

二、市の直税名簿に登錄せられ且つ選擧人名簿登錄の意志を表明したる者。

三、市内に居住する義務ある官吏。

安南人市會議員の選擧は左記の區分に依る。

一、西貢市會にあつては前掲佛人市會議員の場合に於ける條件に該當する安南人に依り普通選擧法を適用して選擧せらる。

二、河内及海防市會にあつては左記の三種の一に該當する年齢滿二十一歳以上の安南人により選擧せらる。

a 秀才・擧人・進士及佛國又は佛土學校免狀所有者にして一年以上市内に居住するか又は地租名簿に登錄せられたる者

b 佛國及安南行政廳所屬の官公吏

c 直接税十五ピアストル以上を納付する所有權者又は特許權者にして一年以上實際に市内に住居を有し且つ刑の宣告を受けたることなき者

市會議員の被選擧資格は佛人議員は市會議員選擧人たる年齢滿二十五歳以上、安南人議員は同二十七歳以上にして直接税二十五ピアストル以上を納付する者とす。

二、任務及權限　市會は毎年四回通常會議を開き州行政長官の許可を受けて會期を延長する場合を除き通常市會の會期を十五日とす(豫算審議市會は特に會期を三十日とす)。

市會の決議は州行政長官又は總督の認許を受くるにあらざれば實施することを得ず。

一、市會の決議にして實施上州行政長官の認許を必要とする事項左の如し。

a 五年以上の期限を以てする賃貸借條件

b 市有財産の讓渡及交換

c 不動産の取得・新營・修繕工事

d 調・停

e 道路・公園及遊覽地の設定變更廢止

f 無指定の寄附贈遺物件の受領

g 市豫算・市收入役の會計

h 追加經費及臨時支出

i 共進會及日用品市場の設定變更廢止

j 有給職員の新設

k 成規の制限以内の特別税の設定

l 市の名義を以てする訴訟參加

二、市會の決議にして實施上總督の認許を必要とする事項左の如し。

a 道路及公園の命名

b 租税・小作料及專賣税その他各種の賦課金の設定廢止又は變更

c 指定寄附遺贈物件の受領

d 成規の制限以外の特別税の設定

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

e 市債發行（市債發行は未償還額を通算し五十萬法を超過するを得ず。之れを超過する場合は大統領令に依る許可を要す）

市會は右に掲ぐる決議事項以外左記の事項につき上級官廳の諮問に對し意見を具申することを得。

a 市内大交通路の整理及測量

b 慈善事務局の設置・慈善寄附物件の受領・市豫算關係の慈善團體の豫算會計

c 海關通過税の定率及徵税規定

d その他法規に依り市會の意見を徵すべき事項

以上の外市會は總ての市關係事項につき希望を表明することを得れども政策問題及一般行政問題に關しては之れを禁止せらる。

二、二級都市（ショロン・トウランヌ・プノン、ペン）行政組織

A 市長及助役

二級都市の市長は副總督（交趾支那）又は理事官長の申請に依り總督の任命する行政部事務官で（ショロン市にありては知事の兼任とす）權限は大體に於て一級都市の市長に準ず。助役はショロン市以外の市に之れを置かず。ショロン市に於ては佛人・安南人・支那人の助役三名を置き市吏員中より市長の推薦に依り副總督之れを任命す。トウランヌ・プノン、ペンの二市に於て市長不在又は事故ある場合は市吏員中最年長（トウランヌ市）又は最故參者（プノン、ペン市）之れを代理す。

B 市會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一、組織　ショロン市會は佛人議員三名(西貢商業會議所の推薦に係る十名の候補者中より副總督任命す)安南人議員四名(選擧に依る)及支那人議員三名(支那人協會の推薦者名簿に依り副總督任命す)合計十名の議員を以て編成す。

安南人議員の選擧法は年齢二十一歳以上にして直接税二十五ピアストル以上を納付し且つ市の人頭税名簿登錄者たる土人及市居住者にして一定の學校卒業免狀を有し又は官公署に奉職して月額二十五ピアストル以上の俸給を受くる土人を選擧人とし年齢二十七歳以上にして直接税八十ピアストル以上を納付する選擧人名簿登錄の安南人を被選擧人とす。

トウランヌ市會は佛人議員五名(市居住者中より理事官長任命す)安南人議員二名(佛語を解すること及理事官長の承認を受くることを條件とし村役員會指命す)合計七名の議員を以て編成す。議員は孰れも官公吏以外の者たることを要す。

プノン、ペン市會は佛人議員五名及安南人議員一名(官吏にあらざる者より市長の推薦に依り理事官長任命す)柬埔寨議員三名(國王の勅裁を經大臣會議の推薦に係る六名の候補者中より理事官長任命す)及支那人議員一名(居留民團長の推薦に係る三名の候補者中より理事官長任命す)合計十名の議員を以て編成す。

二、任務及權限　トウランヌ市會は法令に規定する市關係事項を討議すその決議は理事官長の承認を受くるにあらざれば實施することを得ず。ショロン・プノン、ペン市會は權限稍大にして市豫算の通常又は臨時附加税定額(その制限額は毎年理事官長之れを定む)を自由に裁定す。尙又市會は市税の設定を決議し二箇月以内に州行政長官の取消命令を受けざるときは之れを實施することを得。その他の事項に對する市會の決議は州行政長官(裁判關係事項は總督の認許を要す)の承認を受くるを要す但し五十萬法以內の借欵又は州行政長官

の定むる制限額を超過する特別税設定に關する決議は前者の場合は總督府會議、後者の場合は同常置委員會の承認を受くるを要す。

行政官廳の第二級市會に對する諮問事項は第一級市會に準ず。第二級市會は市關係事項を限り希望を表明することを得。

附記　本稿は財政經濟運輸交通其他の調査と合せ「佛領印度支那國情」編纂資料の一部を成すもので他日單行本として刊行する機會に修補することゝし今回を以て一先づ完結とする。

臺灣動植物探究略史（一）

臺北師範學校　堀川安市

第一、植物

甲、領臺前

乙、領臺後

一、顯花及高等隱花植物

二、蘚苔類

三、藻類

四、菌類

寄生菌　釀造用菌

第二、動物

一、哺乳類

二、鳥　類
三、爬蟲兩棲類
四、魚　類
五、昆蟲類
六、甲殼類
七、貝　類
八、蠕形類

臺灣に於ける動植物の調査は地勢の急峻、惡疫の蔓延、生蕃の横行等種々困難なる事情ありし爲め他地方に比して遲れたり故に歐洲の學者は本島を指して「暗黒の地域(テルラインコグニタ)」と申したる位なり。然し近時幾多の篤學者の多大なる努力と、當局の援助とによりて漸次開拓せられつゝあり。餘は先輩諸氏の報文に接するに毎に敬虔の念の起るを禁ずる能はず、殊に事に當り又は此事に關係深かりし人々の中本島に於て物故せし川上瀧彌・小西成章・中井宗三・緒方太吉・新渡戸稻雄・相馬禎三郎・菊池米太郎・森丑之助・フォリー・志津基太郎・渡邊龜作の諸氏の靈に向つては謹んで此短文を捧げんと欲す。

生物研究の歷史を調査するの要あるも、こは困難の事にて各專門家を煩はさゞるべからず、故に余は專門家以外の人々の參考にもと本篇を算せり。されば研究報文の如き一部分のみを擧げ、且つ歐文のもの丶表題の如きも簡單に譯せり。

本調査をなして感じたること二つあり。

一、外國人の研究多く貴重の材料及報文も彼の國に多きを以て或種の研究には彼の地に渡らざるべからざ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ること。

二、植物の調査に比して動物の調査が著しく遲れたること。

本文中に現に本島に在住せらるる方々の業蹟其の他は詳細に記すことを差控へたり乞ふこれを諒せられんことを。

第一、植　物

甲、領臺前

本島が和蘭・西班牙・支那等の勢力範圍内にありし頃に此等の國人によりて有用植物の輸入行はれたるは著明の事實なるも、學術的の研究として擧ぐる程のことはなかりしものゝ如く、支那時代に於ける大著として名ある臺灣府誌の如きも科學的の價値は認むるを得ず。

吾人の知見によれば學術的の調査に最初に手を染めたるは英國人のホルチユン(R. Fortune)氏なり、氏はエヂンブルグ植物園に仕へ、後ロンドン王立園藝協會の温室係となり、四度支那に派遣せられ十八年間植物の採集に從事し、其第四回目に臺灣に來れり、そは千八百五十四年三月支那政府の備船に乘り福州を出帆し四月二十日淡水港に投錨するや、直ちに上陸して海岸地方を採集せり、彼の地方に產する石竹科のナガバビランヂの學名(Silene Fortunei)はホルチユン氏の功勞に報ゆるために附したるものなり。

ウキルフオド(Wilford)氏は千八百五十八年に來り各地の海岸を採集し、スキンホー(Swinhoe)氏は千八百六十一年に渡來し、オルドハム(Oldhame)氏は千八百六十四年に渡臺し淡水基隆地方にて七百餘種の植物を採集せり、彼の大屯山に多きキンモウツツジの學名に Rhodondendron Oldhomi とせるは氏の記念のために附

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せしものなり。

千八百六十五年にはグレゴリー(Gregory)、其翌年にはセテリヒ(A. Schatiliy)氏、同七十三年にはスチール(B. Steere)キャムベル(Campbell)氏等順次渡臺して採集せり。

ワッタース(I. Wattars)氏は千八百八十一年より三年間淡水・基隆地方を採り、羊齒類研究家として名ある香港のハンコック(W. Hancock)氏は淡水駐在中に採集したる植物中羊齒類百種に及べり、其他フォド(C. Ford)プレイフエーアー(G. Playfaia)等も渡來したり。

以上諸氏の採集したる植物は主として露國人にて東亞植物に造詣深きマキシモウイッチ(Maximuich)氏と、香港植物園のハンス氏等によりて研究せられたり。斯く多數の人々によりて採集研究せられたるも區々にして統一なかりしが、ヘンリー(Henly)氏は爾來の研究者の報文と自己の研究とを纒めて一新期を劃したり。

ヘンリー氏は英國エヂンブルグ大學出身にして千八百九十二年十一月高雄に來り四箇年間滯在し、從來の採集者に異り全島に亙りて廣く採集し千餘種を得、これを基礎とし先覺者の研究を參照し千八百九十六年(我明治二十九年)亞細亞學會々報に「臺灣植物目錄」(A. list of plants of Formosa)と題し、顯花植物千二百七十九種、隱花植物百四十九種合計千四百二十八種をあげ土名・効用等とも附記したるものなり。領臺後植物調査の初めには手引として頗る貴重なる參考書たりしなり。ヘンリー氏は歸國後も植物學を研究し現にアイルランドのダブリン大學の敎授なりと云ふ。

以上は大部分英國人なるが日本人にして臺灣植物を研究せしもの一人あり、そは明治七年牡丹社討伐軍に從軍せる栗田萬次郎氏なり、氏は車城附近にて採集し其目錄は明治二十一、二年頃の植物學雜誌(二十二・二十四・二十五號)等に載せたり。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

乙、領臺後

一、顯花植物及高等隱花植物

領臺當時東京帝國理科大學にて臺灣調査費を得て各方面の人々を派遣したるが植物採集調査係として牧野富太郎・大渡忠太郎・內山富次郎三氏が明治二十九年十月渡臺し、基隆・臺北・淡水・新竹・鳳山・高雄・澎湖島等三箇月に亙りて調査したるが、牧野富太郎氏は事故のため早く歸校したり。大渡氏は更に明治三十二年十二月渡臺し東勢・埔里等を調査したり、此等に關する事項は植物學雜誌百二十一號より百三十八號までに記載せらる。氏の發見せるものオホワタリボタンヅル・オホワタリヤドナキ等あり。

三宅驥一氏は明治三十六年渡臺して採集せらるゝ彼のミヤケマユミは氏の記念のため命名せるものなり。これ等の植物の分類學的研究は東京大學の松村任三・早田文藏兩氏によりて完成せられ千九百六年(明治三十九年)「臺灣植物誌」と題し大學より出版せられたり、同書は六四一頁の大册にて全部外國文にて記する日本人によりてなされたる臺灣植物誌の最初のものなり。

大學にては經費の關係上事業は中止されしが、時の兒玉總督・後藤長官は植物調査の必要を感せられし折、早田文藏氏の建議によりて組織的に調査することに決し、早田氏は東京にありて、川上瀧彌氏は臺灣にありて事業を開始する事とし、同年殖產局に有用植物調査係を置かれたり。

此調査事業に直接關係ありし人々は中原源治氏・森丑之助氏・佐々木舜一氏・藤井清太郎氏・伊藤武夫氏・島田彌市氏等、尙郊外にありて資料を呈したるは殖產局の小西成章氏、專賣局の中井榮三氏・稻村時衛氏・國語

學校の永澤是一及相馬禎三郎氏・田代安定氏・屏東小學校の松田英二氏・佛國人フォリー氏・東京帝大の草野俊助氏を初め可なりの多數に上る。

此等の諸氏は全島普く拔渉して資料を集めたるが、中にも森丑之助氏は蕃界深く探り、佐々木舜一氏は二十年間此事に當り平地蕃地は勿論、高山にては新高山に三回、阿里山に八回、南海の孤島たる紅頭嶼には七回、採集旅行となしたりと云へば他は推して知るべく。相馬禎三郎・松田英二兩氏は校務の餘暇には常に採集に勉め得る所多く學界への功績大なり。島田氏の效も甚大なり。

早田文藏氏は新潟縣長岡の人にして理科大學植物科に籍を置くや臺灣植物の調査に手を染め、明治三十三年初めて臺灣に渡り實地に踏査してより數回渡臺し巡視し得たる材料と、以上の諸氏の採品とにつきて研究し、明治四十一年には多くの植物を携へて歐洲に行きて比較研究する等大に檢を重ね其結果は左の報文の外に時々内外の專門雜誌にて發表せり。

發行年月	報文名	頁數
一九〇八	臺灣高山植物誌(外國文)	二四四
一九一一	臺灣植物志料(同)	四四八
一九一一	臺灣植物圖譜第一(同)	二四八
一九一二	同　第二(同)	一四九
一九一三	同　第三(同)	二一三
一九一四	同　第四(同)	三四九
一九一五	同　第五(同)	二五七
一九一六	同　第六(同)	一六二
一九一七	同　第七(同)	一〇二
一九一八	同　第八(同)	一五六

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一九一九	同	第九（同）	一四九	
一九二〇	同	第十（同）	三二五	圖版　二五〇
計			二六九八	挿繪　七八〇

右は純分類學的の報告書なれば記載はラテン文を主とし英獨語等を交へたり、出版部數少く一般の人々は手にするを得ざるは遺憾なるも、歐洲の學者より暗黒の地域と稱せられたる臺灣の植物を研究し以上の報文にて發表されしもの總計百七十科に屬する三千六百五十八種と七十九變種にて其内千餘種の新種を含む、此等の報文は臺灣が世界に誇るに足るものなり。斯かれば日本政府にても其功を認め大正九年五月三十日には名譽ある桂賞を授與せられたり。

此有用植物調査の事業は大正十年十月官制改正の結果中央研究所林業部に移され佐々木舜一氏主となり、早田文藏氏は大正十年臺灣植物圖譜第十卷の完成と共に退き、山本由松氏囑託となり研究の結果は續臺灣植物圖譜と題して發表せられつゝあり。

故川上瀧彌氏は札幌農學校の出身にして植物學に造詣深く名著「花」にて世に知らる、總督府に奉職以來、植物調査事業に博物館の創設經營に臺灣博物學會の創立に本島博物學の進歩を助けたること著大なり、臺灣關係著書は

「茭白筍」の調査　新高山頂の植物　班芝樹　臺灣植物目錄　椰子の葉蔭

等あり、又氏によりて發見せられたる植物多く同氏の姓名に因みて命名せられたるもの四十種に達す、其一二を擧ぐればタイワンキリ Paulownia Kawakamii Ito カハカミスミレ、カハカミガシ Lithocarpus Kawakamii Hay カハカミコハウン。

故小西成章氏は東京・帝大の林學科を卒へて總督府に奉職して林務を司れり、身心强く山地深く入りて森林

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

調査を爲せり、發見せる樹木多し。　コニシガシ　ユニシカマツカ　コニシシャクナゲ　コニシガマズミ　コニシダモ　ランタイスギ　コニシクスモドキ。

中井宗三氏は總督府及び專賣局等に奉職して森林調査と樟樹造林等携りたる方なるが寫眞の技に長せり大正三年著せる「臺灣林木誌」は世を益せること多大なり、氏の發見せる植物中氏の姓に因めるものは左の如し　ナカキクロダモ　ナカイサウ　ナカヒガン。

相馬禎三郎氏は千葉縣の人にて明治四十三年三月東京高師を卒ゆるや總督府國語學校に奉職し農業科を受持つ傍ら植物の採集に志し休服毎に各地に旅行し其得たる標本は數千に及びしが不幸大正六年八月花蓮港廳下より歸來病を得て九月遂に逝かる、氏の發見せる植物はボソバミヅ・クワンノンラン・アカメソシン・クワシヨウセキコク・マキバラン・キバナクワクラン・アコウネツタイラン・リモガンヴニラ其他にて三十餘種に及びたるが其中最も著名なるは明治四十三年十二月ウライの阿玉にて發見せるムカシリユウビンタイなり、此植物の屬する屬は古代型にして數頗る少く世界に四種に過ぎず。

佛國宣教師フォリー(Fauriei)氏は千八百七十三年(明治六年)長崎に來り、後東京・盛岡・弘前・青森・札幌等の教會にゐたりしが青森に最も長く住したり、氏は千九百十五年臺北にて昇天するまで四十餘年間日本にありて布教の傍ら植物の採集をなし、其足跡地は樺太より。南は臺灣に至るまで至らざる所なく、採集品は倉庫に充滿したりと云ふ。臺灣には明治三十六年・大正二年・大正三年・大正四年の四回渡來し其折に旅行したる個所は臺北附近、淡水・基隆・後里・嘉義・阿里山・萬金庄・ライ社・角板山・花蓮港等なり。

採集品は六包若くば九包とし、其一は自己の標本室に納め、他は歐米の學者に送れり、されば歐米にては宣教師としてよりも植物採集家として其名を知られたりと云ふ、北海道、樺太產は宮部博士、臺灣產は早田

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

博士に送りて研究を委せられたり。氏が臺灣にて發見せる植物はフォリーカラマツ・ウスバアハブキ・アリサンニンドウ・シンテンアケボノサウ・フォーリーセキコク・アリサンウヅラ・フォーリーダケ・タイワンシダ・タイワンカグマを初め三十餘種に達す、斯く植物學界に功蹟尠からざるを以て其功に報ゆる一端として同志相圖り胸像を臺北の植物園内に建てたり。

今は去つて遠きメキシコにある松田英二君の功蹟も著大なり、氏は大正四年高雄州下に職を奉ずるや寸閑を偸んで植物の採集と研鑽に勉めて得たる資料多くそは早田博士に研究を委せられ一部は林業部腊葉館内に保存せらる。

林業部にては林業上の見地より種々調査研究され其の結果は幾多の報文となりて現はれたるが植物學に關係深きものは左の如し、

金平亮三　臺灣樹木誌　(本文四六四八頁)
同　臺灣產樹木の解剖と識別(英文)
同　大日本重要木材の解剖學的識別　(本文　二九八頁)
佐々木舜一　臺灣民間藥用植物誌
同　新高山森林植物帶論

此外伊藤篤太郎・中井猛之進・小泉源一・小松春三の諸氏も本島植物に關して研究されたり。

外國人にて渡臺して研究したるものはエルウエス(英國學士會院會員)ウイルソン。

ウイルソン氏は千八百七十六年英國に生れ、皇立理科大學を卒へてキユー植物園に入り、千九百六年に米國ハーバード大學に轉じ森林樹木の研究に從事せり、支那に遊ぶこと四回、臺灣に來ること二回なり、之は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

千九百十八年一月より四月までに阿里山・能高山・新竹蕃地・太平山等を、十月再び渡臺し十一月まで滞在して新高山・阿里山・恒春・花蓮港を一巡し森林樹木殊に松柏類につきて研究せられたり。

斯くの如くして顯花植物及び羊齒類の分類學的方面は大體の調査を了へたるも此後に於て精査すべき問題尠からず。

二、蘚苔類

臺灣の蘚苔を初めて採集したるは前述のオルドハム氏にして千八百六十四年二種を得たり、其後ヘンリー氏二種、ウルベルグ氏三種を採れり。此内オルドハム及ヘンリー兩氏の採品はサルモン氏、ウ氏のものはブロテルス氏これを研究せり。

フォーリー氏は旅行毎に蘚類も採り佛國のコード(Cordat)氏に送れり、千九百三年臺灣北部地方にて採れるものは、千九百五年に發表せらる其の數百二十五種あり内四十八は新種及新亞種にて Anoectangium Fauriei(屈尺)、Hypanum Kushakuense. Card(屈尺產) Jsopterygium Kelungense(基隆)等もあり(臺博會報一四號)。

笹岡久彥氏は在臺中の採品を松田英二氏・島田彌市氏及余の採集品とをブロテルス氏に送り鑑定せられたるものあり時々博物學會報にて報告せられたり。

岡村周諦氏は笹岡久彥・松田英二其他の人々によりて採集せられたるものを研究し東京帝國大學記要にて發表せられたり。

三、藻類

本島には有用の藻類は少きも種類は豐富なるもの丶如しと雖ども未だ調査の緒につきたるのみなり。

ハイドリッチ(Heydrich)氏はウルベルグ(Warburg)氏が千八百八十六年より同八十八年に亘りて擧行せら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れたる東亞旅行中に採集したる臺灣產海藻を調査して千八百九十四年に「臺灣及琉球の海藻」と題して發表せるが其內新種は三種あり、Carblepharis Warburgii の如き記念のためにウ氏の姓を種名とせり。

遠藤吉三郎氏は千九百十四年より同十八年に至る間東京の植物學雜誌に「日本新海藻」と題したる記事中に川上瀧彌・青木赳雄氏等の採品につき揭げたり。遠藤氏は又其の著「海產植物學」に岡村金太郎氏は「日本藻類名彙」に本島產のものを採錄せり。

岡本憲三氏は本島及び廈門地方の海藻を採り岡村金太郎博士の鑑定を受け、其一斑は博物學會報五十一號に揭げられたり。

山田幸男氏は大正十四年渡臺して得たるものと、青木赳雄氏の標品とを研究し「臺灣海藻の研究」と題し東京の植物學雜誌に發表せらる其の數多くの內多數の新種あり卽ち Zonaria Coriacea Famada. Cladophyra Aokii Yamada. Padina minor 等の如きこれなり。

四、菌類

（イ）植物寄生菌

寄生菌及植物病理の研究調査は專ら中央研究所農業部(元の農事試驗場及糖業試驗場併合)にて行はれたり。總督府農事試驗場にては千九百四年より菌類を調査せしが同六年に至り植物病理部を特設し川上瀧彌氏・鈴木力治氏等主腦となり、澤田兼吉氏・藤黑與三郎氏等副として調査研究をなせしが鈴木氏は千九百十五年、川上氏は千九百十五年に物故せしを以て其後は澤田氏黑澤氏等これに當れり。

糖業試驗場病害部にては三宅勉氏主となり甘蔗寄生菌の研究をなしつゝありしが大正十年制度改正の結果兩者は併合して農業部病理科となれり。從來幾多の研究報文があるも菌學的のもの丶主なるもの左の如し、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三宅　勉　甘蔗露菌病調査報告

同　甘蔗赤腐病調査報告

澤田兼吉　臺灣產菌類調査報告第一編（六九五頁・圖版一四・種類二六八）

同　同　第二編（一三七頁・圖版七・種類二六八）

同　分生胞子時代より觀たる粉病菌科

（ロ）釀造用菌

釀造に關係ある菌類の調査は專ら中央研究所工業部釀造科に於て行はる、初め岡崎宗治氏亞いで中澤亮治氏入りて白粬・紅粬・烏粬等の菌學的研究を爲し其の結果は前後六回報告せられたり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

島情

臺灣貿易統計

（大正十五年十二月及大正十五年總計）

臺灣總督府稅關

▼貿易額比較

外國貿易	十五年十二月	十四年十二月	十五年累計	十四年累計	增減（●）
輸出	四,五八四,五二六円	四,八四八,一六〇円	四九,三一五,四八七円	四七,九六五,八四四円	一,三四九,六四三円
輸入	七,〇三三,〇〇八	九,三七六,〇七五	六二,〇〇七,六六六	五六,四八九,〇六〇	五,五一八,六〇六
計	一一,六一七,五三六	一四,二二四,二三五	一一一,三二三,一五三	一〇四,四五四,九〇四	六,八六八,二四九
輸出（入）超過	（入）二,四四八,四八〇	（入）四,五二七,九一五	（入）一二,六九二,一七九	（入）八,五二三,二一六	—

內地貿易	十五年十二月	十四年十二月	十五年累計	十四年累計	增減（●）
移出	一五,七五六,二一八円	一九,一〇七,六六六円	二〇二,一〇九,五八三円	二一五,二四八,八〇七円	●一三,一三九,二二四円
移入	一一,三〇四,〇一七	一一,六二九,二二二	一二一,四〇四,七八四	一二九,九〇六,二八〇	●八,五〇一,四九六
計	二七,〇六〇,二三五	三〇,七三六,八六八	三二三,五一四,三六七	三四五,一五五,〇八七	●二一,六四〇,七二〇
移出（入）超過	四,四五二,二〇一	七,四七八,四四四	八〇,七〇四,七九九	八五,三四二,五二七	—

▼輸出

品目	十二月 數量	十二月 價額	十五年累計 數量	十五年累計 價額	十四年累計 數量	十四年累計 價額	增減（●） 數量	增減（●） 價額
石炭 噸	八三,〇二一	九四五,九六八円	七五三,二五三	八,四三七,四八三円	七〇〇,五九三	七,四四八,二六九円	五二,六六〇	九八九,二一四円

品目	単位	十二月 數量	十二月 價額	十五年累計 數量	十五年累計 價額	十四年累計 數量	十四年累計 價額	增減(●) 數量	增減(●) 價額
包種茶	斤	九三六,〇六〇	六九四,四九二	八,九〇五,七八一	六,七七一,二九五	七,七八五,四一九	六,一七二,七八四	一,一二〇,三六二	五九八,五一一
烏龍茶	同	一七,七六三	一三,四九六	七,九四〇,六六六	五,四七〇,一二九	八,〇〇四,四七七	五,二二〇,九五八	●六三,八一一	二四九,一七一
編織物	碼	一,六六六,三二六	三六五,五三三	一九,五四六,四九九	五,一八四,〇一四	一二,七八九,九六八	三,七六三,五五五	六,七五六,五三一	一,四二〇,四五九
鹹魚及乾魚	斤	五,八〇七,六五九	五一一,九〇五	二九,一〇四,〇五一	三,三六〇,八八九	一一,四四二,七八四	一,九四二,八九六	一七,六六一,二六七	一,四一七,九九三
砂糖	同	三,九九五,〇五一	七〇〇,二三九	二一,七一五,六二七	三,一七七,七七三	四一,四六〇,三七一	五,八八七,九三九	●一九,七四四,七四四	●二,七一〇,一六六
酒精	升	九四九,四四〇	三〇七,一二八	六,〇一五,八四〇	二,〇〇〇,五三一	六,三七三,四一〇	一,九六七,三〇一	●三五七,五七〇	三三,二三〇
樟腦	斤	六三,六〇〇	八八,四〇四	一,一九四,〇三三	一,九四九,二九一	二,〇五六,五二二	三,六〇九,三六六	●八六二,四八九	●一,六六〇,〇七五
錫	同	三九七,一六二	一五三,五〇九	六,二六九,六一八	一,九二七,七九八	七,八四一,一〇九	二,四六六,四二七	●一,五七一,四九一	●五三八,六二九
セメント	同	四,二六一,六〇一	九〇,二四八	七八,九九一,一四一	一,六八九,四二八	五八,五〇〇,六九三	一,二三八,八七五	二〇,四九〇,四四八	四五〇,五五三
絹及絹綿織物	碼	九九,三七九	五九,五三三	一,二一二,六六九	七四一,〇七五	一九四,七三三	一二一,六三〇	一,〇一七,九三六	六一九,四四五
貝柱	斤	三一,四二五	四〇,〇二九	四三八,五〇三	五五八,一六三	二八九,〇八六	三六六,四六六	一四九,四一七	一九一,六九七
苧麻	同	八五,四四四	二五,二八〇	一,三四三,九五九	四九九,一〇七	一,二七三,四〇〇	四九七,一二五	七〇,五五九	一,九八二
紙	同	二六一,八九二	二五,六九〇	五,二六八,一七四	四五三,三二一	六,七一八,六九一	五五〇,一四三	●一,四五〇,五一七	●九六,八二二
芭蕉實	同	七九,一七四	三七四六	八,一六五,九三二	四四七,二二一	二,八八四,二六〇	一一三,三二一	五,二八一,六七二	三三三,九〇〇
其他諸品		—	五五九,四四八	—	六,六四七,九七九	—	六,五六八,七八〇	—	七九,一九九
計		—	四,五八四,五二八	—	四九,三一五,四八七	—	四七,九六五,八四四	—	一,三四九,六四三

▼輸入

品目	単位	十二月 數量	十二月 價額	十五年累計 數量	十五年累計 價額	十四年累計 數量	十四年累計 價額	增減(●) 數量	增減(●) 價額
大豆油糟	斤	三八,八〇五,七二〇	円 一,六八二,二七二	二七九,二三二,五九二	円 一三,七四四,三七二	三〇〇,〇六〇,〇六六	円 一六,七七七,七八〇	●二〇,八二七,四七四	円 ●三,〇三三,四〇八
米(籾共)	同	二,五五八,〇九〇	一九一,〇九七	一〇〇,七七九,三七五	九,二七五,四三二	一八,四六三,〇二〇	一,五三六,九〇二	八二,三一六,三五五	七,七三八,五三〇
硫酸アンモニウム	同	七,七二六,八三五	六五四,八〇一	七三,六〇三,一七一	六,八〇三,八〇九	五〇,二四四,五四一	五,四五六,六四五	二三,三五八,六三〇	一,三四七,一六四
砂糖	同	一八,六一七,一五九	一,七五一,三九四	四八,二六八,四六三	五,三〇四,三六七	三五,五五七,一七二	四,五八四,五五六	一二,七一一,二九一	七一九,八一一
大豆	同	三,五九八,七一三	二一〇,一七四	四六,四一四,三八九	三,一二七,八二六	四一,一一六,六二〇	三,三二四,六四八	五,二九七,七六九	●一九六,八二二

ガンニー袋	箇	七六〇,〇〇〇	三七三,八六八	三,九四六,一九九	二,四八五,六五四	三,七八〇,〇〇〇	二,七九四,七三三	一六六,一九九	•三〇九,〇七八
木材	立方尺	六二三,七七四	四一七,七二六	三,三六八,八八四	二,三三二,六五九	二,三七九,〇一三	一,七一四,四八一	九八九,八七一	六一八,一七八
石油	ガロン	七九,四五〇	三三,四二一	二,三三七,四八二	一,一〇七,〇七四	二,〇〇七,一五九	一,三〇七,六八七	三三〇,三二三	•二〇〇,六一三
鹹魚	斤	三六九,六六三	五三,三二五	一四,三九三,五七一	一,〇二九,〇九七	六,六八二,〇七一	六三二,二四五	七,七一一,五〇〇	三九六,八五二
小麥	同	六,一〇〇	二八六	二,八三三,一九九	一,〇〇五,三三八	一,四七二,六六六	九八八,〇七六	一,三六〇,五三三	一七,二六二
阿片	同	—	—	三九,二三三	九八七,二九五	一一六,五一八	二,八一六,九〇七	•七七,二九五	•一,八二九,六一二
包席	枚	四〇六,七八〇	四九,五一〇	五,四九六,一一〇	八九七,五七二	五,四三五,二三六	一,一三三,七五九	六〇,八七四	•二三六,一八七
葉煙草	斤	二三〇,四〇七	七六,四八五	一,五一六,九二六	七五四,七六八	一,四六七,三四九	八一〇,八〇九	四九,五七七	•五六,〇四一
鐵	同	一,〇三三,七〇六	七九,〇九三	八,五六六,九四八	七四八,一〇八	六,〇三〇,七八三	三八〇,六六〇	二,五三六,一六五	三六七,四四八
綠綿	同	一八九,三七六	七一,二六五	一,一一七,七〇九	四九六,四二六	六三六,九五〇	四二九,九〇四	四八〇,七五九	六六,五二二
黃麻	同	三六,一四八	六,二〇二	二,六六六,二四六	二五一,六二八	二,八二七,二八一	三七八,二六三	•一六一,〇三五	•一二六,六三五
禮拜紙	同	三三七,四一七	五三,八七〇	一,六六一,九五四	四四一,八九三	一,三五五,三三三	四三四,八九一	三〇六,六二一	七,〇〇二
石炭	噸	五,五九〇	二四,八七七	一九,九六二	三九五,一二三	一三,四五〇	一七四,三九四	六,五一二	二二〇,七二九
苧麻布	方碼	九九,四七三	一七,四五八	一,五六〇,五九三	三六四,二六〇	一,七〇五,七六三	四五四,七七二	•一四五,一七〇	•九〇,五一二
毛織物	同	一九,三五〇	三三,三四三	二三二,〇二三	三四五,〇五四	四〇五,三六一	六五四,五二七	•一七三,三三九	•三〇九,四七三
綿織物	同	一七,九一九	六,一八二	四三八,〇七三	三二七,九六六	三四六,六七八	二八九,五九〇	九一,三九五	三八,三七六
陶磁器		—	二六,四九九	—	三〇八,五七一	—	三〇二,二二六	—	六,三四五
輕油	ガロン	一五,六四九	一三,一九〇	二六五,六〇九	二七〇,八二六	七九,二七八	一〇三,九〇七	一八六,三三一	一六六,九二九
唐紙	斤	一四八,八九三	一七,〇三四	二,七五五,九九四	二六三,五〇三	二,四六七,五三九	二六六,三四〇	二八八,四五五	•二,八三七
綠豆	同	四九,一三二	三,一二〇	三,〇九四,七三一	二五〇,八一〇	二,二三四,〇四六	二〇六,八五一	八六〇,六八五	四三,九五九
錫	同	六,七八九	一三,六八八	一一三,六二三	二〇五,〇九八	一〇〇,三六九	一九〇,三〇五	一三,二五四	一四,七九三
豆素麵	同	七七,九四四	二,五五五	五九二,七五七	一七七,七五六	四六八,九二〇	一七六,六三九	一二三,八三七	一,一一七
胡麻子	同	一四八,九三二	二一,〇〇五	一,一〇〇,七四四	一七二,六五〇	七二八,六二七	一四八,七二一	三七二,一一七	二三,九二九
パラフィン、ワックス	同	二九,七〇一	六,九一三	四四〇,七一九	一〇六,四三六	七三〇,三三七	二二五,三二一	•二八九,六一八	•一一八,八八五
機械用油	同	二五,四五五	四,〇二九	六一二,八一九	九九,七九三	七一五,五六一	一一八,一〇五	•一〇二,七四二	•一八,三一二

品目		十二月 數量	十二月 價額	十五年累計 數量	十五年累計 價額	十四年累計 數量	十四年累計 價額	增減(・) 數量	增減(・) 價額
其他諸品		—	一、〇二二、三四六	—	七、七二六、四八二	—	七、三六四、四三七	—	三六二、〇四五
計		—	七、〇四三、〇〇八	—	六二、〇〇七、六六六	—	五六、四八九、〇六〇	—	五、五一八、六〇六

▼移　出

品目		十二月 數量	十二月 價額	十五年累計 數量	十五年累計 價額	十四年累計 數量	十四年累計 價額	增減(・) 數量	增減(・) 價額
			円		円		円		円
砂糖	斤	一三、三三八、〇〇〇	一、九五九、二八四	七四八、七九一、五一三	九八、三七五、八二八	七一七、〇一八、七七一	一〇五、六五一、一五八	三一、七七二、七四二	・七、二七五、三三〇
米	同	一〇七、〇八一、九〇〇	一一、二七〇、二九一	五六七、八八〇、八六二	六三、〇九二、四七〇	五五五、八八七、四九八	七二、一一〇、二二八	一一、九九三、三六四	・九、〇一七、七五八
芭蕉實	同	六、三三二、三三四	二〇八、七八八	一八六、五七六、八四六	一〇、九〇〇、三七七	一四八、三三六、一二〇	九、〇九六、三五八	三八、二四〇、七二六	一、八〇四、〇一九
酒精	升	二九一、三八〇	一五五、五一四	七、五八三、九七〇	四、〇八一、一三五	七、二〇五、一六〇	三、八五四、五七八	三七八、八一〇	二二六、五五七
木材	立方尺	七七、一六九	一八九、八六四	一、三〇四、〇四五	三、〇五五、七九八	一、一三六、一七〇	二、八〇〇、七六七	一六七、八七五	二五五、〇三一
樟腦油	斤	六六四、三五五	三一五、五七五	五、九八八、九〇三	二、九七六、〇九四	五、一三一、一八三	二、四六八、〇一三	八五七、七二〇	五〇八、〇八一
鰹節	同	三三、六九二	五五、四五八	一、五三七、九二六	一、八一七、五三七	一、一四七、九五三	一、三二二、三二〇	三八九、九七三	四九五、二一七
模造パナマ帽子	箇	四三九、八〇〇	三二六、八六〇	四、三九四、三〇〇	一、七八八、三〇六	四、一六〇、六四〇	一、三九六、六二四	二三三、六六〇	三九一、六八二
鳳梨罐詰	打	三一、七九八	一一一、七五二	四八七、七七四	一、七五二、〇五七	五〇三、八〇二	一、九一七、五六四	・一六、〇二八	・一六五、五〇七
樟腦	斤	七五、六〇〇	一三〇、〇〇〇	九二八、八二三	一、六八一、五一九	五二六、九二七	九一五、〇九二	四〇一、八九六	七六六、四二七
鑛	同	一五、三三七、〇三二	二三四、五八九	八九、三六七、六四一	一、五七三、七八四	三八、五七九、九二一	八三九、四五三	五〇、七八七、七二〇	七三四、三三一
石炭	噸	八、〇二七	一四三、一七〇	一三六、四九七	一、四七三、二一一	一八九、六九四	一、九〇一、四七二	・五三、一九七	・四二八、二六一
食鹽	斤	八、〇四九、六五〇	六五、〇三四	一一五、六八三、一四〇	九〇三、六一八	一五四、四七九、一二四	一、二三九、八七一	・三八、七九五、九八四	・三三六、二五三
鮮魚介	同	四二二、一七〇	一三八、六八〇	二、五四〇、九八一	七九一、〇五一	一、七〇九、九九八	五四一、三二四	八三〇、九八三	二四九、七二七
切乾薯	同	一、〇四二、九六〇	四五、四三三	一五、一一七、七七〇	六六〇、二八六	四九、〇四五、七〇〇	一、九二〇、九二八	・三三、九二七、九三〇	・一、二六〇、六四二
其他諸品		—	五三五、八二六	—	七、一八六、五一二	—	七、二七三、〇六七	—	・八六、五五五
計		—	一五、七五六、二二八	—	二〇三、一〇九、五八三	—	二二五、二四八、八〇七	—	・二二、一三九、二二四

▼移入

品目		十二月 數量	十二月 價額(円)	十五年累計 數量	十五年累計 價額(円)	十四年累計 數量	十四年累計 價額(円)	增減(•) 數量	增減(•) 價額(円)
綿及絹織物		—	一、六四六、三四二	—	一、九八〇、五一〇	—	一、五七〇、八四九	—	四、〇九七、〇六一
鐵	斤	四、六七四、八九〇	四八六、四四八	五六、九〇六、五七〇	六、二一三、五五七	四八、六四一、〇九〇	六、一一九、三九六	八、二六五、四八〇	九四、一六一
鹹乾魚	同	七、六八八、一三八	七一八、五六〇	四五・〇一七、四三二	六、〇五六、三八五	三八、一九六、九〇二	五、九〇五、五四九	六、八二〇、五三〇	一五〇、八三六
肥料	同	一〇、八二五、九七二	五一八、九二〇	九七、八二六、〇六三	四、七四五、八三〇	一一五、三六八、四六九	六、六九一、三五二	•一七、五四二、四〇六	•一、九四五、五二二
小麥粉	同	二、六三九、八二三	三〇八、一三九	二八、四九四、六五三	三、四三九、九六八	三〇、二二七、九九八	三、九三五、五七五	•一、七三三、三四五	•四九五、六〇七
木材	立方尺	二四〇、二二四	二七二、五二六	二、八五五、八五九	三、三九五、九七八	一、七一三、六一〇	二、一九四、九四二	一、一四二、二四九	一、二〇一、〇三六
紙		—	二七八、二三三	—	三、〇六五、五五九	—	三、四二二、二四〇	—	•三五六、六八一
錫	斤	七四〇、八八七	三三六、七一九	八、五一九、六七三	二、七六四、七五一	九、七四八、八二〇	三、五七四、三九八	•一、二二九、一四七	•八〇九、六四七
鐵製品		—	二四七、五八〇	—	二、六二〇、〇六五	—	二、二七三、七一〇	—	三四六、三五五
麥酒	打	九、八九〇	五〇、三七二	四八五、一二七	二、三三一、四一二	三九三、一四〇	一、八七二、四一五	九一、九八七	四四八、九九七
紙卷煙草	千箇	八八、五四〇	二〇七、六三一	九〇二、九〇〇	二、一一四、〇九九	八一五、七〇〇	一、七五三、七四八	八七、二〇〇	三六〇、三五一
絲類		—	一五二、一七四	—	二、一一四、〇九三	—	二、〇八二、六八七	—	三一、四〇六
各種ノ罐詰		—	一六九、九六三	—	一、九二五、二九八	—	一、三九九、四二五	—	五二五、八七三
ガンニー袋	箇	一二九、八〇〇	六〇、〇九八	三、二七二、二〇〇	一、八〇七、一二九	四、五八三、二四〇	二、七六四、四五五	•一、三一一、〇四〇	•九五七、三二六
清酒	打	五〇、五四〇	四六五、六五二	一八〇、七四八	一、六五六、九一九	二一一、九七〇	一、九九九、三一五	•三一、二二二	•三四二、三九六
メリヤス肌衣		—	一三五、六一九	—	一、五〇九、二三〇	—	一、六六五、三七七	—	•一五六、一五七
自轉車同部分品及附屬品		—	一三七、六三〇	—	一、四八二、七〇四	—	一、二三四、五〇七	—	二五八、一九七
毛織物		—	一七五、五〇三	—	一、三四四、三八四	—	一、〇一八、五四〇	—	三二五、八四四
燐寸	哥	一三五、一六六	九六、五八六	一、四四六、四七五	一、〇九五、四九四	二、〇三〇、五〇五	一、五六六、一九九	•五八四、〇三〇	•四七〇、七〇五
菓子類		—	一四九、九一六	—	一、〇八〇、五七八	—	八五四、七三七	—	二二五、八四一
麥	石	八、七九六	一八四、二二七	四八、四五三	一、〇四七、六〇九	三三、八九四	五〇八、三六五	一五、五五九	五三九、二四四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

製帽原料	—	九一、六二二	—	一、〇三五、一七四	—	六一七、五六三	—	四一七、六一一
米　石	二、二九五	八一、三九八	二五、二五六	九七四、四三一	六五一、八六九	一六、八九一、七八〇	•六二六、六一三	•一五、九一七、三四九
陶磁器	—	一三四、一四四	—	九六二、六三二	—	七二三、六五四	—	二三八、九七八
砂糖　斤	—	五八、九五四	三、七六四、四九七	九三三、一三〇	二、八一七、七七〇	七一三、九七一	九四六、七二七	二一九、一五九
石鹸	二三〇、八二五	六一、三〇二	—	七九四、二二八	—	七五六、〇六六	—	三八、一五二
醤油　石	一、七二六	一〇三、六四五	一三、八四七	七七八、四六四	一三、一七八	八〇五、九二四	六六九	•二七、四六〇
石油　ガロン	一〇九、二三〇	五一、五四三	一、四七九、九八五	七六五、九八五	一、九一四、四七〇	一、一七一、五〇九	•四三四、四八五	•四〇五、五二四
切組板	—	四〇、〇九九	—	六九〇、一六一	—	八四九、八四七	—	•一五九、六八六
機械用油	—	七六、八四〇	—	六六三、七一七	—	七四五、四五〇	—	•八一、七三三
其他諸品	—	三、八二五、六五二	—	四二、二〇〇、三三〇	—	三八、〇九五、一三五	—	四、一〇五、一九五
計	—	一一、三〇四、〇一七	—	一三一、四〇四、七八四	—	一三九、九〇六、二八〇	—	•八、五〇一、四九六

●金銀輸移出入

	十二月	十五年累計	十四年累計	増減(•)
	円	円	円	円
輸出	—	—	—	—
輸入	—	三〇、一一四	—	三〇、一一四
計	—	三〇、一一四	—	三〇、一一四

	十二月	十五年累計	十四年累計	増減(•)
	円	円	円	円
移出	—	—	—	—
移入	—	二五〇、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	•一七〇、〇〇〇
計	—	二五〇、〇〇〇	四二〇、〇〇〇	•一七〇、〇〇〇

▼仕向地及仕出地別貿易額

●輸出入

地名	十五年累計 輸出	十五年累計 輸入	十五年累計 計	十四年累計	増減(•)
支那	二九、七六〇、二三九円	一〇、〇二五、八六六円	三九、七八六、〇三五円	三六、二九二、〇二一円	三、四九四、〇一四円

關東州	一、二六二、二三七	一八、〇一〇、六六八	一九、二七二、九〇五	三三、五一四、八五七	●一四、二四一、九五二
香港	四、四五八、三二七	七、〇七四、八二八	一一、五三三、〇五五	一一、六三二、七八七	●九九、七三二
英領印度	三、六四一	八、五六〇、二〇二	八、五六三、八四三	二、三六九、五八五	六、一九四、二五八
北米合衆國	六、二二一、一九一	一、三九九、〇九四	七、六二〇、二八五	八、二三二、四〇九	●六一二、一二四
蘭領印度	四、〇二一、八三四	一、三七一、四〇四	五、三九三、二三八	五、三八三、六三二	九、六〇六
獨逸	一三五、四七一	四、四一一、〇七七	四、五四六、五四八	一、二八〇、一〇〇	三、二六六、四四八
假置揚	—	三、九三九、四二七	三、九三九、四二七	三、二二〇、九四五	七一八、四八二
英吉利	九六五、七二八	一、七八六、七六八	二、七五二、四九六	五、六八〇、七八一	●二、九二八、二八五
暹羅	八七四、三七八	一、三三八、五八二	二、一〇二、九六〇	一、五九〇、九三三	五一二、〇二七
和蘭	—	九二六、三四三	九二六、三四三	八一九、三八〇	一〇六、九六三
濠太剌利	五四、二六〇	七五二、四四一	八〇六、七〇一	五〇八、二七三	二九八、四二八
英領海峽殖民地及英領ボルネオ	五七五、四九二	一四二、二三五	七一七、七二七	五五六、二〇七	一六一、五二〇
波斯	—	六八七、〇〇〇	六八七、〇〇〇	二、二二四、〇一四	●一、五三七、〇一四
佛領印度	一五八、四九七	四二〇、八六二	五七九、三五九	二〇二、〇一五	三七七、三四四
露領亞細亞	一八三、七四八	二〇〇、八六五	三八四、六一三	一四三、六〇三	二四一、〇一〇
比律賓諸島	三七四、七一九	一、八一七	三七六、五三六	四六五、七五七	●八九、二二一
白耳義	—	二五五、七二九	二五五、七二九	—	二五五、七二九
佛蘭西	二三四、四八八	一五、四〇二	二四九、八九〇	六七一、七五六	●四二一、八六六
英領亞米利加	三、一〇二	三、〇六〇	六、一六二	一六、三八一	●一〇、二一九
其他諸國	一〇、二四五	八三二、〇五六	八三二、三〇一	一、〇六九、四七八	●二三七、一七七
計	四九、三一五、四八七	六二、〇〇七、六六六	一一一、三二三、一五三	一〇四、四五四、九〇四	六、八六八、二四九

●移出入

地名	十五年累計 移出	十五年累計 移入	十五年累計 計	十四年累計	増減(•)
大阪	三五、八六六、二七二円	四六、二六七、六一七円	八二、一三三、八八九円	八六、二〇九、八九〇円	•四、〇七六、〇〇一円
神戸	三八、三五四、一一七	三三、〇二九、八八三	七一、三八四、〇〇〇	七五、七一〇、四六一	•四、三二六、四六一
東京	四四、六九七、九二四	七、九四一、二三八	五二、六三九、一五二	四九、九六七、八六〇	二、六七一、二九二
門司	一八、三八六、九四七	一一、三四一、六八八	二九、七二八、六三五	三五、一六九、〇〇二	•五、四四〇、三六七
名古屋	二三、三三六、九六八	三、一一八、一四二	二六、四五五、一一〇	二四、六三九、六〇一	一、八一五、五二九
横濱	一一、六九四、一五二	一、四九七、三九一	一三、一九一、五四三	一七、三六六、一九一	•四、一七四、六四八
下ノ關	五、六五七、七三七	二、六八九、八一〇	八、三四七、五四七	七、九〇九、四〇九	四三八、一三八
函館	一、六三〇、四六二	四、七七八、一一二	六、四〇八、五七四	七、三七〇、四六二	•九六一、八八八
三池	五、四七七、四〇三	一〇五、四九一	五、五八二、八九四	五、〇一七、九三五	五六四、九五九
長崎	二、七三六、〇九二	九七八、五三九	三、七一四、六三一	三、〇〇六、七四〇	七〇七、九二一
小樽	二、八八五、〇一四	三三八、六九八	三、二二三、七一二	三、一〇五、四二六	一〇八、二八六
鹿兒島	五三〇、六八七	二、四二八、五七八	二、九五九、二六五	三、七五九、四六四	•八一〇、一九九
宇品	一、四一二、三二九	一、三九一、二三九	二、八〇三、五六八	一、九七六、一九〇	八二七、三七八
勝浦	—	一、七〇二、四三四	一、七〇二、四三四	九一八、〇七〇	七八四、三六四
釜山	一、一二八、〇三六	一二七、六八一	一、二五五、七一七	一、三三四、七三七	•七九、〇二〇
尾ノ道	一、〇一八、一一〇	二一七、八七一	一、二三五、九八一	一、四五五、〇九六	•二一九、一一五
清水	一、一二八、八一七	—	一、一二八、八一七	三〇八、六九〇	八二〇、一二七
仁川	八八五、九五四	九、四七三	八九五、四二七	一、〇四四、一七八	•一四八、七五一
八重山	二八二、七八〇	二六六、一〇四	五四八、八八四	五八三、四八二	•三四、五九八
新潟	三九〇、〇七五	七、〇〇〇	三九七、〇七五	七二、五六八	三二四、五〇七
其他各地	四、六一九、六八七	三、一七七、七八五	七、七九七、四七二	一八、〇二九、六三五	•一〇、二三二、一六三
計	二〇二、一〇九、五八三	一二一、四〇四、七八四	三二三、五一四、三六七	三四五、一五五、〇八七	•二一、六四〇、七二〇

▼港別貿易額

港名	十五年累計 輸出	十五年累計 輸入	十五年累計 計	十四年累計	增減(●)	十五年累計 移出	十五年累計 移入	十五年累計 計	十四年累計	增減(●)
基隆	二八,三四一,二五六円	二七,三八六,八五三円	五五,七二八,一〇九円	四六,七四三,九一四円	八,九八四,一九五円	九六,三二九,一三八円	八七,三六七,七七五円	一八三,六九六,九一三円	一九五,〇九四,七六一円	●一一,三九七,八四八円
臺北	一二,三三六,九九八	二,三五七,一五一	一四,六九四,一四九	一四,六六四,〇九九	三〇,〇五〇	—	—	—	—	—
淡水	七二五,一四九	三,〇二七,四〇六	三,七五二,五五五	三,三一三,七一三	四三八,八四二	—	二五,九七五	二五,九七五	一三,三五〇	一二,六二五
舊港	一七七,八一九	一五四,七三二	三三二,五五一	三一六,三三六	一六,二一五	—	—	—	—	—
後龍	一四八,〇二三	一六一,二三四	三〇九,二五七	三一二,三七六	●三,一一九	—	—	—	—	—
梧棲	二三,八一〇	四二,〇一六	六五,八二六	一〇一,〇四八	●三五,二二二	—	—	—	—	—
鹿港	七九,六三八	一五三,八〇八	二三三,四四六	三九一,六一五	●一五八,一六九	—	—	—	—	—
東石	七四,七一一	三〇五,六〇四	三八〇,三一五	三〇七,八七一	七二,四四四	—	—	—	—	—
安平	二二五,三七六	一,四〇六,五四九	一,六三一,九二五	一,八八五,六二一	●二五三,六九六	五七六,五六六	一一,一一〇,四九七	一一,六八七,〇六三	一一,九一九,九〇四	●二三二,八四一
高雄	七,一二三,一一五	二六,八八六,二四四	三四,〇〇九,三五九	三六,二九〇,二六一	●二,二八〇,九〇二	一〇三,八五二,九八一	二二,三三〇,五二四	一二六,一八三,五〇五	一三五,七二六,一九九	●九,五四二,六九四
馬公	六九,五九二	一一六,〇六九	一八五,六六一	一二八,〇六〇	五七,六〇一	二,九二〇	五六九,八九三	五七二,八一三	六一六,三八一	●四三,五六八
蘇澳	—	—	—	—	—	四四五,八六四	—	四四五,八六四	七六三,九一五	●三一八,〇五一
布袋	—	—	—	—	—	一八六,九四〇	—	一八六,九四〇	四四三,八七四	●二五六,九三四
北門	—	—	—	—	—	一三三,七八四	—	一三三,七八四	一八五,〇六〇	●五一,二七六
大板埒	—	—	—	—	—	—	一二〇	一二〇	三九,八三五	●三九,七一五
花蓮港	—	—	—	—	—	五八一,三九〇	—	五八一,三九〇	三五一,八〇八	二二九,五八二
計	四九,三一五,四八七	六二,〇〇七,六六六	一一一,三二三,一五三	一〇四,四五四,九〇四	六,八六八,二四九	二〇二,一〇九,五八三	一二一,四〇四,七八四	三二三,五一四,三六七	三四五,一五五,〇八七	●二一,六四〇,七二〇

▼入港船舶

外國貿易	十五年累計		十四年累計		増減(●)	
汽船	一,五二〇隻	二,六七四,一六六噸	一,三一八隻	二,二五〇,九四七噸	二〇二隻	四一九,二一九噸
帆船	一,〇七八	五〇,四六八	一,一五一	五五,二三六	●七三	●四,七六八
計	二,五九八	二,七二〇,六三四	二,四六九	二,三〇六,一八三	一二九	四一四,四五一

內地貿易	十五年累計		十四年累計		増減(●)	
汽船	一,二四四隻	二,五六九,九二一噸	一,一四二隻	二,二九九,一八〇噸	一〇二隻	二七〇,七四一噸
帆船	四	一〇六	一一	三〇九	●七	●二〇三
計	一,二四八	二,五七〇,〇二七	一,一五三	二,二九九,四八九	九五	二七〇,五三八

▼收入額

年次	輸入税	製茶税	織物消費税	砂糖消費税	噸税	其他諸收入	計
十五年累計	四,七二八,五二三円	四一〇,一三四円	九〇,九八一円	一六五,五一六円	七四,八四七円	七二,五二八円	五,五四二,五二八円
十四年累計	三,一六〇,三九一	三六八,七六四	一七〇,〇四〇	二九,四二四	六一,六〇四	三七,一二七	三,八四七,三五〇
増減(●)	一,五六八,一三二	二一,三七〇	●七九,〇五九	一三六,〇九二	一三,二四三	三五,四〇一	一,六九五,一七八

◉備考　本表中大正十五年トアルハ大正十五年及昭和元年トス

金融統計

財務局金融課

▼銀行預金貸出金殘高表

大正十五年十一月末島內各銀行預金貸出金殘高左ノ如シ

種類	金額
公金預金	五、七三九、八一〇円
當座預金	二、五一二、〇五八
特別當座預金	三七、九六四、四一〇
通知預金	一、六二〇、四五一
定期預金	二六、三三〇、〇五四
別段預金	二、六六四、六七六
預金手形	一、七二〇、三三九円
日本銀行預金	三、四三三、四〇八
貯蓄預金	五、八三三、八〇〇
合計	九六、八二七、二〇六
前月	九六、五〇一、五九八
前年同月	一〇三、五四九、九一九

備考　日本勸業銀行貸付ニハ臺灣銀行取扱ノ代理貸付ヲ含ム

種類	金額
證書貸付	三五、〇一三、一〇五円
手形貸付	四六、一二八、四一七
當座貸越	三、四七六、五七八
割引手形	一〇三、九七八、三〇二
荷付爲替手形	四、七六九、〇三一
利付爲替手形	二〇九、二六一
買入外國爲替	二、八四〇、三〇三円
日本勸業銀行貸付	四六、〇四五、六三五
貯蓄銀行貸付	一、三四二、九八三
合計	二四二、八〇三、六一五
前月	二三二、八一三、三一八
前年同月	二七八、三〇五、一七二

○之ヲ地方別ニ示セバ左ノ如シ

州廳別	預金	貸出金
臺北州	五〇、二九一、二五九円	一二七、〇六六、七九八円
新竹州	六、三四七、八一六	二〇、九六一、〇三五
臺中州	一六、四八八、〇五三	三四、四四八、九九四
臺南州	一五、二七〇、四四五	三八、三二一、一七一
高雄州	六、三六二、八七	一七、九七四、四六〇
臺東廳	四〇三、八九二円	二、五八二、一三四円
花蓮港廳	一、一七四、〇四八	一、二五九、〇四一
澎湖廳	四八八、八一六	一七九、九九二
合計	九六、八二七、二〇六	二四二、八〇三、六一五

▼市街地信用組合事業一覽表（大正十五年十月末日現在）

（其の一）

種別／州廳別	組合數	組合員數	出資口數	資産：未拂込出資金	資産：貸付金	資産：土地建物什器	資産：有價證券	資産：預ケ金	資産：假拂金	資産：手形割引	資産：其他	資産：現金	資産：計
臺北	九	五、六五八	四五、九四五	八九、二二六円	四、九九四、八九八円	一四二、一四一円	七四三、二二八円	一、四七四、二四三円	九、三三九円	一〇八、八〇五円	一五六、一七四円	六〇、〇六九円	七、七七七、〇〇八円
新竹	二	一、一三一	一一、〇三五	六、九二一	八一七、七八三	二一、三三二	五〇	五三二、一九九	八九六	一	二〇〇	二、八〇七	一、三七二、一六〇

臺中	二	一,一一五	四,九九〇	一,二四七	六六六,七〇八	一七,三三六	一八,四四六	四一九,二〇〇	一〇,八六五	—	—	二,三三五	一,一五六,一二〇
臺南	六	三,〇一六	二二,二三八	一〇八,九二三	二,二〇〇,九〇一	二七,八三一	二二,六一七	四五八,八六〇	三,〇四三	三四二,二五六	—	二〇,一一三	三,三一三,五四七
高雄	一	三〇五	一,二三三	一,一九〇	三一九,二三六	三一,六七八	一四,一七六	三九,八九五	—	—	—	二二七	四〇六,三九三
臺東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
花蓮港	一	一九四	四,五七〇	—	三〇〇,一五六	四,〇九八	—	一六,三〇〇	一,四四九	四七,三三二	—	四四七	三六九,七八三
合計	一二	一二,四〇九	八九,〇〇〇	二〇七,四八九	九,三一九,六七四	二七四,四〇八	八九六,四一九	二,九三〇,六九九	二五,五九三	四九八,三九三	一五六,三七四	八六,〇〇一	一四,三九五,〇五三
前月末合計	一二	一一,三八九	八八,九六九	二一一,四一四	九,二三八,九七五	二六八,八七四	八九六,一〇八	二,九四一,五五〇	二三,六五二	三九四,〇五三	一五七,五九二	九七,六七四	一四,二三九,八九六
△ハ減	—	二〇	三一	△三,九二五	八〇,六九九	五,五三三	三一八	△一〇,八五一	一,九四一	一〇四,三三九	△一,二一八	△一一,六七二	一六五,一五七

（其の二）

州廳別＼種別	資：出資金	資：貯金	資：準備金	資：各種積立金	資：未拂配當金	債：借入金	債：假受入金	債：其他	債：剩餘金	計
臺北	一,五一八,七五〇円	五,一七四,〇五一円	四九七,八〇三円	一四六,三四〇円	八,七三八円	九六,八八四円	二五,四四五円	七,八〇〇円	三〇一,一〇五円	七,七七七,〇一八円
新竹	二二四,四〇五	九三〇,四〇二	一二一,六二四	五九,九八六	一,一五三	—	三,五一七	七六一	五〇,三四〇	一,三七二,一九〇
臺中	二四九,五〇〇	六七二,〇四三	一〇八,五五五	五九,九二五	一,八八五	—	七五	一〇,七九四	五三,三四一	一,一五六,一二〇
臺南	七九八,三五〇	一,九一二,七二六	二九四,三八九	六二,九三三	三,三六五	四四,六八五	四,八六六	一五,六二五	一七七,六〇六	三,三一三,五四七
高雄	六一,一〇〇	二九五,三七七	四八,二七三	三一二	—	—	—	—	一,三三〇	四〇六,三九三
臺東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
花蓮港	九一,四〇〇	一八四,七二四	四一,三三〇	一九,〇六四	—	一〇,〇〇〇	一,五一八	四,四六八	一七,四六八	三六九,七八三
合計	二,九三三,五〇五	九,一六八,三二四	一,一〇一,八六六	三四八,五六二	一五,一四三	一五一,五六九	三五,四三三	三九,四〇八	六〇一,二五二	一四,三九五,〇五三
前月末合計	二,九二三,四四五	九,〇六三,一四九	一,一〇〇,六七八	三四九,三三四	一五,三四九	一六六,七三三	四二,〇五七	三八,〇五三	五二一,〇九六	一四,二三九,八九六
△ハ減	六〇	一〇五,一七四	一,一八八	△七七二	△二〇六	△一五,一六四	△六,六二三	一,三五五	八〇,一五五	一六五,一五七

（其の三）

種別 州廳別	貯金内譯 組合員貯金	貯金内譯 第一條第三項貯金	貯金内譯 第一條第四項貯金	貯金内譯 加入豫約者貯金	貯金内譯 計	有價證券内譯 手許有高	有價證券内譯 貯金拂戻準備トシテ管理	有價證券内譯 計
臺北	一,六〇三,〇〇三円	二,〇三一,六五七円	一,五四〇,三九一円	—円	五,一七四,〇五一円	三六七,七八八円	三七四,三四〇円	七四二,一二八円
新竹	三八四,一〇八	四〇八,五四八	一三七,七四四	—	九三〇,四〇二	五〇	—	五〇
臺中	一七三,〇六一	四四四,七〇〇	五四,二八一	—	六七二,〇四二	七四六	一七,七〇〇	一八,四四六
臺南	九〇六,九八〇	八〇七,四七四	一九七,二七一	—	一,九一一,七二六	九〇,二三〇	三一,三八六	一二一,六一七
高雄	一七四,八八一	六七,五五三	五二,九四二	—	二九五,三七七	二二五	一三,九五一	一四,一七六
臺東	—	—	—	—	—	—	—	—
花蓮港	九九,四〇四	四二,〇〇八	四三,三一一	—	一八四,七二四	—	—	—
合計前月末	三,三四〇,四三八	三,八〇一,八四三	二,〇二五,九四二	—	九,一六八,三二四	四五九,〇四〇	四三七,三七九	八九六,四一九
合計	三,二八五,九四〇	三,七六一,五九三	二,〇一五,六一五	—	九,〇六三,一四九	四四一,〇二〇	四五五,〇八八	八九六,一〇八
△ハ減	五四,四九七	四〇,二五〇	一〇,三二七	—	一〇五,一七四	一八,〇一九	△一七,七〇九	三一〇

（其の四）

種別 州廳別	預ケ金内譯 銀行其ノ他ヘ預入	預ケ金内譯 貯金拂戻準備トシテ管理	預ケ金内譯 計	貸付金利率 最高	貸付金利率 普通	貸付金利率 最低	貯金利率 最高	貯金利率 普通	貯金利率 最低	借入金利率 最高	借入金利率 普通	借入金利率 最低	預ケ金利率 最高	預ケ金利率 普通	預ケ金利率 最低	手形割引歩合 最高	手形割引歩合 普通	手形割引歩合 最低
臺北	一,四六四,五四三円	九,七〇〇円	一,四七四,二四三円	四〇厘	三七厘	二八厘	三〇厘	一八厘	八厘	三厘	三厘	一八厘	三厘	一五厘	六厘	三八厘	三四厘	三六厘
新竹	四八九,〇七九	三三,一二〇	五二二,一九九	四〇	三四	三〇	三〇	一八	一〇	—	—	—	二	一四	八	—	—	—
臺中	四一九,二〇〇	—	四一九,二〇〇	三七	二五	二八	三	一四	一〇	—	—	—	一五	一四	八	—	—	—
臺南	四五七,四三八	一,四二一	四五八,八六〇	四八	二五	一八	三七	一八	九	三	二五	二四	三	八	七	三八	三五	三
高雄	三九,八九五	—	三九,八九五	四六	四六	二五	三	一八	一八	—	—	—	一〇	一四	八	—	—	—
臺東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
花蓮港	五,〇〇〇	一一,三〇〇	一六,三〇〇	三七	三七	二五	三	一八	一八	二六	二五	二五	一七	一四	一四	三七	三七	三七

合計	二、八七五、一五七	五五、五四一	二、九三〇、六九九	四六	三七	二八	三〇	一八	八	三三	二五	一八	二五	一四	六	一八	三五	三二
前月末合計	二、八八六、〇〇八	五五、五四一	二、九四一、五五〇	四六	三七	二八	三〇	一八	八	三三	二六	一八	二五	一四	六	一八	三五	三二
△八減	△一〇、八五一	—	△一〇、八五一	—	—	—	—	—	—	—	—	△一	—	—	—	—	—	—

▼市街地信用組合事業一覽表　（大正十五年十一月末日現在）

（其の一）

州廳別＼種別	組合數	組合員數	出資口數	資産　未拂込出資金	貸付金	土地建物什器	有價證券	預ヶ金	假拂金	手形割引	其他	現金	計
臺北	九	五、七〇七	四六、〇三六	九〇、〇六六円	五、〇二七、七九四円	一四三、一八五円	七五三、四三二円	一、三九六、五一四円	八、四三一円	一四〇、一九九円	一五六、三三〇円	四八、四四三円	七、七六四、一八八円
新竹	二	一、一三八	一二、〇六八	七、六六一	八三四、四七八	二一、三三七	五〇	五一四、六九九	九五一	—	七〇〇	四、一四三	一、三八四、〇二三
臺中	二	一、一二六	四、九九〇	一、二四七	六八〇、三二一	一七、三三八	一八、四四六	四二八、八〇〇	一〇、八六五	—	—	三、九七二	一、一六〇、九八一
臺南	六	三、〇一二	二一、二〇一	一〇五、四九三	二、二三三、三一三	六一、六七六	一三一、〇八五	三五八、四六四	三、二九六	四〇一、六七九	—	一五、三〇一	三、二九九、三一〇
高雄	一	三一三	一、一三三	一、四四〇	三一八、四九三	三一、六七八	一四、一七六	四一、七〇一	—	—	—	三〇〇	四一七、七八九
澎湖	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
臺東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
花蓮港	一	一九四	四、五七〇	—	三一六、六八六	四、〇九八	—	一六、六一七	一、五四九	四三、一四八	—	五四九	三八一、六四七
合計	二一	一一、四七〇	八九、〇九七	二〇五、九〇八	九、四三〇、〇七六	二七九、三一三	九〇七、一七〇	二、七五六、七九八	二五、〇九三	五八三、九八七	一五六、九一〇	七三、六八一	一四、四〇七、九四〇
前月末合計	二一	一一、四〇九	八九、〇〇〇	二〇七、四八九	九、三二九、六七四	二七四、四〇八	八九六、四一九	二、九三〇、六九九	二五、五九三	四九八、三九三	一五六、三七四	八六、〇〇一	一四、三九五、〇五三
△八減	—	六一	九七	△一、五八〇	一〇〇、四〇二	四、九〇五	一〇、七五一	△一七三、九〇〇	△五〇〇	八五、五九三	五三六	△一二、三二〇	一二、八八七

（其ノ二）

州廳別＼種別	負債　出資金	貯金	準備金	各種積立金	未拂配當金	借入金	假受入金	其他	剩餘金	計
臺北	一、五三二、一一〇円	五、一四三、〇六七円	四九八、六九九円	一四七、三三三円	八、五六三円	九六、八〇四円	二五、七三四円	七、七一四円	三一六、六六三円	七、七六四、一八八円

新竹	二二五、三六五	九五〇、八九七	一二、七六一	五九、九八六	一、一五〇	—	四、〇八四	二、三八四	三八、三九二	[illegible]
臺中	二四九、五〇〇	六六五、五〇三	一〇八、五五七	五九、九二五	一、八八五	—	七五	二、〇三六	六四、五〇八	[illegible]
臺南	七九六、五〇〇	一、八八九、一五四	二九三、九〇六	六二、八四八	二、九三六	四五、五六六	五、〇〇四	一五、八二八	一八七、五六五	[illegible]
高雄	六一、六〇〇	三〇三、一〇五	四八、二七三	三一二	—	—	—	—	四、四九七	[illegible]
澎湖	—	—	—	—	—	—	—	—	—	[illegible]
臺東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	[illegible]
花蓮港	九一、四〇〇	一九三、〇八八	四一、三三〇	一九、〇六四	—	一六、〇〇〇	二、七九二	—	一八、〇八一	[illegible]
合計	二、九三五、四七五	九、一四三、八一五	一、一〇三、四一九	三四九、六〇五	一四、五三四	一五八、四五〇	三七、六九一	三六、四一四	六二九、六七九	[illegible]
前月末合計	二、九三三、五〇五	九、一六八、三三四	一、一〇一、八六六	三四八、五六二	一五、一四二	一五一、五六九	三五、四二三	三九、四〇八	六〇一、二五二	[illegible]
△ハ減	一、九七〇	△二四、五一八	五五三	八九八	△六〇八	六、八八一	二、二六八	△二、九九四	二八、四二六	二、八八七

（其の三）

種別 州廳別	貯金内譯 組合員貯金	貯金内譯 第一條第三項貯金	貯金内譯 第一條第四項貯金	貯金内譯 計	貸付金利率 最高	貸付金利率 普通	貸付金利率 最低	貯金利率 最高	貯金利率 普通	貯金利率 最低	借入金利率 最高	借入金利率 普通	借入金利率 最低	預ヶ金利率 最高	預ヶ金利率 普通	預ヶ金利率 最低	手形割引步合 最高	手形割引步合 普通	手形割引步合 最低
臺北	一、六五五、八七〇円	一、九三七、二四三円	一、五四六、九五三円	五、一四〇、〇六七円	四〇厘	三七厘	三七厘	三〇厘	一七厘	八厘	三二厘	三三厘	一八厘	三三厘	二四厘	六厘	三八厘	二四厘	二六厘
新竹	三八二、二〇四	四二五、二九五	一四三、三九七	九五〇、八九七	四〇	三五	二五	三〇	一八	一〇	—	—	—	二二	二四	八	—	—	—
臺中	一七一、九九二	四三五、五三三	五七、九八七	六六五、五〇三	三七	三五	一八	二三	一四	一〇	—	—	—	二五	二四	八	三七	三五	三〇
臺南	九一三、七七四	七七九、九六七	一九五、四一三	一、八八九、一五四	四六	三五	一八	二七	一八	一二	三二	二六	二四	三三	八	七	二八	二五	二三
高雄	一七九、九八八	六八、三八一	五四、七三六	三〇三、一〇五	四六	四六	二五	二二	一八	一八	—	—	—	二〇	二四	八	—	—	—
澎湖	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
臺東	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
花蓮港	一〇八、五三九	四四、一一六	四〇、四三三	一九三、〇八八	三七	三五	三五	二三	一八	一八	二五	二五	二四	一七	一七	一七	三七	三七	三七
合計	三、[illegible]一〇、三六八	三、六九〇、五二八	二、〇四三、九二八	九、一四三、八一五	四六	三七	三七	三〇	一八	八	三三	二五	一八	二五	二四	六	三八	三五	二六
前月末合計	三、三四〇、四三八	三、八〇一、九四三	二、〇二五、九四二	九、一六八、三三四	四六	三七	一八	三〇	一八	八	三三	二五	一八	二五	二四	六	三八	三五	二三
△ハ減	六九、九三〇	△一一一、四二五	一六、九八六	△二四、五一八	九六	—	—	△一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△六

▼手形交換高表（大正十五年十一月分）

所在地	手形枚數	交換金額	交換差額	交換枚數一枚ニ對スル平均金額
基隆	五、二四八枚	一、九四九、九五三円	四七八、八二四円	三七一円
臺北	二四、八八五	一〇、五七〇、一三六	三、五五六、三六五	四二四
臺中	二、六五八	二、四〇六、三八一	八五五、〇一五	九〇五
臺南	一二、七八一	二、九七六、七四九	九一六、四五三	二三三
高雄	四、五七六枚	一、七二二、三六六円	五七九、〇九九円	三七六円
計	五〇、一四八	一九、六二四、五八七	六、三八五、七五六	三九一
前月	四五、六六七	一八、三三九、一六二	六、一三四、九七七	四〇一
前年同月	四八、七六九	二一、〇六九、八三九	六、三七二、二五八	四三一

▼臺北物價指數表（昭和元年十二月末）

品目		本月	前月	前年同月
白米	（一）	二三二、五五	二五〇、〇〇	二五五、八一
玄米		二〇一、七五	二〇一、七五	二一五、七九
清酒		三二一、四三	三二一、四三	三二一、四三
麥酒		一七二、〇〇	一七二、〇〇	一六四、〇〇
紅酒		三三三、三三	三三三、三三	三三三、三三
澤庵漬		二一三、六七	二一三、六七	一四二、四五
小麥粉	（一）	一五六、六〇	一五八、四九	一八一、一三
砂糖	（十）	一三三、九二	一三〇、一九	一四一、八四
鰹節	（一）	二〇七、八一	二三八、九八	二三八、九八
味噌	（一）	一三八、四六	一四一、五三	一六一、五四
醬油		一五六、八一	一五六、八一	一七〇、四五
鴨卵		二三三、八五	二三三、八五	二五四、二八
火油		一三八、四六	一三八、四六	一七六、九二
鹽		一四〇、九一	一四〇、九一	一四〇、九一
煙草		一八〇、〇〇	一八〇、〇〇	一八〇、〇〇
烏龍茶		七九、六九	七九、六九	七七、七九
包種茶		一三四、四八	一三四、四八	一三七、九三
白木綿		一五〇、七九	一五〇、七九	一九八、四一
綿布	（一）	一三〇、一二	一三二、五三	一七七、一〇
洋紙	（一）	一六九、五六	一七三、九一	二〇八、六九
日本紙		二三三、三三	二三三、三三	二三三、三三
杉板		一六六、六六	一六六、六六	一六六、六六
杉材		一八七、五〇	一八七、五〇	一八七、五〇
洋鐵		一五五、二六	一五五、二六	一八四、二一
鉛		一五六、二五	一五六、二五	二〇〇、〇〇
銅		一三二、六五	一三二、六五	一三八、七七

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

煉瓦	二〇八、七〇	二〇八、七〇	二〇八、七〇
日本瓦	一〇〇、〇〇	一〇〇、〇〇	一一〇、〇〇
板硝子	二一八、七五	二一八、七五	一五六、二五
セメント	一八五、二九	一八五、二九	一七六、四七
燐寸	二三七、一六	二三七、一六	二三七、一六
石油	一四二、九五	一四二、九五	一六八、一八
石炭	一六二、五〇	一六二、五〇	一三〇、〇〇
木炭 (一)	二五三、三三	二六〇、〇〇	二四六、六六
薪	二五七、一四	二五七、一四	二二八、五七
平均 (一)	一八〇、〇七	一八一、五九	一八九、七四

備考 本表ハ大正三年七月ノ物價ヲ一〇〇トシテ計上セリ(+)印ハ騰貴(一)印ハ低下ヲ示ス

○平均指數五箇年對照表

月次	十五年	十四年	十三年	十二年	十一年
一月	一九〇、七九	二〇三、二三	一九一、八一	一九一、六四	二〇二、六一
二月	一九〇、九五	二〇三、三〇	一九一、九四	一九五、三三	二〇〇、一五
三月	一八八、三一	二〇〇、六〇	一九一、三三	一九六、〇六	一九九、四一
四月	一八八、二五	二〇〇、三二	一九一、五九	一九六、〇一	一九九、二五
五月	一八六、〇三	一九二、五〇	一九四、一六	一九五、二七	二〇〇、〇三
六月	一八五、二〇	一九二、八七	一九二、七六	一九五、〇七	二〇一、九二
七月	一八五、一一	一八五、一〇	一九一、六一	一九〇、八六	二〇三、八九
八月	一八四、六六	一九五、二七	一九二、九二	一九〇、三六	二〇二、五四
九月	一八三、三五	一九五、六三	一九八、三〇	一九三、〇四	二〇一、三三
十月	一八二、五四	一九二、三八	二〇二、四一	一九〇、三三	一九六、六一
十一月	一八一、五九	一九五、一六	二〇五、〇三	一九三、三八	一九七、三九
十二月	昭和元年 一八〇、〇七	一八九、七四	二〇三、三三	一九二、六六	一九六、四〇

○各年月ヲ一〇〇トセル本月平均指數

基礎年月	十五年十一月	十四年十二月	十三年十二月	十二年十二月	十一年十二月
本月平均	九九、一六	九五、四三	八八、三六	九三、四六	九一、六八

漢詩

恭讀朝見大詔　小松天籟

踐祚絲綸詔庶氓。宛如初旭放光明。諒陰視政古今異。應軼陶唐頌太平。

丙寅除夕　同人

不祭詩篇不揷梅。空齊兀坐涙霑顋。蕭條卒歲逢除夕。億兆胸前盡著緦。

丁卯歲旦　同人

龍馭登遐未一旬。普天率土涙痕新。泣書正月偏多感。滿月鶯花慘不春。

丁卯新年書懷　三星清陰

元日比常殊肅然。迂夫雖懶憚遲眠。世情僞雨非今雨。節物新年似去年。孤卓有煙香一炷。遠山無雪蕉連阡。鼎湖龍去堪悲悼。四海呼號動九天。

七十自述二首　同人

駒隙匆々歲月奔。堪驚犬馬齒居尊。幾人同榜多黃土。七十古稀眞格言。夙到教班功不著。晩移殊俗志猶存。切教兒子承前緒。此段聊酬罔極恩。

老境安閑寓市闤。何顏局促事耕漁。昏眸尙讀東西史。衰腕時模漢晉書。詩愛自然天籟語。酒知眞趣一杯餘。平生愛用惟如此。不讓陶家五柳居。

昭和二年一月元日偶作　神谷泳山 由道

慶雲無影曉蕭然。諒闇逢春齊魯天。噫我老齡同孔子。今朝七十有三年。

宸題海上風靜

西川萓南 [illegible]

一望波平杳渺間。布帆無恙入江灣。天涵水處朝曦出。
直照南溟萬壑山。

歲暮偶作

劉　篔　村

爐扇相催歲又終。依然故我尚無功。弟兄灼艾甘分痛。
文字何靈可送窮。漸遠眼光身入老。不輕酒量膽猶雄。
莫憂莫惑行吾素。天道原來自有公。

遊金剛山六十韻示同遊善郎

藤　溪　千　溪

佛典云金剛。以爲不壞義。善哉天人師。言大而理至。
箕邦有山號金剛。咸鏡江原分道二。中間南下七十方
里長。一面臨海涵蒼翠。時維丙寅七月出漢城。阻雨
元山津旅次。秋霖洗去殘午熱。客枕兩宵勞夢寐。曉
風特地拂積陰。乘晴登攀始得試。蹁躚白傳飛雲屐。
氣凌黃鶴摩天翅。此行掛帆取水路。疾到長箭舟相棄。
先著温井里。浴泉自淨身心意。横看側視立多時。其
眞面目識不易。谽谺碎确又縈回。一步一步造幽邃。
人間風日不到處。窮探更將發奥秘。攢峯一萬有二千。
多少樓臺古禪寺。自有此山以來幾歷刼。刼火洞然獨
雀躍。運斤開鑿鬼耶神。通力眞不可思議。眼前髣髴
開法界。華嚴般若觀所自。石橋板橋認借渡。天臺醫
廬一頭避。蓬萊皆骨無不佳。楓岳之勝冠四季。隕霜
十月小春候。想見夕照紅尤熾。須臾雲霧鎖又又開。
一月元間山相幾變異。崢嶸氣勢縹緲韻。李杜文章可
以譬。往傍寒霞溪。溪水淸澄洗詩思。無名野草空自
花。路上嫣向行人媚。第一萬物相。偉然造化何縱恣。
心胸我亦藏丘壑。誰令黃冠野服此中置暴惡夜叉面。
乃知貪饕似酷吏。窈窕玉女姿。恍訝天花成亂墜。其
傍列坐者大勢至文殊師利。上有天仙臺。危峭千尋凜
可悸。降憩萬相亭。一榻容我半餉睡。石泉槐火茶三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

碗。不用揮臑五千卷文字。翌詣神溪寺。參坐銷斷慾凝恚。大雄殿前層塔聳。無邊功德兩兼備。仰觀音大士。現一圓相照妙智。縱然被爲惡人逐。念彼合免墜落蹟。南指玉溪洞。仰止臺邊賞景致。渡缸過缸行觀瀑。飛鳳舞鳳難軒輊。竟到九龍淵。濺沫飛雨起涼吹。犇騰澎湃聲撼天。白日晦暝雲捲地。似聞出廣長舌。三千大千徧光被。浪高三級魚化龍。老我無復再會志。彌勒同一龕。翰墨三昧入遊戲。五十六億七千萬歲後。始而出世正法嗣。毘盧掛天日。屬最高寒之地位。翠微聞有王子墳。數行爲酒懷古淚。文筆千古存。聞幽久有巨靈遲。九原呼起柳永州。唱道天下作之記。結廬願住此山中。肯顧寶琴霞文帔。老來贏得鬆眉白。高風膽仰商顏四。去尋三日浦。桂樹仙遊可追企。寫眞再生何秀才。石寫颯爽寫憔悴。相送叢名亭。歸舟顧望頻臾背。馮夷亦學讀仙書。濤似咿唔柏巖筍。茲遊得神助。奇勝難復値。餘生暫安便。異境忘係累。歸來恐受家人笑。寶山空手奈無遺。奚囊只有詩。好喚兒曹示。烟霞夙供養。吟詠本耽嗜。碧紗享得籠壁。朝昏半醒又半醉。勸君且盡有限杯。隨緣須了一大事。應無所住身世悠。夢幻泡影眞如寄。

遊觀音山　劉文達

海門龍渡盡。山拱一觀音。莊嚴空色相。紫竹鬱成林。
徑險紆而仄。寺鐘聞遠岑。一到空門地。頓消塵慮襟。
花木淸且秀。禪房幽又深。嗟我世累多。人海久浮沈。
念當捐嗔欲。息影傍禪林。

次詠山仙史元旦偶作韻　伊藤壺溪

雁足追春至登然。虛堂生色別開天。移陶洗硯今猶舊。
詩敵棋讎新似年。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

俳句　孕江選

森の上射ぬき初めたる初日かな　美代子
一枚となりし歌留多に構へけり　同
椰子並木掃かれて清し初日影　紫水
着飾りて人美しき歌留多の座　同
一勝負つきてざよめく歌留多會　天章
なか〳〵に讀手上手や歌かるた　同
病む父の交りて初日拜みけり　豊仙
かるた讀む聲美しき婢かな　同
川霧のまだ晴れやらず初日の出　のぶ女
大勢に襖はづして歌留多かな　同
若水や星さむ〳〵と光りゐる　七星
初東風や榕樹に群れて目白鳴く　同
學校のテニスコートや羽子の音　曙園
萬歳の頰かむりして戻りかな　同
諒闇やひつそりとして三箇日　閑花
江ほとりの家鴨の群や初日影　同
湯浴して渡る廊下や庭紅葉　福洋
瀬の横ぎる道や瀧涸るゝ　同
若水の桶にうつりぬ曉の星　漁翁
海よりの初日大きく拜みけり　同
椰子林の霞うすれゆく初御空　歸去來
椰子の月俄かに曇り一と時雨　同
張替へし障子明るし松の内　唭村
大屯の嶺明りして夕時雨　同
戎克船並ぶ港や初日の出　蕃夢
歌留多會揃ひを待つ間一と勝負　やすし
あちこちに大聲あげて歌留多會　玉鳴
仄白く明けし社や初詣　苔花
初夢を切れ〳〵に見て語り得ず　意氣地
山腹の野宿テントや大焚火　獨遙
時雨るゝや又上げに行く四つ手網　光星
焚火してよもすがらなる法會かな　象山
夕時雨靜かに浸る温泉槽かな　再華
宵暗の戻る小舟に時雨けり　久路
時雨るゝや蓑笠つけし水牛番　明義

◎募集　四季雜詠（十句）締切毎月二十五日、投稿先、臺北市東門町九七　ゆうかり社宛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣日誌

自大正十五年十二月十四日
至昭和二年一月二十日

十二月

▼十四日
・新竹共進會終了
・高雄州水產會開催
・基隆四脚亭炭礦爆發

▼十五日
・全島各地に於て聖上御平癒の祈願式を行ふ

▼十六日
・臺北・臺南・臺中・高雄州協議會を開く

▼十七日
・臺灣總督府大正十六年度豫算發表

▼十八日
・上山總督葉山に天機を奉伺す
・田中軍司令官上京
・阿猴神社縣社に昇格す
・國語演習會高雄に開催さる

▼二十日
・全島稅務課長會議總督府に開く
・臺中州水利組合打合會開催
・專賣局樟腦賣價第二次引下斷行

▼二十一日
・聖上御少康の旨發表
・憲兵隊本部新築落成す

▼二十四日
・產業組合臺北支部會開催

▼二十五日
・聖上陛下　午前一時二十五分葉山にて崩御あらせらる
・皇太子殿下　御踐祚の式を擧げさせらる
・元號を昭和と改めらる
・各官衙哀悼式を行ふ

▼二十六日
・臺灣監獄令中改正公布施行
・五日間廢朝仰出さる

▼二十七日
・大行天皇御入船の儀行はる
・大行天皇御靈柩宮城還幸
・各銀行會社休業

▼二十八日
・朝見の儀行はせらる
・移出米新檢査法實施
・各官衙御用納式を行ふ

▼三十日
・後藤總務長官歸臺

昭和二年一月

▼二日
・臺中市に文化協會總會開催

▼三日
・山嶽會發會式觀音山に記念碑を建つ

▼四日
・各官衙御用始め式を行ふ
・消防組初檢閲を行ふ

▼七日
・上京中の上山總督歸府
・新竹州農會柑橘栽培講習會開催

▼八日
・各官衙勅語奉讀式を行ふ

▼九日
・臺東廳獻穀田鎭祭擧行

▼十日
・臺灣軍新入隊兵來臺

▼十一日
・後藤總務長官上京

▼十三日
・臺中分屯大隊入隊式擧行
・山砲兵隊入隊式擧行

▼十四日
・臺灣物產協會塗工講習會を開く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

・糖業聯合會嘉義に開催
・臺灣教育會評議員會を開く
▼十五日
・阿猴神社昇格報告祭執行
・臺灣礦業會理事會開催
・能高郡農產品評會埔里に開かる
▼十八日
・本山警務局長中南部視察
・總督府蕃地養蠶講習會を開く
▼十九日
・臺北市協議會開始
▼二十日
・總督府殖產局事務分掌規定改正
・高雄商工會評議員會開催

人事消息

▼磯中央研究所技師　十二月十二日歸臺
▼岡大藏書記官　十二月十六日內地へ歸還
▼富田財務局長　十二月十七日歸臺
▼水越府事務官　同上
▼古賀三千人氏(本誌評議員同上)
▼大賀碁作氏(同上)　十二月二十一日內地へ
▼坂本素魯哉氏(同上)　十二月二十二日歸臺
▼右田農學博士　十二月二十七日來臺
▼和田府事務官　十二月三十一日歸臺
▼田中軍司令官　一月六日歸臺
▼フォンセカ博士　同來臺
▼堀田內務省技師　同上
▼一戶秘書官　一月七日歸臺
▼加藤交通局技師　同上
▼竹屋秘書官　同上
▼富田財務局長　一月八日上京
▼田賀府技師　同上
▼平山寅二郎氏(本誌評議員)　一月十一日上京
▼色部府技師　一月十二日歸臺
▼永田隼之助氏(本誌評議員)　同上
▼高須時太郎氏(同上)　一月十六日內地へ
▼一戶秘書官　同上
▼三宅府技師　一月十八日內地へ
▼高木友枝氏(本誌評議員)　一月二十一日內地へ
▼林熊徵氏(同上)　同上
▼辜顯榮氏(同上)　同上
▼稻垣博士　同上
▼相馬半治氏　一月二十二日來臺
▼生野交通局總長　一月二十六日內地へ

任命

府報自第三千九百六十一號至第　十五號

▼十二月十三日
臺灣總督秘書官　竹屋春光
上山總督上京ニ付隨行ヲ命ス
▼十二月十六日
臺灣總督府中央研究所技師　帖佐涉
英領印度へ出張ヲ命ス
▼十二月十七日
臺灣總督府技師　關文彥
中央研究所評議會員ヲ命ス
臺灣總督府地方理事官　荒巻鐵之助
依願免本官(內閣)
臺灣總督府醫院醫官　原庸藏
花蓮港醫院長大井司不在中代理ヲ命ス
臺灣總督府醫院醫長　大井司
上京ヲ命ス
▼十二月十八日
臺灣總督府事務官　水越幸一
內務局地方課長ヲ命ス
臺灣總督府事務官　能澤外茂吉
內務局地方課長兼務ヲ免ス
臺灣總督府事務官　中田榮次郎

大正十一年大藏省令第十號ニ依ル預金部受拂計算表ノ檢閲官吏ヲ命ス

（各通）
臺灣總督府財務局長　富田松彦
臺灣總督府警務局長　本山文平

教科書調査會委員ヲ命ス
陸軍一等主計正　長廣謙次郎

市區計畫委員會委員ヲ囑託ス
臺灣總督府地方技師　穴澤顯治

海峽殖民地、英領香港及支那廣東、汕頭、廈門ヘ出張ヲ命ス
臺灣公立高等女學校長　塚本清吉

東京、大阪、廣島、岡山、鳥取、大分ノ二府四縣下ヘ出張ヲ命ス

▼十二月二十一日

臺灣總督府事務官　和田一次
歸任ノ途次福岡、大分、宮崎、熊本、鹿兒島ノ五縣下ヘ出張ヲ命ス

臺灣總督府師範學校長　志保田鉎吉
東京、京都ノ二府及福岡縣下ヘ出張ヲ命ス

▼十二月二十二日

臺灣總督府州事務官　草野義一
任臺灣總督府事務官

臺灣總督府事務官　草野義一
警務局警務課勤務ヲ命ス

▼十二月二十三日

臺灣總督府警視兼臺灣總督府警察官及司獄官練習所教官　中田秀造
任花蓮港廳長

臺灣總督府中央研究所事務官　中屋重治
任臺灣總督府州事務官

臺灣總督府地方理事官　岩滿重
任臺灣總督府中央研究所事務官

臺灣總督府中央研究所事務官　岩滿重
兼任臺灣總督府事務官

臺灣總督府警察官及司獄官練習所教官陸軍步兵中尉　木原圓次
任臺灣總督府警視兼臺灣總督府事務官

臺灣總督府地方理事官　鈴木秀夫
任臺灣總督府警察官及司獄官練習所教官

臺灣總督府地方警視　山本正一
任臺灣總督府地方理事官

臺北州警部兼臺灣總督府屬　遠藤喜三郎
任臺灣總督府地方警視

臺灣總督府屬　三浦新一
任臺灣總督府地方理事官

臺灣總督府臺北高等商業學校教授兼臺灣總督府稅關鑑定官　西村信一
任臺灣總督府稅關鑑定官兼臺灣總督府臺北高等商業學校教授

臺灣總督府事務官　草野義一
依願免本官（以上內閣）

臺灣總督府州事務官　中屋重治
補新竹州警務部長

臺灣總督府中央研究所事務官　岩滿重
庶務課長ヲ命ス

臺灣總督府事務官　岩滿重
內務局地方課勤務ヲ命ス

臺灣總督府警視　木原圓次
警務局理蕃課長ヲ命ス

臺灣總督府事務官　木原圓次
警務局警務課勤務ヲ命ス

臺灣總督府地方理事官　山本正一
臺北州淡水郡守ヲ命ス

臺灣總督府地方警視　猪俣一郎
臺北州勤務ヲ命ス

臺灣總督府地方警視　熊井才吉
臺中州勤務ヲ命ス

臺灣總督府地方理事官　酒井城
臺南州勤務ヲ命ス

臺灣總督府地方警視　遠藤喜三郎
澎湖廳警務課長兼澎湖廳馬公支廳長ヲ命ス

臺灣總督府地方理事官　三浦新一
臺北州基隆郡守ヲ命ス

▼十二月二十三日

臺灣總督府地方理事官　鈴木秀夫
任臺灣總督府警察官及司獄官練習所教官兼臺灣總督府事務官

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▼十二月二十四日

臺灣總督府總務長官 後藤文夫
(各通) 臺灣總督府財務局長 富田松彥

政府委員被仰付

▼十二月二十三日

臺灣總督府事務官 鈴木秀夫

警務局警務課勤務ヲ命ス

▼十二月二十五日

臺灣總督府警務局長 本山文平

文官普通懲戒委員ヲ命ス

▼十二月二十七日

和田眞

臺灣土木技師ニ任ス

臺灣土木技師 和田眞

高雄州土木技師ニ補ス

臺灣總督府財務局長 富田松彥

上京ヲ命ス

臺灣總督府事務官 中瀨拙夫

上京ノ序ヲ以テ福岡縣下ヘ出張ヲ命ス

臺灣總督府技師 土井季太郎

上京ノ序ヲ以テ大阪府下及鹿兒島、沖繩ノ二縣下ヘ出張ヲ命ス

▼十二月二十四日

臺灣總督府技師 色部米作

殖産局特産課長中瀨拙夫不在中代理ヲ命ス

▼一月八日

臺灣總督府專賣局參事 松下芳三郎

東京、大阪、兵庫、鹿兒島、和歌山、山口ノ二府四縣下ヘ出張ヲ命ス

臺灣總督府技師 田賀奈良吉

上京ヲ命ス

▼十二月三十日

臺灣總督府醫院醫長 本間喜代松

宮城縣下ヨリ上京ヲ命ス

▼一月八日

臺灣總督府事務官 長野維男

財務局長富田松彥不在中代理ヲ命ス

臺灣總督府事務官 中田榮次郎

株式會社臺灣銀行監理官富田松彥不在中代理ヲ命ス

▼一月九日

臺灣總督府師範學校長 大岩榮吾

東京府下及廣島、熊本、鹿兒島ノ三縣下ヘ出張ヲ命ス

▼一月十一日

臺灣總督府總務長官 後藤文夫

上京ヲ命ス

臺灣總督府內務局長 木下信

總務長官後藤文夫不在中代理ヲ命ス

▼一月十二日

東京帝國大學助教授 松野吉松

任臺灣總督府高等農林學校教授

臺灣總督府醫院藥局長 柳榮太郎

依願免本官(以上內閣)

臺灣總督府高等農林學校教授 松野吉松

臺灣總督府在外研究員ヲ命ス

一箇年間獨、英、佛、米ノ四箇國ニ在留スヘシ

臺灣總督府祕書官 一戶二郎

上京ヲ命ス

▼一月十三日

臺灣總督府技師 三宅勉

東京府及神奈川縣下ヘ出張ヲ命ス

臺灣總督府財務局長 富田松彥

臺灣中央衞生會委員ヲ命ス

▼一月十四日

休職臺灣總督府醫學專門學校教授 末盛進

復職ヲ命ス

▼一月十五日

臺灣總督府技師 三宅勉

玖瑪、ポートリコヘ出張ヲ命ス

臺灣總督府交通局參事 深川繁治

英領香港、支那北京、天津、青島、上海、厦門、汕頭、廣東及南滿洲、關東州、朝鮮竝下關、門司ヘ出張ヲ命ス

臺灣總督府祕書官 生駒高常

總督官房祕書課長一戶二郎不在中代理ヲ命ス

臺灣總督府法院判官 望月恒造
(各通) 同 宇野庄吉
同 金子保次郎
同 山田示元

臺灣總督府法院判官懲戒委員ヲ命ス

臺灣總督府法院判官 伴野喜四郎
(各通) 同 堀田眞猿
同 鈴木英男

臺灣總督府法院判官豫備懲戒委員ヲ命ス

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支那及南洋情報

臺灣總督官房調查課

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

目次

支那

北京新內閣成立……一
安國軍と國民軍との現勢……一
吳佩孚氏が提倡せる平民政治……二
陝西軍三路より中州へ進攻……四
革命北伐軍の實力增大……五
江西省財政の整理……六
八閩風雲の經過……八
北京に於ける人力車夫生活研究……一三

比律賓

比律賓の現狀及將來の施設に關する大統領特派使節トムソン大佐の報告……一八
比律賓時報……二〇
マニラ麻の品質低下に就いて……二三

佛領印度支那

一九二五年に於ける印度支那の海運及貿易(三)……三五

暹羅

暹羅の鑛業……三七

英領馬來

英領馬來の商業と貿易……四七

蘭領東印度

蘭領東印度の規那及規尼涅……五四
一九二五年度に於ける蘭印の輸出貿易……六一

其他

明年度の豫算に表はれたる佛國植民地の兵備……七〇
世界に於ける植民地列强の面積人口及密度比較表……七一

情報

支那

□北京新內閣成立

一月十二日の閣議に依り、顏惠慶を首班とせる全內閣員、杜錫珪の署理內閣、顧維鈞の署理內閣員全部の辭職を許し、新內閣員を左の如く確定し大總統令を以て之を發表せり。

外交總長兼署理國務總理　顧維鈞
內務總長　胡維德
財政總長　湯爾和
司法總長　羅文幹
教育總長　任可澄
農商總長　楊文愷
交通總長　潘復
陸軍總長　張景惠
海軍總長　杜錫珪

□安國軍と國民軍との現勢

西北方面　安國軍の萬福麟騎兵四個旅と第三・四軍三個旅とは包頭鎭を占領し五原より固原に亘りて駐屯せる馮玉祥軍を驅逐するため進擊中。

河南方面　國民軍劉郁芬の軍が洛陽を占領したとの報は確ならず。只澠池まで進軍して今は增兵中なり。吳佩孚と張作霖との關係は圓滿に行はれ、國民軍の河南進兵に對しては安國軍の援助を俟つの要あり。一方信陽から鄭州に向ひつゝある新雲鶚軍は其の後積極的には進み來らず。

津浦線方面　褚玉璞は徐州に在り。直魯聯軍は揚子江以北に、孫傳芳は江以南に在りて浙江の一部なる南軍を攻略中なり。但し南昌の蔣介石軍は總勢約二萬を以て對峙し双方未だ積極的には進攻せず。

之を要するに安國軍と國民軍とは各戰線とも滿を持して形勢を觀望中なれば、多分舊正月明でなくば双方とも積極行動には出でざるべき歟。（一月十九日—上海日々）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

□呉佩孚氏が提倡せる平民政治

呉氏の中國建設大綱の緒言　赤黨毒を流して邪説を放佈にし、党に第三國の指揮に服從し、ボロヂン•カリンを奉じて統監と爲し、到るところに破壞を企てゝ城市に横行し、人民を捕戮し、民情惶々として亂機四方に伏し、猖獗に任せて救濟せず。中國將に滅種に瀕せんとす。其の所謂帝國主義打倒とは實は帝國主義の前驅たり。民黨政治は公開と容納との精神を具有すべし。されば一黨の專政は世界の許さゞる所と爲す。乃ち赤黨の政に當るや絶對に他方の權力の內に在るを許さず、言論を箝制して黨化を歸とす。自ら三民主義を言ふも實は民權を戕賊し民生を破滅するなり。佩孚は赤焔の日々に張り、國是の益々紛たるを痛み、改革を定めて蔓延を制するに適當なる主張を發表するに非ざれば以て適從する所を示す無し。爰に平日の政見を國家主義に本づけ、參するに社會政策を以てし、政綱を草して全國に通告す。邦人君子幸に之を教へよ。

中國建設大綱

(甲) 政治に關するもの。

一、平民政治を發揚す。
二、全國の統一を促進し强固なる中央政府を成立す。
三、五色の國旗を擁護して五族共和の政體を鞏固にす。
四、積極的に人民の財産權と法賦の自由とを保護す。
五、地方軍政長官の制度を廢除し、武人の政に干かるを禁止し法治の精神を貫徹す。
六、省區を縮小して行政の便利を謀る。
七、地方自治の規模を確立す。
八、市政の進步を籌畫し並に督促す。
九、一切不平等の條約を廢除し或は修改す。(中比•中西•中日•中法諸約の修改或は重訂の如き、必ず須く力爭すべく、關稅會議•司法會議に至りては尤も應に早きに及びて促成して、關稅協定•領事裁判權を取消すの目的を達すべし)
十、官吏考試法と保障法とを施行して吏治の澄淸を期す。
十一、肅政院を設けて不法の官吏を糾察彈劾す。
十二、職業選擧制を提倡施行す。
十三、罷官制•複決制と直接提案制とを提倡施行して平民政治の現現を期す。

(乙) 經濟に關するもの。

一、關稅自主を恢復す。
二、保護貿易政策を施行す。
三、國稅•地方稅は宜しく妥に劃分を爲すべし。
四、一切不正當の雜捐苛稅を廢除す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

五、財政整頓辦法を妥籌す。（税制改良・預算・決算と審計法との切實施行及內外債の整理等の如き是なり）

六、鐵道郵便電信森林等の大企業は宜しく國有に歸せしめて資本家の壟斷を豫防すべし。

七、勞働法を妥定して勞働者を保護し、勞資衝突して實業の發展に波及するを豫防す。（童工婦人保護法・八小時法・工廠衛生法・適當工價法・恤養金法及各種社會保險法等の籌定施行の如き是なり）

八、勞働者合法の團結と活動とを奬勵指導して其の生活の改良を謀る。

九、職業紹介制度を妥定して無業者の多きに過ぎて社會の安寧秩序に危及するを免れしむ。

十、積極的に各種の交通生產事業を興辦す。（國道・鐵道・電信・無線電信・生糸・開墾・開礦等の如き是なり）

十一、航業を促進し內河交通を便利にし海外貿易を發展す。

十二、幣制の改良劃一辦法を妥籌す。

十三、遺產累進稅と所得累進稅制を妥定して貧富の調劑を謀る。

十四、地價累進稅制を妥定して力を勞せざるもの、獲得率の過大なるを過制して、民衆の負擔を輕減し竝に實業の發展を助く。

十五、物價調理の辦法を妥定して奸商を防ぎ平民を利す。

十六、日用必需品稅を輕減し奢侈品娛樂品稅を增加して負擔を平にし平民を惠む。（米・鹽・布疋・石炭等は日用品・煙・酒・舶來・戯館等は奢侈品・娛樂品）

十七、農民の組織を輔助して其の經濟利益を謀る。（農會及各種合作社等の組織）

十八、國立農業銀行及地方農業銀行の辦法を妥籌し低利率を以て農民に貸金して農業の進步と農民生活の高上を謀る。

十九、國有森林を培植す。（木材を儲蓄し營造に供給す）

二十、國家より提倡し竝に屯墾移民事業を輔助す。

二十一、產業登記法を實行す。（房屋・土地・工廠・商店等）

（丙）軍政に關するもの。

一、全國の軍隊は應に中央の直轄に歸して私有の流弊を杜絕すべし。

二、裁兵辦法を妥籌す。（移兵・屯墾・修路等の如き是なり）

三、國軍の兵額は應に政府より國會に諮交して之を決定すべし。

四、國防計劃を按照し駐軍の區域を劃定し、指定の區域外に於て軍隊を駐めず。地方の治安は警察を以て之を維持す。

五、新軍制を施行し、全國に陸軍四十師を編成し、兩師を以て一軍を編成す。即ち軍を以て戰略の單位と爲し、對外作戰の時を俟ち、再び若干軍を以て若干軍團を編成す。其の國家に勳勞あるものは宜しく別に軍事機關を組みて之を容納し、竝に優に俸給を與ふべし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

六、社會生活の程度を按照し軍士の薪餉を斟酌増加すべし。
七、兵工制を施行す。(平時に於て兵士をして植林・修路及其他の職業を學習せしむ)
八、軍官教育を推廣し竝に改良す。
九、徴兵制を籌備施行して徴兵區域を劃定す。

(丁)社會に關するもの。
一、救貧事業を補助し竝に救貧制度を安定す。
二、監獄改良及感化事業を提倡す。
三、兒童の幸福事業を舉辦す。(貧窮・殘廢兒童の救助と教育等)
四、鴉片及嗎啡等の毒劑を嚴禁す。
五、人身買賣を嚴禁して根本的に蓄妾制度を剷除す。
六、農村の改良辦法を妥籌す。

(戊)教育に關するもの。
一、宜しく國家主義の精神に本づき、國家教育政策を規定すべし。
二、教育行政を整頓す。
三、積極に強迫國民教育を施行す。
四、小學は宜しく費を免除すべく、大學及研究院の學費は宜しく力めて輕減を求むべし。貧寒の優秀學生に對しては亦宜しく補助辦法を妥籌すべし。
五、教育經費の獨立を保障す。
六、文化事業を奬勵し竝に補助す。(圖書館を推廣し、科學館・美術館・博物館を籌設し、科學家優待の辦法を妥定し、及び一切教育學術事業を資助するが如き是なり)
七、小學教員の薪俸を增加す。
八、中學以上の學校には軍事體操を實行し、竝に武技練習を提倡す。
九、留學生派遣政策の改定。
十、力めて教育權の收回を謀つて外人文化上の侵略を抵制す。
十一、積極的に專門教育を整頓す。
十二、職業教育を提倡す。
十三、專門畢業の學生に對しては、應に政府より妥に職業紹介の辦法を謀るべし。
十四、女子教育を提倡す。
十五、各種社會平民教育を提倡して教育の普及を期す。

(一月十三・十四・十五日―順天時報)

□陝西軍三路より中州へ進攻

聯軍の前線は靈也にあり [illegible]

新安に退き、聯軍の前線は澠池に在り。(澠池は觀音堂の東三十八支里に在り) 張治公の部四千人、及び劉鎮華軍二萬人にて扼守せり。之に對する國民軍の大部は已に硤石驛に集中し、其の日の内に總攻擊令を下し三路に分れて洛陽を進攻せんとし、其の衛鋒隊は現に觀音堂の西方五支里に於て集中し、後方より軍火の接濟を待ちつゝある。而して郭實瑚・衛定一・弓富魁の各部はたしかに黄河南岸に沿ひ洛河に向つて前進しつゝある。聯軍は愁玉珍の新鋭兵四團を以て鐵門(澠池の東五十四支里に在り)の北部に在りて防守せるが、國民軍が若し再び積極的に猛攻せば卽日にも河南の西部に劇戰發生せん。南陽に向ひ樊鍾秀と聯絡を圖るの楊虎臣部二千人は已に寶豐縣(賒旗鎭の北一百五十支里)に到着したと傳へられ、同縣知事は鄭州汴州に打電して急を告げたので、吳佩孚は十六日に方城の徐壽椿・葉縣の陳金釗各師長に急に出で、之を覆滅せしむべく打電した。而して樊鍾秀の大部約一萬六千餘人は京漢線郾林から南陽に進發し、連日賒旗鎭(鎭は南陽縣東九十支里に在り)一帶に向つて進展し徐壽椿部と時々激戰あると聞くが、樊鍾秀部と國民軍と聯絡後は河南西部の局勢は變化を發生するを免かれざらんを恐る。尤も援陝直隸軍王爲蔚(字笑予)王維城(字少蔵)等は出發軍費なき爲め未だ移動せず、信陽の田維勤軍も種々の困難ある爲め尙ほ陝西に向ひ進む能はず。爲めに籌餉督辦張英華は吳の命にて軍費五十萬元の調達中である。又別の消息に依るに河南西部の戰事は現に張治公の主持する所で、柴雲陞の軍隊が澠池を守つて居たが、隴海線路に紅鎗會が紛起したので、澠池は張治公の張汝成一旅之に加入して防禦を助けることゝなつたから、柴部は永寧に赴いて郭實瑚部を阻止し已に接觸を生じ、澠池一帶は從前に比し緊張し來り、王爲蔚も吳の軍令を奉じ已に十六日西方に向ひて進攻し、田維勤部も十八日正に信陽に集中中である。

(昭和元年十二月二十五日—新聞報)

□革命北伐軍の實力增大

北伐軍は出動以來湖南・湖北・江西・福建の四省を征服し、貴州・四川の二省の降服を容れて軍隊の數は今や數倍に增大した。今北伐軍及これと同系に屬する軍隊につき調査するところによれば、其の實力及び駐屯地點等は左の如くである。

軍隊名	長官	實力	駐屯地點
第一軍	何應欽	五師外三團(三萬人) 一師 三師	江西 福建
第二軍	譚延闓 魯滌平	四師(二萬人)	江西
第三軍	朱培德	三師(一萬六千人)	江西
第四軍	李濟琛	四師(二萬人)二師最近十五萬人增加	江西
第五軍	李福林	二師(二萬人)	廣東
第六軍	程潛	三師(一萬八千人)	江西
第二十三軍	劉成勳	三師七旅(四萬五千人)	四川

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

第二十四軍	秘		
第二十五軍	周西成	六旅外一團（一萬三千人）	貴州
獨立一師	缺		
獨立二師	賀耀祖	四旅三團（一萬一千人）	江西
獨立三師	張貞	五團（八千人）	福建
暫編一軍	秘		
暫編二軍	袁家驥	四團（六千人）	河南
海軍處長	潘文治	軍艦七 砲艦九	廣東
駐閩海軍陸戰隊	林壽昌	兩混成旅 一獨立團（九千人）	廈門
航空軍	柯洛天	戰鬥機四十 偵探二十 運送機十二	各省
西北一軍	馮玉祥	二師（二萬人）	包頭
西北二三聯合軍	于右仁	四師七旅（三萬七千人）	陝西
西北四軍	缺		
同五軍	方振武	一師一旅（二萬人）	同上
同六軍	弓富魁	二師三旅（一萬三千人）	同上
西北特一軍	鹿鍾麟	一師一旅（九千人）	甘肅
同二軍	李鳴鐘	一師（八千人）	同上
同三軍	宋哲元	一師一旅（九千人）	新疆
西北特四軍	劉郁芬	一師（七千人）	甘肅
第七軍	李宗仁	十旅外三團（四萬人）	廣西・湖北・江西に分駐す。
第八軍		五師五旅十團 共四十團（六萬人）	湖南・湖北に分駐す。
第九軍	彭漢章	五旅（一萬人）	湖南西部
第十軍	王天培	五旅（一萬四千人）	同上
第十一軍	陳銘樞	六旅（一萬八千人）	江西（方本仁軍）
第十二軍	任應岐	（一萬四千人）	河南（吳軍の如し）
第十三軍	李振亞	（一萬四千人）	同上
第十四軍	賴世璜	三師（二萬人）	福建
第十五軍	劉佐龍	三師（一萬五千人）	湖北
第十六軍	范石生	四師（三萬六千人）	百色及び滇邊
第十七軍	譚曙卿	二師外三團（一萬人）	福建三獨立團
第十八軍	繆（?）		
第十九軍	秘		
第二十軍	楊森	五師二旅（五萬四千人）	湖北西部
第二十一軍	劉湘	五師四旅（四萬人）	四川
第二十二軍	賴心輝	四師三旅（四萬人）	同上
西北後防軍	韓復渠等	三師二團（一萬九千人）	包頭新疆

□江西省財政の整理

蔣介石江西に到るや首として財政委員會を組織し、經濟學に長ぜ一る龔飛鵬を主任とし、王恒・賀揚・袁緒照・盧道南・王鎮寰・姜伯彰等を

委員として、積極的に省財政の整理に當らしめ、全省毎年の收支概數及び負債の實數等を精算せしめたり。

收入項　（一）中央に屬する者には關税約六萬元。烟酒税約三十萬元。印紙税約八萬元。鹽税約一百十萬元。鎢砂硝磺等の税約四十萬元あり。

（二）本省に屬する者には　田賦約五百萬元。統税約三百四十萬元。正雜各捐約十三萬元。雜項收入約四十五萬元。屠宰税約三十一萬元。鹽牙帖税約十萬元。捲烟捐約十六萬元。契税約二十六萬元。鑛税約一萬四千元。貝殼税約一千五百元。內地商捐約九十七萬四千元。

以上二筆收入統計約一千二百七十餘萬元。

又各地方公債基金に屬するものに二種あり。

（一）十年公債基金　販商補助費約六十三萬元

鹽斤食物捐約八十四萬元

淮商報效捐約　二十萬元

統税一五抵補金約四十五萬元

（二）十四年公債基金　鹽斤臨時捐約八十四萬元

統税二成附税約六十萬元

出口米捐　約七十六萬元

合計二項收入　約四百三十三萬元

右は概ね地方公債局より保管す。

支出項下　（軍費を除外して餘の支出）

教育費　約一百二十六萬元

行政費　約三百十六萬元

司法費　約　三十八萬元

實業費　約　十八萬元

外交費　約　二萬二千元

統計約五百萬零二千元

負債　分つて二種とす

（甲）江西地方銀行借款約二千一百餘萬元

中國銀行幣制借款約一百七十萬元

日本臺灣銀行借款及未拂利子日本金百七十餘萬元

上海古河公司借款規元二萬餘兩

本省各銀行錢莊借款約四十萬元

共計　約銀元三千五百萬元

（乙）十年公債（已に拂濟のものを除きたる外）銀洋五百四十五萬元

十四年公債　一千萬元

共計負債額　五千萬元以上

故に財政委員會もあまり負債と不足の多きに恐れ、毫も取扱法を見出す能はず。只開議研究の結果暫く現狀を維持するのみとなり、江西省從來の各種捐税に對しては仍ほ從前の如く一律に取り立て、並に昨日第一次會議を開いて（一）各統税局及び各項雜税は一律に投

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

票により商人をして受頁を爲さしめ、所有各軍長の委任せる人員は一律に取消すこと。(二)江西銀行の鈔票は商會及各金融機關團體より自ら妥當なる取扱法を設け、政府は極力之を維持して市面の現狀を保つこと。(三)江西銀行再び鈔票を發行することを許さず。所有公私の預金は學校及慈善團體を除くの外は暫時取出すを許さず。(四)中央銀行兌換所を設け十一月二十五日より現金兩替を行ふこと。(五)毎週火木土の三日に一回づゝ開會すること。(六)各徵收人員にして貪贓枉法の徵、百元以上に上るものは死刑に處す。(七)總司令に出願し各機關に命じ臨時豫算を造つて送り來らしむることを議決せり。(民國十五年十一月二十日―南昌消息)

□八閩風雲の經過

張毅部隊の改編　張毅は部下の軍隊一萬人を率ゐて去る十一月三十日より福州の南鄕なる瓜山一帶に據り、頻りに海軍陸戰隊や國民黨軍獨立第四師團張貞の部と戰ひ、其の敗る所となつて居たが、同十二月九日に至り、黨軍東路總指揮何應欽軍の永泰に軍次（イクサヤドリ）せる時、委員を派遣してこれに降參を勸めたので、張毅は孤軍支へ難きが上、各部の糧食も給養困難なるを感じ居る關係上、遂に無條件降伏改編を願ひ、十二日張親しく其の軍を率領し、瓜山から永泰に赴き、十三日全部葛嶺に到着した。何應欽はかくと知るや預て所部の第一軍に命じ四圍の山頂に機關銃や大砲を配備させ、張軍の到着するや直ちに其の武裝を解除し、一人につき饅頭二つと大洋二元づゝを與へ、別に上中下級の各官を派遣し點檢を行はせ、强健なるもののみを選び出して隊伍に編入し、弱者は別に方法を設け原籍に返るべく便宜を與へた。入隊者の人數はすべて六千二百人あつて皆新式連發銃を持つて居る。此の外七サンチ大砲九門・追擊砲八門・機關銃二十餘挺・大小子彈二百餘箱あり。何應欽軍長は張部を錯綜して五團に編制し、譚曙卿・杜起雲・張貞・海軍の四團の外特種兵一團を已が麾下に隷せしめんとの意であつたが、張毅を始め各軍官並に下士兵曹等は皆海軍に隷屬するを肯んぜざる爲め、事實上只四團を編制し得たのみである。かくて張毅及び旅長李芳池・田寶發・團長張順等は何軍長より人を派し之を護送し莆田に到り、汽船を以て上海へ送り返し、前に張毅の爲め俘にされた海軍陸戰隊參謀蕭玉璋及び軍官十一人と兵曹七十餘人は皆釋回され、海軍江貞・江利の二艦に分捕りされた肇興汽船中には張毅及び各軍官の眷屬と現銀四十萬元、並に兵工廠機器の全部、大砲三門・子彈一千餘箱等があつたが、各軍官の眷屬は已に放ち遣り、其の餘の一切は皆海軍で沒收した。かくて十二日海軍陸戰隊第一團林志棠・第三團林壽國の二部は馬江に赴き、特別團黃懋和の部は南臺中洲の海軍公所に移駐して閩南一帶の治安維持を擔任し、楚同艦はやはり大橋下に碇泊し、江元・楚觀・通濟等の諸艦は已に南港

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

から馬江に返り、第二團唐岱岙の殘部は倘ほ流沙に駐屯せるも唐團長は戰死せるを以て邱營長が代つて團務を取扱中である。又海軍警備司令陳季良は第一團を厦門に赴かしめ第三團を連江へ移らせんと思つて居たが、林氏二人共之を顧はざる爲め、第一團は現に馬尾の海軍聯歡社に、第三團は舊道頭潮江樓茶室に駐屯して居る。十三日海軍陸戰隊旅長林忠は工程隊一連を南郷に遣はし戰士の屍骸を改め埋めさせた中に張毅部の官長兵曹兵卒の屍骸三百餘、張貞部及び陸戰隊の屍骸各四百餘、郷民の屍骸七百餘あり。中にも婦女子の屍骸が多かつたのは、皆强姦されて縊死したもので、瓜山附近の大榕樹に二十八人の婦人が縊死して居るのを見ても其の慘狀を想ひやるに十分である。陸戰隊第二團々長唐岱岙の屍骸は澤苗郷の田の中で發見され、南臺上北館に棺を置き、司令部より喪費一千元を送つたが、張毅軍に奪はれて殘す所もなし。一切の罹災民は商組合の組織せる臨時兵災急賑會で賑恤することゝなり、省城南臺へ逃げ來つた被難民は同會から郷土へ送り返され、其の陸戰隊を助けて張毅を攻めた獨立第四師團長張貞部の葉團は出發して省城に來り、民軍孫國鎭の部は甘蔗に向ひ出動した。是に於て南郷の戰事はともかく一段落を告げるようになつた。

閩籍の第十一混成旅の海軍編入　第十一混成旅團はもと閩籍軍隊なれば、事前に黨軍と妥協の打合せがなかつたので、將樂方面に居た第一團沈珂全部は黨軍曹萬順及び賴世璜の兩部に武器を押收され、又省城なる其の旅團部も黨旗を掛けることの餘りに遲かつた爲め、亦繼いで國民軍第三第四の各師團の兵により哨兵の銃器武器を押收され、同時に其の旅團司令部員竝に同旅長王麒を驅逐した。勿論王麒は今正に何應欽と交渉中である。又同旅團で福寧に在留して居る第二團沈國英部は黃勝標・蔣啓鳳部の壓迫を受け全部寧德屬の三都島に集中しながら危險に瀕しつゝある爲め海軍方面に向つて打合せ改編を請うたので、閩厦海軍警備司令部から同團を編入して陸戰隊第一混成團と爲し、沈珂を團長とし沈國英を副團長とした。されど實際は其の兵數兩營にだに及ばれば、海軍警備司令部ではそれを改めて混成團とした後馬江に招兵處を設けて新兵を募集中である。随つて第十一混成旅の名は遂に消滅した譯である。

黨軍福寧に向つて黃蔣を追擊　黃勝標・蔣啓鳳の二部隊は福寧に逃げ入りながら李生春からの招降を拒絶し、福安から福鼎を經て浙江に入らんと決意し居るを以て、福寧に駐屯し居る第十一混成旅第二團沈國英部はその壓迫を受け全部三都島に退避中である。福寧なる各界は黃・蔣兩部の掠奪勒索を心配し急電を省城に寄せて訴ふる所があつた。何應欽軍長以爲へらく、同二部がもし浙江に入らずして閩北の松政に入り同地の周陸人部と結合したならば、閩北の軍事は仍ほ必ず嚴重なる態度を生ぜんと。遂に昨十九日國民革命軍獨立第三師第一團々長林叔桐に八百人を率ゐ、李生春部軍隊六連と合し

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日を定めて出發して福寧に向ひ追擊を掛けさせ、同時に水道を取り直ちに寧德に趨きて上陸し至急に捷を奏せしめたので、同團は二十日朝出發した。海軍の江元・江利の二艦も陸戰隊一團と共に二十一日水陸二路から第三師團の後を繼いで福寧に赴き援けさせたといふ。

陸戰隊擴充に關する爭執　海軍陸戰隊が今回張毅軍を擊ち留めた爲め、何應欽軍長は陸戰隊第一團々長林志棠を國民軍第一師々長とし、第二團々長唐岱峯を第二師獨立團々長とし、林壽國を第三師々長とし、特別團々長王懋和を第四師々長としたに拘らず、陸戰隊旅長たる林忠を其の儘になし置いたので、林及び陳季良は遂に大反對を唱へ、林志棠等も皆就職を肯じないに至つた。馬江消息によるに、陳と林とは從來李烈鈞と相談し陸戰隊を擴充して一軍と爲し、之を海軍陸戰隊第一軍と名け、該軍下に二個師團を設け、林忠と林壽國とを師長とし、唐岱峯は戰死したので、其の第三營々長金振中を團長に陞せ、林志棠・黃懋和はやはり團長とすることに相談纏り居る由で、軍長には陳季良が兼任を命ぜられるのであるといふ。

林知淵は省城警備司令とならん　閩海軍と黨軍との共同行動には林知淵が奔走盡力したので、馬江海軍會議の結果、林を省城警備司令とすることに議定され、李烈鈞も亦林を有用の才と認め何應欽に向つて推薦方を依賴したといふ。警備隊の兵數は三千人で、林氏は命令到着後就職し、某部民軍と相談を遂げ、之を同部に收錄させ、其の不足の兵數だけは閩省內で增募の筈である。

閩北なる周蔭人部の近狀　閩北なる周蔭人部は已に古田・屛南・浦城・崇安を棄て去り、小部分は仍ほ建陽・政和に在るも、其の大部隊は已に松溪に集合し、半數は早くも浙江省の溫州・仁元・慶元に入り、其の未だ浙江に入らざるものは共計尙八千餘人あり。周蔭人及び江運珠・吳大洪・李鳳翔・孫雲峯・王炎等の各旅長も皆此の中に在りと聞く。されば閩北にある黨軍賴世璜全軍及び曹萬順一個師・盧興邦一個師・郭鳳鳴一個旅は目下已に聯合軍を組成し政松・松溪方面に向つて追擊しつゝあるが、途中尙ほ周部の潰兵甚だ多きを以て搜索に疲れ行軍遲々たりである。盧祥夫の報告及び地方善後の辦法や、賴世璜部第六師々長戴岳の電報によれば、十三日頃周蔭人所部の衞隊旅及び孫雲峯部の第一混成旅・竝に第二十九混成旅・第五旅等の一部分は浙江に逃げ入り、小數のみ松溪に留り居る由である。又蘇埏旅も民軍の追擊を受けて少部分逃脫したものありしといふ。

各國軍艦を派して居留民を保護す　福州政變の後各國領事は皆居留民の生命財產を保護せんが爲め、各北京駐在公使に打電し軍艦を派し福建に來りて保護せんことを求めたので、現に馬江碇泊の外國軍艦には、(一)日本の驅逐艦葵は臺灣より馬尾に入り、(二)米國驅逐艦ハートは上海より來り、(三)佛國の砲艦アゴルも同じく上海より來つた。殊に日本及び米國の軍艦は陸戰隊四百人を載せ、馬江から小船に乘り換へて南臺で上陸し、倉前山泛船浦一帶に住居せる各國居留民を保護しつゝある。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

福州各界の李烈鈞等三人歡迎　國民黨政府は今回特に李烈鈞・方聲濤の二氏を福建に派遣し機を見て時局の整理を行はしめ、又特に福建人丁立夫を派して福州で黨務を進行させたのであるが、李・方・丁の三氏は期せざるに馬江に相逢ふこと、なつた。同三氏は民黨の巨子であり、各界人士は其の顔色に接したい希望盛なるを以て、軍界は李生春が代表し、政界の鄭烈、商界の羅欽堯、學界の吳實翰等各其の所屬の代表として、十四日馬江に赴きて三氏の入城を歡迎し、十五日入城と決したので、各界遂に福州の西湖公園の紫薇廳を假りて歡迎會場とし、同日午前李生春は各界代表を同伴して臺江汎に赴き伺候したるが、三氏は午後二時内外始めて馬江より小汽船にて臺江口岸に至り中洲の海軍公所に入りて暫く休憩しつ、あつたのを李生春等親しく該公所に至つて面晤の上特別汽車にて之を西湖公園に歡迎し盛大なる式を行つたが、席上李・方等の演説があつたといふ。

何應欽の福州入城　何應欽は十五日入城の筈であつたが、張毅部隊の改編の爲め去沙方面に滯留し、改編畢つて後海軍警備司令陳季良の代表林知淵の請を受け同道して南鄉を經、汽船にて馬江に至つた。海軍全隊は海軍聯歡社で歡迎會を開いた。何氏は先づ其の政治部主任何玉書を福州に入り普く各界と打合を爲さしめ、同時に黨軍第十四師第四十・四十二の二團及び第一補充第四十三團、並に總指揮部の衛隊二營を福州城に入らしめ、何氏自身は打合せ畢りて後直ちに入城することゝしたのである。福州各界の人士は數日前より何氏の歡迎會開設の準備を爲し居り、何氏入城の確報あつて後臺江汎から各大通りに達し舊督辦署に及ぶまで粧飾し双門樓・鼓樓前大橋頭一帶には皆イルミネーションを施した。十八日何氏が馬江より來復、午後一時馮軼裴・譚曙卿の兩師長及露國顧問と同道、西門より入城し、先づ南公園内に至つて各團體と面會し、轉じて舊督署であつた東路總指揮部に赴いた。此の時各歡迎隊の集るもの六十餘隊あり、人數一萬人以上に達す。此等人衆は隊を整へて總指揮部に赴き各歡迎の誠意を表した。時に各路國民軍代表並に盧興邦の代表楊愚谷・獨立第三師代理師長林壽昌等も亦皆到著した、隨つて總指揮部政治科買科長は大衆に向つて説明を與へ、須臾あつて何氏は露國顧問加萊氏と同道して頭門に至り一禮したるに歡迎の奏樂あり。畢つて後何氏は衆に對して演説して云く、今日諸君の歡迎は余としては殊に當らず。只諸君の歡迎は國民政府を歡迎するのであつて、卽ち國民革命の歡迎が眞正の目的である。今や中國は帝國主義者及軍閥の壓迫を受け民窮し財盡きたるを以て國といふも殆んど國を爲さず。又種々不平等條約の束縛を加へ中國をして第二植民地に沈淪させた。今之が解放を要求せんには起ちて國民の革命を爲すに非ずんば不可である。當革命軍は此の主旨を抱き居れば、農工商學兵の各界人士は聯絡して起ち共同して奮闘あらんことを望む云々と。是に於て遂に高聲に口號を唱へ群衆歡んで散じ去つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

蔣介石は入浙軍を第十四・第十七の兩軍とす　第十四軍賴世璜・第十七軍曹萬順は現に閩北に出征中で、第十七軍の第二師杜起雲部だけは福州に殘り居るのである。蔣介石は十六日に福建に打電し、右の賴・曹兩軍に命じ速に浦城から浙江に入らしめ、閩北未了の軍事は盧興邦に擔任せしめ、盧を閩北指揮官とし、又何應欽の請求により郭鳳鳴を國民革命軍第五師々長に任じて盧氏の指揮下に屬せしめた。

入浙軍隊の分配　何應欽は福州到着後庶務の整理緒に就くを俟ち、直に所部を率ゐて上游に赴き進んで浙江を攻むる計畫あるを以て、已に閩省民軍參謀關宋淵源と打合せ一切の民軍を九路に分ち、之を浙江攻の先鋒と定めた。卽ち第一路司令は盧興榮・第二路司令は高義、第三路司令は吳威、第四路司令は楊漢烈、第五路司令は陳國輝、第六路司令は葉定國、第七路司令は高爲國、第八路司令は盧興明、第九路司令は黃國華といふ順序である。されば陳國輝が倘南安に在つて隊伍を收集し盧部が上游に駐り居るを除く外、其の餘の各軍隊は皆出發し、高義・楊漢烈は已に進んで閩淸・水口に駐り、吳威・葉定國・高爲國・黃國華は西鄕に進駐した。但し泉州の高義部及陳淸淇・洪英民等の部は泉州で不法行爲あり、紀律を守らざる廉を以て、何應欽は甫田より馮軼裴の第一師を派し泉州漳州に歸つて駐紮せしめ、同時に各該部を解決して民の患を解くことにした。

李烈鈞の福建省に對する政府組織の大略　福建は已に黨の政治に歸したけれど海軍側が蔣介石に向ひ福建省を海軍自治省とされたしとの請求を爲したる關係あり。其の情形は頗る湖南・湖北・江西の諸省と異るを以て、黨政府より特に李協和(烈鈞)を派して福州に至り情形を見て後省政府組織竝に今後福建海軍待遇の解決に關する諸大重要問題を決定せしむることゝなつた。かくて李氏は福州に到着、福建海軍の實力はあまりに弱き爲め目前としても全福建を限り自治を付與し難きを認めたので、其の省政府を組織するにも委員制を採用し、其の下に軍務民政等の六廳を設くべきを決意した。卽ち十七日李氏は已に己が擬定した省政府組織の大略竝に豫定した各委員の姓名を何應欽に送付して參酌せしめ、然る後何氏から黨政府に轉請させることゝした。豫定委員は九人で、其の姓名は楊樹莊・陳季良・鄭寶菁・陳培琨・方聲濤・李淸泉・張幹之・丁超五・黃督始である。右の內海軍側から四名、其餘の五名も皆福建人ばかりである。尙二十二日頃省政府組織會議を召集して各界の意見を聞くべく李・何等より發起したといふ。

福州總工會の成立大會　福州には從來工會の設けはなかつたが、黨軍が福州に入り來つてから工界には葉劉沐等の人あり、同志を聯合して福州總工會を組織し民生主義に本づき工友を扶助し資本家を節制するを宗旨とする規約で、先後に加入せるものには電燈・電話・電報・郵政・汽船・機器・印刷・洋服業者あり。會員數已に五千餘人に達したので、不日南公園に於て成立大會を開くべしといふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

過渡期間賦課税は從前通り　何應欽は布告を出し賦課の改正すべきを告げ、目前專門委員の未だ到着せざる間は止むを得ず從前通りに徴收すべきを明了にした。

（民國十五年十二月二十四日—新聞報）

□北京に於ける人力車夫生活の研究（上）

人力車は、或は中世紀頃、耶蘇教信者の戈卜爾（譯音）なる者の發明せるものなりと。初め日本に行れしが、其後中國・南洋の各地に普及せり。

北京に於ける人力車は、一八八六年頃より始まりしものにして、民國十二年頃より、公衆用一般人力車は、漸次社會人士の歩行に代る必要具となれり。當時は護謨の車轍無かりしを以て、平滑ならざる道路上の進行は、車體の動搖激しく、甚だ乘心地の惡しきものにして、車の長柄は短く且つ高く、其先端には銅製或は鐵製の鈎を附しありたり。輸入の車輛は、悉く一九〇〇年の拳匪の亂に燒却せられしも、京師大局の定まるや、復た市上に流行し、昨年の電車開通迄では、其數增加の一方なりき。工巡捐局の調査に據れば、車輛の數左の如し。

期日	公共人力車	個人人力車	總計
民國十三年九月	二四,〇〇〇	六,九四二	三〇,九四二
民國十四年四月	二九,〇〇〇	七,五〇〇（約計）	三五,六五〇
民國十五年六月	一八,九三七	六,九四〇	二五,八七七
民國十五年九月	一八,八九九	—	—

一九二四年四月頃、連續せる城外に尙七千輛ありしを以て、計四萬四千輛となり、人力車の最も盛に行はれたる時代なり。車の置場は七十五軒にして、外國より車輪を輸入し、車體は自ら製造し、製產品の平均總計は六百輛に近し。一九一二年以後護謨車轍を用ふる事に改めしかば、鐵盤の車は、已に完全に再び見ざるに至れり。

賃貸人力車の會社は、一千餘軒に達せるを以て、車輛總數を千軒に分配すれば、一軒は約二三十輛を備ふる事となれり。個人の人力車は、毎輛に就き、鑑札費として銅元六十枚、税金として銅元四十枚を納むべく、賃貸の公共車輛は、兩項共銅元八十枚を納むべきなり。個人の人力車は、車夫は僅かに一人、乘客は卽ち車の所有者にして、終日用ふるものにあらざるなり。公共人力車は、卽ち全く之れと相反し、賃貸の時間にして愈々長きは愈々宜しく、卽ち毎日の平均鑑札税金の費用を減少する事となり、而して利益を得る事最も厚きなり。普通一輛は、兩人にて替り替り賃借するものにして、一は午前三時より午後三時に至り、一は卽ち午後三時より午前三時に至るな

り。而して一日晝夜貸借するものは約半數を占め、十二時間貸借するものは又半數を占む。日中或は夜中の貸借費は銅元十枚乃至四十枚にして、一晝夜の貸借費は之れに比例して增加す。

　現代評論は曾て一文を掲載せしが、作者の李君は曾つて西洋人塗勃甫(譯音)と共に北京人力車夫の生活を調査せる人にして、至極詳細に亘れり。其云ふ所に據れば、北京に於ける人力車夫は、少くとも五萬五千人にして、車を拉きて生活し、此五萬五千人に依りて生命を保つ者は、又二十五萬人あり。北京居住の民は僅かに八十萬人(北京警察廳最近の統計)なるを以て、人力車夫は百分の七を占むる事となり、又成人せる者は百分の十一を占むるが故に、(北京の成人せる男子と居住民總數との比例は、他處に比して高し、之れ多數人の家屬は、遠く郷間に留まるが故なり。)此に於いて北京の男子は九人中必ず一人は一人力車夫にして、三人中一人は必ず人力車夫に依りて生活せるものなる事を見るべし。故に人力車夫は社會に於いて、頗る重視するに足るなり。

　五萬五千の人力車夫中、百分の五十三は本地人なれども、百分の三十一は附城一帶の住民なり。而して之れを省別にすれば、百分の九は直隷人、百分の五は山東人にして、其餘は即ち其他の各省人なり。年齢を以て之れを論ずれば、百分の六十は二十一歳より四十歳迄にして、正に精強く力壯なる者、百分の五は五十歳以上の者、百分の五は十一歳より十七歳に至るものなれども、年老いたるもの及び年少なる者は、共に警察廳に於いて車夫たる事を禁止せり。人力車夫の已に妻帶し、而して家族を有するものは、總數の百分の六十二を占め、其餘は即ち車の置場に備へられたる宿舍に宿り、或は小宿に宿れり。

　下に列記せるものは、每千人中の年齢の分配表なり。

年齢	數目	年齢	數目
一一—一五	一七	四一—四五	一二五
一六—二〇	一三	四六—五〇	七五
二一—二五	一六一	五一—五五	四九
二六—三〇	一四九	五六—六〇	三〇
三一—三五	一五三	六一—六五	九
三六—四〇	一三六	六六以上	一

最も多數なるは三十一歳より三十五歳に至るものにして、平均年齢は三三・四年なり。而して十六歳より二十歳に至るものも亦相當多數に上り、四十五歳以上は即ち逐次減少す。

　惟ふに上表は僅かに一千中に於ける年齢の大小と、人數の多寡とを示せるものなれども、尙其人力車夫として車を拉く期限の長短を表記すれば、尤も興味あるものと云ふべく、第二表は車夫となりたる時の年齢及び人數の多寡を示し、第三表は車夫として從事せる年數と人數の多寡を示せるものなり。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第二表

車夫時の年齢	人數	車夫時の年齢	人數
一一—一五	六七	四六—五〇	三八
一六—二〇	二五八	五一—五五	九
二一—二五	一七三	五六—六〇	三
二六—三〇	一六八	六一—六五	四
三一—三五	一二二	六六以上	一
三六—四〇	九四		
四一—四五	六三	總計	一,〇〇〇

第三表

車夫の從事年數	人數	車夫の從事年數	人數
一年以內	一〇七	二一—二五	一八
一—五	五〇九	二六—三〇	一
六—一〇	二三一	三〇以上	二
一一—一五	八六		
一六—二〇	四六	總計	一,〇〇〇

第二表に據れば、十六歳より二十歳に至る間に、車夫となれるもの最も多きも、年齢の老ゆるに從ひて、車夫となれるものは愈々少し。十一歳より十五歳に至る間に、車夫となれるもの六十七名なれども、但し第一表に據れば十七名に過ぎず、十六歳より二十歳に至る間に、車夫となれるもの二百五十八名なれども、現に第一表に在りては、卽ち一一三名なり。之れを換言すれば、年齢の六十六歳の時、始めて車夫となれるものは一名にして、第一表の六十六歳も亦一名なれども、其人は六十歳の時車夫になれるものにして、且つ一千名中唯彼一名なり。車夫の車を拉きて以來、二十五年以上經過せるものは三四人なれども、彼輩の長く同職に從事し、以て生活する事能はざるにあらず、實に北京に人力車の現れし以來、唯四十年を經過せるに過ぎざるが故にして、其以前は盛に行はれざりしなり。

第三表に據れば、百分の六十は、車夫として車を拉きたる年限五年以下にして、百分の八十五は十年以下に近く、平均年限は五・六六年なり。車夫は滿洲人最も多く、殆んど全數の四分の一を占め、農夫は百分の二十四、勞働者は百分の十八、其日暮しの小商人は百分の十三、除隊者は百分の五、無職業者は百分の十なり。尙實際の滿洲人にありては、車夫として車を拉く以前、固より相當の職業を有せしにあらず、一言にして之れ言へば、其百分の十に止まらざるべく、殆んど百分の三十五に及ぶべし。而して其從來よりの職業を放棄し、而して車を拉きて生活せるものは、約百分の六十五なり。冬季は農事既に終れるを以て、卽ち北京に入り車を拉きて生活し、是れを職業となすが故、冬季の車夫は、常に夏季及び秋季に比して三千餘人多し。

李君は曾て車夫の以前の職業を詳細に調査し、以て表を作りしが、

支那靴師・大工職人・巡警・料理人・園丁・人夫・石鹼製造者・行商人・學生・裁縫師・火事工・銀細工師・役者・新聞賣子・小商人・敷物の職工・造幣局職工・洗濯職工・家僕・兵士・侍者等種々雜多なれども、其內には車を拉くも、尙其以前の職業を放棄せざるものあり、卽ち農民・瓦職人及び其日暮しの小商人の如き是れなり。

人力車を賃借する者の內には、一晝夜賃借するものありと雖、但し二十四時間を通して車を拉くにあらず、卽ち一晝夜の賃借は全日中及び全夜中の二囘分に比し、借賃の低廉なるが爲めにして、車夫は恒に一人仲間を求め、彼此互に借賃を分擔す。車夫中車を拉く事十時間に及ぶ者は、約三分の一にして、百分の九十五は八時間及び十二時間なるものなれども、街頭に停車休息に消費する時間も、亦其內に算入せらるを以て、實際車を拉く時間は、平均四時間なるのみ。一箇月間中、休息は約三日間にして、時に十日間なるものあれども、之れは病氣或は其他の原因によるなり。四五の兩表は、每日車を拉く時間及び每月中の休息時間にして、表中百三十人は完全に休息の時間無く、其餘の七百人は二日間乃至四日間休息す。

第四表

車を拉く時間	車夫數
六	一〇
七	三
八	一七二
九	一六五
一〇	三三九
一一	一〇二
一二	一五六
一三	三
一四	三
無統計	二
總計	1,000

第五表

一箇月中の休息時日	休息人數
無休息	一三〇
一	二九
二	二〇四
三	三〇一
四	二〇四
五	八八
六	二六
七	五
八	三
一〇	一
無統計	九
總計	1,000

車夫每人每日の所得金額は、一定せざるにより、多き時は銅元二百八十枚、少き時は四十枚にして、平均百三十二枚或は四角七分四厘（調査せる時の兌換價值）を得べし。車夫中半數は每日銅元百十枚乃至五十枚を得べく、百分の九十八は六十枚より二百五十枚を得べし。東西交民巷の車夫は、卽ち此例に準ぜざるものにして、彼輩は往々にして一日に七八角を得べく、之れ外人の乘車せるものは、常に多額の車賃を給するが故なり。個人の抱車夫は、收入比較的多く、車の借賃を若し車夫自から支拂ふものとすれば、一箇月平均十七

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

元乃至十八元或は一日六角を給せらるべきも、車は主人の所有なるを以て、毎月約十元乃至十二元給せらるなり。主人の宴會に外出する時は、食事代として銀二角を得べく、此種の食事代は、概して宴會の主人より之れを支拂ふ。時に主人より物品を給せらるを以て、好き處と云ふべし。其他賞與金等を普通一般の車夫に比較すれば、其收入金額は甚だ多し。左に列記せる第六七の兩表は、車夫の收入と納付すべき車の借賃なり。

第六表

毎日の收入（單位銅元）	所得者の人數	毎日の收入（單位銅元）	所得者の人數
一〇—五〇	五	二一〇—二五〇	九
六〇—一〇〇	二三九	二六〇—三〇〇	七
一一〇—一五〇	二〇七		
一六〇—二〇〇	二三三	總計	一、〇〇〇

第七表

毎日の車借賃（單位銅元）	此車借賃の納付人數	毎日の車借賃（單位銅元）	此車借賃の納付人數
一一—二〇	三七	五一—六〇	七
二一—三〇	二六三	六一—七〇	一
三一—四〇	一三三		
四一—五〇	二七	總計	四六八

第八表

半日の車借賃（單位銅元）	此車借賃の納付人數	半日の車借賃（單位銅元）	此車借賃の納付人數
六—一〇	二	二六—三〇	九六
一一—一五	二五	三一—三五	九
一六—二〇	二〇九	三六—四〇	二
二一—二五	一五七	總計	五〇〇

二人共同して賃借せる車の納付すべき借賃は、相同じき事無し。車夫にして車を有せるものは、合計三十二人にして、之れを第八表に加入し、一千人となるなり。最低の車の貸賃は銅元十四枚にして、最高は即ち七十枚なるを以て、平均銅元三十一枚となり、半數以上は銅元二十一枚乃至三十枚、百分の九十以上は、車の貸賃四十枚以下なり。半日の最低は銅元十枚にして、最高は四十枚なるを以て、平均二十二枚となり、百分の四十は、十六枚乃至二十枚を納付し、百分の七十八は、二十五枚以下を納付す。此に於いて半日の車借賃は、全一日の車借賃に比し、高價たる事を知るべし。表上數字の指示する所は、常に一半以上—約三分の二にして、車の比較的新しきものは、借賃高きを以て、多くは二人共同して賃借せり。又多くは全一日の舊車の賃借を希望す。

　車の貸賃を定むる時は、車輛の修理費と甚だ關係あり。平常は一輛の買價約七十元にして、第一年の修理費は二元を要し、第二年は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

車轍を交換すべき必要あり、新車轍は十二元を要し、他の修理に又三元を要し、第三年は座席亦破損して再び使用する事能はざるを以て、又十二元を要し、第四年は車轍及び内部の護謨管を新品と取換へざるべからず、否らざれば卽ち貸出する事能はず、總計二十元を要し、第五年は修理すべき處更らに多く、約五六元を要するを以て、五年間の總費用を計算すれば、百三十元を下らざるべし、人力車公司は、平均新車なれば、第一年は車の貸賃六十元を得、第二年は四十五元を、第三年は三十八元を、第四年は三十二元を、第五年は二十八元を得るを以て、總收入は二百元となり、收支の純益七十元なり。且つ車は五年後、殘存すと雖、然かも破損せるを以て値少く、或は賃貸するも、特別の便宜上賃貸するに過ぎずして、平均每年十四元（七十元は五を以て之れを除す）を得るのみにして、之れを七十元の資本より見れば、二割の利息なり。車の街道上に於いて木質部破損せる時は、公司に於いて修理し、鐵部は槪して賃借せる車夫の負擔にして、支出修理す。

調査し得たる處に據れば、一千人の車夫中、半數の車の賃借は半日なり。而して二百の車置場を見るに、車夫六千六百四人中、四千六百四十六人は車の賃借半日にして、餘の一千九百五十八人は全日の車の賃借者なり。此れ卽ち二百の車置場を合して言へるものなれども、若し分ちて之れを論ずれば、四十三軒は完全に半日の貸出方法無く、六十三軒は卽ち全一日の貸出をせざるものなり。詳細なる表記は下の如し。

第九表

賃借半日の車夫の百分數	車輛貸出の公司	賃借半日の車夫の百分數	車輛貸出の公司
○	四三軒	七六—九九	二八軒
一—二五	二軒	一〇〇	六三軒
二六—五〇	二一軒	總計	二〇〇軒
五一—七五	四三軒		

（上海總商會月報十月號）

比律賓

□比島の現狀及將來の施設に關する大統領特派使節トムソン大佐の報告

世界各國の注意を惹いてゐた米國大統領特派使節トムソン大佐の比律賓の現在及び將來に於ける施設に關する報告が漸く十二月二十二日華府に於て發表せられた。其要點は

一、自治權は擴張するもヂョーンズ法（比律賓統治法）には變更を

加へない事。

二、比律賓立法議會をして現在の土地法を改正せしむる事。

三、米國政府部內に植民省を設置する事。

四、比律賓政府をして官營事業を止めしむる事。

五、現在總督の武官顧問を廢し文官を以て之に充る事。

六、聯邦準備銀行の活動を比島に延長する事。

七、農民に融資することを目的とする銀行及農事試驗場を設置する事。

八、會計檢査官の權限を現在以上に擴張せず且つ充分に是れを明かにする法律を制定する事。

九、ミンダナオ及スールーの政治上の關係を現在の儘に放置する事。

十、ミンダナオ及スールーに於ける比人文官に代へるに米人或はモーロー人を以てする事。

十二月二十二日華盛頓發電報として馬尼剌タイムスに登載せられた、トムソン大佐の報告の大要は左の通りである。

比島の絕對獨立を延期する代りに出來得る限り其內政方面の自治を擴張すべきだといふ報告が既に本島の調査を其使命として來たクーリッヂ大統領の使節、トムソン大佐によつて大統領に差出された。

大統領は本日（十二月二十三日）其內容を發表してゐる。

此報告中には比律賓及海外領土を管理する爲植民省を設立せよとの提案がなされてゐる。現在比島の行政は、米國陸軍省內の一局たる比律賓事務局を通じ、陸軍省長官が管理することになつてゐる。

トムソンの報告は現在米國議會の一部で提唱されてゐる樣なスールー及ミンダナオの分離は不可であるとしてゐるが、然し此等モーロー人の居住區域に米人管理の增大せらるゝことは必要であるとしてゐる。

トムソン大佐は又、現在十二%乃至三十%の高率を拂つてゐる比島農夫の爲めに、一或は其以上の聯邦銀行を設立すべきだと云つてゐる。トムソン使節は又「米國政府は、農業資源の開發のために米國農務省をして相當數の農業試驗場を設立せしむべきである」と云ひ、且つ「比島の完全獨立は現在及永き將來に亘つて不可能な事であつて比島は獨立政府を維持すべき適當な財源を有してゐない」と言つてゐる。

彼は又云つて居る「比島には共通語がなく、又強盛なる民主的國家に最も必要とされてゐる團結の精神及び民族の一樣性を缺いでゐる」と。

「比島には民主國家を支持するに必要な壓倒的な輿論がない。又極東の商業的見地から見ても、現在米國が比島から手を引く事は國際的紛亊を招來する惧れがあるので宜しくない」。

「比島では、政治界又は實業界に於ける首領連中で將來永く獨立が許與せらるゝと信じてゐる者は一人もない。少數の急進黨は別とし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て比島人民の大部分は、米國が比島に對し最終の取極めを爲し、其れに依り比島の外交の事は米國の指導に俟ち内政上完全な自治を比島々民に許すことが最上な方法であると信じてゐる」と言つてゐる。

尙ほトムソンの報告中に次の樣な事が擧げられてゐる。

「比律賓政府の行政府と立法府との協調を再立せんが爲めに適當な方法を講ずる事」。

「總督は、米國陸軍から適當な顧問を得る代りに文官を以て之に當らしむるやう法規を改正する事」。

「米國聯邦準備銀行制度を比島に延長すること」。

「ヂョーンズ法として知られる、比律賓統治法は、少くとも現在變更せざる事」。

「護謨、珈琲其他熱帶物產――其中の或物は現今事實にせられてゐない所――の開發上、資本及業務上の經驗を招來する樣に且つ懸結果を齎らさゞるが如き保障の下に比律賓立法議會をして比律賓の土地法を改正せしむる事」。

「然し斯の如き土地法の改正をば米國議會に於て今直ちになさゞる事」。

「比律賓政府をして自己の計算に於て爲せる事業から成る可く速かに手を引かしむる事」。

以上はトムソン大佐が大統領に提出した報告の要點である。而して大統領は、トムソン大佐の報告の要領は大統領が議會に對して與ふる教書の中、比律賓に關して每年言へる所と殆ど同一主意であると言つてゐる。大統領は、トムソンの報告を議會に送るに當つて、現總督ウッド氏がタクトと優秀なる手腕とを以て常に比律賓土人の利益に一致するやうな施政を爲せることを附言してゐる。

（十二月二十三日　マニラ・タイムス）

□比律賓時報

農務會議計畫せらる

從來此種の會議は比島主要作物たるコプラ、アバカ、煙草、砂糖業者間に每年一回催されてゐたが、今般農務局長ヤングバーグ氏(Stanton Youngberg)は前記四重要輸出品增產擴張の一手段として關係業者各別に農務會議を催す計畫をしてゐる。

從來會議の成績によれば、常に一種類の作物栽培に遠大な計畫を樹てんとすれば、如何しても特殊の作物のみに限らるゝが爲め、年々所期の利益を貫徹することが不可能であつた。即ち出席者は各自各別の作物の利益許りを企圖してゐたのである。

新計畫によれば、各作物別に行はるゝが爲め、在來の缺陷は補はれ所謂一作物一農業者主義を履行する事が出來る。其實例として年

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

々砂糖業者協會に於て、製糖業以外の問題に何等抵觸せず、全然關係事項のみの協議を遂げてゐることを擧げてゐる。

又北米合衆國では各自完備せる組織の下に各自諸問題の解決に從事してゐる、例へば米國には棉花・玉蜀黍・小麥・砂糖各生產業者協會のあることを列擧してゐる。

氏はアバカ生產者に關して特に注意を喚起してゐる。何となればアバカは比島重要輸出品目である爲め、市場の優位を保持する爲には特別の注意を拂はねばならぬと云つて居る。尙ほ又近來アバカの品質は頓に低下し、市場には地步强き競爭者の出現あり、共々に同產業の獨占性を威嚇せんとしてゐる狀態であることを極力强調してゐる——後略。(比律賓ヘラルド十二月二十九日)

農業銀行の設置問題

一月二日著電によれば、本日聯邦銀行理事ウイリアムズ(Albert Williams)は比島內に聯邦農業貸付及土地銀行新設の件は、現行法を改正し特に聯邦銀行制度の比島延長に關する法律を修正しなければ不可能であらうと聲明してゐる。

本件に關して、トムソンの報告は著手すべきであるが、現行銀行條令の下では實現困難である、而も布哇、ポート・リコ及びアラスカ地方の農業貸付銀行設定に關する修正法案は逸早く成就して居ることを指彈してゐる。

現在ポート・リコ所在の銀行はバルテイモア銀行の一支店に過ぎぬ。併し乍ら同地方の農作上に稗益する處が尠くない。實際之等農業上資金に貸出されてゐるものは九百萬弗以上に擧つてゐる、然し乍ら、或る特殊な事情に據つて成效してゐる農業銀行制度が、比島領內に於ても出現せざる理由は何等存在せぬと主張してゐる。

又本國議會が農業開發促進の目途を以て此の制度の比島延長を所期するならば、先づ斯かる金融機會の缺く可らざるものなりや否やに關する完全なる調査が是非共必要なる旨を指摘して居る。

而して果して比島に必要なりや否やに關して疑問を懷くと同時に本件調査に際しては充分なる注意を必要とすることを述べ、最終に現在の處比島には本問題に對する完全なる調査物が全然存在せぬと力說してゐる。

此れは誠に三箇月餘に亘つて比島調査旅行を命ぜられたトムソンの島內各地方に於て同銀行を新設せんとする計畫に一衝擊を與ふるものとして觀察せらるゝ。尙ほ又本國議會も白堊館の切實なる獻案が無くては愼重審議をせず、從つて所要法律の改正にも著手せざるものと察知せらるゝ。

而して若し比島に設置せらるゝものありとすれば、恐らく在加州バークリー農業貸付銀行(Berkeley Farm Loan Bank of Cal. U. S. A.)の出張所で、其主眼點は小農家に限られ、護謨、砂糖、ヘムプ等の大規模栽培業者は唯僅に間接に援助を蒙ることゝ成るであら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

う、現行規程に依つて許與せらるゝ最大貸付金額は二萬五千弗、土地評價額の十五%を超えることは出來ぬと摘述して居る（後略）。

（比律賓ヘラルド一月四日）

フーガ島買收問題後報

邦人會社がフーガ島を買收すると云ふ噂は、唯比島政府を驚嘆せしめ、同島を放擲する樣强制したるに過ぎない。併し此間の消息はナショナル・ニウス・サーヴイスが有力なる地方在住邦人との間に交された意見に依て明白となつた。

即ち數日間フーガ島所有者某は地方ブローカーであるデーノン氏（Mr. Danon）を通じて、或る邦人會社が同島買收を目論見んでゐる旨前記サーヴイスに報道してゐた、而も其話は近々當事者デーノン氏が旣に買收價格の一部分を支拂ひ同島の先取權を獲得せる會社と賣買契約を履行する爲め渡日する手筈に迄なつて居るとさへ取沙汰された位である。

而して前述ブローカーたるデーノン氏は同買收問題關係の二會社に交渉を進めた。第一は直にオッファーを却下したる三井會社である。其後太田與業會社に同一のオッファーがあつた、が同社も之れを拒否する旨デーノン氏に通じた。

前記太田與業會社、馬尼剌出張所支配人萩原氏は該解答書を承認した。同氏は尙ほ次の樣に述べて居る。即ち「デーノン氏は數日前來訪して、頻りにフーガ島を買收する樣尋ねて居つた」「併し乍ら余は我社は其勢力全部をダバオ地方に集注して居る故に當社の關與する所でない」と。昨日再度來訪の上前記オッファーを繰返し居てた。余が卽下に辭退するや、若しフーガ島買收の意向ある旨を書面に記載せらるゝとも、決して其事によつて比島政府に同島を賣却すべしとの運動を提起してゐるものとはならぬであらうと語つて居た。

萩原氏は、前述の如く同島買收の風說が紛擾を來すことを恐れて、該事件に關する事實を新聞紙上に公表する事を一日も早く待望んで居る。而して氏はフーガ島の買收は結局「不利益」なるを以て、到底其種の事業に關與することはない。（比律賓ヘラルド一月五日）

□マニラ麻の品質低下に就いて

本稿は最近强度に不良と稱へられるマニラ麻見本の品質に就いて調査したものである。該見本の發送地から特別な積荷に生じた品質不良の原因は纖維質の破壞によるもので、之れは熱帶地の濕潤地に於て長期間の入庫中バクテリアの作用を受けたと云ふ結論に達して居る。其後此の見解は一九二三年比律賓農務局の指導に係る纖維破壞の原因調査によつて證明されてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

而來マニラ麻即ち「アバカ」の品質下落に關する研究は、シヤーマン博士（P. H. Sherman, Ph. D.）によつて行はれ、本調査の豫備報告は一九二六年二、三、四及五月の"Coral Age"誌上に記されてゐる。

比島内前記調査の豫定地域は、ルゾン島南東端ビコル河に沿ふ北部及南部カマリネス、アルベイ、ソルソゴンの四縣である。之等四縣が最初に先づ選定された理由はマニラ内專門家の意見によれば、劣質纖維の大部分は之等の地方から生産されてゐるが爲である。

ビコル沿岸地帶には凡そ五十種若しくは其れ以上のマニラ麻があつて、之れに對し系統的な植物上の研究を施すこと—眞正マニラ麻の種別數を選別し其の上特長を決定する事—が喫緊事とされてゐる。前掲四縣は又數多の產出地域に區分され、各縣別に多少の特長があり、又色彩、成長其他の點にも夫々相違する爲め特殊な名稱を以て呼ばれてゐる。何れの耕地《ハシーンダ》（主に宅地附近のを指す、以下單に耕地と記すは皆之れである）にも平均四、五種のマニラ麻が生えてゐて、就中一、二種は其他のものより比較的弱纖維を產出して居る。之れは米國品よりは寧ろ英國物の麻製品として重視がられる。之等の主要產出地から四十有餘種も異名の纖維見本が集められてゐる。其の目錄は非常に錯綜してゐる爲め或る地方では弱纖維のものに付けられた名稱が他の地方では強い種類の名稱となつてゐるものがある。更に純正アバカの種類には、同地方に栽培してゐる多種のバナナとアバカの雜種繁殖の結果生じた數種類のものがある。此の中一番よく知られてゐるのが"Pacol"と"Canton"である。前者パコル種にはバナナの特徴が傑出して、其纖維はアバカとは全然異り其上バナナよりは強靱である。後者カントン種は此のパコル種にアバカを雜種繁殖した結果生じたものであることは明である。之れは或る地方では可なり多量に產出せられて居る。

シヤーマン博士（既述）が諸地方から採集したカントン種の纖維に付て研究を遂げた結論は次の樣である。

其一、カントンの優良種をアバカと混合したものは一見區別がつき難いが、純正アバカとカントン種混製の纖束は容易く見分けられる。

其二、カントン種纖維の多くは「アバカ」として賣買され、アバカの或る種類でカントン類似の特長あるものは「カントン」と云つて賣却される。

其三、カントン、アバカの兩種は何れも良質の纖維で要は之れを混合する際の困難にある。

一般に完全發育期前にマニラ麻を切斷することは獨り纖維量を減損する許りではなく、張力・強度・耐久性等に不良の製品を出すこととなる。耕地《ハシーンダ》所有者が現在栽培中の麻を賣却せる場合其の買手は出來得る丈け多量に切取らん爲め少しでも多く切除るのである。此の慣習は頗る留意すべき事柄である。何となれば未熟の弱纖維を多量

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に搬出する爲め往々カンドン種と誤認される處を生ずる事となる。

以下本稿の主題とする弱質且つ損傷を受けたる纖維の發生に關する重要原因を縷述する事にする。

斷切後の莖は剝取り前偶々長期間連日濕地に敷並べられる。そうして其處で醱酵作用と變色作用が普通四十八時間内に行はれ始める。

或る場合纖維を積蓄れた層は、莖を取除いた後で束に括られ直ぐと纖維を剝奪せず一日乃至四日間其儘放置して置く事がある。此の間始終纖維は卽刻醱酵及び酸化する莖汁に浸しておく、そうすれば其の間纖維は黄色又は黄褐色となるのである。著色の徵候を發見したる時は纖維の不良破壞を示すもので、譬へ二、三週間は品質を保つが、終始濕氣の爲に醱酵作用が促進され遂に全く損耗して終ふ。

從つて剝取後纖維は直に吊下げ日乾しに合さなければならぬ、左も無ければ醱酵と變色作用が必ず起つて來る。

斯の如く纖維の製作工程上に起り來る原因以外に恐らくは一番憂慮せればならぬ危險がある。之れは取りも直さず包裝著手前乾燥上の不備不完全に由來するものである。

此の他植物病害に基づく品質の下落があるが之れは極めて稀少である。一端遺棄された耕地（ハシーンダ）を再び租借する例は一度良品を產出せる地域が其儘數年使用後も更に產出纖維に品質下落を來さぬ事を立證するもので、蓄くて顧みられぬ耕作地が復活して依然優良の麻を產出した例話は決して尠くない。

最後に同博士は次の結論を述べてゐる。

ビコル地方には多年上麻を產出して病害による危險の尠い麻生產地が幾千ヘクタール程ある。現在の生產方法は舊式法によるもので、如何なる耕地所有者も現代の新式製造法が必要とする纖維を供給してゐる者は今日ではない。併し乍ら之れは若し斯業に投資する資本金が今少し增加しさへすれば誠に容易な事である。加ふるに勞働者が不充分である結果、優良纖維を多く出さすに却つて劣等纖維多をく產出製造する方有利と看做されて居る狀態である。然れども、此の勞働問題は將來機械を使用することによつて自然解決に向ふ事は火を睹るよりも明である。

弱纖維の產出を見る主なる理由は乾燥不充分の爲である。英本國グレードのは米國グレードより遙に乾燥至難である。夫れ故充分な乾燥法を確實に行はしめる規程が設けられない限り劣等纖維の出廻りを防止することは出來ぬ。

晩近消費者と生產者及び仲介業者との間に組合の設立が力說されて、生產者が消費者の需用を知り、同時に生產上の智識と需要者の希望する商品を製造する方法とを取入れた上でなければ、所要品質の麻纖維を供給することは不可能である。現在では斯業の前途は暗澹たる道程を辿つてゐるものと云はればならぬ。

(Bulletin of the Imperial Institute No. 3 '26.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

佛領印度支那

□一九二五年に於ける印度支那の海運及貿易（三）

次表は前述せる印度支那への輸入金屬の中、主要なるものを擧げて比較したるものである。

金箔

年次	數量（基瓦）	價額（法）
一九二〇年	八,八八二	三七,七二〇,四〇〇
一九二一年	二,一三〇	一三,六三〇,一〇〇
一九二二年	二,八二七	一八,〇九四,三〇〇
一九二三年	三三五	三,〇一六,四〇〇
一九二四年	一六九	二,〇二八,〇〇〇
平均	二,八六八	一八,六九五,八〇〇
一九二五年	一二五	一,七五〇,〇〇〇

金粗塊

年次	數量（基瓦）	價額（法）
全部外國より輸入さる		
一九二〇年	一	六,〇〇〇
一九二一年	一〇六	六三六,〇〇〇
一九二二年	五七五	三,五一〇,〇〇〇
一九二三年	一,四四七	八,六六三,〇〇〇
一九二四年	一,七六一	一七,六一〇,〇〇〇
平均	七七八	六,〇三六,八〇〇
一九二五年	二,四五三	二九,四三六,〇〇〇

即ち金箔の輸入額は年々減少の氣配がある。一九二四年には、一六九基瓦であつたものが、一九二五年には一二五基瓦になつてゐる。反對に金粗塊の方は、年々輸入増加を示し、一九二四年には一、七六一基瓦であつたものが、一九二五年には二、四五三基瓦となり、六九二基瓦の増加を示してゐる。印度支那に於て、金箔は專ら貴金屬細工物としての税率を適用されてゐる（一般税率では、從價税一六%、最低税率では同八%の課税）が、最初は金塊としての税率の適用（一基瓦當り四十法から十法）を受くるのみなりとして、支那貴金屬商人を慫慂してゐた。

銀條

年次	佛及佛植民地	外國	合計	
一九二〇年	二,五二四瓩	四,四八二瓩	六,九九六瓩	六,九九六,〇〇〇法

一九二一年	一、〇三八	二、一八三	三、二二一	三、四七九、〇〇〇
一九二二年	二、二八四	一、三五六	三、六四〇	四、七三六、〇〇〇
一九二三年	一、一三三	二四六	一、三七八	三、一一三、〇〇〇
一九二四年	一、一一七	六〇	一、一七七	五、六八二、〇〇〇
平均	一、六一五	一、六六五	三、二八〇	四、六七八、〇〇〇
一九二五年	二、三三六	一	二、三三七	四、三三三、八〇〇

即ち鐵條の輸入増加は、前年に比し一、一五〇噸（九七%）の増加を示し、而も、一九二五年の輸入先は全部佛本國である。

鐵板

年次	佛	佛植民地及外國	合	計
一九二〇年	一、八九六噸	二、三四六噸	四、二四二噸	六、三九二、〇〇〇法
一九二一年	一、四一八	八四八	二、二六六	三、四七九、〇〇〇
一九二二年	二、一〇二	九八九	三、〇九一	四、七三六、〇〇〇
一九二三年	二、九一四	七二五	三、六三九	三、一一三、〇〇〇
一九二四年	三、七九四	一、〇四六	四、八四〇	五、六八二、〇〇〇
平均	二、四二五	一、一九〇	三、六一五	四、六七八、〇〇〇
一九二五年	二、九一七	二六九	三、一八六	四、三三三、八〇〇

鐵板の輸入は前年より減少してゐる。外國よりの輸入、佛本國よりの輸入共に減少し、減少高は一、六五四噸（三四%）を示してゐる。

即ち佛蘭西よりの輸入は、八七七噸減少し、諸外國の輸入中、その主要輸入國たる白耳義よりの輸入は、前年の九五二噸に比し、一九二五年は二二六噸といふ數字を示してゐる。

錻力

年次	佛	佛植民地及外國	合	計
一九二〇年	一五噸	一、九四五噸	一、九六〇噸	三、九二〇、〇〇〇法
一九二一年	三一	二、三四五	二、三七六	四、七五一、〇〇〇
一九二二年	六六	一、六九二	一、七五八	三、五一七、〇〇〇
一九二三年	二九〇	二、四四二	二、七三二	四、〇九八、〇〇〇
一九二四年	三一九	二、六八六	三、〇〇五	六、九一二、〇〇〇
平均	一四四	二、二二二	二、三六六	四、六三九、〇〇〇
一九二五年	一、九一三	二、九五六	四、八六九	一三、九〇三、〇〇〇

錻力の輸入高は、一九二四年よりも一、八六四噸（六二%）の増加を示してゐる。而して佛本國は一、九一三噸を輸入して、錻力輸入國として第一位に在り、次は英國の一、六〇八噸、香港の一、三一五噸の順位となる。尙これに續いては、ずつと下つて新嘉坡よりの一八噸、支那よりの七噸、殘り八噸は日本・蘭領印度及其他の歐洲諸國より輸入せる額に相當してゐる。

鐵線或は鋼線

年次	佛及佛植民地	外國	合	計
	噸	噸	噸	法
一九二〇年	二五三	四七〇	七二三	一、一五七、〇〇〇
一九二一年	六三三	五六〇	一、一九三	一、九〇八、〇〇〇
一九二二年	一、一七三	二五五	一、四二八	二、二八四、〇〇〇
一九二三年	二、八一一	八八	二、八九九	三、七六九、〇〇〇
一九二四年	二、一九八	二五	二、二二三	三、三三五、〇〇〇
平均	一、四一三	二八〇	一、六九三	二、四九〇、〇〇〇
一九二五年	三、五〇二	四二	三、五四四	六、〇二五、六〇〇

佛本國は、印度支那の需要に應じ、鐵線を多量に輸入してゐる。今年度（一九二五年）は合計一、三〇四噸の増加で、佛本國よりの増加高は一、三〇四噸、諸外國よりの増加高は一七噸である。

鋼鐵條・鋼鐵車軸・鋼鐵板

年次	佛及佛植民地	外國	合	計
	噸	噸	噸	法
一九二〇年	二、三八九	九六四	三、三五三	四、〇〇一、〇〇〇
一九二一年	六、三〇九	八三〇	七、一三九	八、三七二、〇〇〇
一九二二年	一五、二六七	七四〇	一六、〇〇七	一七、七八七、〇〇〇
一九二三年	一七、八六九	一、九四六	一九、八一五	一五、六五八、〇〇〇
一九二四年	一五、二八九	一一九	一五、四〇八	一五、三三二、〇〇〇
平均	一二、四二四	九二〇	一三、三四四	一二、三三八、〇〇〇
一九二五年	一八、〇四三	九五	一八、一三八	一九、二九三、七〇〇

増加高は、二、七三〇噸（一七%）、而も全部佛蘭西の輸入に屬す。

金屬製品

年次	佛及佛植民地	外國	合計
	法	法	法
一九二〇年	二八、五〇八、〇〇〇	二五、三八〇、〇〇〇	五三、八八八、〇〇〇
一九二一年	五〇、七〇九、三〇〇	二二、八五二、三〇〇	七三、五六一、六〇〇
一九二二年	七三、八八四、四〇〇	一七、九四七、二〇〇	九一、八三一、六〇〇
一九二三年	七七、八三三、五〇〇	一五、五二五、八〇〇	九三、三五九、三〇〇
一九二四年	一三〇、一七七、二〇〇	一三、九五二、〇〇〇	一四三、一二九、二〇〇
平均	七〇、二二三、五〇〇	二〇、九三一、四〇〇	九一、一五三、九〇〇
一九二五年	一五八、六九七、九〇〇	二七、一九二、四〇〇	一八五、八九〇、三〇〇

茲に金屬製品とは、卽貴金屬細工品・時計類・金銀細工品・機械及器具等で、今年度に於ける印度支那への輸入は、前年に比し、四二、七六一、一〇〇法、（二九%）の増加を示してゐる。尙之を分類すれば、佛本國三七、四七九、三〇〇法にして殊に増加高著しく、諸外國は四、二四〇、四〇〇法の増加となる。

又金屬製品の主要輸入國を順位列擧すれば、英國八、七一八、〇三五法、香港四、一〇三、九〇三法、伊太利二、四六七、八三三法、日本二、二六三、四九六法、白耳義一、八三七、五二三法、瑞西一、六七四、四〇四法、支那一、六二六、〇〇四法、獨逸一、〇〇四、八五一法、蘭領印度八二〇、五六二法、北米合衆國八〇九、五七九法、の順位とな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る。尚又曾つて各種機械、製粉機、揚物機の部分品、汽車及軌道車用品等の輸入は、何れも英國・瑞西・北米合衆國に左右されてゐたが、最近三箇年に於ける之等輸入は、佛本國が中心を爲してゐる。卽ち次表に見る通りである。

	一九二三年	一九二四年	一九二五年
佛蘭西	三、七八、〇九六法	四、二六八、一八七法	六、三四四、二三六法
瑞西	二、三〇四	一、一三四、九四二	—
英國	三五、六四二	三五、〇六五	一〇五、四三二
北米合衆國	三二、五一八	一八、一三四	一六三、五一二

酒。

罎。(單位噸)

年次	佛本國及佛植民地	外國	合計
一九二〇年	一、六七四	二、〇七七	三、七五一
一九二一年	一、四三五	八八六	二、三二一
一九二二年	一、一六三	一、四〇七	二、五七〇
一九二三年	一、七〇二	九六五	二、六六七
一九二四年	三、六〇六	一、五二〇	五、一二六
平均	一、九一四	一、三七一	三、二八五
一九二五年	三、五九二	一、六五二	五、二四四

今年度輸入高は前年度と殆んど同じである。これは硝子罎製造工場が二箇所東京に設立されたがため、地方消費に當てられる空罎としての輸入は著しく減少されてゐるからである。

亞麻絲・大麻絲・苧麻絲 (單位キンタル)

年次	佛本國及佛植民地	外國	合計
一九二〇年	七〇五	四、二六一	四、九六六
一九二一年	七〇	四、三八九	四、四五九
一九二二年	八八	三、七二一	三、八〇九
一九二三年	六九	三、八三四	三、九〇三
一九二四年	一〇九	二、七三五	二、八四四
平均	二〇八	三、七八八	三、九九六
一九二五年	九九	三、二二九	三、三二八

前年に比し、三八四キンタルの増加である。主要輸入國は支那で、今年は三、八〇九キンタルを輸入してゐるが、この數字は、前年に比し七九キンタルを増加してゐる。

尚佛本國よりの輸入は、一〇キンタルの輸入減少を示してゐる。

麻絲(ジユート) (單位キンタル)

年次	佛本國及佛植民地	外國	合計
一九二〇年	—	三、九九七	三、九九七
一九二一年	五	二、三八六	二、三九一
一九二二年	一	三、五〇一	三、五〇二
一九二三年	七	二、八一五	二、八二三

一九二四年	七	二、四三五	二、四四二
平均	六	三、〇二七	三、〇三三
一九二五年	—	四、三七四	四、三七四

最近二箇年間中著しく進歩しなかつたが、麻絲取引は一九二五年に於て再び盛さなつた。卽ち前年度に比し一、九三二キンタルの増加を示してゐる。而して輸入される大部分のものは新嘉坡積出のもので、三、七六二キンタルを數へ、續いて英領印度三六七キンタル、香港二三九キンタル、白耳義六キンタルの順序である。

○○○

生絲（單位キンタル）

年次	佛及佛植民地	外國	合計
一九二〇年	二、〇七三	二六、六〇七	二八、六八〇
一九二一年	一、九七一	二八、二七九	三〇、二五〇
一九二二年	二、八四二	三七、三四三	四〇、一八五
一九二三年	一、〇五七	二四、四二三	二五、四八〇
一九二四年	一、九四六	二八、五七二	三〇、五一八
平均	一、九七八	二九、〇四五	三一、〇二三
一九二五年	三、二三四	二九、〇九二	三二、三二六

前年に比し、一、八〇八キンタルの増加を示し、その內譯は佛本國一、二八八キンタル、外國五二〇キンタルである。尙又香港よりの輸入高は二八、三四四キンタルで外國よりの總輸入高の九九%を占めてゐる。

次に佛領印度より、一、八三五キンタルの輸入を受けてゐることを附加して置く。

○○○

麻織物（單位キンタル）

年次	佛及佛植民地	外國	合計
一九二〇年	一、〇五八	二七、八六三	二八、九二一
一九二一年	一、〇〇五	二七、九二一	二八、九二六
一九二二年	二、六六七	三〇、四八一	三三、一四八
一九二三年	八六九	五〇、二七一	五一、一四〇
一九二四年	一、二一六	四五、二二四	四六、四四〇
平均	一、三六五	五六、三五〇	五七、七一五
一九二五年	五八五	二一、八二四	二二、四〇九

玆に麻織物さいふは、主さして米、玉蜀黍及金屬等の輸出に用ひらるべき袋の事である。

今年度の輸入高は、前年度に比し、二四、〇三一キンタルの減少を示してゐるが、これは同種織物に假輸入の制度を許可したるが爲め、主さしてこれが麻袋に轉用されたる結果、この減少を見るに至つたものである。(卽ち假輸入さして屆出でられた袋は、輸入商品さして記錄せられず)。而して所謂他の麻織物の輸入は、殆んご前年さ同じ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

である。卽ち一九二四年には、一、〇六一キンタルであつたものが、一九二五年には一、〇八一キンタルといふ數字を示してゐる。

綿。織。物。（單位キンタル）

年次	佛及佛植民地	外國	合計
一九二〇年	二五、八三六	五四、二〇六	八〇、〇三二
一九二一年	四二、四一三	一九、九二一	六二、三三四
一九二二年	五九、三六一	一〇、九〇二	七〇、二六三
一九二三年	六七、二七四	七、四八三	七四、七五七
一九二四年	六〇、一〇四	五、三一二	六五、四一六
平均	五〇、九九五	一九、五六七	七〇、五六二
一九二五年	七二、九五二	五、八五七	七八、八〇九

綿織物の輸入は、前年卽ち一九二四年に比し、一三、三九五キンタル、最近五箇年間の平均額に比し、八、二四七キンタルといふ增加を示してゐる。

又同年度に於て佛本國よりの輸入は、六六、五三五キンタルに達し、佛植民地より輸入せられたる高は、六、四一六キンタルである。

綿織物輸入諸外國中主たる國は次の通りである。

日。本。　一、七四三キンタル
香港　一、六五八同
英國　九〇〇同
新嘉坡　五一七同
瑞西　七六二同（？）
蘭領印度　三三〇同

毛。織。物。（單位キンタル）

年次	佛及佛植民地	外國	合計
一九二〇年	一、〇二六	四二四	一、四五〇
一九二一年	二、〇八七	二二八	二、三一五
一九二二年	一、二三九	一七二	一、四〇〇
一九二三年	二、〇三三	一八九	二、二二二
一九二四年	二、四一二	一九一	二、六〇三
平均	一、七五五	二四一	一、九九六
一九二五年	三、九一八	二三七	四、一五五

前表に見る通り、印度支那に對する毛織物貿易上より見て、佛蘭西は完全に優越してゐる。卽ち、輸入高四、一五五キンタルの中、佛蘭西よりの輸入高は三、九一八キンタル（九四％）にして、外國よりの輸入は二三七キンタルである。

絹。織。物。

年次	佛及佛植民地	外國	合計
一九二〇年	三七三	三、七八九	四、一六二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一九二一年	二〇六	二、七六二	二、九六八
一九二二年	二三七	二、四七七	二、七〇四
一九二三年	四七四	二、一一九	二、五九三
一九二四年	六一七	二、二四二	二、八五九
平均	三七九	二、六七八	三、〇五七
一九二五年	七五八	二、七六一	三、五一九

絹織物の輸入は、前年に比し、六六〇キンタル、最近五箇年間平均輸入高に比し、四六二キンタルの增加を示してゐる。

佛蘭西よりは七五七キンタルの輸入があつた。

尙又諸外國よりの輸入を見るに、支那の一、七七一キンタルを筆頭とし、香港之に繼ぎ七五七キンタルを示し、殘餘は日本及英國の輸入する所となる。

へ、輸出貿易總説

年次	佛及佛植民地	外國	合計
一九二五年	五九八、七一七、〇一三法	一、八五七、四六七、四二一法	二、四五六、一八四、四三三法
一九二四年	三四六、一一八、九九九	一、四二五、四二二、三五四	一、七七一、五四一、三五三
差額	二五二、五九八、〇一三	四三二、〇四五、〇六七	六八四、六四三、〇八〇

一九二五年に於ける特殊貿易額は、前年の一、七七一、五四一、三五三法に對し、二、四五六、一八四、四八三法といふ數字を示し、差額(增)は六八四、六四三、〇八〇法(三八%の增加)にして、實に前年度に於ける增加額を凌駕すること六七、七一六、三三三法(である

併れども此の輸出によりて生じたる金額の大部分は、法貨下落に因る商貨物の價格騰貴のため、相殺されるの止むなきに至つた。

なれど印度支那に於ける外國貿易は、直ちに滿足狀態を示すに至るであらう。卽ち彼の一九二五年に於ける諸外國との輸出貿易額は一、八五七、四六七、四二一法を示し、一九二四年に比し四三二、〇四五、〇六七法の超過となり、一方佛本國への輸出は、五九八、七一七、〇一二法にして、前年に比し、二五二、五九八、〇一三法の增加を示してゐる。

尙又最近五箇年間の平均輸出額に比較するときは、一九二五年度輸出額は一、一九五、二八一、六五三法(一四%)の增加を示してゐる。卽ち更に之れを細別すれば、佛及佛植民地向輸出は三七六、〇〇九、二〇五法、外國輸出は八一九、二七二、四四八法の各增加である。

輸出商品價額を大別すれば次の二となる。

米及穀　一、五五九、八八〇、二六一法

其他の產物　八九六、三〇四、一七二法

次表は印度支那各國別輸出を表示したものである(單位千法)

	一九二五年 佛及佛植民地向	一九二五年 諸外國向	一九二五年 輸出合計	一九二五年計	差額
交趾支那	四九六、〇一〇	一、四一二、四三七	一、九〇八、四四七	一、三四一、三三六	增 五六七、一一一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京	八一、五九六	四二二、五五四	四九四、一五〇	三七二、一五三	増	三二一、九九七
安南	二一〇、一五一	二〇、四六七	四〇、六一八	四四、二九九	減	三、六八一
東埔寨	九六〇	一三、〇〇八	一二、九六八	一三、七五三	減	七八五

主なる輸出品連年比較表(單位千法)(一九二五年に於ける順位)

商品名	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
米及之に屬するもの	九五七、二四三	七八二、三九五	六五三、七二八	一、一〇五、三七二	一、五五九、八八〇
護謨	二九、一八六	三六、九八三	二八、四八〇	七八、一五四	一九二、一七七
鹽乾、鹽、燻製魚類	二六、五五八	三三、〇四一	八九、一九七	一三〇、三一一	一〇〇、一六七
石炭	二六、四六四	二五、〇五四	四三、五四九	六〇、六九五	七三、三七七
亞鉛鑛	八、四三七	九、四八九	二六、二一〇	一七、一八八	三六、九九六
胡椒	一七、七〇九	一五、三八〇	一四、四〇〇	三九、九三二	三五、二三五
玉蜀黍	九、八六一	一八、五七五	一〇、五三三	一〇、八〇九	二六、四三三
漆	三、五七六	三三、七三九	九〇八	五、七四一	二四、九二四
セメント	一〇、一九四	一〇、四六六	一一、〇二七	九、八八五	二四、七八四
生獸物	九、八四五	五、一八九	一一、三五七	二〇、五六〇	一八、一三五
コプラ	九、五〇二	六、八六〇	一一、二九四	一七、六九二	一六、〇二八
スティックラック	一、〇六六	二、九七六	七、七六八	一三、〇八一	一五、二二四
未加工獸皮	五、三四五	七、八九三	一三、六二一	一一、四二一	一四、五七〇
干海老	五、三二九	五、〇三四	一一、一一三	八、八三三	一四、三一三
棉花	七、八九二	五、九〇五	九、九〇五	一五、〇〇二	一三、〇二一
白荳蔻及沙仁	六、五一八	七、六二三	九、三四九	五、五九一	一一、九二九
建築材	二、一二〇	四、六二一	六、四二七	三、九六一	一一、七九二
魚脂	一、五一七	一、二七二	三、四四二	一一、一二六	一一、五五七
ラム酒	一、一八四	二、四一七	一、五七三	三、八八九	一一、四五〇
土人産茶	六二四	二、〇五四	五、九七〇	八、三二〇	一一、三八四
桂皮	一一、四三三	一〇、〇一九	一一、一〇四	一一、三四八	一〇、七三〇
錫塊	一、四九九	二、二二三	二、三四八	八、六七〇	九、七九八
生絲	七五六	八九七	四、八二七	七、八六八	八、六四七
手製木綿ダンテル	七九六	二、三八六	四、三六九	六、六〇〇	八、五〇八
珈琲	一、四二一	五、〇九三	三、一一五	七、二四九	五、四二八
鼈甲	二、七九七	二、六二六	八、四六六	七、〇六〇	五、三五一
手製絹地刺繍細工物	一五九	四、七〇三	二、八四五	七、〇四二	五、〇九九
パツシヤーヌ油	八五二	二、三四五	一、九九六	二、七四八	五、〇一五
革	三、〇二四	九六八	一四八	一、八三八	四、九二六
鳥卵	七三七	九二八	三、三七〇	三、五〇一	四、九二三
安南産絹織物	一、二九四	四、一九四	八、八八〇	二、九六一	四、九〇一
粗製藁及樹皮編物	八七三	七六八	六二〇	三、三〇四	四、六二八
錫鑛及ウオルフラム鑛・混合鑛	四七六	八〇九	六三三	一、〇四一	四、二七〇
藥材	二、三〇三	五、三三二	七、七五六	四、一三七	四、一二五
カポツク	二一六	二、一六八	六一〇	一、四三七	三、八九八
糖果類	六二三	四六〇	三、六四五	四、四五〇	三、八九五
木炭	一四三	五六一	二五二	三、四一三	三、八九三
種を取らぬ綿	一、一一一	一、三〇六	一、二〇九	四、四七五	三、八三一
獸皮	六、八七〇	七、二四一	六、八四五	四、七一九	三、五七一
クナオ	一、四六七	一、四三〇	六、〇四八	四、一一三	三、〇六七
落花生	二一八	三三一	五一一	八一	三、〇六二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

土人製赤糖	八、二四二	九、五一三	一三、二四六	一三、〇九五	二、七二九
彫刻或は嵌入細工を施せる木製家具	三二八	五一七	五〇七	六七五	二、一〇三
木製品	一、一〇四	八九一	一、一九一	一、三三二	二、〇八七
乾豆	一、四三五	一、〇七五	一、七二一	三、六二九	二、〇二九
蓖麻子油	一、〇三二	八一二	八四一	二、〇八三	一、五九一
胡麻	七八三	九七二	一二、二九四	一、〇四三	一、五七五
生絲絹絲	二、四九五	二、〇二九	五、二七〇	四、九六九	一、五七一
落花生油	二四一	七〇八	七六六	一、二六二	一、五六二
加工護謨ラック	二九	三五二	一〇	一、四三二	一、四二二
唐胡麻	一	五二	三	六六九	一、三六一
籐	四七一	七六八	六〇六	一、〇七四	一、〇九六
東京席（蘭製）	四五九	二、二五四	五、〇二三	九一八	一、〇六九
コロハン（胡弓の絃に塗る樹脂）	二〇六	九〇	一〇一	四三三	一、九四九
魚肉を捏つたもの及魚醬油	七六九	六六八	九八八	七八一	八八四
食鹽	二、〇〇一	五、六一四	五、七〇〇	五一〇	八三四
安息香	五三	一、一三二	一一九	五二三	八二〇

ト、佛國及佛植民地輸出貿易（單位法）

	佛本國	佛植民地	合計
一九二五年	五八八、五六三、七八六	一〇、一五三、二三六	五九八、七一七、〇二二
一九二四年	三三五、九二七、九八八	一〇、一九一、〇二一	三四六、一一八、九九九
増加額	二五二、六三五、七九八	—	二五二、五九八、〇一三
減少額	—	三七、七八五	—

對佛本國の輸出貿易年一年激増を示し、同年は一九二四年に於ける増加額を越ゆること更に一三六、三六三法（一一七％）といふ數字を示してゐる。

對佛植民地輸出貿易はさしたる變化がないが、印度支那の佛植民地に輸出するもの、重なる物品と仕向地は次の通りである。

レユニオン

白米 五三、五四八キンタル
燐寸 二九四 同
麻袋 一〇六 同
胡椒 七二 同

ニエウ・カレドニア

白米 一八、一九七キンタル
麻袋 一九七 同
胡椒 二九 同
煉炭 五、五〇〇 同
籐製家具 九 同

シリー

チーク 一〇五キンタル
他の建築用材 二四〇 同

又一九二四年に、白米、玉蜀黍、麻袋、燐寸等を輸入した、アルヂエクーは、今年は單に土人産茶一二キンタルを輸入したのみである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次に佛本國への主要輸出品を列擧して、前年と對比すれば次の通りである。（數量單位キンタル、價額單位法）

品名	一九二五年 數量	一九二五年 價額	一九二四年 數量	一九二四年 價額	増減	額
黄牛、水牛未加工皮	六、一二九	四、五九六、五〇〇	四、六四七	二、七八八、二〇〇	増	一、七〇八、三〇〇
土人產生絲	四六八	六、五五二、三〇〇	四四三	六、一八八、九〇〇	増	三六三、四〇〇
魚膠	四四、七〇九	一一、一七七、三〇〇	四九、九四五	一〇、九八七、九〇〇	増	一八九、四〇〇
玉蜀黍	五三七、〇七三	二六、八五三、六〇〇	三四三、五〇三	九、二七四、六〇〇	増	一七、五七九、〇〇〇
米 カーゴ米	八、〇二一	七九四、一〇〇	九九	八、三〇〇	増	七八五、八〇〇
米 碎米	一、三二四、七七九	二八、八四八、四〇〇	八七五、一一三	七、〇二〇、八〇〇	増	二一、八二七、六〇〇
米 粉米	五、〇四一	一九一、五〇〇	一、八〇七	七四、一〇〇	増	一一七、四〇〇
米 白米	六三二、一一三	七二、七八七、三〇〇	四三〇、三二三	四三、八九二、八〇〇	増	二八、八九四、五〇〇
胡麻	一九、四四四	一、三六一、一〇〇	九、五六四	六六九、五〇〇	増	六九一、六〇〇
コプラ	八五、八二一	一五、四四五、九〇〇	九七、七四二	一七、五九三、五〇〇	増	二、一四七、六〇〇
珈琲	三、七六九	五、四二七、九〇〇	八、〇〇五	七、二〇四、九〇〇	減	一、七七七、〇〇〇
胡椒	三四、七五三	三二、一四六、三〇〇	三四、九二七	二七、九四一、五〇〇	増	四、二〇四、八〇〇
桂皮	九九五	一、一九三、八〇〇	二三七	二八五、四〇〇	増	九〇八、四〇〇
土人產茶	八、九〇七	九、七九三、三〇〇	六、八六五	七、五五一、八〇〇	増	二、二四一、五〇〇
煙草	一、一五四	二三〇、七〇〇	六四〇	一二七、九〇〇	増	一〇二、八〇〇
カウスイガヤの精油	三二四	一、六二〇、五〇〇	一九一	九五四、二〇〇	増	六六六、三〇〇
粗製ゴムラック或はスティック、ラック	七、八三五	九、四〇一、八〇〇	八、二二九	九、〇五一、五〇〇	増	三五〇、三〇〇
安息香	五四六	八一九、八〇〇	三四八	五二一、九〇〇	増	二九七、九〇〇
護謨	七一、九六四	一七二、七一三、三〇〇	五〇、二七六	四七、八一七、八〇〇	増	一二四、八九五、五〇〇
アニス又はバッジャーヌ油	一、六五五	四、九六三、九〇〇	一、七五九	二、六三八、二〇〇	増	二、三二五、七〇〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

チーク	一六,五三三	一,五四六,〇〇〇	一四,八三五	九九三,九〇〇	増	五五二,一〇〇
他の建築用材	三五,一八八	二八四,四〇〇	五,〇四三	一〇八,七〇〇	増	一七五,七〇〇
棉花	一,八三五	一,六五一,四〇〇	四,〇八三	三,六七四,五〇〇	減	二,〇二三,一〇〇
粗カポック	三四二	一〇二,六〇〇	六九九	二〇九,六〇〇	減	一〇七,〇〇〇
種を取れるカポック	一,〇七四	一,〇七四,三〇〇	一	七〇〇	増	一,〇七三,六〇〇
ラム酒及糖酒	ヘクトリットル 九,五四〇	二,四四八,三〇〇	ヘクトリットル 六,四八〇	三,八八八,二〇〇	増	七,五六〇,一〇〇
石炭	二二七,九四一	二,二七九,四〇〇	二三八,八四四	一,八三〇,七〇〇	増	四四八,七〇〇
煉炭	四〇,一〇〇	八〇二,〇〇〇	五一,九一〇	一,〇三八,二〇〇	減	二三六,二〇〇
粗錫塊、錫塊、錫板其他	三,二四一	九,七二二,五〇〇	三,一九三	八,六二三,三〇〇	増	一,〇九九,二〇〇
亜鉛鑛	一三三,一九八	七,八六〇,〇〇〇	七〇,九二二	四,三〇七,〇〇〇	増	三,五五三,〇〇〇
粗亜鉛塊、亜鉛塊、亜鉛板其他	四,五〇三	一,八〇一,〇〇〇	—	—	増	一,八〇一,〇〇〇
ウォルフラム	七〇二	一〇五,〇〇〇	八八七	一〇六,四〇〇	減	一,四〇〇
混合鑛(ウォルフラム及錫の混合)	一,七五八	二九〇,〇〇〇	一,四一二	二三八,〇〇〇	増	五二,〇〇〇
麻袋	一二,八六〇	四,四四三,四〇〇	七,二〇二	二,三三〇,三〇〇	増	二,一一三,一〇〇
手製木綿ダンテル	二七五	七,九二四,九〇〇	二七〇	六,四八七,二〇〇	増	一,四三七,七〇〇
手製絹地刺繍細工物	四八	四,〇五三,〇〇〇	四一	二,八四九,七〇〇	増	一,二〇三,三〇〇
安南産絹布	二六一	四,六九四,六〇〇	一八〇	二,七〇七,二〇〇	増	一,九八七,四〇〇
彫刻せる木製家具	六一五	六六三,八〇〇	五七一	五一三,七〇〇	増	一五〇,一〇〇
曲木以外の木製家具	九九七	一,〇一七,三〇〇	三三一	二七三,一〇〇	増	七四四,二〇〇
東京蓆(藺製)	二,〇二六	七五九,九〇〇	一,一〇二	二七五,五〇〇	増	四八四,四〇〇
釦	二四七	一,一二三,七〇〇	三二四	八八四,七〇〇	増	二三八,〇〇〇

次に佛國各植民地への主要輸出品及價額を擧ぐれば、

品名	一九二五年 數量	一九二五年 價額	一九二四年 數量	一九二四年 價額	增減價額	
玉蜀黍	—	—	一六、三五八	四四七、一〇〇	減	四四七、一〇〇
白米	七一、七四五	八、三九四、一〇〇	七三、六六一	七、五一三、五〇〇	增	八八〇、六〇〇
胡椒	一〇二	九三、五〇〇	一三	一〇、七〇〇	增	八二、八〇〇
セメント	三、六〇四	一三六、九〇〇	四、八六九	一二一、七〇〇	增	一五、二〇〇
石炭	—	—	五、〇〇〇	四〇、〇〇〇	減	四〇、〇〇〇
煉炭	五、五〇〇	一一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	減	二九〇、〇〇〇
麻袋	三〇五	九七、二〇〇	三三六	九七、七〇〇	減	五〇〇
綿織物	四五	一八五、七〇〇	一六	六〇、一〇〇	增	一二五、六〇〇
毛布	三	七三、九〇〇	三六	一〇〇、八〇〇	減	二六、九〇〇
手製絹地刺繍細工物	二	一八〇、六〇〇	一	八〇、五〇〇	增	一〇〇、一〇〇
安南絹布	二	三一、〇〇〇	—	三、九〇〇	增	二七、一〇〇
衣類	三〇	一四五、五〇〇	二九	一一六、〇〇〇	增	二九、五〇〇
曲木以外の木製家具	五九	六〇、一〇〇	二四九	二一一、三〇〇	減	一五一、二〇〇
東京蓆(簡製)	一二七	四七、五〇〇	三九	九、六〇〇	增	三七、九〇〇
燐寸	三二七	九四、二〇〇	三二八	六六、六〇〇	增	二七、六〇〇

前表に據り、佛本國向輸出の著しく增加せるものを順位列擧すれば次の通りである。

護謨の一一四、八九五、五〇〇法、碎米の五一、八三七、六〇〇法、白米の二八、八九四、五〇〇法、玉蜀黍の一七、五七九、〇〇〇法、ラム酒及椰酒の七、五六〇、一〇〇法、胡椒の四、二〇四、八〇〇法、亞鉛鑛の三、五五三、〇〇〇法、ペッシャーヌ油及精油の二、三二五、七〇〇法、土人產茶の二、二四五、五〇〇法、麻袋の二、一一三、一〇〇法、安南產絹布の一、九八七、四〇〇法、粗亞鉛塊、亞鉛塊、亞鉛板等の一、八〇一、〇〇〇法、黃牛、水牛等の未加工皮の一、七〇八、三〇〇法、手製木綿ダンテルの一、四三七、七〇〇法、手製絹地刺繍細工物

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

の一、二〇三、三〇〇法、粗錫塊の一、〇九九、二〇〇法、種を取れるカポックの一、〇七三、六〇〇法である。

反對に減少せる主なるものは、

コプラの二、一四七、六〇〇法、棉花の二、〇二三、一〇〇法、珈琲の一、七七七、〇〇〇法である。

佛植民地向輸出の中で前年に比して最も增加したものは白米の八八〇、六〇〇法で、反對に減少したものゝ筆頭は玉蜀黍の四四七、一〇〇法である。

暹羅

□暹羅の鑛業

沿　革

暹羅は豐富なる鑛物資源を埋藏してゐると云はれてゐるが、同國の鑛業が産業となつたのは果して何時頃であるかは確言することが出來ない。然し、半島暹羅に於ては過去幾世期に亘つて時折採鑛が行はれて來た事、及び支那人が之を企てた最初の國民であることは一般に信じられてゐる。

而らば何故に支那人が暹羅最初の鑛業者であるかに就ては、考古學者及び歷史家は次の如く說明してゐる。昔時支那商人は戎克に乘じて海路を印度に旅行することを常としたもので、旅程を短縮する爲め多くは陸路をとり馬來半島を橫斷したに相違なく、爲めに恐らく南部暹羅のナコンスリータムマラート近傍の何地かに上陸し、トラング近隣にて再び乘船したものであらう。又同時に右の他チユムポンよりパク・チャンに至るが如き諸道があつたかも知れない。斯して半島橫斷の途次に偶然錫の含鑛層を發見し、之を自然的に鎔解し、持歸つて自家用に供した。年月を經るに從ひ採鑛に益々興味を感じ心を奪はれるやうになり、遂に商業的基礎に於て大規模に錫鑛山の採掘に取掛つたのである。

其初期に於ては鑛業地及び租借權は容易に獲得されたもので、知事は斯る事件を取扱ふ全權を掌握し、又は我物顏に之を借取してゐた。沿路外の邊域の地は恐らく多くは鑛業者の氣儘勝手に境界を劃定したもので、其結果直に境界の重複を生じて同志討的系爭を初め、勢力あるものが常に勝利を博した。

斯る狀態は多年繼續したが、先皇帝の世になつて漸く中央當局は同國採鑛業に干涉を始め、之に責任を有つに至つた。暹羅二四三四年（西曆一八九二年）一月、鑛山局が建設せられ、歐人鑛業專門家及び技師を招いて制度の制定に從事せしめ、試掘免許及び採掘權は凡て之を同局に提出して審議に附しなければならなくなつた。盤谷に在る主腦局は最初農務省に附隨してゐたが、後二四三九（一八九

六－七）年に至り大藏省に移轉せられた。

プケットは錫鑛業の中心であつたので、暹曆二四四一（一八九八－九）年支局を同地に建設したが、之は今尙現存してゐる。

二四四二（一八九九－一九〇〇）年鑛山局は再び農務省に轉移され、爾來依然として同省に屬してゐる。

後鑛業益々擴大するに至つて、支局をシンゴラ縣・ナコンスリータムマラート・パターニー・ヤラー・ベトング・スラーシュトラー・ラングスアン及びチュンプリー縣に增設した。

二四四四（一九〇一－二）年に管理を簡便にする爲め鑛業法が發布された。新舊借地權は双方共再調査を行ひ、適法なる所有者は各自己の權利を益々保證されるやうになつた。

錫鑛業が發達して益々隆盛となるにつれ、時勢に對抗する爲め右法を修正するの必要を認め、二四六一（一九一八－一九）年現行鑛業法の發布を見るに至つた。

備考　現行鑛業法は在暹日本人會出版の「暹羅事情」に詳述してある。

暹羅の鑛源

暹羅は金・銀・鉛・銅・錫・オルフラム鑛・灰重石・鐵・安質母尼・水鉛鉛・亞鉛・ルビー・サファイア及び石炭等諸種の鑛物を埋藏してゐる。右の中最も重要なのは錫であるが、都合上之を後に廻し、其他の鑛源より列擧して其一斑を示さう。

金　金は同國鑛源中石炭と共に錫に亞いで第二位を占めてゐるが、工業としては今尙其初期にあり、支那人又は暹羅人に依り同國諸所の河床を洗滌して小規模に採取されてゐる。嘗て歐人諸會社は大資本を擁してトモー・バンタパン・ワタナー・クラビン等の諸金鑛採掘を試みたが、凡て失敗に歸した。然しこの失敗がどの位迄埋藏量の貧弱に起因するものであるか、又どの程度迄事業管理の不良に依るものであるかは斷言し難いが、多くの場合は主として管理の當を得なかつたことに起因してゐることは明瞭である。又小規模のものはペチャブーンのロムサク及びロッブリーのプーキリカにて其資本を開鑛に濫費したのみで其結果は共に上つてゐない。然し上記の箇所は今尙地方民が小量の金を採取してゐるが、多くはほんの餘暇仕事として金洗滌に從事してゐるものであるから、該作業が一かどの產業を成すか否かは斷言し難い。尙沖積層の殆んど採掘し盡されてゐるトモーにては小量の鑛脈採鑛が支那人に依つて行はれてゐる。

石炭　プケット州ゲービー（Gherbi）縣に石炭の存在することが久しき以前から知られてをり、同地にては已に埋藏量調査の爲めに某額の資本が費出されたが、今日迄に右資源より得た石炭を調査した結果は左程有望とも見えないので、此上の開拓は拋棄されて仕舞つた。此他トラング縣及びスラーシュトラー縣のキャンサに石炭が存在することが報ぜられ、之が採掘の爲め一會社（Siam Coal Co.）が設立されてゐる。產炭は褐炭で、盤谷の暹羅セメント會社がこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の石炭を使用した結果は成績良好であるとのことである。炭業は工業としては尙初期にあるが、金と共に錫に亞いで重要視せられてゐる。

ヲルフラム　歐洲大戰時は軍需品製造に使用する爲め異常なるタングステンの需要が起り、其結果市價の騰貴となつて世界各地のヲルフラム及び灰重石鑛業熱を煽つた。暹羅にても當時は大規模に採掘せられ、一九一七—二〇年間には九、〇〇〇擔の採鑛をなし之を輸出してゐるが、戰爭終熄と共にタングステンの異常なる需要は停止せられ、價格は戰前よりも尙低落した爲め、暹羅に於ける同鑛山は爾後全く閉止されて仕舞つた。同鑛は南部暹羅に著量に存し、今日迄に位置を定められた最も重要なる層は、ナコン・シータムマラート州のクライ郡及びスラーシュトラーに近き暹羅灣のサムイ島に存する。亦シンゴラ縣及びプケット州にも存在する。

銅　數年前丁抹の資本家がコーラットへの途中のチャントゥクにて銅山の採掘を試みて失敗した。銅脈はチャントゥクの他、カノンブラー及びロップリーにも發見せられ、其他の地方よりも時折銅鑛の見本が齎らされて鑑定に供せられてゐるが、其殆んどは硫化物である。尙銅は現今未だ試掘時代であるが、市況が良好であれば先々有利なる企業地を提供することゝ思はれる。

寶石　一九〇七年にバッタムボンのパイラン（Pailin）地方を佛國に割讓してから、暹羅の寶石鑛業は重要性を失つたが、一定額の採鑛は今尙パイランに隣接してゐるコーラット郡及びチャタブーン郡に經營されてをり、稅關統計表を見れば恐らく右兩郡の原產らしい未加工のルビー・サファイアの輸出がある。一九二一年カーンブリー縣にサファイアを含有する系統が存在するとの報告があり、同時に勅令が發布されて寶石鑛業も一九一九年の暹羅鑛業法の範圍內に入れられた。尙特別法規が作成され、右新地方の寶石採鑛權を取得する爲め數通の願書が提出されて其一つが免許された。然し其採掘は今日迄主として實驗的性質のものであるが、將來市況の良化と相俟つて有利なる企業となるであらう。

鉛　鉛はパターニー州ヤラー某地方に錫と結合して存在し、鉛は炭酸鹽として錫は酸化物をなしてゐる。兩者の比重が同等である爲め、原鑛は普通の水選法（ウオター・コンセントレーション）にて分離することは困難であるから、地方にて鎔鑛を行ふが、此際一種の白鑞を生じ、其合金に依つて之を五等級に分類する。一等品は不純物として鉛を含む殆んど純粹なる錫であり、五等品は不純物として錫を含む程度の純鉛に近いものであつて、主として支那に輸出されるやうである。カーンブリー又は其他數地方（恐らく）には方鉛鑛をなせる錫が存在してゐるが、今日に至る迄商業的規模にて採掘されてゐない。經濟狀態の頗る良好となるか又は銀の含有步合が高くなるかしなければ、一般鉛鑛業が同國に於ける有利なる企業となるかは多少疑はしい次第である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鐵　鐵は赤鐵鑛、チャン鐵鑛及び磁鐵鑛の形となつて同國到る所に廣く分布してゐるが、今日迄銑鐵の主要素である餅炭が存在しない爲め、未だ曾て商業的規模で鐵を生産しやうと試みられたことはなく、只地方的消費を充たす爲めに諸所で小規模な産出が行はれてゐるに過ぎない。

水鉛鑛　チャンタブーン縣下の水鉛鑛採掘の爲め、最近借地券が發行されたが、オルフラムと同樣に該金屬の特殊なる需要は大戰後終熄し、其結果在荷は直に推積されて、爾後二箇年間の世界需要を充給し得る程であつた。隨つて價格は暴落し、大低の場合に生産費を償ふべくもないと思はれる數字に達した。

安質母尼　同層はラムパンに發見せられてゐる。

錫

錫は最も重要なる鑛産で、廣く南部暹羅卽ち半島暹羅諸州及びラーチブリー州にて採掘せられ、尙其他の地方にも存在する模樣である。

プケット州は半島暹羅の西部海岸線全部を包有する、同國隨一錫鑛業地で、實に全産額の約九〇%を産出してゐる。然し該錫産地は漸次に其生産を減少し、プケット島の如きは、以前は最も重要なる産地で全産量の過半を産出してゐたが、今日では大いに産鑛量が減少した、一方有利に採鑛し得る新鑛區の存することは疑ひないが、然し同島の採掘しつくされる時機の遠からず到來すべきことも明らかである。然し、本土に於ける試掘は不斷に進捗しつゝあつて、同鑛業の將來は尙遼遠にして而も殷盛たるべきを示してゐるやうである。

半島東海岸にては曾てパターニー州が産量に於て首位を占めてゐたが、パターニー州の産鑛減少とナコン・スリータムマラート州の産量增加とに依り、此處數年はナコン・スリータムマラート州が最大生産をなし、パターニー州は第二位に落ちた。スラーシュトラターニー州は以前は年々二、三千擔の生産を見たが、こゝ二、三年間(暹曆二四六五年以降)は全然産出されてゐないし、ラーチブリー州に至つては最近僅かな産出を示してゐるに過ぎない。

錫の地別輸出表（擔）

年度＼輸出地名	プケット州	
	プケット	ラノーング
二四五六年	六二、二二四	一一、三六二
二四五七年	五八、一五〇	一五、六七四
二四五八年	六八、七六九	三一、二六八
二四五九年	六四、三八五	三八、七〇四
二四六〇年	六三、二四七	三九、三三七
二四六一年	六五、七一三	三〇、〇一四
二四六二年	五六、七九二・七	三二、〇八二・七
二四六三年	五六、一七八・一	二四、八一七・一
二四六四年	三一、八九九・八八	三二、六二四・三〇
二四六五年	四一、九九七・三六	三一、五〇二・八二
二四六六年	四九、一三六・八八	二九、三六九・八六
二四六七年	四四、八七五・一八	三六、七五四・三三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

タクアパ	九,〇五四	八,三五二	八,一七四	七,一一三	八,〇三三	一〇,四〇五	一三,〇二〇・五	一三,七一六・八	一三,四八五・一四	一四,五六五・八七	一七,五六七・八七	一三,八七五・四三
パンゲア	一四,〇一三	一三,八二六	一九,二四三	一六,六八八	一六,三六三	一三,一一三	一三,八五〇・三	一〇,六五二・九	二,六六四・三九	二,〇二九・〇八	一,七二七・八一	一,四一七・七〇
トランゲ	三,四四四	二,三八八	三,五四一	三,八四九	五,〇四〇	五,七四九	六,六六五・〇	三,二四〇・五	二三,九六・三二	六,五〇二・五六	一四,八二三・七一	二〇,一四四・六八
小計	一〇〇,二九七	九八,三九〇	一三〇,九九四	一三〇,七三九	一三一,九九九	一二四,九九四	一三一,四一一・二	八七,六〇五・四	八二,〇七〇・〇二	九六,六〇四・六九	一一二,六二六・一三	一一七,〇六七・二五
オルフラム	—	—	—	—	—	—	—	—	(−)五五七・五一	(+)一九九・五三	—	—
	一〇〇,二九七	九八,三九〇	一三〇,九九四	一三〇,七三九	一三一,九九九	一二四,九九四	一三一,四一一・二	八七,六〇五・四	八一,五一二・五一	九六,八〇四・二二	一一二,六二六・一三	一一七,〇六七・二五
ナコン・スリータムマラート州												
シンゴラ	四九二	五二六	七三〇	九七九	一,四七九	二,三五九	一,五一一・四	七七六・一	一,六四五・〇二	四,三八四・七四	六,六七八・九七	一〇,五〇九・三三
ナコン・スリータムマラート	一,六六三	一,四九九	一,七三二	二,六七四	四,四二〇	一二,九四二	八,五一四・四	一〇・五七六・八	一一,八六四・七五	八,九五三・六八	一,〇八六・五三	六一八・八八
小計	二,一五五	二,〇二五	二,四六二	三,六五三	五,八九九	一五,三〇一	一〇,〇二五・八	一一,三五二・九	一三,五一〇・一七	一三,三三八・四二	七,七六五・五〇	一一,一二八・一〇
オルフラム	—	—	—	—	—	—	—	(−)一,九三六・一	(−)五二二・九五	—	—	—
	二,一五五	二,〇二五	二,四六二	三,六五三	五,八九九	一五,三〇一	一〇,〇二五・八	九,四一六・八	一二,九八七・二二	一三,三三八・四二	七,七六五・五〇	一一,一二八・一〇
パターニー州												
東海岸	六,三四一	五,九五〇	七,四九九	六,四二五	六,四二六	五,七一五	七,一八八・六	四,八四二・三	六,〇二九・四〇	五,三八一・七六	六,二三九・六五	四,一四三・一四
ケダ經由	二,〇一〇	二,〇三九	七,九七〇	四,一六四	七,〇九四	二,八四五	一,九六六・七	一,三四三・三	二,七七九・四七	一,九二六・五〇	一,三九一・四六	一,〇四九・二六
小計	八,三五一	七,九八九	一五,四六九	一〇,五八九	一三,五二〇	八,五六〇	九,一五五・三	六,一八五・六	八,八〇八・八七	七,三〇八・二六	七,六三一・一一	五,一九二・四〇
	八,三五一	七,九八九	一五,四六九	一〇,五八九	一三,五二〇	八,五六〇	九,一五五・三	六,一八五・六	八,八〇八・八七	七,三〇八・二六	—	五,一九二・四〇
スラーシュトラー州												
スラーシュトラータニー	二,〇九三	一,七九四	一,四五九	一,三七二	一,一一三	九六五	一,一三〇・〇	五一九・六	一七・二〇	—	—	—
ランゲスアン	四六六	五三三	七九一	九〇六	一,二五一	一,六五五	一,七八三・〇	四五五・三	—	—	—	—
小計	二,五五九	二,三二七	二,二五〇	二,二七八	二,三六四	二,六二〇	二,九一三・〇	九七四・九	一七・二〇	—	—	—
クルンテープ州												

谷	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六九・八三	二〇〇・二〇
小計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	六九・八三	二〇〇・二〇
ラーチブリー州 小計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三	七〇	一七五
總計	一三三,三六二	一一〇,七三一	一五一,一七五	一四七,二五九	一三三,七八二	一四八,四二五	一三九,八五三・二	一〇四,一八二・七	一〇三,三二五・八〇	一一七,四八二・九〇	一二八,一五二・五七	一三三,七六二・九五

備考　暹暦二四五六年は西暦一九一三年四月—一九一四年三月とす。
二四六一年度及び二四六二年度の計は、夫々三、〇三〇擔及び五、六一九擔のオルフラムを含む。
尙暹暦二四六六年度に於ては一九二三年七月以降錫鑛一擔に付き七二%の金屬錫を含むものとして記載す。

錫の採鑛法

一、狸掘

暹羅にて"Hmüang Hab"又は"Hmüang Yai"と呼ばれてゐる。

開鑛するに當つては、先づ"Karang"と稱せられる錫含有地層に到達する迄上部の沖積土を排除する。この沖積土は最初地面に堆積するが、開鑿を開始したる後は、採掘の進むに連れて所謂 Karang を採去つた後の坑に埋積される。

Karang は一般に實際採掘中に洗滌され、坑山は全く一種りの Karang となり鑛尾は凡て保留される。斯して得たる鑛物は小屋に運搬し、此所にて亦粗雜なる洗滌を行ふ。爾後錫を乾燥し、袋に詰めて運搬に備へられる。

二、普通の採鑛法(Hill Mining)

Hill Mine は暹羅語で"Hmüang Kra"と稱せられ、此鑛山にては酸化した錫鑛は分解されたる花崗岩中に散在し、採掘法は山丘又は平地に於ける沖積層の(之は勿論主要なる資源をなしてゐる)採掘法とは全く相異してゐる。之は流水作用を利用して採掘し、其水は山腹に沿つて切開かれた溝に依つて屢々頗る遠方より引かれる。この粘土狀層上に及ぼす水の分壊作用は、數人の苦力がゐて鐵棒其他の器具を以て之を援助する。斯して山の全區が周圍の平地同樣に掘下され、錫鑛は採取の爲に用意された溝に集められる。該法は比較的少量の人力を要するに過ぎない爲めこの方法に依れば原則として企業を有利ならしめるが、此型の採鑛は鑛尾が米田に大害を及ぼすの故を以てプケット州にては現今禁止されてゐる。

其他暹羅語で"Hmüang Lên"として知られてゐる同樣なる採鑛法

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

があるが、沈積鑛物が其地一杯に擴布し且其含有鑛物及び層高に著しき變異ある場合に適用せられる。右法との主要なる差異は、後者の場合は地表のみ採掘せられるにある。

三、竪坑採鑛

竪坑採鑛（暹羅語で Hu iiang Luang 又は kmiiang Plong）は一種の坑内採鑛である。

此場合は上部の沖積土を取去ることなく、唯"karang"含有地層のみを掘出し、搬送する沖積土の量は、竪坑を掘抜く爲めに掘開を要する部分に過ぎない。竪坑を掘抜けば、karang は手桶に入れ滑車に依つて地表に搬出し之を洗滌する、尙鑛尾が多量に推積すれば一般に之を其竪坑內に埋め戻す。

四、浚渫採鑛法(Dredging)

桶渫採取法（卽ち一連の鐵板バケツを無極連鎖に結束し以て採鑛する法）は一九〇七年に紹介されたもので、暹羅の錫鑛業史上に重大事件となつた。同年十一月濠洲人會社 Tongkah Harbour Tin Dredging Co. が暹羅最初の浚渫機を使用してプケツト灣に作業を開始し、頗る成功を收めた結果、同社は漸次に其計畫を擴張し、現今にては五臺の浚渫機を有して居り、其中最新式の二機は一箇月一〇〇、〇〇〇立方碼の能力を有してゐる。

この成功は引いて他會社の浚渫採鑛法の採用となつたが、之等の會社は凡て內陸にて作業を營み、海岸諸所に於ける試掘は失敗に歸して第二のTongkah Harbourを現出するに至らなかつた。然しTongkah Harbour Tin Dredging Co.は、最近現作業地に程近きチャロング灣上に鑛業權を取得した。

Tongkah Harbour Tin Dredging Co. 以外の諸會社が使用してゐる浚渫機數を列記すれば

レノーング縣にては——

Renong Tin Dredging Co.	二機
Siamese Tin Syndicate	三機
Rangrin Tin Dredging Co.	一機
Ratrut Basin Tin Dredging Co.	一機

を運轉してをり、更に南部に移り隣縣タクアパー縣にては—

East Asiatic Co.	一機
Takuapa Valley Tin Co.	一機

を運轉し、Siamese Tin Syndicate, Ltd. は更に二機を注文してゐる。

其他東部海岸諸縣にては、現今ナコン・スリータムマラート縣下Ronpibunにある Ronpibun Tin Dredging Co. が二機を、シンゴラ縣下テパーにて新規に企業を起した Tepah Tin Dredging Co. が一機を運轉してゐる。

歐洲大戰時は製造業者より新規機械を買取ることが極めて困難であつた事及び殆んど禁止的價格を課せられた事等で、暹羅に於ける錫浚渫業の擴張は著しく遲延してゐる。然し現今右樣の狀態は稍和

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

されてゐるから、恐らく南部諸州にては遠からず益々多くの同機が運轉されるに至るであらう。

尙浚渫採取法は注水堀掘 (Flooded Open Cast Mine) の採掘に類似するものと認めてよい。

浚渫法に依る産錫量の實際額は一九一六年以來漸増し、現今にては其他の採取法に依る産量と伯仲してゐる。次表より見れば、浚渫採取鑛と其他の方法に依る鑛との步合は、錫價の異常な高値を唱へた一九一六、一九一七、一九一八年には一對二であり、過去多年に亘つて見られない最低値段を示した一九二一年には二對一に逆轉した。

年次	浚渫法に依る産錫量 (擔)	其他の方法に依る産錫量 (擔)
二四五九	四七、二九八	九九、九六一
二四六〇	五一、三四三	一〇二、四三九
二四六一	五二、一二四	九六、三〇一
二四六二	七四、九九二	六八、五一三
二四六三	五九、三一三	四五、一七〇
二四六四	七二、七一三	三〇、六一二
二四六五	六八、六一八	四八、八三二
二四六六	六一、六一五	六六、四六七
二四六七	七二、七二八	六〇、八五九

尙浚渫法に依る錫の産額を詳述表示すれば次の通りである。

錫鑛の浚渫採取量表 (擔)

會社名	二四五八	二四五九	二四六〇	二四六一	二四六二	二四六三	二四六四	二四六五	二四六六	二四六七
Tongkah Harbour	一四、六二五	一三、三四九	一三、七六六	一五、〇二五	二〇、三〇三	一四、七六六	七、六四〇・一二	八、八二五・一七	四、五六七・四四	五、二五七・〇〇
Tongkah Compound	五、四一一	一、三二五	四、四一六	四、九〇八	六、三五九	—	—	—	—	—
Bang Tow	—	—	—	—	—	—	八、七九三・九六	九、〇二四・八五	六、二一五・一六	四、三三九・九六
プケット縣計	二〇、〇三六	一四、六七四	一八、一八二	一九、九三三	二六、六六四	一四、七六六	一六、四三四・〇八	一七、八五〇・〇二	一〇、七八二・六〇	九、五九六・九六
Renong Tin	八、五八六	一〇、五〇二	一一、四四九	六、八八〇	一二、七八二	一一、〇二六	一三、四六五・二三	一一、二二八・三九	九、九二二・一九	一〇、三三三・三三
Siamese Tin	一一、五〇九	一〇、三二八	九、一七六	八、九一二	一七、〇六九	一八、三〇九	二三、五五七・五三	一九、七八八・〇九	一九、三八七・一八	二〇、一四五・〇七
Deebook	四、〇〇六	三、一〇六	二、五三一	二、三四二	二六五	—	—	—	—	—
Katoo Deebook	二、六九二	二、七九二	一、六八六	—	—	—	—	—	—	—

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Ratrut Basin	—	一,〇九三	三,五一〇	四,〇一四	五,三三九	四,三七二	四,二〇五・一六	三,五八九・〇〇	一,四三五・九〇	四,七九二・〇〇
Bangnon Valley	—	四,八〇三	二,九一六	三,八八五	—	—	—	—	—	—
Bangrin Tin Dredging	—	—	—	—	—	—	—	—	二,三六五・八四	五,四六六・一三
ラノーング縣計	二六,七九三	三三,六二四	三一,二五六	二六,〇〇三	三五,四四五	三三,七〇七	四一,二二七・九〇	三四,五九五・四八	三三,一一〇・一一	四〇,六二五・五二
East Asiatic Co.	—	—	六五七	三,五九九	七,九五四	六,七七〇	一〇,一〇一・七五	一一,五一三・二五	一三,五五九・二五	一一,〇五三・五〇
タクアパ縣計	—	—	六五七	三,五九九	七,九五四	六,七七〇	一〇,一〇一・七五	一一,五一三・二五	一三,五五九・二五	一一,〇五三・五〇
Kangtang Tin	—	—	—	—	—	—	八・〇〇	—	—	—
Lampeh Tin	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一,六六六・一七
トラング縣計	—	—	—	—	—	—	八・〇〇	—	—	一,六六六・一七
Ronpiboon Tin	—	—	一,二四六	二,五八九	四,九一九	三,七七〇	四,九四二・〇〇	四,六五〇・〇〇	四,一六四・〇〇	九,七八六・〇〇
ナコン・シータムマラート縣計	—	—	一,二四六	二,五八九	四,九一九	三,七七〇	四,九四二・〇〇	四,六五〇・〇〇	四,一六四・〇〇	九,七八六・〇〇
總計	四六,八二九	四七,二九八	五一,三四三	五二,一二四	七四,九九二	五九,三一三	七二,七一三・七三	六八,六一八・七五	六一,六一五・九六	七二,七二八・一七

備考　暹暦二四五八年は西暦一九一五—一六年とす。

五、Suction Cutter Dredge

最近の革新は Suction Cutter Dredge となつて表はれ、トラング附近にて Lampeh Tin Dredging Co. が之を實驗してゐる。該浚渫機の特長は、離心喞筒の吸揚管に鑿岩機(カツター)を取付けたる所に存し、之に依つて karang を破碎し、而る後喞筒にて直接漏斗に吸揚げるのである。

六、強水壓機法

この錫採鑛法は現今馬來半島にて盛んに流行してゐる。之は壓力を加へたる水を karang 破碎に使用し、之を直に樋口に導き錫鑛を洗滌し、錫の比重の大なるを利用して錫を分離せしめる方法である。

若し好適なる塵捨場を有する時は此採鑛法に依り頗る安價に錫を生産することが出來る。故に水を或る高度に押上げ之を工程に使してさへも尙收支相償ふことである。ノーング・ペットにては甚だ遠方より水を引いてゐるが其 Monitor よりの水壓は一平方糎約二五〇

封度である。

六、改砂喞筒法（グラヴェル・パムピング）

該採鑛法は或場合（Ground-sluicing System を改良したものと思はれる。

右方法では Hill Mining の場合の如く錫含有土を破壊するが、Karang 鑛尾及び岩屑は改砂喞筒（グラベル・パムプ）にて樋箱（スルース・ボックス）に押上げられる。

この方法に依れば頗る迅速に且經濟的に採鑛が出來る。

錫市場

小資本にて經營せる小鑛業者は、採取したる原鑛をシンヂケート又は鎔鑛者の代理店に無理矢理買收される有樣であるが、斯る方法で取引をすれば利害共に相伴ふのは勿論である。

一方に於ては右鑛業者は、使用苦力に支拂をなし必需品を購入すべき現金を受取ることが出來るが、又同時にその價格なるものは購入者側に市價の下落あるも之を償ふに充分なる利益を見、且亦購入者の經費に對する利益を與へなければならない。

大資本を包有する鑛業者は、其他の貿易に於けると同じく、價格の之を販賣するに充分なる高價を唱ふる迄採取した錫を在庫して置く餘裕を有してゐる。

鎔鑛者は又自己の鎔鑛爐の使用を中絶する事のなき樣出來得る限り多額の在庫を蓄積しやうとする。其ため錫鑛業の各中心地には代理商を有し、市價で提供される原鑛は何でも進んで之を買收して仕舞ふ。右代理商の他に亦仲買人なるものがあつて、在庫を有ち商機熟したる時に之を賣却して博利してゐる。仲買人は時に鑛業者の全産量を買占める爲め、彼等に前貸をなすことさへある。

主なる購買者は Straits Trading Co. Ltd. 及び Eastern Smelting Co. である。前者は本店を新嘉坡に置き、プケット其他諸所に支店を有ち、後者は其工場を彼南に、ツングソング及びプケットに代理商を有つてゐる。

暹羅錫の全產額は主に原鑛の儘で海峽植民地（主として彼南に、又新嘉坡にも小量）に輸出され、支那人が國內にて鎔鑛する錫鑛の額の如きは殆んど等閑に附すべきである。

鑛山收入

鑛業より上る收入の大部分は、錫及び錫鑛より徵集する鑛山使用税で、殘部が試掘免許等の料金である。錫の鑛山使用税は所謂スライディング・スケールに基き、新嘉坡市場に於ける同金屬の時價に依つて計算する。次表は過去八年間に於ける鑛業收入及び右年間の新嘉坡市場に於ける錫の平均價格（海峽弗）を表示したものである。

年次（暹曆）	平均錫價（擔當り）	收入
二四五九	八九、〇〇弗	二、七七六、六七〇餘
二四六〇	一二二、〇〇	四、九四四、四六四
二四六一	一四七、八四	七、三五〇、八八四
二四六二	一四八、三〇	四、六四八、四六〇
二四六三	一三〇、〇〇	二、三二三、五九九
二四六四	八一、六〇	一、〇四七、一六〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二四六五	八六、六〇	一、三四〇、五三一
二四六六	一〇九、八七	二、〇五七、五九六

備考　暹暦二四五九年度は西暦一九一六年より一九一七年迄とす。

二四六二年度の全産額は前年度より五、〇〇〇擔計りの減少に過ぎないし、同金屬の平均價格も多少高價であつたから、二四六二年度收入が前年度に比し著しき減少のあることは、外見上より見れば多少異常があるやうであるが、之は銖の爲替價格の著しき增加に依るもので、同年間に六三弗より八九弗（一〇〇銖の受取勘定）に增騰した。鑛山使用税を徵集する爲めに、新嘉坡市場の錫價は當時の爲替相場で銖貨に換算され、之に依つて鑛山使用税を徵集したのである。銖に表はした錫價は爲替相場と逆に變動することと、及び又錫の銖價に於ける變動及び鑛山使用税の步合は双方同じ方向を辿るものであるから、爲替相場の如何なる變動も該收入に二重の影響を齎すものであることは贅辯を要しない。

並に暹羅政府が同事業を援助してゐる一例をあげると、鑛山使用税の額を計算するに當り、錫鑛は七〇%の金屬を含有するものと看做されるが、馬來聯邦州にては七二%である。而るに暹羅より積出される上鑛の平均金屬含有量は後者の數字に近似してゐるので、暹羅の同事業は産出の約二%に課せられる鑛山使用税に等しい割戻金を政府より受けてゐることになるのである。

一九二五年度に試掘及び採鑛の爲め下附された地積は約二六一、四三三哱卽ち一〇四、五七三英反であつた。

Mining in Siam—The Bangkok Times, Sept. 17, 19, '26.
〃 —The Directory for Bangkok and Siam, 1926.
〃 —The Far Eastern Review, Dec. '26.

英領馬來

□英領馬來の商業と貿易

海峽植民地の諸港は自由港であつて、僅に同植民地に於て消費の爲め賣買される酒精飲料、煙草及石油にのみ輸入税を賦課してゐる。

貿易は大部分仲繼貿易であつて、其中心は新嘉坡である。東洋に於て同港貿易額及其海運を凌駕する港は僅に二、三に過ぎない。仲繼貿易は本港に於て單に船底を移し變へる貨物及輸入後加工した上更に再輸出する商貨に付て行はれてゐる。

馬來半島に産出する錫鑛及同地方に産出する護謨の殆んど大部分は海峽植民地に搬入され此處で原鑛は製錬される。而して錫は新嘉坡及彼南港より英合衆王國並に北米合衆國に向けて輸出されるのである。護謨は輸出前若干を賣却し、又若干は販賣の爲め又は委託商

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

品として諸外國へ輸出される。在新嘉坡護謨競賣市場は大戰中迅速に其重要性を増加した。

貿易の大部分は英合衆王國との間に行はれてゐるが、又蘭領東印度間にも大々的に取引されてゐる。

護謨及錫は何れも輸出の大宗品であるが、此他コプラ、籐、胡椒、タピオカ及鑵詰鳳梨も多量に輸出されて居る。鑵詰製造業は新嘉坡に於て特に著名である。

地理學的位置より考察すれば、新嘉坡は給炭地として重要である。唯に其れは主要航路に直面して居る許りで無く、印度、ボルネオ、日本及濠洲の各地から石炭の供給を受ける好適地に位して居る。而して輸入石炭の約五分の四は船用石炭に消費されてゐる。

又新嘉坡は世界に於ける石油及石油燃料の最大仲繼港の一に數へられ、其取引は專ら亞細亞石油會社によつて行はれてゐる。

英領馬來は自給自足の國で無く、輸入食料品は輸入總價額の殆んど半を占めて居る。次に掲げる貿易表は過去三十年間に於て著しく發達せる狀況を示してゐるが、尚ほ一八九〇—一九一〇年に至る二十年間の貿易總額は一五〇パセント更に一九一〇—二〇年に至る十年間には二三〇パセント餘を增加したのである。

海峽植民地への輸入（單位弗）

年次	英合衆王國	英屬領地	諸外國より	一般商品合計	地金及正貨	總
一八九〇	一九,八六三,三八〇	三九,三五二,二七六	七二,〇六四,二九八	一三一,二七九,九五四	一六,〇一七,三六三	一四七,二九七,[illegible]
一九〇〇	二九,三九八,六三六	七一,二三〇,八〇一	一七九,二三二,一三四	二七九,八六一,五七一	三四,二二八,二八九	三一四,〇八[illegible]
一九一〇	三九,四九三,〇三〇	一七一,二七九,二九七	一三六,〇二二,九一七	三四五,七九四,二四四	一八,六七六,四〇九	[illegible]
一九二〇	一五七,一五一,九二七	四五五,九七二,二二三	四五一,五八八,一八四	一,〇六四,七一二,三三四	二〇五,四九九,八五五	[illegible]

海峽植民地より輸出

年次	英合衆王國へ	英屬領地へ	諸外國へ	一般商品合計	地金銀及正貨	總
一八九〇	二四,七五九,五四七	一八,八〇七,八三五	六三,九二五,九六一	一〇七,四九三,三四三	二〇,四三〇,三三九	一二七,九二三,六八二
一九〇〇	五九,六六二,一七五	三一,九二四,二九二	一四八,〇三四,一五五	二三九,六二〇,六二二	二二,九九三,九九三	二六二,六一四,六一五

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一九一〇	七、八二〇、九五二	八六、三二六、五〇三	一四三、一六二、二九七	三〇七、二九九、七五一	一六、八九〇、〇三五	三二四、一八九、七八六
一九二〇	一〇七、六九六、七六三	一三八、二四九、九三〇	五三二、九三六、七九一	八七八、八八三、四八四	一四五、一六二、〇九四	一、〇二四、〇四五、五七八

馬來聯邦州（非聯邦州）は大商業地新嘉坡のヒンテルランドを組成して居る。

次に馬來聯邦州にはスウエッテンナム港があり、大型舶洋汽船が自由に投錨することが出來る。一九二一年には十六の異なつた航路に屬する舶洋汽船（隻數二九四、噸數合計一、一七八、六〇三噸）が本港より出津した。さり乍ら貿易の過半迄は彼南及新嘉坡の兩港を經由して行はれ、馬來諸州とは鐵道の便によつて連絡されてゐる。

馬來聯邦州よりの主要產物は護謨及錫鑛にして、一九二一年錫鑛の輸出價額は五、八二八、三七二磅であるが、同金屬の價格は全年を通じて頗る低廉であつた。又一九二一年パラ護謨の輸出實際數量は九四、五二二噸であつて、大多數の農園は自發的に其生產量を制限したのである。同年金產額は一四、六七四哥、價額五九、〇九七磅に達した。ウオルフラムは數量五十五噸、價額二、一五六磅、石炭七三、一〇一噸、其價額七五、八五六噸が輸出された。前述鑛物及護謨の二大商品を除いて、同地方から輸出される重なる輸出品は夫々コプラ（一九二一年價額八八三、一三二磅）、木材・籐・ゲタ・ペルチヤ等を含む叢林產物、鮮魚・鹹魚類・胡椒・阿仙藥・タピオカ・砂糖及米（輸入米は遙に輸出米數量を超過してゐる）等である。

一九二一年度馬來聯邦州總貿易額（地金銀及再輸出額をも含む）は二七、八二四、七六六磅であつた。されど同年は世界大不況時代に相當するが故に前記數字はノーマルなものとは云へない。卽ち前年は總額五四、二五三、三五二磅に達してゐる。次の表は過去五箇年間に於ける商品貨物の輸出入價額を列擧したものである。

年次	輸入（磅・志・片）	輸出（磅・志・片）
一九一七年	八、五四七、二〇一・五・〇	三一、七三六、〇二一・三・四
一九一八年	八、七二〇、九二二・一〇・八	二六、〇二四、三九九・一一・四
一九一九年	一三、八六六、四一三・一一・八	三二、五六五、七六一・五・〇
一九二〇年	一九、八九四、二四七・一三・八	三三、六八三、四九八・三・〇
一九二一年	一三、〇〇六、七三五・一三・〇	一五、一〇四、一〇五・一一・四

最近の國勢調査（一九二一年）によれば、馬來聯邦州の總人口は一、二九八、二九二人を計上して居る。之れに準據して算定したる人口一人當り貿易額の割合は二十二磅三志四片となつて來る。而して一九二一年の貿易額を見る時、輸出は輸入額に比較して明に三、七八八、四九〇磅の出超を示すことが伺はれる。同年主要項目別輸入商品の價額は次の樣である。

生動物・食料品・飲料品等	五、五八〇、二〇一磅
原料品	一、二〇二、七一四磅
製造品	五、二二三、八二〇磅

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

正貨及地金銀　　一一、四〇三磅

合計　　一二、〇一八、一三八磅

次の表は馬來聯邦州貿易が殆んど帝國領内との間に於て行はれてゐるのをよく示してゐる。

一九一七—二一年間馬來聯邦州輸入貿易表（單位弗）

仕出國	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年
新嘉坡	三五、一七三、五九一	三三、一一〇、一〇〇	三七、三三七、七九二	六五、四九五、三六一	四一、三〇三、九二三
彼南	二〇、五八九、七〇九	二一、四〇八、九〇三	二九、八四三、〇六六	四三、二七七、三四九	二〇、四三八、八二四
マラッカ	一、一四六、三六一	五九二、四〇四	八六四、三六一	四六六、六〇〇	四五三、五〇一
英合衆王國	七、二六八、六二〇	八、五四三、二四三	一一、九四八、二四一	三一、五〇三、四六四	二六、五九七、四七五
其他英屬領地	二、六五七、二三五	二、七六八、四三六	四、三三四、一一〇	二〇、六三八、八八四	四、九六七、四三〇
諸外國	七、九四三、〇七六	九、六三九、〇九四	一五、三六九、一三八	一四、五三五、〇五四	九、二五一、四五三
合計	七四、七九七、五八二	七五、三六二、二〇六	一一九、四九五、六〇七	一七五、九一六、七一二	一〇三、〇一二、六〇六

一九一七—二一年間馬來聯邦州輸出貿易表（單位弗）

仕向國	一九一七年	一九一八年	一九一九年	一九二〇年	一九二一年
新嘉坡	一四五、六六三、三五四	一三三、五五八、三三九	一五〇、七三八、一九四	一六三、八〇一、七七二	八一、六六七、二九三
彼南	七八、五六七、七四九	六九、〇八六、九二四	六四、七二二、九五二	六五、八一五、八六九	三三、三九一、三八七
マラッカ	一〇、二九九、六六〇	六、七五三、一七八	一一、八三六、九六三	五、九五四、二六九	三、六五五、五二六
英合衆王國	三一、二八七、八三二	一〇、二八六、五五七	四四、八九四、八九六	四六、六〇一、六五三	一四、一〇〇、五八九
其他英屬領地	二、〇五八、〇五九	八七一、〇四五	二、四一九、六六二	二、一三三、四六〇	一、〇二五、四五七
諸外國	四、一八七、四四六	三、〇九二、五七八	五、〇四〇、八五七	四、八〇五、九九三	二、六四五、一二四

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

合計	二七二,〇六四,一〇〇	二三三,六四八,五二二	二七九,六五二,四八三	二六九,一二二,〇一六	一三五,四八三,五五六

然し乍ら新嘉坡及彼南兩港貿易の大部分が純然たる積換貿易であるけれども、此場合之等の兩港は聯邦州輸入に關し眞實なる意味に於ける仕出港でも無ければ、又輸出に於ても嚴正なる仕向港では無いのである。さり乍ら聯邦州貿易の大部分は英帝國領內各地との間に行はれてゐて、此傾向は對外貿易を無視して增加するであらうと思はれる。斯くて帝國領土內の諸國は馬來市場の將來發展の可能性を充分看破して居る。曾て加奈陀より來つた貿易調査委員は新嘉坡を良好なる貿易地と認め、最近西部濠洲からの貿易使節は同地方を訪問したのである。

註　前揭數字は稍々陳腐に屬する嫌はあるが、同年間に於ける貿易の趨勢を知る事が出來樣と思ふ。併し乍ら尙ほ參考の爲め最近のものを左に揭載することゝした。

一九二三・二四年海峽植民地輸入貿易比較表（單位弗）

種別	一九二三年 單位	一九二三年 數量	一九二三年 價額（千位）	一九二四年 單位	一九二四年 數量	一九二四年 價額（千位）	增 數量	增 價額（千位）	減 數量	減 價額（千位）
パラ護謨	百封度	三,八五〇	一六三,二七三	噸	一九,〇四四	一六五,一四一	—	一,八六八	—	—
錫鑛	擔	一,三五三	九四,八三一	同	九二,二六一	一三五,二四一	—	四〇,四一〇	—	—
米	同	八,九八六	五八,八六三	同	五三五,九四一	六七,五七〇	—	八,七〇七	—	—
煉乳及殺菌牛乳	箱	七〇九	九,七六三	箱	七二七,七〇一	九,六一一	—	—	—	一五二
砂糖	擔	一,三六〇	一六,六二四	噸	九一,一六六	一八,一五八	—	一,五三四	—	—
紙卷煙草	封度	一〇,九六九	二〇,五七一	封度	一三,〇〇七,六〇五	二〇,六八〇	—	一〇九	—	—
乾・鹽魚	擔	八四一	一三,一六七	噸	六〇,八一八	一四,六二九	—	一,四六二	—	—
檳榔子實	同	九八八	九,五七五	同	五六,六二六	一一,〇一三	—	一,四三八	—	—
(イ)ベンジン	ガロン	二六,五一〇	二三,六四三	同	九八,一四七	二七,二一三	—	三,五七〇	—	—
(ロ)石油	罐	二,五七三	一四,三一〇	同	八二,〇三四	一三,〇一九	—	—	—	一,二九一
セイゴー	擔	七四五	三,三九三	同	五八,八九三	五,一三一	—	一,七三八	—	—

種別	一九二三年 單位	一九二三年 數量	一九二三年 價額	一九二四年 單位	一九二四年 數量	一九二四年 價額	增 數量	增 價額	減 數量	減 價額
綿反物	反	六、四九三	三二、六三三	碼	二一二、五四二、三六八	二九、九二〇	—	—	—	二、七一三
サロン	二十	四九八	一三、八〇六	枚	九、五〇五、六四〇	一三、一二八	—	—	—	六七八
コプラ	擔	二、三七五	二四、四一五	噸	一五五、〇三三	二八、七六六	—	四、三五一	—	—
胡椒	同	二七七	四、九七九	同	一九、一三六	七、八三四	—	二、八五五	—	—
籐	同	四一三	五、八六八	同	二五、七四九	四、〇四六	—	一七八	—	—
石炭	噸	六三三	九、八〇三	同	六九五、二二四	一〇、〇八八	—	二八五	—	—
機械類	—	—	六、八一〇	噸	六七、六二五	六、八五四	—	—	—	二三六

一九二三・二四年海峡植民地輸出貿易比較表（單位弗）

種別	一九二三年 單位	一九二三年 數量	一九二三年 價額	一九二四年 單位	一九二四年 數量	一九二四年 價額	增 數量	增 價額	減 數量	減 價額
パラ護謨	百封度	四、五八八	(千位)三七、八九三	噸	二二〇、一三五	(千位)二二、八五五	—	(千位)—	—	(千位)一五、〇三八
錫	擔	一、一七四	一一九、七一七	同	八〇、六九三	一六九、一七七	—	四九、四六〇	—	—
米	同	五、三七二	三八、一八二	同	三三六、八三六	四一、九四二	—	三、七六〇	—	—
煉乳及殺菌牛乳	罐	三三二	四、六七四	罐	三七三、六五四	四、九七五	—	三〇一	—	—
砂糖	擔	七六六	九、八二五	噸	四六、三一一	九、四八七	—	—	—	三三八
紙巻煙草	封度	八、八八五	一五、八九九	封度	九、八八一、一二七	一六、〇六五	—	一六六	—	—
乾・鹽魚	擔	八一八	一四、二八〇	噸	五九、〇七二	一六、〇三八	—	一、七五八	—	—
檳榔子實	同	一、〇七一	一二、四七〇	同	六二、一六六	一四、九四二	—	二、四七二	—	—
(イ)ベンジン	ガロン	二六、一四六	二三、八七八	同	七〇、〇五五	一九、三一四	—	—	—	四、五六四
(ロ)石油	罐	二、〇三三	一一、三〇〇	同	六四、二〇六	一〇、五一九	—	—	—	七八一
セイゴー	擔	八二八	四、七一八	同	五八、七〇八	六、五四一	—	一、八二三	—	—
綿反物	反	四、〇二七	二〇、九八八	碼	七九、九〇六、四〇二	二〇、八一八	—	—	—	一七〇

サロン	二十	三一九	八,三七二	枚	六,四一三,七四三	九,〇四〇	—	六六九	—
コプラ	擔	二,五二七	二八,六四九	噸	一五一,四六〇	三二,二九〇	—	二,六四一	—
胡椒	同	三一二	六,〇〇二	同	一九,七〇三	八,三三三	—	二,三三一	—
籐	同	三八八	五,七八七	同	三二,九二一	五,六〇七	—	—	一八〇
鳳梨罐詰	罐	八四三	五,五四九	同	三五,三三三	八,一五四	—	二,六〇五	—
護謨液汁	ガロン	四六	八〇	ガロン	二一,一三三	四三	—	—	三六

備考　前記兩表中（イ）は現今動力油（ロ）はケロシン油として類別せらる。尙ほ兩年度比較の增減は品名、數量單位の變更せる爲め數量の增減は記入して居らない。

本表は最近者の海峽植民地年報によつたものである。

一九二一—二五年間馬來聯邦州輸入貿易表（單位弗）

仕出國	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
新嘉坡	四一,三〇五,九三三	三一,四三〇,七三九	四一,九〇〇,二八一	四二,八三六,三三一	六二,二九七,二四五
彼南	二〇,四五八,八二四	一七,六七四,四六四	二二,二六七,七九六	二三,〇八〇,四三九	三一,九五五,〇〇三
マラッカ	四五三,五〇一	五二六,五八九	八一九,三三七	一,一九六,一六六	一,五五二,九五八
馬來非聯邦州	一,七二六,七五二	一,七六八,〇九一	二,九五〇,七四四	二,九八九,四九三	三,二五九,一一〇
英合衆王國	二六,五九七,四七五	一三,四九八,五四四	八,七〇九,八七六	一〇,八〇〇,七六二	一六,四五一,八〇三
其他英屬領地	三,二四〇,六七八	五,二九六,〇〇五	四,三七四,〇九九	七,二七八,九二五	七,四九七,九一二
諸外國	九,二五一,四五三	八,六二七,九一九	八,〇六五,九〇四	九,二五四,一七六	一四,一〇二,一七八
合計	一〇三,〇一二,六〇六	七八,八二三,三四九	八九,〇八八,三三七	九七,四三六,三〇二	一三七,一一六,二〇七

一九二一—二五年間馬來聯邦州輸出貿易表（單位弗）

仕向國	一九二一年	一九二二年	一九二三年	一九二四年	一九二五年
新嘉坡	八一、六六七、二九三	五六、一八四、〇五一	五七、三三六、五二四	六二、七九八、八一九	九〇、六〇五、六〇三
彼南	三二、三九一、三八七	五四、九五三、二五〇	七七、〇五八、六三九	八八、八九五、六九六	一三三、五二五、七八一
マラッカ	三、六五五、五二六	四、六一四、〇八四	七、五二五、三三〇	六、〇五七、一四九	一三、六一八、七四二
馬來非聯邦州	四五九、八一七	四一四、二九一	一六〇、四六一	六四九、六八六	九三七、九四二
英合衆王國	一四、一〇〇、五八九	一三、〇一八、五一三	二六、八一八、〇三三	二一、〇〇二、一八九	六三、七〇八、八七二
其他英屬領地	五五五、六四〇	六八六、四〇六	一、三九七、六四〇	一、七〇八、九七二	二、九六九、四九〇
諸外國	二、六四五、一二四	一一、五六〇、一四〇	二六、八〇四、三二四	三一、七七三、三三九	一七、五二二、一八一
合計	一三五、四八三、三七六	一四〇、四二九、七七五	一九七、一〇〇、九五〇	二二二、八八四、七四〇	四二一、八七八、六二〇

備考　本表は馬來聯邦州最近年報に據つたものである。因に非聯邦州の分は各別煩雜なる爲め此處には省略することとする。

(From "British Malaya" by R. O. Winstedt)

蘭領東印度

□蘭領印度の規那及規尼涅

本文はアムステルダム銀行のクオーターリー・レビユーに掲載されたホロートホツフ博士の所論である。

規那皮及規尼涅は其の輸出額の大なるに依つて重要なるものではなく、マラリヤ病に對する唯一の完全な醫薬としてゞある。而して蘭領印度のみが本品の世界需要を滿して居ることは特記すべき事實である。

規那皮とは各種シンコーナ樹幹皮、枝皮及び根皮を總稱するものである。

本樹の原生地は南亞米利加で、歐洲に於て醫薬として使用されるに至つたのは一六四〇年である。其後使用量は逐次增加し遂には亞米利加は需要の總てを滿すことが出來なくなるであらうと懸念されるに至つた。一八二〇年に或化學者は規那皮から完全に規那皮に代

用することの出來る物體を精製することに成功した。之れを規尼涅と云ふのである。然し本名稱の下に市場に現はれて居る本生產品は、硫酸と結合して居るから實際に於ては硫酸規尼涅と稱すべきである。

各植民國は彼等の植民地に南米から規那樹を輸入栽培することに努力し、和蘭も亦同樣に努力した。爪哇に始めて規那樹が輸入されたのは一八五二年であつて、之はウエッデル（Weddel）氏が南米から輸入した種子をパリーの植物園に植付けて得たものである。其後間も無く和蘭軍艦は和蘭政府の命を受けて亞米利加から爪哇に新らしい規那樹及び種子を輸入した。

一八六九年始めて小量の爪哇規那皮がアムステルダム市場に現はれたが、一般に買手は尠なかつた。之等規那皮の規尼涅含有量は非常に尠く且製造に際し多量の不純の生產物を得るに過ぎなかつたのである。其後數回に亙つて新しい種子及び苗木を輸入したが何れも失敗に歸した。而して漸やく一八七二年に、和蘭政府が英國人レッドゲル（Ledger）氏から買求めた種子を播いて得た規那樹の皮を分析して見たのである。其の結果亞米利加種樹皮は最高三%普通二%位の硫酸規尼涅を得るに過ぎないが、新種規那皮は九%—一四%を供給する。其の上生產は簡單な方法を以て純粹に分析することが出來、又新種規那皮は市場に於て高く評價されたのである。即ち一八七三年に其小量はアムステルダム市場に於て基瓦九・一三盾を稱へたに反し、亞米利加皮は單に二・四九盾に過ぎなかつた。

初年に蘭領印度に於て試驗された十種のシンコーナ屬の內、即ち實質的に言へば、現在蘭領印度で栽培されて居るものはシンコーナ・レッドゲリアナ（Cinchona Ledgeriana）及びシンコーナ・サックシルブラ（Cinchona Succirubra）の二種に過ぎない。前者は、短期間に大量の規尼涅を供給するに至つたので所謂工場用皮の生產にのみ使用せられてゐる。故にシンコーナ・レッドゲリアナは、蘭領印度が世界生產の九二%を生產するに至つた最大原因であり且最も重要なものである。又シンコーナ・サックシルブラよりは所謂製藥皮を得る。本皮はエッキス、丁幾劑、ワイン及び煎藥等の製造に使用せられるのである。

亞米利加に於ける源產地の高度、氣候及び地質等を比較して見て爪哇の山地に於ては規那樹は高度一、〇〇〇乃至一、八〇〇米に於て丁度原生地に於けると同樣の狀態にあると云ふ結論に達した。故に當時栽培者はプリアンケル理事州內のペンドン高原及びペンガレンガンの境界にある山の山腹を選擇したのであるが、今日まで本地方は全蘭領印度の最良の規那栽培地として有名であるのは奇異とすべきである。

規那樹は初めの五年間に於ては每年一乃至一・五米の生長をなすが、本增加は種々の要素に依つて支配され、爪哇に於ては二五米以上に達し樹齡五〇年に達することが出來る。

規那皮の收穫は現今に於ては木全體を伐採して行はれる。皮の剝

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ぎ方は工場用皮を生産する木にありては幹・枝を木槌で、叩いて取るのであつて、斯するときは容易に規那皮を剝ぎ取ることが出來る。又幹及び枝皮を合計した數量の1/3乃至1/2を生産する根にありては骨又は角製の小刀を以て剝ぎ取る。

工場用皮の價格は規尼涅の含有量に依てのみ決定される。本調査は化學實驗所で行はれるが調査の方法は出來る限り秘密にされて居る。蘭領印度に於ては分析は政府規那園の試驗所で行はれ、和蘭に於てはアムステルダム規那取扱所の實驗所で行はれるのである。

藥劑用皮は規尼涅の含有量のみならず又皮の外見にも注意され、後者に對しては、各國に於ける生産品は小賣の場合土民に依つて購入されるが故に特定の要求を附して居る。而して蘭領印度の生産は差程多くなく、年額約五〇〇、〇〇〇瓩である。

土地の位置、地質及び栽培すべきシンコーナ樹種等は、規那皮及び規尼涅の生産に及ぼす影響の最も大なる要素である。

規尼涅の製造は十三工場に於て行はれ、内二は亞米利加に、一は英國に、二は和蘭に、一は爪哇に、三は獨逸に、四は佛國にある。

其他又規尼涅の生産を副業として營んで居る會社が三つあつて、内一は瑞西に、一は日本に、一は和蘭にある。

規那皮は又規尼涅の外藥用としては差程價値の無い材料を含んで居る。然し之は多大の困難と費用とを以て分離することが出來るのみであるから、各國政府は或比率の副生産物の含有を許容して居るのであつて、各國に於ける含有比率は三%乃至〇・五%である。

又主として豫備品の純化に適用される方法は出來る限り秘密にされて居る。嘗て規尼涅の生産を直に農園に於て機械的に爲さんと努力されたことがあつたけれども、成功するに至らなかつた。

規那皮を生産する前印度に於ては、亞米利加種規那皮の取引はロンドン・アムステルダム・アントワープ・ハンブルグ及ローマに別たれて居つた。規那皮は種々の名稱の下に、卽ち一部は生産國の名を以て、又他の一部は、黃・赤及び褐色皮等の名を以て取引された。輸送された數量に關しては一八七八年に漸く正確な數字が發表されたが、南亞米利加よりの輸出高は次の如くである。

一八七八年	六、四二八、〇〇〇瓩
一八七九年	七、七〇六、〇〇〇同
一八八〇年	六、六三一、〇〇〇同
一八八一年	九、四六八、〇〇〇同
一八八二年	九、八一五、〇〇〇同
一八八四年	二、四二九、〇〇〇同

一八八四年に於ける甚だしい減少は、亞細亞主として錫倫に於ける規那皮生産の著しい増加に因るものであつて、次の數字は之を示すものである。

	錫倫	英領印度	爪哇
一八八八年	五二六、〇〇〇瓩	二〇八、〇〇〇瓩	三四一、〇〇〇瓩

一八八四年　五三五、〇〇〇同　三〇〇、〇〇〇同　四三四、〇〇〇同

一八八七年に於ける錫台の輸出高は既に七、〇〇〇、〇〇〇瓩に達し、本生産過剩の結果市價は著しく下落した。故に其後規那の代りに茶の栽培に從事する樣になつたのは自然の結果であつた。

爪哇の規那皮は最初からアムステルダム市場に搬入され、二大倉庫の中に貯藏されて居た。賣却用見本は規尼涅の含有量を査定され、又五週間毎に一回の割を以て年十回競賣が行はれることになつて居た。購買者は規尼涅の含有量を揭げてある目錄を貰ひ又見本を取つて之を分析する權利を持つて居り、最も高く價値を建てた者に賣却されるのである。

規那皮は其の½瓩の市價を規尼涅の含有量で割つたものを一ユニツトの價格とするもので、一ユニツトは即ち½瓩の樹皮中にある一%の硫酸規尼涅と同量であるから五瓦に相當するものである。故に一瓩の硫酸規尼涅は二〇〇ユニツトに相當するのである。

藥劑用樹皮の賣却も亦同樣の方法を以て行はれる。然し價格は一ユニツトでなく½瓩を以て計算される。規尼涅取引の中心地は一九一八年まではロンドンであつて、當地に於ては英國にて製造された規尼涅ばかりではなく獨逸製品（年額約二〇〇、〇〇〇瓩）も亦取引され、又日本及び和蘭よりも輸入された。アムステルダムに於ては一九一五年までは暫らくの間毎月規尼涅の競賣をなしたが、年賣上高は三〇、〇〇〇瓩以上には達しなかつた。其他一八九九年乃至一九〇九年まではバタヴイヤに於てバンドン規尼涅工場の製造に係る規尼涅の賣買が行はれた。ロンドンに於ては規尼涅の市價はオンス（〇、〇二八三五瓩）當りの價格を以て、又アムステルダムに於ては瓩當りの價格を以て計算された。

規尼涅の大部分は三%のアルカロイドを含有する硫酸規尼涅として取引されたが、和蘭に於てはこの取引用規尼涅の外硫酸規尼涅Ed. IV第四號なども賣出したが、之は藥劑師にのみ賣却したのである。本種規尼涅は單に〇、五%のアルカロイドを含有すべきものなるに依り市價も瓩當り約八眉高かつた。

工場用樹皮の市價は全く規尼涅の需要供給の關係に依つて變動せられ、醫藥に關するものであるから小量の生産過剩でも直に自由取引の市價を著しく壓迫するのである。

一八九二年までは規那皮の市價は常に規尼涅の市價と同一步調を辿つて居つた。硫酸規尼涅一瓩當りの市價は一八二四年一、三五〇眉であつたが、一八四〇年には三〇〇眉に、一八六〇年には、一二〇眉に、一八七〇年には一一七眉に下落したが、一八七八年――一八八〇年には二五〇眉に上騰した。

一八八四年以後生産過剩起り、其の結果規尼涅の市價は一八八五年には六七眉に、又一八九一年には二二眉に下落し、一八九一年に於ては一ユニツトの市價は〇、〇六二眉であつた。

錫倫に於ける生産減少の結果供給は再び順調になつたけれども、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

樹皮の市價は下る一方であつたが、規尼涅の市價は規尼涅製造家間に協定が締結された結果昇騰した。爪哇の栽培業は、若し一八九七年バンドンに規尼涅工場を設立し以て本事實より脱しなかつたならば確に破滅して居たであらうと思はれる。此の時より樹皮及び規尼涅の市價は相互に相接近したのであつて、一ユニットの市價は一九〇〇年に再び〇、一〇盾に昇騰した。

然るに、其後暫くにして再び下落するに至り、一九〇二年の中葉に一ユニットの價格は〇、〇四九盾となり、そこで爪哇に於ける重な規那生産者は、爾後アムステルダムに於ける賣却に際し樹皮の市價を一ユニット〇、〇六盾に制限する爲め協定を締結するに至つた。然るに本組合は共同作業が完全に行はれなかつた結果、一九〇五年に解散するの餘儀なきに至つた。

其後再び市價は下落したが、今回は規尼涅の市價も同時に降下した。一九〇八年に於ける一ユニット當りの市價は〇、〇三三七盾で、硫酸規尼涅の市價は一二、五〇盾であつた。而して規尼涅は、アムステルダム及びバタヴィアに於て瓩當り一〇、五〇盾にまで下落したのである。斯る市價の動搖を防止する爲め規那生産者及び規尼涅製造家は一九一三年協定を締結するに至り、之に依つて栽培業者は、需要供給に關聯して各農園に割當られたる數量以上の收穫を爲すを得ざる義務を附せられ、且收穫物は總てシンヂケートに納入せねばならないことになつたのである。

之に對し栽培業者は規尼涅の市價一六、八〇盾又は其以下の場合に於て、一ユニット〇、〇五盾の最少限價格を保證されたのである。而して若し規尼涅の市價が上騰した場合に於ては、栽培業者竝に製造家はより多くの割前を受けるのである。一九一八年に契約は更新せられ、之に依つて栽培業者は規尼涅の市價を確定するに當り發言權を得、本契約の結果として市價は直に上騰した。

一九二二年以後規尼涅の需要は、各國に於ける購買力の衰微及び高價の爲め減退した。其結果生産樹皮の全部を賣却することを不可能となり、從つて多くの農園には多量のストックが貯藏されるに至つた。此處に於て栽培業者は彼等の收穫を著しく減少するを餘儀なくされた。然し乍ら、近年に於ける規尼涅の高價につれ樹皮の生産は著しく擴張された故に、ストックは一層著顯に上つた。

規尼涅の販路を出來得る限り擴張せん爲め其用途の大々的宣傳を行つたけれども、其れにも係らず規尼涅の市價は下落した。一九二四年に於ては規尼涅一瓩四六盾であつたが、現在に於ては三六、六五盾を稱ふるに至つた。次の數字は、前記の方法を講じた結果を示すものである。

	硫酸規尼涅の生産高（瓩）	硫酸規尼涅の賣上高（瓩）
一九二一年	五一三、六〇〇	三五八、七一五
一九二二年	五三四、五四五	三九五、〇〇〇
一九二三年	五三四、六二四	四七〇、〇〇〇

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一九二四年	五六六、五〇〇	四一〇、〇〇〇
一九二五年	六二一、八〇〇	四五〇、〇〇〇

然し乍ら増加しつゝある生産過剰は規那市場及び規那協定の存續に一大危機を與へるものである。故に規那栽培關係者は事態の改善を爲さんが爲め最近集會を開き、一九二八年に滿期となる現存協定に本年中に一大改革を施さんとして居る。

規那協定の實施には栽培業者及び製造業者の代表者より成る規那事務所之に當つた――、本事務所はアムステルダムに設立されて居る――。

本事務所は差出された如何なる樹皮を引受くべきやを決定し、且本品の分析を行ふと共に其の推斷を爲すのである。規尼涅の賣却は製造者各自の販賣事務所に依つて行はれるけれども、規那事務所には常に其の事情を報告すべきものとしてある。

規那企業者の九五%は規那事務所に加入して居り、殘餘五%も亦彼等の生産品を主として本事務所を通じて賣却して居る。後者は加入企業者より低廉な代金を得るのは勿論であるが、彼等の利益とするところは、彼等の收穫の全部を賣却することが出來ることである。加入者には斯ることなく、彼等は其大部分を寢かして居るのである。故に殘りの五%をも加入せしめると共に二、三の小企業家を排除せん爲め激烈な運動が行はれた。

歐洲大戰當時和蘭海運は一九一七年に全く沈靜しバンドン規那工場のみ收穫の精製に從事して居たが、戰後再び規那皮は諸國に輸出された。次表は一九二五年及び一九二四年に於ける蘭領印度の輸出の概況を示すものである。

爪哇の輸出	一九二五年(瓩)	一九二四年(瓩)
和蘭	四、六五五、七四二	四、七六〇、二九八
和蘭%	三七、一五三	―
英國	六四九、四四九	七〇九、九三六
佛國	二三、〇六五	―
白耳義	一〇、〇二一	八四、一三〇
伊太利	一、一二〇	二二、〇九九
英領印度	一四〇、四三六	七九、九八八
新嘉坡	二七、四八八	二九、一四三
日本	四五〇、四〇九	九三一、七一四
瑞西	―	一、三八四
其他	―	七八三
	五、九九四、八八三	六、六一九、四七五
スマトラの輸出	四一一、〇〇〇	三五三、七〇三
蘭領印度合計	六、四〇五、八八三	六、九七三、一七八

以上の外一九二五年に於ては一九二四年の二三八、一四二瓩に對し一七九、九八二瓩の硫酸規尼涅を輸出し、本規尼涅バンドン工場で製造されたものである。又一九二五年英國に輸入された合計六五

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

〇、〇〇〇瓩の規那皮の大部分は、英國資本を以て營業を爲す農園に於て生産されたものである。

アムテルダム規那市場には協定成立後大なる改革が施され、從前通り年十回の競賣が行はれるけれども、一九一七年以來工業用樹皮を賣らず、單に輸入されるものも僅少ではあるが藥劑用皮のみを賣つて居る。

硫酸規尼涅の消費量は、一八七二年に於ては七〇、〇〇〇瓩と見積られ、其後一九一四年までは年々平均一〇、〇〇〇瓩の增加を見、一八九四年の消費量は三〇〇、〇〇〇瓩であつたが、一九一四年に於ては五〇〇、〇〇〇瓩であつた。

露國並に其他の諸國に於ける購買力減退の結果、大戰後の消費量は著しく減少し、一九二一年には三五八、七〇〇瓩、一九二五年に於ては四五〇、〇〇〇瓩と見積られて居る。

又自由取引の廢止されて以來——取引は現今に於ては栽培業者並に製造業者の組合に依つて行はれて居る——規尼涅の取引狀態も著しく變更せられたのである。而して報告等の發表に對しては非常に消極的であるから、賣上、消費及びストック等に關する特種事項の概念を得ることが甚だ困難である。又セカンド・ハンドの取引は全く行はれて居ない。

一九一五年に於ては規那は九〇の農園に於て栽培せられ、本數は一九二五年に至つて一四一に增加し、其內二〇が規那のみの栽培に從事して居る。最近スマトラに開園された八園を除く他は總て爪哇にあつて其の大部分はプレアンゲル州にあるのである。

蘭領印度に於ける規那の植付面積は次の樣である。

年次	政府農園	個人農園	合計
一八八四年	一、一二〇	七、五〇〇	八、六二〇
一八九四年	一、一六〇	一〇、三三〇	一一、四九〇
一九一八年	一、四九三	一七、八六六	一九、三五九
一九一九年	一、四七三	二〇、四四一	二一、九一四
一九二〇年	一、四五五	一九、一七四	二〇、六二九
一九二一年	一、三六六	二一、九四九	二三、三一五
一九二二年	一、三一九	二二、八四六	二四、一六五

如何なる國と雖も蘭領印度程シンコーナ・レッドゲリアナの栽培に成功して居るものはない。最も奇異とするは、以前に取引されて居た亞米利加種樹皮はシンコーナ・レッドゲリアナ種に於ける程規尼涅を絕對に含有して居なかつたことである。玆に於て單に爪哇のみが氣候、地質及び猶其他の要素と云ひ規那の生産に最も適して居るものであるとの結論を下すことが出來るのである。而して斯る利益が低廉な生産費に次いで蘭領印度をして規那生産國の第一人者として立たしめ且世界生産の九二%以上を生産せしめるに至つた原因である。

英領印度に於ては、規那は一八六〇年頃から栽培せられ、最初に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

於ては其の結果は蘭領印度より非常に好かつたのである。然し乍ら彼地に於ては、佛國竝に以前の獨逸植民地に於けると同樣に、シンコーナ・レツドゲリアナの栽培に就ては差程成功しなかつたので、次第々々に蘭領印度と競爭することが出來なくなつて來たのである。英領印度に於ける規那の植付面積は現在一、四〇〇ヘクタールであるが、生產は自己の需要すら充たすことが出來ない有樣である。

其他規那はマダガスカル、以前の獨領亞弗利加、セント・トーマス及びジヤマイカ等に植付られて居る。又南亞米利加は規尼涅の生產に不適な小量の樹皮を生產して居るのみで、前記の諸國に於ても亦何れも規那の栽培を行はんと努力したのであるが、殆んど全部不成功に終つたものと云ふことが出來る。

蘭領印度政府の本來の計畫は、本栽培業を土人栽培業として全蘭領印度群島に擴げんとするにあつたのであるが、土人は餘り之に興味を持たなかつたので、本努力は實際の目的を達したものではないのであつた。

和蘭に於ても蘭領印度に於けるが如く、利害關係者間に「規那栽培の利益增進組合」なるものがあつて、必要に應じて會員は集會を開くことにしてゐる。彼等は又規那協定の更新又は改變等に關し規尼涅工場と相議することになつてゐる。

一九一三年以來實施されて居る栽培業者及び規尼涅製造家間に締結された現行規那協定は、需要竝に供給關係の均衡を失せない樣に處理するを以て其主要目的として居る。彼等は其獲得せる專賣權を以て規尼涅を高く賣付けんとしたが、是が不正適用は良くない事であつて、價格は總てのマラリヤ病者が本醫藥を充分に購入することが出來且つ栽培業者に充分の利益を保證することが出來る程度のものであらねばならない。

マラリヤ病委員が初めに恐れて居た樣な規尼涅の不足等は起ることなく、若し必要な場合に於ては現在の生產高は猶著しく增加することが出來るのである。

(Korte Berichten voor Landbouw Nijverheid en Handel. Dec. 3, '26. No. 49.)

□一九二五年度に於ける蘭印の輸出貿易

本年度に於ける蘭領印度の輸出貿易の大要は次の通りである。

一、重要輸出物の輸出額順位竝に總額に對する其の比率

品名	輸出額(千盾)	總額に對する比率
一、護謨及ゲタ類	五八六・五四一	三二・八六%
二、砂糖(總ての種類粕澤なも含む)	三六九・四八八	二〇・七〇%
三、石油物產	一七三・〇三二	九・六九%
四、煙草	一一〇・四七一	六・一九%
五、コプラ	一〇二・三九二	五・七四%

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

六、錫及錫鑛	七七八五九	四・三六%
七、茶	七四・三六九	四・一七%
八、珈琲	六八・二二七	三・八二%
九、胡椒	二四・〇五三	一・三五%
十、カポック	一五六〇二	一・二一%
十一、タピオカ生產品	一四・七〇四	〇・八七%
十二、サイザル麻	一三・三四六	〇・八二%
十三、規那皮・規尼涅及キノイデン	一一・〇〇四	〇・七五%
十四、檳榔子種子	九・九六一	〇・六二%
十五、皮革	七・八〇九	〇・五六%
十六、籐及籐ステッキ	六・七八〇	〇・四四%
十七、油脂(總ての種類)	六・七二六	〇・三八%
十八、玉蜀黍	六・〇四一	〇・三八%
十九、綿製品	五・二二三	〇・三四%
二十、米(脫殼、未脫殼)	四・六〇二	〇・二九%
二十一、コパル	四・五三四	〇・二六%
二十二、肉豆蔻	四・四六三	〇・二五%
二十三、揮發性油(總ての種類)	四・三八〇	〇・二五%
二十四、家畜飼料(糟滓共)	四・二六八	〇・二五%
二十五、石炭	四・二二七	〇・二四%
二十六、ダマル	四・〇七九	〇・二四%
二十七、木材	三・九四七	〇・二三%
二十八、ガンビル	三・四三二	〇・二二%
二十九、落花生	三・一一四	〇・一九%
三十、帽子	二・三三五	〇・一七%
三十一、椰子油(糟滓共)	二・三三二	〇・一三%
三十二、酒精	一八七八	〇・一三%
三十三、豆蔻花	一・七六一	〇・一〇%
三十四、貝殼	一・七四四	〇・一〇%
三十五、含有種子	一・三七二	〇・一〇%
三十六、サーゴ物產	一・三四三	〇・〇八%
三十七、コカ及コカ葉	一・二六四	〇・〇七%
三十八、鹽魚並に乾魚	一・二六四	〇・〇七%
三十九、纎維(總ての種類カポック・サイザルを含む)	一・二九五	〇・〇七%
四十、安息香	一七八五	〇・〇七%
四十一、カカオ	一・一七六	〇・〇七%
四十二、家畜(總ての種類)	一・一〇〇	〇・〇六%
四十三、マンガン鑛	一・〇〇三	〇・〇六%
其他のもの合計	一八・七八七	一・〇五%
合計總額	一、七六四七九八	100%

二、主要仕向國輸出額順位並に總額に對する其比率

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

仕向國	輸出額(千盾)	總額に對する%
一、新嘉坡	四七六・二四五	二六・六八
二、和蘭	二七五・九〇六	一五・四六
三、米國	二五一・三九八	一四・〇九
四、英領印度	一四三・四四〇	八・〇四
五、英國	一二二・〇〇三	六・八四
六、香港及支那	一〇〇・九八九	五・六六
七、日本(朝鮮・臺灣を含む)	九八・〇九九	五・五〇
八、佛蘭西	五五・八五四	三・一三
九、波西土及埃及	四五・四六四	二・五五
十、彼南	三八・五六五	二・一六
十一、獨逸	三七・八六五	二・一二
十二、濠洲	三四・六六〇	一・九四
十三、スカンヂナビア	一四・二四八	〇・八〇
十四、伊太利及瑞西	一一・一二五	〇・六二
十五、暹羅及佛領印度支那	九・一七六	〇・五一
十六、西班牙	九・〇四二	〇・五〇
十七、白耳義	八・六六六	〇・四八
十八、比律賓	六・八三三	〇・三八
十九、露國	四・二八七	〇・二四
二十、希臘	三・八〇四	〇・二二
二十一、英領馬來	二・七九六	〇・一六
二十二、大連及浦鹽斯德	二・七六五	〇・一五
二十三、英領南阿弗利加	二・〇二五	〇・一一
二十四、土耳古(コンスタンチノープルを含む)	一・〇〇一	〇・〇六
二十五、新西蘭	九六三	〇・〇五
二十六、南亞米利加	八八六	〇・〇五
二十七、亞剌比亞	七四四	〇・〇五
二十八、加奈陀	七三五	〇・〇四
二十九、葡萄牙	五八七	〇・〇三
三十、墺太利	五二一	〇・〇三
三十一、英領東阿弗利加	五〇九	〇・〇三
三十二、英領ボルネオ	四八八	〇・〇三
三十三、葡領チモル	三一三	〇・〇二
三十四、ルーマニア	五九	—
三十五、チュニス及アルセリー	二九	—
三十六、モロッコ	七	—
三十七、マルタ	三	—
其他の地方及不明	二二・七四八	一・二七
合計總額	一、七八四、七九八	一〇〇

(其ノ一)

三、國別輸出額(千盾)

商品別 ＼ 仕向國別	新嘉坡	和蘭	米國	英領印度	英國	香港支那	全日本	佛國	波西土埃及	南阿	獨逸	濠洲	諾威瑞典
護謨及ゲタ	二六三,九三九	三,四三三	一八九,四二九	—	四七,三七五	一三一	五四〇	四,五〇五	—	一七,四二四	二一,六四一	三,三五一	一二
砂糖類	一六,四九一	三,二七三	一九四	一三六,二六一	四,七八四	七,四二二	七八,二二九	五,二五四	一八,八五六	三,四八二	一,〇五八	一二	三三七
石油物産	六八,七二六	五三一	二,三九六	五,五八八	三,九五八	一五,七五三	二,六七七	—	二五,二九九	一,七三〇	一一三	五,九七九	一四二
煙草	八〇五	一〇四,五六六	一	—	—	二九四	—	一,七七二	—	九五一	六〇	—	—
コプラ	一四,三八八	三六,九五七	三五	—	一,九九二	—	—	一六,四七九	—	二,九一九	一六,二五九	—	八,三五八
錫及錫鑛	三三,〇一五	三三,五四九	一,〇四〇	—	一三,五〇六	四	一,六九九	三,六八〇	—	九	—	—	—
茶	三一四	一七,五六三	五,〇七四	二五六	二九,七一一	八四九	五	二八一	二五〇	六五	一七四	一八,〇三三	一
珈琲	九,三七一	一九,九三四	一〇,二二三	六五	三六二	七三	五九三	一四,九八五	四二一	三二七	七七	一,〇〇四	四,一三七
胡椒	八,七二九	二,二一六	六,三六〇	—	三,八〇二	二八〇	二五	—	八	二,〇七七	三〇四	二二五	—
カポツク	七九五	四,九一八	一〇,六六五	—	三三七	三	六六	五二	—	六一	一	三,七二〇	七
タピオカ物産	六六九	一,一一六	五,一八七	一三三	三,〇六九	一,一一五	一,七五四	七〇九	—	三五	一四一	三九一	二三七
サイザル麻	—	九,一四五	五,四三七	—	四七〇	一	八〇	一三一	—	—	一,〇九一	九四五	一三九
規那皮・規尼涅・キノイデン	二二一	九,九〇二	—	二六〇	六六二	四〇五	九六五	六五一	—	二二	一六	三二	—
檳榔子種子	四,四七六	—	—	一	—	—	—	—	—	六,五一七	—	—	—
皮革	三三八	三,八八三	二,七一九	一〇	六七二	四	一三	一,三一七	一四〇	一八	三二	二五	八
籐及籐ステッキ	三,一〇六	五七六	三〇九	—	三一九	五一九	一五	二五六	一三	七六	二,二八二	二〇六	二
油脂(總の種類)	三一二	二,四四一	—	—	三,四〇四	一三四	—	三	一	五八	四一九	—	—
玉蜀黍	—	三,七八五	—	—	四三九	—	—	二六八	—	—	一,二二五	—	八一三
綿製品	五,六五七	一三	四	三二	一二	二九	五	—	—	一八二	—	一	—
米類	一七八	三,〇〇七	一	—	七六四	三	一	九二九	一	—	一〇九	—	—
コペル	一四五	六七四	二,五三六	—	六一七	—	一〇〇	一四四	—	—	二九〇	五一	—
肉豆蔲	一,六九九	一,五二〇	九四〇	—	二	五	—	一〇二	六	一三七	三三	—	—

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

揮發性油	家畜飼料	石炭	ダマル	木材	ガンビル	落花生	檳子	椰子油	酒精	肉荳花	貝殼	含油種子	サーゴ物產	コカ及コカ葉	鹽・乾魚	纖維類	安息香	カカオ	家畜類	マンガン鑛	其他の物	合計
一八四	五三〇	一,六三五	九九二	一,八九六	九七〇	二,〇八六	一四四	九	八七	五一四	一五三	六九六	一,三三九	—	五三三	二四〇	一,〇五〇	二四五	一,〇二四	—	八,四六六	四七六,一四五
二八七	四二九	一九	二二八	四一五	一二	一〇五	一〇	五二七	二九四	八七三	—	一八〇	一	八八一	—	一五七	一二	八四〇	一	三〇三	二,四三〇	二七五,九〇六
一,二〇〇	—	—	二,一八八	二〇	一,二五〇	一三五	一,四〇六	七八七	—	三五三	三九六	—	—	—	—	四二四	一	—	—	—	六八八	二五一,三九八
—	—	二六六	七三	一	三	一	二	二	三六三	—	—	—	二	—	二	—	—	—	—	—	一二	一四三,四四〇
四六九	五一三	一六	一二五	四五	九八二	四八〇	三七〇	四二四	—	一九	五八	五三七	—	—	—	八二	二	三三	—	一四三	一,四三〇	一三三,〇〇三
六七	六	五〇五	—	三九	—	四二	四	—	一,四三一	—	四	一五	—	—	六	—	—	—	—	—	一,六五六	一〇〇,九八九
一九九	—	四三	一〇二	二七六	四二	—	—	八九	—	—	四五九	三	—	四三九	—	三二	—	三三	—	—	四七七	九八,〇九九
一,八九〇	—	—	一四九	一三八	一三一	一三七	五九一	二	—	二八	五六八	三	—	—	—	六	三六	—	—	三三一	三二六	五五,八五四
二	—	一七五	—	三	—	一	二八〇	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七	四五,四六四
二	三三	七九	—	二六	九一	二五〇	三	—	一〇	五〇	四七	—	—	—	一三九	—	六一	—	五一	—	一,六三五	三八,五六五
九〇	七一六	一	一八四	一五六	七二	四一	七	四四七	—	七	四一	一一〇	—	二三	—	四八	一三	二	—	九三	四〇一	三七,八六五
四九	—	—	—	三	二	一〇四	三三	二八	—	—	—	一八〇	—	—	—	四	—	三三	—	—	二六一	三四,六六〇
—	—	—	—	八	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二七	二〇	一四,二四八

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

（其の二）

仕向國別＼商品別	護謨及ゲタ	砂糖類	石油物產	煙草	ロプラ	錫及錫鑛	茶	珈琲	胡椒	カポック	タピオカ物產	サイザル麻	規那皮・規尼涅・キニイドン	檳榔子種子	皮革	籐及籐ステッキ	油脂（總ての種類）	玉蜀黍	籐製品	%
伊國瑞西	四、八三六	二	—	一	二、一三三	二、二四八	一〇六	三三八	三五	九	九九	四五	四四	—	四九〇	三八	—	—	八	二六・六八
佛印度暹羅	—	八、〇〇一	三六九	—	—	七	一	二	—	—	六	—	一三	—	—	—	—	—	二五	一五・四六
西班牙	—	—	—	一、八九五	七七三	—	五	五、三八九	—	一七	二四八	四	—	—	四五	五	—	一七三	—	一四・〇九
白耳義	七二〇	二、二六〇	二三〇	—	一、六四二	—	六	一五四	—	四	三六九	二二五	一〇	—	七三	三三	—	一六	—	八・〇四
比律賓	—	—	六、一四八	一七	—	—	—	二六二	一五	—	七四	—	四三	—	—	—	—	—	—	六・八四
露國	—	四、二六七	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五・六六
希臘	—	三、八五三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三三	—	—	—	—	五・五〇
英領馬來	—	—	二、二〇六	一〇	—	—	二	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	—	五	三・一三
大連浦鹽	—	二、三八四	—	—	—	—	三六	一八	—	—	—	—	四	—	—	—	—	—	—	二・五五
英南阿	三三	六四	八一五	—	—	—	四三三	一〇〇	三五	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	二・一六
土耳古	—	七〇一	—	—	—	—	三三〇	—	四	—	—	—	—	—	一五	—	—	—	—	二・一三
新西蘭	—	—	一四五	—	—	—	五	一六	—	七四	一〇	一	—	—	—	四	—	—	—	一・九四
南米	—	—	四六五	—	—	一〇三	三一一	—	三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	〇・八三

米類	コパル	肉豆蔻	揮發性油	家畜飼料	石炭	ダマル	木材	ガンビル	落花生	棉子	椰子油	酒精	肉豆蔻花	貝殼	含油種子	サーゴ物產	コカ及コカ葉	鹽乾魚	纖維類	安息香	カカオ	家畜類	マンガン鑛
一七	一八	二六	九	—	—	二六	二二九	九四	一四	六六	一七	—	一二	二五	一九	—	—	—	九	—	—	—	三三
—	—	—	二	—	二六八	—	—	—	—	三	—	二四	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	—
—	一六	—	三	—	—	八五	—	—	—	—	—	—	一五	九	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三三	七	五〇	—	二、一二八	—	二九	一七	二六八	三	二五	三	—	四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	七三
—	—	—	五	—	一九九	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五五八	—	—	—	二四	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一〇三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	六	五	—	—	—	五三〇	—	—	—	—	—	四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	五三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
—	二	—	—	—	—	—	—	一	一七	七	—	—	—	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

其他の物	合計	%
四九	一一、一二五	〇·六三
八〇	九、一七六	〇·五二
―	九、〇四三	〇·五〇
一五	八、六二六	〇·四八
八二	六、八三三	〇·三八
―	四、二八七	〇·二四
―	三、九〇四	〇·二二
八九	二、七九六	〇·一六
―	二、七六五	〇·一五
―	二、〇一五	〇·一一
―	一、〇〇一	〇·〇六
一	九六三	〇·〇五
一	八八六	〇·〇五

（其の三）

商品別／仕向國別	護謨及ゲタ	砂糖類	石油物産	煙草	コプラ	錫及錫鑛	茶	珈琲	胡椒	カポック	タピオカ物産	サイザル麻	規那皮・規尼涅・キノイデン	檳榔子種子	皮革	籐及籐ステッキ
亞剌比亞	―	七一五	―	―	―	―	一四	―	―	―	―	―	―	―	―	―
加奈陀	五一	―	―	―	―	―	五〇八	三五	四	七一	二〇	―	―	―	―	―
葡萄牙	―	五八三	―	―	―	―	四	―	―	―	―	―	―	―	―	―
墺國	―	―	―	―	四四〇	―	一六	三三	―	―	―	―	―	―	―	九
英東阿	―	―	五〇一	―	―	―	七	―	―	―	―	―	―	―	―	―
英ボルネオ	―	二九	二七	―	―	―	―	二	―	―	―	―	―	―	―	二四
葡領チモル	―	一九	一八	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―
羅馬尼	―	―	―	―	―	―	五九	―	―	―	―	―	―	―	―	―
チニスアルセリ	―	―	―	二四	―	―	五	―	―	―	―	―	―	―	―	―
モロッコ	―	―	―	―	―	―	―	―	七	―	―	―	―	―	―	―
マルタ	―	―	―	―	―	―	三	―	―	―	―	―	―	―	―	―
其他	一〇九	七四八	二〇、一一六	七五	二九	―	三三	八八	三六	―	―	―	―	一〇	一〇	一四
合計	五八六、五四二	三六九、四八八	一七三、〇三三	一一〇、四七一	一〇三、三九二	七七、八五九	七四、三六九	六八、三三七	二四、〇五三	二一、六三〇	一五、六〇二	一四、七〇四	一三、三四六	一一、〇〇四	九、九六一	七、八〇九
%	三二·八六	二〇·七〇	九·六九	六·一九	五·七四	四·三六	四·一七	三·八二	一·三五	一·二一	〇·八七	〇·八二	〇·七五	〇·六二	〇·五六	〇·四四

油脂（續の種類）	—	—	—	—	—	—	一	—	—	—	—	七	六、七八〇	〇・三八
玉蜀黍	—	—	—	—	—	—	七	—	—	—	—	—	六、七二六	〇・三八
綿製品	七	—	—	—	—	四	五〇	—	—	—	—	九	六、〇四一	〇・三四
米類	—	—	—	—	—	六九	二	—	—	—	—	一〇八	五、二三三	〇・二九
コパル	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二	四、六〇二	〇・二六
肉豆蔻	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四、五三四	〇・二五
揮發性油	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	四、四六三	〇・二五
家畜飼料	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二六	四、三八〇	〇・二五
石炭	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、〇六二	四、二八八	〇・二四
ダマル	—	—	—	—	—	四〇	—	—	—	—	—	八	四、二二七	〇・二四
木材	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	八七	四、〇七九	〇・二三
ガンビル	—	—	—	九	—	—	—	—	—	—	—	—	三、九四七	〇・二三
落花生	—	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	四	三、四三二	〇・一九
檳子	—	四六	—	—	—	一	—	—	—	—	—	五〇	三、一一四	〇・一七
椰子油	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	二、二三五	〇・一三
酒精	—	—	—	—	—	—	九	—	—	—	—	—	二、二三二	〇・一三
肉豆蔻花	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、八七八	〇・一〇
貝殻	一	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、七六一	〇・一〇
含油種子	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、七四四	〇・一〇
サーゴ物産	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三〇	一、三七二	〇・〇八
コカ及コカ葉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、三四三	〇・〇七
鹽・乾魚	—	—	—	—	—	二	一	—	—	—	—	三四	一、二六四	〇・〇七
纖維類	—	—	—	—	—	二	—	—	—	—	—	—	一、一九五	〇・〇七
安息香	—	—	—	一	—	—	—	—	—	—	—	一	一、一九五	〇・〇七

カカオ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、一一六	0.0七
家畜類	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、一〇〇	0.0六
マンガン鑛	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	一、〇〇三	0.0六
其他の物	七	—	—	四	—	一六八	二一四	—	—	—	—	六三	一八、七七七	一.0五
合計	七四四	七三五	五八七	五二一	五〇九	四八八	三三三	五九	二九	七	三	三、七四八	一、七八四、七九八	—
%	0.0五	0.0四	0.0三	0.0三	0.0三	0.0三	0.0二	—	—	—	—	一.二七		100

(Korte Berichten voor Landbouw Nijverheid en Handel Dec. 24, '26. No. 52.)

其他

□本年度の豫算に表はれたる佛國植民地の兵備

一九二七年度佛國陸軍省豫算案に計上せられた佛國の陸軍定員は將校三一、〇二八人、兵員六四七、四三四人、馬匹一五七、三〇〇頭である此の内には北部亞弗利加土人兵　九六、四四九人とその他の植民地土人兵四七、四一八人と及本國以外に駐屯する不成規兵一一、九八九人計　一五五、八五六人を含むでゐるが植民省豫算支辨の植民軍將校及兵員計四九、〇〇〇人は算入外である。

上記陸軍省及植民省豫算支辨の將校及兵員合計約　七三〇、〇〇〇人は佛國陸軍兵員の全數であるが内約二三〇、〇〇〇人を各植民地に、六〇、〇〇〇をライン占領軍に、殘り四四〇、〇〇〇を本國軍に配屬せしめてゐる植民軍中摩洛哥駐屯軍は將校二、八一九人、兵員八二、七九五人、馬匹三一、四三八頭であるが之れを本年度に比較すると將校五五一人、兵一八、二〇五人、馬匹三、二一九頭の減少である之れは摩洛哥の内亂鎭定し專ら國境警備の必要に限られた結果である然しながら法價下落のため經費は反對に增額し一九二七年度は六億八千萬法で前年度より千八百萬法を增加してゐる右軍事費の內四千百萬法は摩洛哥自身の負擔額（前年度の負擔額は二千六百萬法であつた）である、なほ摩洛哥以外植民地自身の軍事費負擔額の主なるものは印度支那三千三百萬法、西部亞弗利加八百萬法、マダガスカル二百五十萬法等である。以上の外シリヤ方面の駐屯軍に對しても兵數を約半減（一九二七年度は將校六四八人、兵一五、〇八七人、馬匹五、

六〇九頭＝一九二六年度は将校一〇、七五人、兵三〇、〇〇〇人、馬匹九・三〇〇〇頭し経費一億八千七百五十萬法を計上し前年度に比し五千二百五十萬法を減額した。アルセリー及チュニス駐屯軍としては将校二、六四六人、兵七七、三二九人、馬匹一九、四七三頭を配屬せしめ前年度と大差なからしめた。

世界に於ける植民地列强の面積人口及密度比較表

	面積		人口		人口密度	
	本國	植民地	本國	植民地	本國	植民地
英國	二四四、〇四一	三九、九九七、二二三	四四、八二七、九一四	四一三、四五〇、九四〇	一八三	一〇・三
葡萄牙	九一、九四八	二、二四六、五七六	六、〇三三、九九一	六、七七三、四三七	六六	三
米國	七、九九六、九一八	一、八五六、三六四	一〇五、八二七、八五八	一二、七七一、三九一	一三	七
佛國	五五一、〇〇〇	一二、四〇五、六六三	三九、五九六、〇〇〇	五七、九八一、六五〇	七二	五
伊太利	三一三、三六一	二、二一四、七〇〇	四〇、〇六七、三一四	一、七八八、〇〇〇	一二八・四一	〇・八
西班牙	四九七、八七九	三四〇、〇七三	二一、三一三、八〇〇	九九八、七三〇	四二・〇〇	二・九
白耳義	三〇、四四四	二、四一九、〇〇〇	七、七四四、二五九	一一、四三〇、〇〇〇	二五六	四・七
和蘭	三四、二〇九	二、〇三〇、三七一	七、三一五、〇四六	四九、五三〇、一七四	二一四	二四・七
日本	三八七、九一六	二九八、六七八	五九、一三八、九〇〇	二三、三八八、六一六	一五二	七九

備考

一、面積の單位は基米平方とす。

二、植民地の内には保護領租、借地、委任統治等總てを含む。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Adopt Finch Plan Todamst. Lowrence. (N. Y. T. Sep. 25, '26.)

Harryburned Books, Maldaugherty Says. (N. Y. T. Sep. 25, '26.)

Tax Yield in 1925-6 Rose $ 251,859,623 with Lower Rates. (N. Y. T. Sep. 27, '26.)

Defense Due To-day in Daugherty Trial. (N. Y. T. Sep. 28, '26.)

Teapot Oil Lease Declared a Fraud, Ordered Canceled. (N. Y. T. Sep. 29, '26.)

Laymen of Mexico Plead for Church. (N. Y. T. Oct. 13, '26.)

Calles Would Fix Number of Clergy. (N. Y. T. Oct. 17, '26.)

Obregon Acclaimed by 2,000 Mexicans. (N. Y. T. Oct. 28, '26.)

其他

American Marines Land in Nicaragua to Proteck Aliens. (N. Y. T. Aug. 29, '26.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

加 奈 陀

Canadian Premier Sconts Annexation. (N. Y. T. Oct. 19, '26.)

Canada's Control of the Liquor Traffic. (C. H. Vol. XXV. No. 3, Dec., '26. P. 322.)

墨 西 哥

Pope Bans Parley Till Calles Yields. (N. Y. T. Aug. 11, '26.)

Coolidge Won't Hear Mexican Protest of Catholic Knights. (N. Y. T. Aug. 11, '26.)

Mexico Will Seize Property of Clergy. (N. Y. T. Aug. 12, '26.)

Mexican Archbishop in Danger of Arrest. (N. Y. T. Aug. 13, '26.)

Bishops Stand Firm Against Calles Law. (N. Y. T. Aug. 14, '26.)

Coolidge and Aid Confer on Mexico. (N. Y. T. Aug. 16, '26.)

Urges Labor to Aid Peace in Mexico. (N. Y. T. Aug. 16, '26.)

Kellogg Reports No Mexican Injury to American Rights. (N. Y. T. Aug. 17, '26.)

Calles Paraders Stoned by Women. (N. Y. T. Aug. 17, '26.)

Capture Estrada with Insurrectos. (N. Y. T. Aug. 17, '26.)

Bishops of Mexico Discuss Peace Plan to Offer to Calles. (N. Y. T. Aug. 18, '26.)

Church Asks Calles to Suspend Laws. (N. Y. T. Aug. 19, '26.)

Calles Rejects Plea of Bishops to Suspend Laws. (N. Y. T. Aug. 20, '26.)

Church will Invoke Mexican Congress. (N. Y. T. Aug. 21, '26.)

Calles and Bishops Confer on Conflict. (N. Y. T. Aug. 22, '26.)

Peace Hope Fades as Mexican Bishops Reject Compromise. (N. Y. T. Aug. 24, '26.)

Sheffield Reports to Chief on Mexico. (N. Y. T. Aug. 26, '26.)

Calles Denounced as an Intimidator. (N. Y. T. Aug. 26, '26.)

Bishops Threaten Long Mexican Fight. (N. Y. T. Aug. 27, '26.)

Coolidge Upholds Big Aviation Plans. (N. Y. T. Sep. 4, '26.)

Oil Supply in Sight for Only Six Years Says Coolidge Board. (N. Y. T. Sep. 6, '26.)

Daugherty on Trial with Col. Miller ; Jury Quickly Found. (N. Y. T. Sep. 8, '26.)

German Witness Tells Fraud Jury, How He Met Daugherty and Miller. (N. Y. T. Sep. 9, '26.)

City Budget in 1927 to Rise $ 38,700,000 ; Total $ 475,700,000 (N. Y. T. Sep. 10, '26.)

Expert Finds Nation hae 11,000 Millionaires and its First Billionaire, Who is a New Yorker. (N. Y. T. Sep. 10, '26.)

Merton a Witness for Defense also by Court's Ruling. (N. Y. T. Sep. 15, '26.)

Buckner Turns Fire Against Daugherty. (N. Y. T. Sep. 16, '26.)

Daugherty in Cith as Alien Deal Began. (N. Y. T. Sep. 18, '26.)

Coolidge Opposes Compromise Plan on World Court. (N. Y. T. Sep. 21, '26.)

King Check Traced to Daugherty Bank. (N. Y. T. Sep. 24

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Oil Indictment Appeals are Dismissed ; Fall-Doheny Sinclair Case Nearer Trial. (N. Y. T. Oct. 3, '26.)

Coolidge Bond Stand Depresses Germans. (N. Y. T. Oct. 4, '26.)

Debt Reservations will be Ignored by Washington. (N. Y. T. Oct. 7, '26.)

Stinnes Interests to be Transferred to United States. (N. Y. T. Oct. 8, '26.)

Tentative Budget set at $ 459,677,741; Increase $ 22,677,741 (N. Y. T. Oct. 12, '26.)

The Debt Settlement. (N. Y. T. Oct. 12, '26.)

Five-day Week Becomes a Vivid Issue. (N. Y. T. Oct. 17, '26.)

$ 12,000,000 More Added to Budget. (N. Y. T. Oct. 20, '26.)

President is Cold to Tariff Appeal. (N. Y. T. Oct. 20, '26.)

Bankers Call Appeal Expression of Opinion. (N. Y. T. Oct. 20, '26.)

Business Endorses Anti-tariff Plea. (N. Y. T. Oct. 21, '26.)

Washington Revises View on Tariff Plan. (N. Y. T. Oct. 21, '26.)

Utilities Inquiry Urged by Ripley. (N. Y. T. Oct. 23, '26.)

Debts Swayed a Host by Appeal to Hearts. (N. Y. T. Oct. 24, '26.)

Control of Senate is Prize of Election. (N. Y. T. Oct. 24, '26.)

Millons Involved in Power Struggle. (N. Y. T. Oct. 24, '26.)

Millon Defends Our Tariff Policy ; Says Europe Copies. (N. Y. T. Oct. 25, '26.)

President's Ouster Power Without Senate Consent Upheld by Supreme Court. (N. Y. T. Oct. 26, '26.)

Plan Ouster Curb on the President. (N. Y. T. Oct. 27, '26.)

Stiff Note to Mexico on Oil is Indicated. (N. Y. T. Oct. 28, '26.)

Army Men Decide Against Ship Canal Across this State. (N. Y. T. Oct. 29, '26.)

Rail Merger Coal, Without Erie, Near for van Sweringens. (N. Y. Y. Oct. 30, '26.)

Labor and Capital to Battle Over Unionism. (N. Y. T. Oct. 31, '26.)

The Case for the Labor Union. The Case for the Company Union. The Case for the Open Shop. (N. Y. T. Oct. 31, '26.)

Stock Dividends from the Investor's Standpoint. By F. E. Sediman. (A. Dec. 3, '26. P. 725.)

The Tariff and the High Price of Lead. By A. B. Raymond. (A. Dec. 3, '26. P. 721.)

United States Trade in Rubber Goods with New Zealand Grows. (Com. R. No. 51, Dec. 20, '26. P. 744.)

Increasing Demand for American Leather in Siam. (Com. R. No. 51. Dec. 20, '26. P. 752.)

The Position of Agriculture of the Close of 1926. (A. Vol. XXVIII. No. 728, Dec. 31. '26. P. 851.)

The Financial Productivity of Public Utilities. (A. Vol. XXVIII. No. 728, Dec. 31, '26. P. 853.)

American Prosperity Producing New Social Problems. By T. N. Carver. (C. H. Vol. XXV. No. 4, Jan., '27. P. 480.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Trotsky Admits Defeat, Bows to Stalin Group as the Real Red Chiefs. (N. Y. T. Oct. 18, '26.)

希臘

Revolt in Greece ; Condylis in Control ; Warships Fight Battle Over Pangalos as He Tries to Escape on a Destroyer. (N. Y. T. Aug. 23, '26.)

Pangalos Caught ; Prisoner in Athens. (N. Y. T. Aug. 24, '26.)

Pangalos is Placed in Prison on Island. (N. Y. T. Aug. 25, '26.)

Fighting in Athens Follows a Revolt by Pangolos Guard. (N. Y. T. Sep. 10, '26.)

Gen. Kondylis Tells His Aims for Greece. (N. Y. T. Oct. 3, '26.)

波蘭

Pilsudski 'Plots' to be Polish King. (N. Y. T. Oct. 26, '26.)

Pilsudski Returns Without a Crown. (N. Y. T. Oct. 28, '26.)

Pilsudski Confers on His Latest Plan. (N. Y. T. Oct. 28, '26.)

其他

Boris Coming Here ; May Seek a Bride. (N. Y. T. Sep. 27, '26.)

Belgian Currency Put on a Gold Basis, with Belga New Unit. (N. Y. T. Oct. 26, '26.)

Belgian 7 per Cents Priced Here at 94. (N. Y. T. Oct. 26, '26.)

Turkey's New System of Laws and Courts. By J. Y. Brinton. (C. H. Vol. XXV. No. 4, Jan., '27. P. 498.)

■阿 弗 利 加■

Text of the Constitution of Egypt. (C. H. Vol. XXV. No. 4, Jan., '27.)

■兩 米 大 陸■

北米合衆國

Record Production By Our Industries. (N. Y. T. Aug. 12, '26.)

Coolidge Obtains Cuts in Budget, Now $ 3,270,000,000 (N. Y. T. Aug. 12, '26.)

Cancel Reparation, Borah Tells Allies ; (N. Y. T. Aug. 12, '26.)

Coolidge Approves First Two Airways of National Chain. (N. Y. T. Aug. 14, '26.)

Suggests Bankers Providearm Fund up to $ 100,000,000 (N. Y. T. Aug. 15, '26.)

Credits Efficiency for Export's Rise. (N. Y. T. Aug. 16, '26.)

Urges New Compact for Pacific Affairs. (N. Y. T. Aug. 16, '26.)

Jardine Analyzes Western Farm Ills. (N. Y. T. Aug. 22, '26.)

Immigrant Quotas May Shift in 1927. (N. Y. T. Aug. 29, '26.)

Quit World Court, Roosevelt Urges. (N. Y. T. Aug. 29, '26.)

Coolidge Opposed to Baker Proposal to Cancel Debts. (N. Y. T. Aug. 31, '26.)

K. of C. Ask Coolidge for Aid on Mexico. (N. Y. T. Sep. 2, '26.)

Hughes is Named to Hague Tribunal. (N. Y. T. Oct. 1, '26.)

Coolidge Defers World Court Move. (N. Y. T. Oct. 2, '26.)

City Realty Values Rise $ 1,643,822,903 to $ 14,165,899,795. (N. Y. T. Oct. 2, '26.)

Brooklyn Values Rise $ 750,029, 340 (N. Y. T. Oct. 2, '26.)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

獨逸

Germans Agitate to Regain Colonies. (N. Y. T. Aug. 15, '26.)

Germany Pays Half Reparatios in Kind. (N. Y. T. Sep. 1, '26.)

Germany Now Nears Economic Normalcy. (N. Y. T. Sep. 6, '26.)

Germany Elected to League and Council by Unanimous Vote as Assembly Cheers, Geneva Still Hopefull Spain Won't Quit. (N. Y. T. Sep. 9, '26.)

German Foreign Minister snd 24 Aids on Way for League Entry Ceremony. (N. Y. T. Sep. 9, '26.)

Plan Aid by Reich to Victor Nations. (N. Y. T. Sep. 10, '26.)

German Industry on the Up-grade. (N. Y. T. Sep. 13, '26.)

Great Peace Issues Discussed by Briand with Stresemann. (N. Y. T. Sep. 18, '26.)

$ 500,000,000 Offer by Berlin to Allies to Relax Their Grip. (N. Y. T. Sep. 20, '26.)

Rhine Evacuation Begun by French. (N. Y. T. Sep. 23, '26.)

Stresemann Asks Coolidge to Help Peace in Europe. (N. Y. T. Oct. 3, '26.)

Would Meet Berlin on War Guilt Issue. (N. Y. T. Oct. 5, '26.)

Prussia to Grant Ex-keiser $ 5,000,000. (N. Y. T. Oct. 6, '26.)

和蘭

De Maximum Bevolking van Nederland. (S. Hb. Dec. 2, '26.)

De Nederlandsche Steen-kolenmijnbouw. (S. Hb. Jan. 4, '27.)

西班牙

Spain Approaches Italy on Tangier. (N. Y. T. Aug. 26, '26.)

All Artillery Chiefs and Officers Arrested and Confined to Quarters, Government Reports. (N. Y. T. Sep. 6, '26.)

Martial Law is Proclaimed in Spain as Artillery Corps and Cadets Rebel; Government Reports Mutiny Suppressed. (N. Y. T. Sep. 6, '26.)

Plot to Kidnop Alfonso Foiled Revolt Crushed. (N. Y. T. Sep. 7, '26.)

Spanish Cabinet Decides to Resign from the League. (N. Y. T. Sep. 8, '26.)

Last Stronghold Gives up in Spain. (N. Y. T. Sep. 8, '26.)

Decree by Alfonso Ends Martial Law. (N. Y. Sep. 9, '26.)

Voting for Rivera Languid in Spain. (N. Y. T. Sep. 13, '26.)

伊太利

Mussolini Blow at League Feared. (N. Y. T. Aug. 29, '26.)

Italy Acclaims Chamberlain Visit as a New Accord. (N. Y. T. Oct. 1, '26.)

Italians Profess Threefold Faith. (N. Y. T. Oct. 1, '26.)

Mussolini Hails Fascist Triumph. (N. Y. T. Oct. 29, '26.)

露西亞

Russia is Winging from Radicalism, Says Polish Envoy. (N. Y. T. Aug. 18, '26.)

Stalin Emerges as the Dictator of Russia. (N. Y. T. Aug. 29, '26.)

Voice of Peasant Heard in Russia. (N. Y. T. Sep. 11, '26.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Europe's Moral and Material Obligations to America. By Louis E. van Norman. (C. H. Vol. XXV. No. 3, Dec., '26. P. 311.)

英 國

Asquith Resigns as Liberal Leader. (N. Y. T. Oct. 15, '26.)

Asquith in Tears at His Farewell. Rivals Confer in Belgrade. (N. Y. T. Oct. 16, '26.)

The Imperial Conference. (N. Y. T. Oct. 17, '26.)

Dominion Premiers Arrive in London. (N. Y. T. Oct. 18, '26.)

Britain Dashes Bond Deal Hopes. (N. Y. T. Oct. 19, '26.)

Britain Continues Control of Rubber. (N. Y. T. Oct. 25, '26.)

Dominions Discuss Foreign Relations. (N. Y. T. Oct. 26, '26.)

Rubber Export Cut a Fifth by Britain. (N. Y. T. Oct. 31, '26.)

The British Empire Facing a Crisis. By Carleton Kendall. (C. H. Vol. XXV. No. 3, Dec., '26. P. 332.)

De Engelsche Katoenhandel. (L. N. e. H. No. 49, Dec. 3, '26.)

Rubber and Its Uses. (S. F. P. Dec. 31, '26.)

The New Magna Carta of British Imperial Unity. By H. Robinson. (C. H. Vol. XXV. No. 4, Jan, '27. P. 493.)

佛 蘭 西

National Assembly Uphold Poincare in Riotous Session. (N. Y. T. Aug. 11, '26.)

French Clean out Oasis of Damascus. (N. Y. T. Aug. 12, '26.)

Poincaré May Move to Cancel all Debts Except Reich Bonds. (N. Y. T. Aug. 16,'26.)

Poincare Orders Wide Restrictions on Nation's Food. (N. Y. T. Aug. 21, '26.)

Split in Cabinet Talked of in Paris. (N. Y. T. Aug. 25, '26.)

Poincare Decrees Reduction in Army. (N. Y. T. Sep. 11, '26.)

French See Chance for Arms Parley Before Next Fall. (N. Y. T. Sep. 14, '26.)

Cabinet Approves Briand's Policy. (N. Y. T. Sep. 22, '26.)

Briand has Task to Convince France. (N. Y. T. Sep. 26, '26.)

Poincare Urges Germany to Admit Nation's War Guilt. (N. Y. T. Sep. 27. '26.)

Paris Press a Unit Against Debt Deal. (N. Y. T. Oct. 1, '26.)

France Will Reject Mellon Debt Terms, Official Intimates. (N. Y. T. Oct. 4, '26.)

Poincare Opposes Exkaiser's Return. (N. Y. T. Oct. 11, '26.)

French Radicals for Debt Compact. (N. Y. T. Oct. 17, '26.)

Les Houillères Françaises. (le T. Nov. 2, '26. P. 1.)

Le Budget de 1927. (le T. Nov. 14, '26. P. 1.)

Le Problème du Pacifique. (le T. Dec. 1, '26. P. 1.)

Le Budget des Colonies. (le T. Dec. 3, '26. P. 1.)

La Colonisation Intérienre de la France. (F. I. Jan. 9, '27. P. 1.)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

The Currency Commission. (R. G. Dec. 13, '26. P. 4.)

Associated Chambers of Commerce of India (Survey of Commercial) Problems. (R. G. Dec. 13, '26. P. 10.)

Ceylon & Restriction Unofficial's Opinion. (S. F. P. Dec. 13, '26.)

The "Dak". (Post and Telegraph Work in India). (R. G. Dec. 13, '26. P. 14.)

The Cotton Crop in Burma (Third Forecast). (R. G. Dec. 13, '26. P. 2.)

Gold Currency Standard. (T. O. I. Dec. 18, '26. P. 3.)

Proposed Gold Bullion Standard. (T. O. I. Dec. 18, '26. P. 2.)

Improving the Country Fowl in Burma. (R. G. Dec. 20, '26. P. 8.)

Travelling Conditions Experienced by Foreign Traders in Burma in the 16th and 17th Centuries. (R. G. Dec. 20, '26. P. 18.)

Burma Rice Crop (Third for Cast). (R. G. Dec. 20, '26. P. 12.)

Cotton Industry in India. (N. C. D. N. Dec. 23, '26.)

Moscow and India. (R. G. Dec. 27, '26. P. 25.)

Indian Commerce and Industries. (R. G. Dec. 27, '26. P. 24.)

Burma Corporation Ltd. (Annual General Meeting). (R. G. Jan. 3, '27. P. 4.)

濠洲及新西蘭

Australian Textile Industry & Foreign Trade. (Com. R. No. 49, Dec. 6, '26. P. 609.)

Australian Trade Tendencies. (Com. R. No. 50, Dec. 13, '26. P. 708.)

Two Years' Road Developement in New Zealand. (Com. R. No. 50, Dec. 13, '26. P. 694.)

歐羅巴

General

Speyer Says Europe Must Help Herself. (N. Y. T. Sep. 1, '26.)

Sees Rubber Supply in Guayule Plant. (N. Y. T. Sep. 10, '26.)

Dawn of New Peace Hailed as Germany Takes League Seat. (N. Y. T. Sept. 11, '26.)

Form a Steel Trust Embarking Europe; Competition Ends. (N. Y. T. Oct. 1, '26.)

Lithuanian Treaty Lacks Arbitration. (N. Y. T. Oct. 2, '26.)

Rhineland Inquiry Aids Defense Plea. (N. Y. T. Oct. 2, '26.)

Europe's New Steel Agreement. (N. Y. T. Oct. 4, '26.)

Europeans to Keep Steel Sales Hidden. (N. Y. T. Oct. 6, '26.)

Pan-European Body Appeals to League. (N. Y. T. Oct. 7, '26.)

The United States of Europe. (N. Y. T. Oct. 8, '26.)

Anglo-German Deal in Steel in Sight. (N. Y. T. Oct. 9, '26.)

Says Europe Seeks to Copy Our Method. (N. Y. T. Oct. 13, '26.)

World Steel Pact Foreseen by Gary Steel Leaders Optimistic. (N. Y. T. Oct. 23, '26.)

Steel Forges a Stronger Peace in Europe. (N. Y. T. Oct. 24, '26.)

Tariff Walls Block Europe's Recovery. (N. Y. T. Oct. 30, '26.)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Het Verhoogde Invoerrecht op Sigarettenpapier. (S. Hb. Dec. 28, '26.)

Een Landstreek met een Toekomst. (S. Hb. Dec. 28, '26.)

Sociaal-Economisch Overzicht. (S. i. N. I. No. 50, Dec., 26.)

Taxatie's der Thee-Koffie en Rubberproductie in 1926. (S. Hb. Dec. 27, '26.)

De Nieuwe Verzekeringswet. (S. Hb. Dec. 27, '26.)

Inlandsche Landbouwgewassen. (S. Hb. Dec. 28, '26.)

De Nieuw-Guinea Expeditie. (S. Hb. Dec. 28, '26.)

Singkep Tin Mij. (H. N. v. d. D. Dec. 30, '26.)

Nieuw-Guinea Expeditie. (S. Hb. Dec. 30, '26.)

De Arbeidsinspectie. (S. Hb. Dec. 30, '26.)

Publiciteit over Indië in Vreemde. (S. Hb. Dec. 31, '26.)

Overstrooming ter S. O. K. en in Atjeh. (S. Hb. Dec. 31, '26.)

Verkorte Balans van de Javasche Bank. (S. Hb. Dec. 31, '26.)

De Volksraad, oud en Nieuw. (S. Hb. Dec. 31, '26.)

Overzicht over het Tabaks-jaar 1926 in Besoeki. (S. Hb. Dec. 31, '26.)

Wederwaardigheden der Rubbercultuur in den Oosthoeken Gedurende 1926. (S. Hb. Dec. 31, '26.)

De Java-Suikerindustrie in het Jaar 1926. (S. Hb. Dec. 31, '26.)

Volksraad Reglementen, Reglement van orde van den Volksraad en van het College van Gedelegeerden. (Sb. No. 544, '26.)

Rechtswezen, Reglementen, Bekendmaking van den Tekst van het Inlandsch Reglement Staatsblad 1848 No. 16. (Sb. No. 559, '26.)

De Met Riet Beplante Opper-vlakte van Java voor Oogst 1926 en 1927. (S. i. N. I. No. 1, Jan., '27.)

De Nieuw Guinea-Expeditie. (S. Hb. Jan. 3, '27.)

De Suikermarkt in 1926 en 1927. (S. Hb. Jan. 3, 4, '27.)

De Nieuw Guinea-Expeditie. (S. Hb. Jan. 6, '27.)

Defensie-Vraagstukken. (S. Hb. Jan. 7, '27.)

Djeloetoeng-Winning in Nederlandsch-Indië. (L. N. e. H. No. 1, Jan. 7, '27.)

De Koffie-Cultuur in Celebes. (L. N. e. H. No. 1, Jan. 7, '27.)

Bedrijfs-Resultaten van de Priok-haven. (H. N. v. d. D. Jan. 7, '27.)

De Watersnood ter S. O. K. (H. N. v. d. Jan. 8, '26.)

英 領 印 度

A Reserve Bank of India. (E. Vol. CIII. No. 4344, Nov. 27, '26. P. 900.)

"Burma Timbers". (R. G. Nov. 29, '26.)

Food Supply of Calcutta. (T. O. I. Dec. 4, '26. P. 12.)

The Rangoon Rent Act. (R. G. Dec. 6, '26. P. 7.)

Indian Currency and Exchange. (R. G. Dec. 13, '26. P. 17.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Le Siam cherche à améliorer sa production rizicole. (F. I. Dec. 3, '26. P. 1.)

The Rice Figures. (B. T. Dec. 28, '26.)

The Co-operative Movement. (B. T. Dec. 30, '26.)

Rama VI. Bridge—Opened by the King. (B. T. Jan. 3, '27.)

英 領 馬 來

Malayan Mining Methods. (E. E. No. 12, Dec. 2, '26. P. 355.)

Electrical Developement in Singapore. (Com. R. No. 50, Dec. 13, '26. P. 672.)

Legislative Council. (S. F. P. Dec. 14, '26.)

Federal Council. (H. D. P. Dec. 14, '26.)

Maxwell on the F. M. S. (S. F. P. Dec. 15, '26.)

Malayan Tin Dredging. (C. E. T. No. 3305, Dec. 23, '26. P. 937.)

Bishop of London. Distinguished Prelate Arrives in Singapore. (S. F. P. Jan. 6, '27.)

Malayan in Parliament S. S. and Opium. (S. F. P. Jan. 5, '27.)

The Problem of Singapore Naval Base there or in Australia ? (H. D. P. Jan. 5, '27.)

British Malaya Rubber Dec. Statistics. (S. F. P. Jan. 6, '27.)

De Maleische Rubber-Uitvoer. (H. N. v. d. D. Jan. 7, '27.)

Malaya's Immigrants Enormous influx from South China. (H. D. P. Jan. 12, '27.)

蘭 領 東 印 度

Het Technische Onderwijs in Ned-Indië. (K. S. No. 5, Oct., '26.)

Lager Landbouw Onderwijs in Ned-Indië. (K. S. No. 5, Oct., '26.)

De Gouvernements Bedrijven in Ned-Indië. (K. S. No. 5, Oct., '26.)

Het Buitenlanders Element in Ned-Indië. (K. S. No. 5, Oct., '26.)

Over het Volkscredietwezen in Neder-Indië. (K. S. No. 5, Oct., '26.)

De Bezwaren Tegen de Verpondingsbelasting. (K. S. No. 5, Oct., '26.)

De Bestuurshervorming. (K. S. No. 5, Oct., '26.,)

Handelsoverzicht van Egijpt. (S. Hb. Nov. 20, '26.)

De Japansche Expansie in de Nanyo. (S. Hb. Nov. 25, '26.)

Wapensmokkel op Groot Schaal. (S. Hb. Nov. 30, '26.)

Kina en Kinine in Ned-Indië. (L. N. e. H. No. 49, Dec. 3, '26.)

Increased Competition in Dutch East Indian Leather Trade. (Com. R. No. 50, Dec. 13, '26. P. 698.)

Een Nieuw Japansch Consulaat en Handels-Commissaris. (H. N. v. d. D. Dec. 14, '26.)

Het Uitvoeringsplan 1928 van Onzen Haven. (S. Hb. Dec. 18, '26.)

In en Uitvoerrecht en Accijnzen. (S. Hb. Dec. 20, '26.)

Java en Deli. (S. Hb. Dec. 22, 23, '26.)

De Gemeentebegrooting van Soerabaja voor 1927. (S. Hb. Dec. 20, 21, 22. 23, 24, 27, '26.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Russie, Chine et Annam. (A. T. Dec. 6, 7, '26. P. 1.)

Le Régime Douanier Colonial. (le C. S. Dec. 7, '26. P. 1.)

La Question de la Main-d'œuvre. (F. I. Dec. 8, '26. P. 1.)

L'œuvre de M. Varenne et l'opinion Française. (le C. H. Dec. 8, '26. P. 1.)

Une Visite à la Foire de Hanoi. (le C. S. Dec. 8, '26. P. 1.)

Le Successeur de M. Varenne. (F. I. Dec. 9, '26. P. 1.)

La Politique de M. Varenne est approuvée par la Commission des Colonies. (le C. S. Dec. 10, '26. P. 1.)

Les Inondation en Annam. (A. T. Dec. 11, '26. P. 1.)

Le Retour de M. Varenne. (F. I. Dec. 11, '26. P. 1.)

Cochinchine…et Tout le Problème Colonial. (F. I. Dec. 13, 14, 17, '26. P. 1.)

Chronique des Mines. (E. E. I. No. 496, Dec. 12, '26. P. 15.)

Le Traité de Commerce entre l'Indochine et le Japon. (le C. S. Dec. 13, '26. P. 1.)

La Séection des paddy de Semence. (le C. S. Dec. 14, '26. P. 1.)

La Lutte contre la Malaria. (le C. S. Dec. 16, 21, '26. P. 1.)

Le Régime de la Banque de l'Indochine. (F. I. Dec. 16, '26. P. 1.)

Politique Extérieure. (A. T. Dec. 17, '26. P. 1.)

Causeries sur l'histoire d'Annam. (E. E. I. No. 497, Dec. 19, '26. P. 2.)

Le Développement de la Culture du Riz sans l'ouest Cochinchinois. (E. E. I. No. 497, Dec. 19, '26. P. 10.)

La Vie Chère en Indochine. (F. I. Dec. 19, '26.)

Nos Exportations les Riz et Paddy. (le. C. S. Dec. 21, '26. P. 1.)

Le Japon et le Tarif Dounier Indochinois. (le C. H. Dec. 23, '26. P. 1.)

Exportation et Importation des Animaux domestiques. (A. T. Dec. 24, '26.)

L'Ouverture de la Session du Conseil Supérieur des Colonies. (le C. H. Dec. 25, '26. P. 1.)

Chronique des Mines. (E. E. I. No. 498, Dec. 26, '26. P. 14.)

Le Tarif Douanier de l'Indochine. (F. I. Dec. 27, 28, '26. P. 1.)

Au Conseil de Gouvernement. (le C. H. Dec. 29, '26. P. 1.)

Banque Franco-Chinoise pour le Commerce et l'industrie. (F. I. Dec. 29, '26. P. 1.)

L'Indochine et la Métropole. (le C. H. Jan. 1, '27. P. 1.)

Ma Sériciculture en Indochine. (le C. H. Jan. 5, '27. P. 1.)

L'Agriculture & l'électricité. (F. I. Jan 5, '27. P. 1.)

Au Comité de l'Indochine. (le C. H. Jan. 7, '27.)

Le Tigre et la Colonisation. (F. I. Jan. 9, '27. P. 1.)

暹　　　羅

Mining in Siam. (F. E. R. No. 12, Dec., '26. P. 584.)

Thompson to Press Need of Philippines as Strategic Base. (N. Y. T. Sep. 25, '26.)

Thompson Hopeful Over Luzon Metals. (N. Y. T. Sep. 26, '26.)

Aguinaldo Speaks for Cooperation. (N. Y. T. Sep. 30, '26.)

Filipinos Lean to Cooperation. (N. Y. T. Oct. 3, '26.)

Quezon is Ready for Compromise. (N. Y. T. Oct. 4, '26.)

Thompson Sees Era of Filipino Wealth. (N. Y. T. Oct. 5, '26.)

Thompson and Wife Near Death in China. (N. Y. T. Oct. 23, '26.)

Imports of Hardware into the Philippine Islands. (Com. R. No. 50, Dec. 13, '26. P. 685.)

The Philippine Fertilizer Market. (Com. R. No. 50, Dec. 13, '26. P. 687.)

First National Congress on Tuberclosis Finally Ended. (P. H. Dec. 19, '26.)

Early Passage of Wainright Bill Assured. (P. H. Dec. 22, '26.)

Thompson in His Report Blames Chief Executive for Clashes with Legislature. (P. H. Dec. 24, '26.)

Transmission of Thompson's Report Made in Record Time. (P. H. Dec. 25, '26.)

Extension of U. S. Reserve System Fought. (P. H. Dec. 25, '26.)

Drive for Fund in Full Swing in South, is Report. (P. H. Dec. 29, '26.)

Plan to Open Farm Banks in P. I. Hits Snag. (P. H. Jan. 4, '27.)

Fuga Deal is Intended to Cause Fright. (P. H. Jan. 5, '27.)

佛 領 印 度 支 那

Le Retour de M. Alexandre Varenne. (le T. Oct. 30, '26. P. 1.)

M. Albert Sarrant Déclare que M. Varenne doit retourner en Indochine. (le C. S. Nov. 22, '26. P. 1.)

L'éducation Coloniale du Public Français et Encore à Faire. (le C. S. Nov. 23, '26. P. 1.)

Les Premières Années du Jardin Botanique. (le C. S. Nov. 27, '26. P. 1.)

Le Japon a besoin du Minerai de fer de l'Indochine. (le C. S. Nov. 29, '26.)

La Métropole Réclame de ses Colonies près de 50 Millions de frans. (le C. S. Nov. 29, '26. P. 1.)

Au Laboratoire de Caoutchouc de l'Institut Pasteur. (le C. S. Nov. 30, '26. P. 1.)

La 8e Foire de Hanoi a Onvert ses Portes. (le C. S. Nov. 30, '26. P. 1.)

L'arrivée en France de M. Alexandre Varenne. (le C. S. Dec. 2, '26. P. 1.)

Hanoi-Saigon Direa par la Voie du Laos. (le C. S. Dec. 3, '26. P. 1.)

Le Commerce Extérieur de la France et nos Colonies. (le C. S. Dec. 3, '26. P. 1.)

La Foire de Hanoi. (le C. H. Dec. 4, '26. P. 1.)

Une Page de l'histoire du Caouchouc de Plantation. (le C. S. Dec. 4, '26. P. 1.)

Le Projet de Budget pour 1927. (F. I. Dec. 5, '26. P. 1.)

Les Humanités Indochinoises. (le C. S. Dec. 6, '26. P. 1.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Summary of Strikes in Shanghai in Nov. (C. E. B. No. 307, Jan. 8, '27.)

A List of the Names and Addresses of Steam Filature Silk Dealer in Shanghai. (C. E. B. No. 307, Jan. 8, '27. P. 21.)

Button Manufacture in Soochow (蘇州) and Changchow (常州) (C. E. B. No. 307, Jan. 8, '27. P. 19.)

Kailan (開灤) Mining Administration. (C. E. B. No. 307, Jan. 8, '27. P. 17.)

Anti-Christianism in Kuangsi. (廣西) (N. C. D. N. Jan. 11, '27.)

Hands off Shanghai. (N. C. D. N. Jan. 11, '27.)

Chinese Public Finance-Country's Debt of $ 2,506,650,000. (N. C. D. N. Jan. 11, '27.)

The Special Aims of the Hongkong University. (H. D. P. Jan. 12, '27.)

South Manchuria Railway Company's Interests and New Investments. (C. E. B. Vol. X. No. 308, Jan. 15, '27. P. 33.)

Candied "Kumkwat" Aranges in Foochow. (C. E. B. Vol. X. No. 308, Jan. 15, '27. P. 31.)

Asbestos Manufacture in Tientsin. (C. E. B. Vol. X. No. 308, Jan. 15, '27. P. 28.)

Weights and Measures at Wenchow. (溫州) (C. E. B. No. 309, Jan. 22, '27. P. 46.)

A Few of China's Special Products. (C. E. B. No. 309, Jan. 22, '27. P. 40.)

Improvement Schemes for China. (C. E. B. No. 309, Jan. 22, '27. P. 42.)

比　律　賓

Negros Opposes Independence Now. (N. Y. T. Aug. 18, '26.)

Quotes Coolidge on Filipino Policy. (N. Y. T. Aug. 19, '26.)

Thompson Confers with Moro Chiefs. (N. Y. T. Aug. 24, '26.)

Moros Demand American Rule. (N. Y. T. Aug. 25, '26.)

Riot at Zamboanga Narrowly Averted as Thompson Lands. (N. Y. T. Aug. 26, '26.)

Americans Accused Before Thompson of Stirring Strife. (N. Y. T. Aug. 27, '26.)

Wood Investigates Row in Zamboanga. (N. Y. T. Aug. 28, '26.)

Thompson Predicts Success in Rubber. (N. Y. T. Aug. 29, '26.)

Sulu's Sultan Opens Arms to Thompson ; He Favors Our Rule. (N. Y. T. Aug. 30, '26.)

Moros Welcome American Capital. (N. Y. T. Sep. 2, '26.)

Church Denounces Calles's Message. (N. Y. T. Sep. 3, '26.)

Japanese Control Davao Hemp Trade, Dominate Province. (N. Y. T. Sep. 3, '26.)

Urges Filipinos to Open Iron Mines. (N. Y. T. Sep. 4, '26.)

Sees Philippines Rich in 30 Years. (N. Y. T. Sep. 6, '26.)

Filipino Likens Wood to George 111. (N. Y. T. Sep. 8, '26.)

Thompson Foresees Philippine Riches. (N. Y. T. Sep. 10, '26.)

Thompson Favors Aid to Philippines. (N. Y. T. Sep. 12, '26.)

Merton's Attitude Puzzles Both Sides in Daugherty Trial. (N. Y. T. Sep. 12, '26.)

Quezon Demands Independence Now and Attacks Wood. (N. Y. T. Sep. 19, '26.)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Chinese Public Finance. (E. Vol. CIII. No. 4343, Nov. 20, '26. P. 856.)

The China Crisis. Opinions for and Against the Cantonese. (C. E. T. No. 3302, Dec. 2, '26. P. 873.)

Industrial Machinery. Tientsin Imports for First Half of 1926. (E. E. No. 12, Dec. 2, '26. P. 359.)

De Ontwikkeling der Textielindustrië in China. L. N. e. H. No. 49, Dec. 3, '26.)

Bolshevism in China. (S. Vol. CVIII. No. 2545, Dec. 4, '26. P. 1021.)

The Chinese Treaty Question. (R. G. Dec. 13, '26. P. 23.)

The Machinery, Trade of China During 1926. (Com. R. No. 50, Dec. 13, '26. P. 676.)

Engineering Progress in Shanghai Reviewed. (N. C. D. N. Dec. 15, '26.)

Peking Syndicate. (C. E. T. No. 3304, Dec. 16, '26. P. 918.)

Missions in China. (C. E. T. No. 3304, Dec. 16, '26. P. 913.)

The New Move in China. (C. E. T. No. 3305, Dec. 23, '26. P. 927.)

The Chinese Situation To-day. By Dr. Hu Shih. (N. C. D. N. Dec. 24, '26.)

Cantonese Ideas of Taxation. (N. C. D. N. Dec. 25, '26.)

British Proposal for China. (N. C. D. N. Dec. 28, '26.)

British Memoranda on China. (C. E. T. No. 3306, Dec. 30, '26. P. 955.)

British Policy in China. (C. E. T. No. 3306, Dec. 30, '26. P. 947.)

Foreign Policy Towards China. Great Britain's Proposals. (H. P. P. Dec. 31, '26.)

Means of Communications in Chekiang. (浙江) (C. E. J. Vol. I. No. 1, Jan., '27. P. 100.)

Flour Mill in Peking. (C. E. J. Vol. I. No. 1, Jan. '27. P. 97.)

Farms in Soochow. (蘇州) (C. E. J. Vol. I. No. 1, Jan., '27. P. 87.)

Development of Through Traffic on the Chinese Government Railways. (C. E. J. Vol. I. No. 1, Jan. '27. P. 80.)

Salt in Szechwan. (C. E. J. Vol. I. No. 1, Jan., '27. P. 70.)

Changes in the Growth of China's Population in the Last 182 Years. By Chang-Heng Chen. (C. E. J. Vol. I. No. 1, Jan., '27. P. 59.)

Tsingtau To-day. (C. E. J. Vol. I. No. 1, Jan., '27. P. 48.)

The Soybean as Human Food. By Dr. A. A. Horvath. (C. E. J. Vol. I. No. 1, Jan. '27. P. 24.)

The Story of Jade. (C. E. J. Vol. I. No. 1, Jan., '27. P. 1.)

Origin and Arms of the Cantonese National Party. By C. W. Chid. (C. H. Vol. XXV. No. 4, Jan., '27.)

China's Fibre Crops. (C. E. B. Vol. X. No. 306, Jan. 1, '27. P. 1.)

Lloyd George's Speach on China. (N. C. D. N. Jan. 4, '27.)

China Provident Loan & Mortgage Co. (H. D. P. Jan. 5, '27.)

Customs Revenue, 1926. (C. E. B. No. 307, Jan. 8, '27.)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Geneva Conference Adopts Court Plan. (N. Y. T. Sep. 21, '26.)

League Adopts Plan of Economic Parley. (N. Y. T. Sep. 21, '26.)

Rubber Prices Rise in Active Market. (N. Y. T. Sep. 22, '26.)

Gibson's Criticism Reforms Methods of Arms Committee. (N. Y. T. Sep. 23, '26.)

Armsparley in Year is Urged by League. (N. Y. T. Sep. 25, '26.)

League Commends Locarno Example to Entire World. (N. Y. T. Sep. 26, '26.)

Arms Commission Won Over by Gibson. (N. Y. T. Sep. 28, '26.)

Rubber Market Quiet ; All Positions Strong. (N. Y. T. Sep. 28, '26.)

Predicts America will Shift on Debts. (N. Y. T. Sep. 30, '26.)

Russo-Asiatic Bank Declared Solvent. (N. Y. T. Oct. 1, '26.)

League Advancing Toward its Goal. (N. Y. T. Oct. 3, '26.)

Appeal for Lowered Tariff Barriers is Made by Bankers and Industrialists of Sixteen Nations, Including America. (N. Y. T. Oct. 20, '26.)

Will Mold Rubber by New Processes. (N. Y. T. Oct. 29, '26.)

Controlling the Output of Gold. (E. Vol. CIII. No. 4343, Nov. 20, '26. P. 859.)

Controlling the Output of Gold—IV. V. (E. Vol. CIII. No. 4344, Nov. 27, '26. P. 906.)

Controlling the Output of Gold—VI. (E. Dec. 4, '26. P. 952.)

Starch Production and Trade of Leading Countries. By I. A. Le Clerc. (Com. R. No. 49, Dec. 6, '26. P. 612.)

Inteanational Trade in Nine Months of 1926. By J. J. Kral. (Com. R. No. 50, Dec. 13, '26. P. 665.)

Trade in Canned Pineapples. By R. S. Hollingshead. (Com. R. No. 50, Dec. 13, '26. P. 668.)

La Récolte Mondiale des Riz. (F. I. Dec. 30, '26. P. 1.)

Wereld-scheepvaart in 1926. (S. Hb. Dec. 31, '26.)

How the New Immigration Law is Succeeding. By A. W. Stockwell. (C. H. Vol. XXV. No. 4, Jan., '27. P. 517.)

Rubber Roadways. The "Gaisman" Block. (S. F. P. Jan. 6, '27.)

■ 亞 細 亞 ■

General

The Yokohama Specie Bank Annual Report—On Trade in Asia. (F. E. R. No. 12, Dec., '26. P. 553.)

La production du thé en Extrême-Orient. (F. I. Dec. 8, '26. P. 1.)

日 本

Japan Mission Coming. (N. Y. T. Oct. 29, '26.)

La vie Chère au Japon et la production du Riz. (le C. S. Nov. 23, '26. P. 1.)

Japan's Struggling Labor Movement. (C. H. Vol. XXV. No. 3, Dec., '26. P. 377.)

支 那 及 香 港

Discuss Manchuria as Menace in Asia. (N. Y. T. Aug. 17, '26.)

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

■世　　界■

General

Shortage in Food Called Unlikely. (N. Y. T. Aug. 11, '26.)

Predict Substitutes for Raw Materials. (N. Y. T. Aug. 12, '26.)

Say Powers Abroad Compete for Arms. (N. Y. T. Aug. 13, '26.)

Rubber Futures Drop from 30 to 80 Points. (N. Y. T. Aug. 17, '26.)

Rubber Market Weak; Price Range 20 Points. (N. Y. T. Aug. 18, '26.)

Kellogg Voices Plea for New Aams Cuts; America Won't Quit. (N. Y. T. Aug. 19,'26.)

Powers Still Rush Naval Construction. (N. Y. T. Aug. 24, '26.)

Secret Parley Held on League in Berlin. (N. Y. T. Aug. 26, '26.)

New Encyclopaedia No Longer British. (N. Y. T. Aug. 29, '26.)

Baker Urges Allies and United States to Erase Wardebts. (N. Y. T. Aug. 30, '26.)

League Resumes Business To-day. (N. Y. T. Aug. 30, '26.)

7 Nations Accept World Court Terms. (N. Y. T. Aug. 30, '26.)

Opium Conference Backs Porter Plan. (N. Y. T. Aug. 31, '26.)

World Court Issue up in Geneva To-day. (N. Y. T. Sep. 1, '26.)

Spain's Representative Absents Himself as the League Council Meets in Geneva. (N. Y. T. Sep. 3, '26.)

Geneva Optimistic on Our Court Entry. (N. Y. T. Sep. 3, '26.)

Subcommittee to Study Reservations; May Admit us to Court, Parley Later; Coolidge is Confident of Acceptance. (N. Y. T. Sep. 4, '26.)

League Adherents Suspect Mussolini. (N. Y. T. Sep. 5, '26.)

League Council Votes to Admit Reich with Permanent Seat Rejecting Spain; Kemal Takes Steps to Get Turkey in. (N. Y. T. Sep. 5, '26.)

Our Court Reservations Scored in Paris as Blocking International Justice (N. Y. T. Sep. 5, '26.)

League Assembly Meets in Geneva to Elect Germay. (N. Y. T. Sep. 7, '26.)

Alloy Age at Hand, Supplanting Iron. Langmuir Asserts. (N. Y. T. Sep. 9, '26.)

League is Assured Americans Favor it. (N. Y. T. Sep. 10, '26.)

Arms Conference off for This Year. (N. Y. T. Sep. 10, '26.)

German Entrance Eases League's Way. (N. Y. T. Sep. 12, '26.)

Spain Quits League; France and Reich Discuss New Accord. (N. Y. T. Sep. 12, '26.)

Nations to Accept Our Reservations; Plan Counter One. (N. Y. T. Sep. 13, '26.)

400 Philosophers Gather at Harvard. (N. Y. T. Sep. 14, '26.)

League Armsparley Likely Next Spring. (N. Y. T. Sep. 16, '26.)

Nine New Members on League Council. (N. Y. T. Sep. 17, '26.)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

支那南洋其他海外
重要記事索引

臺灣總督官房調査課

■ 新聞雜誌略號一覽表 ■

A.	Annalist. (No. 728, '26.)
A. T.	L'avenir du Tonkin. (Dec. 3, '26.—Jan. 7, '27.)
B. T.	Bangkok Times. (Dec. 2, '26.—Jan. 10, '27.)
C. E. B.	The Chinese Economic Bulletin. (No. 306. Jan. 1—No. 309. Jan. 22, '27.)
C. E. J.	Chinese Economic Journal. (No. 1, Jan., '27.)
C. E. T.	China Express and Telegraph. (No. 3302, Dec. 2—No. 3306, Dec. 30, '26.)
C. H.	Current History. (Dec., '26. Jan., '27.)
Com. R.	Commerce Reports. (No. 49, Dec. 6—No. 51, Dec. 20, '26.)
E	Economist. (No. 4344, '26.)
E. E.	Eastern Engineering. (No. 12, Dec. 2, '26.)
E. E. I.	L'éveil Économique de L'Indochine. (Dec. 5, '26.—Jan. 2, '27.)
F. E. R.	Far Eastern Review. (No. 12, Dec., '26.)
F. I.	France-Indochine. (Dec. 2, '26—Jan. 9, '27.)
H. D. P.	Hongkong Daily Press. (Nov. 28, '26.—Jan. 12, '27.)
H. N. v. d. D.	Het Nieuws van den Dag. (Dec. 16, '26.—Jan. 7, '27.)
I. O.	Inter-Ocean. (No. 12, Dec., '26.)
K. S.	Koloniale Studië. (Oct., '26. No. 5.)
le C. H.	Le Courrier d' Haiphong. (Dec. 4, '26.—Jan. 12, '27.)
le C. S.	Le Courrier Saigonnais. (Oct. 28—Dec. 24, '26.)
le T.	Le Temps. (Oct. 30—Dec., '26.)
L. N. e. H.	Landbouw, Nijverheid en Handel. (Nov. 26, '26.—Jan. 7, '27.)
N. C. D. N.	North China Daily News. (Dec. 9, '26.—Jan. 17, '27.)
N. Y. T.	New York Times. (Aug. 11—Oct. 31, '26.)
P. H.	Philippine Herald. (Nov. 21, '26.—Jan. 5, '27.)
R. G.	Rangoon Gazette. (Nov. 15, '26.—Jan. 3, '27.)
S.	Statist. (Nov. 20—Dec. 25, '26.)
Sb.	Staatsblad. (No. 544, 559.)
S. F. P.	Singapore Free Press. (Nov. 21, '26.—Jan. 6, '27.)
S. Hb.	Soerabajasch Handelsblad. (Nov. 19, '26.—Jan. 7, '27.)
S. i. N. I.	Suikerindustrië in Ned-Indie. (No. 1, Jan., '27.)
T. O. I.	Times of India (Dec. 4—Dec. 18, '26.)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN